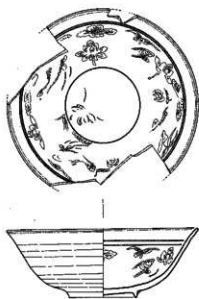


大宰府条坊跡21

—第156・157・158次調査—



2002

太宰府市教育委員会

大宰府条坊跡21

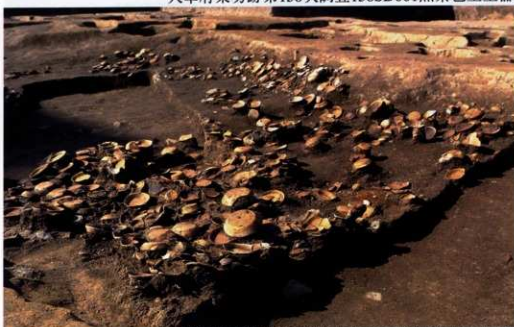
—西鉄五条駅前広場整備事業に伴う調査—

2002

太宰府市教育委員会



大宰府条坊跡第158次調査158SD001黒茶色土土器出土状況（南から撮影）



大宰府条坊跡第158次調査158SD001黒茶色土土器出土状況（南東から撮影）



大宰府条坊跡第158次調査158SD001西部土層観察（溝北肩付近、西から撮影）



白磁碗X-2b類 (156SX045出土)



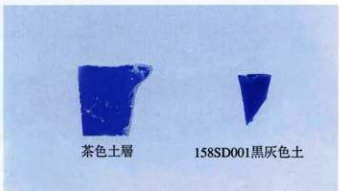
黒釉陶器天目碗 (157SK085明茶色土出土)



緑釉陶器屋根 (157SK005黒灰色砂出土)



白磁碗見込部 (第158次調査茶色土層出土)



茶色土層

158SD001黒灰色土

ガラス片 (第158次調査出土)

序

本書は、西鉄五条駅前広場整備事業に先立ち、平成6年度に発掘調査を行いました大宰府条坊跡第156・157・158次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

大宰府条坊跡は、大宰府政庁の南に広がる広大な古代都市遺跡です。今回報告いたします調査地は、この大宰府条坊の東端に位置し、古代から中世の遺跡が周辺に広がっています。ここからは当時の建物や井戸などの生活遺構のほか、多量の遺物が見つかり、特に中世に賑わいをみせた街区が広がっていたことがわかりました。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、文化財愛護の精神が高揚することを心より願います。

最後になりましたが、文化財に対してご理解いただきました、関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成14年3月
大宰府市教育委員会
教育長 關 敏治

例言

1. 本書は、太宰府市五条2丁目2476-2外にて行った大宰府条坊跡第156・157・158次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、太宰府市都市計画課による西鉄五条駅前広場整備事業に先立って行ったもので、太宰府市教育委員会が平成6年度に実施した。
3. 各調査は、第156次調査を重松麻里子（平成7年退職）が、第157・158次調査を井上信正が担当した。
4. 整理作業は、調査後随時行ってきたが、主として平成13年度に実施し、井上が担当した。
5. 調査時の測量は、第156次調査は重松・古賀里恵子が、第157次調査は井上・河田聡（現、山口県豊浦町教育委員会）・上村英士（現、筑後市教育委員会）が、第158次調査は井上・侯宇彬（陝西省考古研究所（中華人民共和国））が行った。
6. 遺構の実測は、第156次調査は重松が、第157次調査は井上のほか、孫徳榮（古物古蹟辦事處 助理館長（香港））・宋忠信（ベトナム考古学院（ベトナム社会主義共和国））・高橋学（現、当市教委）・侯・上村が行った。また、第158次調査については、第1面遺構全体図（航空測量）を写測エンジニアリング株式会社が、158SD001黒茶色土層出土遺物実測（航空測量）をアジア航測株式会社が、その他は井上が行った。
7. 遺構写真撮影は、各調査担当者が行ったほか、第156・157次調査の全体写真を（有）空中写真企画（代表 禮隆夫）が、第158次調査の全体写真を写測エンジニアリング株式会社が行った。遺物写真撮影は、フォトハウスおか（代表岡紀久夫）が行った。
8. 遺物の実測は、酒井三保子・松本理恵子・森田レイ子・深江暁子が行い、土師器計測は、酒井・松本が行った。
9. 浄書は、酒井・松本・深江・島純子が行った。
10. 遺構実測図および遺構配置図は、全て国土調査法第11座標系を基準としている。したがって図中に記載される方位は特に注記のないかぎり座標北（G.N.）を指している。
11. 本書に掲載される遺構番号は、以下の要領で理解される。なお遺跡名を略することもある。



12. 本書に使用した分類は、基本的に以下のものによっている。なお陶磁器分類は、深江が行い、山本信夫（山本考古研究所）、森田の助言を得た。
土器 【大宰府条坊跡Ⅱ】 太宰府市教育委員会 1983
陶磁器 【大宰府条坊跡ⅩⅤ】 太宰府市教育委員会 2000
13. 自然科学分析は、バリノ・サーヴェイ株式会社が行った。
14. 出土した金属製品の応急処置は、下川可容子が担当した。
15. 出土遺物および図面、写真等の記録は、太宰府市教育委員会が保管している。
16. 本書の執筆は、自然科学分析をバリノ・サーヴェイ株式会社が、その他の執筆・編集は、井上が行った。

目次

I. 調査地の位置と歴史	1
II. 調査組織	5
III. 調査に至る経緯	6
IV. 調査整理の方法	6
V. 調査の概要	
(1) 第156次調査	8
1. 調査の経緯および調査・整理方法	2. 層位 3. 遺構 4. 遺物
5. 小結	
(2) 第157次調査	21
1. 調査の経緯および調査・整理方法	2. 層位 3. 遺構 4. 遺物
5. 自然科学分析報告 6. 小結	
(3) 第158次調査	46
1. 調査の経緯および調査・整理方法	2. 層位 3. 遺構 4. 遺物
5. 小結	
VI. まとめ	84

付表・遺構略測図

出土銭貨計測表および拓影

欄列・掘立柱建物・溝の座標・方位一覧

第156次調査（遺構略測図 遺構番号台帳 土師器計測表 出土遺物一覧表）

第157次調査（遺構略測図 遺構番号台帳 土師器計測表 出土遺物一覧表）

第158次調査（遺構略測図 遺構番号台帳 土師器計測表 出土遺物一覧表）

写真図版

Pl.156-1～4

第156次調査

Pl.157-1～7

第157次調査

Pl.158-1～9

第158次調査

Pl.鉄製品

各調査出土鉄製品

I. 調査地の位置と歴史

福岡平野の南東部に位置する太宰府市は、北から東にかけては三郡山系、西から南にかけては背振山系と、両山系に囲まれた狭い平野を中心に所在する。この平野は、南東を筑紫平野と接している。

太宰府平野の北および北東には、三郡山系の四王寺山・宝満山が位置している。この両山を水源とした御笠川は、両山の間を流れて南西に流下し、太宰府市街地で西に流向を変え、市西部で背振山系から流れる川と合流して、福岡平野を通り、博多湾に注いでいる。

この御笠川が西に流向を変えた付近の東～南側一帯に、今回報告する大宰府条坊跡第156・157・158次調査が所在する五条地区がある。

さて、太宰府市域では旧石器時代から近現代までの遺跡が確認されているが、その中でもっとも多いのは律令官衙「大宰府」が置かれた古代からその後の中世までの遺跡である。

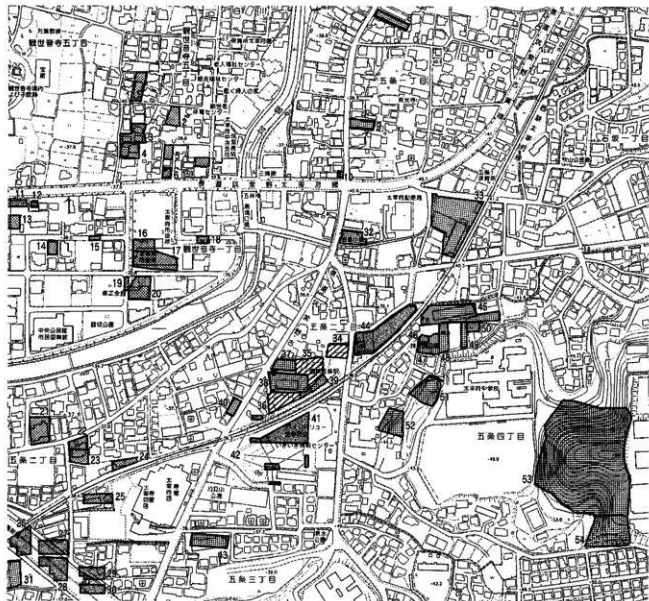
太宰府市には、7世紀中頃の白村江での敗戦により国際的緊張が高まり、水城・大野城そして基肆城などの軍事防衛施設が置かれた。その後7世紀末～8世紀初頭になると古代の西海道国二島を統括し、外交機能も有した地方最大の官衙「大宰府」が、水城・大野城・基肆城といった防衛ラインに囲まれた内側に設置された。そして大宰府官衙の周辺には、都城のように都市計画に従った計画地割を持ついわゆる「大宰府条坊」という古代都市が作られたことが発掘調査でも確認されつつある。この古代都市の造営は、市内各所でみつかるといえる整地痕跡から7世紀末にまで遡ることも指摘されている。

大宰府および大宰府条坊は奈良～平安時代にかけて隆盛したが、その後律令体制の崩壊、武家の台頭により次第に変容していった。発掘調査では大宰府政庁は12世紀前半に廃絶していることが確認されており、このころから大宰府条坊の中でも街区割りに伴う溝が各地で埋没していることが確認されており、その後整備されることがなかったようである。大宰府・大宰府条坊が機能していた間、いくつかの画期や街区の変遷が指摘されているものの、古代において約500年間もの長期間、しかも同位置で官衙・都市が機能していたところは他に例がない。このことは後の中世に至っても太宰府市域に政治的機能や都市環境が色濃く残り続ける要因となったのである。

中世になると、その政治的機能や都市の中核は、太宰府市の東および北東部へと移っていった。中世の都市は観音寺地区・観音寺前面地区・御所ノ内地区・南条坊地区、そして五条地区などが栄え、四王寺山・宝満山の両山麓には大寺院や関連する子院・坊が軒を並べたことが、文献史料のほか埋蔵文化財発掘調査でも明らかになってきている。その範囲の広さと史料・伝承の豊富さ、またそれを裏づけるような埋蔵文化財の質量の充実ぶりを見ると、中世の太宰府も、古代都市大宰府に勝るともおとらない、政治・宗教を中心とした一大都市であったことが推測される。

さて本報告調査地点の所在する五条地区には、いくつかの古代末から中世にかけての記録・伝承等が伝わっている。

平安後期においては、宇佐神宮関連史料である『八幡宇佐宮御神領大鏡』（以下「宇佐大鏡」とする）の記述と五条地区を関連づける見解がある。「宇佐大鏡」の「府中宇佐町」の項にみえる久安四（1148）年十二月十七日の府の下文によると、「在郭七條二防」に「在家二十八家」のある「府中宇佐町」があり、その四至は「東限京極大路、南限田、西限馬出子午小道、北限馬場」と記されており、平安後期に京極に位置する「府中宇佐町」が存在したことが窺える。ただ、『観音寺文書』など他史料をみると、大宰府条坊には左右両郭があり、2坊以上の坊数があったことがわかる。これについて、大宰府条坊復原案を最初に提示した鏡山猛氏は、2坊が京極とは考えられず、史料に誤記があることを指摘し、さらに近世に描かれた『太宰府旧蹟全図』に「府中宇佐町」記事の中にみえる「バ、」馬出などの地名が



番号	調査地番号	調査内容	掲載文献
1	大塚市急務部	35	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
2	大塚市急務部	35	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
3	大塚市急務部	149	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
4	大塚市急務部	81	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
5	大塚市急務部	169	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
6	大塚市急務部	159	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
7	大塚市急務部	159	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
8	大塚市急務部	100	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
9	大塚市急務部	166	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
10	大塚市急務部	78	大塚市立図書館 2002 「大塚市急務部」
11	大塚市急務部	39-1	大塚市立図書館 1976 「大塚市立図書館」
12	大塚市急務部	39-1	大塚市立図書館 1976 「大塚市立図書館」
13	大塚市急務部	28	大塚市立図書館 1976 「大塚市立図書館」
14	大塚市急務部	34	大塚市立図書館 1976 「大塚市立図書館」
15	大塚市急務部	79	大塚市立図書館 1976 「大塚市立図書館」
16	大塚市急務部	35-2	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
17	大塚市急務部	35-1	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
18	大塚市急務部	11-2	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
19	大塚市急務部	11-1	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
20	大塚市急務部	45	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
21	大塚市急務部	46	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
22	大塚市急務部	147	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
23	大塚市急務部	121	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
24	大塚市急務部	130	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
25	大塚市急務部	57	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
26	大塚市急務部	2	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
27	大塚市急務部	5	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
28	大塚市急務部	6	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
29	大塚市急務部	3	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
30	大塚市急務部	4	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」

31	大塚市急務部	100	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
32	大塚市急務部	137	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
33	大塚市急務部	137	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
34	大塚市急務部	156	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
35	大塚市急務部	158	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
36	大塚市急務部	157	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
37	大塚市急務部	163	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
38	大塚市急務部	37	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
39	大塚市急務部	178	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
40	大塚市急務部	116	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
41	大塚市急務部	25	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
42	大塚市急務部	3106	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
43	大塚市急務部	41	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
44	大塚市急務部	40	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
45	大塚市急務部	47	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
46	大塚市急務部	213	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
47	大塚市急務部	111	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
48	大塚市急務部	208	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
49	大塚市急務部	204	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
50	大塚市急務部	197	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
51	大塚市急務部	132	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
52	大塚市急務部	131	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
53	大塚市急務部	2	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」
54	大塚市急務部	13	大塚市立図書館 1983 「大塚市急務部」

図1 報告調査地と周辺遺跡 (1/5,000)

五条地区付近に記されることから、五条地区に「府中宇佐町」の位置を比定した。これにより「府中宇佐町」は左郭7条12坊に位置し、また条坊最大坊数を12坊とする見解を導きだしている。

また、中近世では宰府六座が知られている。宰府六座とは、鋳物座・米屋座・染物座・相物座・細物座・鍛冶屋座で、五条地区を南北に通る道路沿いに軒を並べていたことが『太宰府旧蹟全図』にも描かれている。鋳物座の子孫の平井家に伝わる『平井文書』によると、源頼朝の時代、九州の諸商売頭をこの六座に仰せつけられたと記される。六座には、代々「竹の曲」という中世芸能が伝えられており、室町期以前の鼓調と面が残っている（昭和35年に福岡県無形民俗文化財指定）。このことは貝原益軒の『筑前国統風土記』にも「竹の舞」として記されている。

このように古くからの歴史・伝承が残る五条地区の発掘調査も事例が増えてきた。今回報告する大宰府条坊跡第156・157・158次調査が所在する一帯でも大宰府史跡第33次調査（以下、大33次と略す。なお大宰府史跡の調査および調査次数の略記は、以下これに倣う）、大33次補、大宰府条坊跡第37次調査（以下、条37次と略す。なお大宰府条坊跡の調査および調査次数の略記は、以下これに倣う）、条138次、条163次などがある。

ここには建物・井戸などの生活空間にある遺構・遺物が広く展開している。ここで検出される主だった遺構は平安後期～鎌倉～南北朝期のもので、その質量が充実するのは13世紀後半～14世紀前半（埋没時期）にある。このころの遺構・遺物はともに他の時代より群を抜いて多い。

また古代末～中世において、溝等で区割りされた街区が存在していたことが次第に明らかになってきた。ここで検出される建物・溝・柵列などは正方位を向くものが多い。その区割りの原型が大宰府条坊の街区割りにあった可能性も想定できそうである。

さらに本報告調査地周辺の遺跡を概観すると、13～14世紀の鋳物工房として知られる鉢ノ浦遺跡が北東の丘陵基部にあり、東の丘陵上には13～14世紀とみられる石組みの中世墓が検出された五条遺跡第2次調査がある。南西には、中世の区割り溝群を検出し遺物も豊富な南条坊遺跡があり、北西の御笠川の対岸には、観世音寺地区・および御所の内地区がある。このように中世の街区・工房・墓などでとり囲まれており、時代が下るものの、南隣する一帯には今川了俊の邸宅があったという伝承もある。

このように五条地区は太宰府の古代～中世を理解する上で重要な場所といえる。

<参考文献>

- 『太宰府市史考古資料編』太宰府市 1992
- 『太宰府市民俗資料編』太宰府市 1993
- 『八幡宇佐宮御神領大鏡』（『神道大系 神社編四十七字佐』に所収）
- 『大宰府史跡 昭和47年度調査概報』九州歴史資料館 昭和48年
- 『大宰府条坊跡VI』太宰府市の文化財第23集 太宰府市教育委員会 1994
- 『大宰府条坊跡XVI』太宰府市の文化財第52集 太宰府市教育委員会 2001
- 『大宰府条坊跡XVII』太宰府市の文化財第53集 太宰府市教育委員会 2001
- 井上信正「昔は町はずれでした」『遺跡だより第48号』太宰府市教育委員会 2001年7月

その他

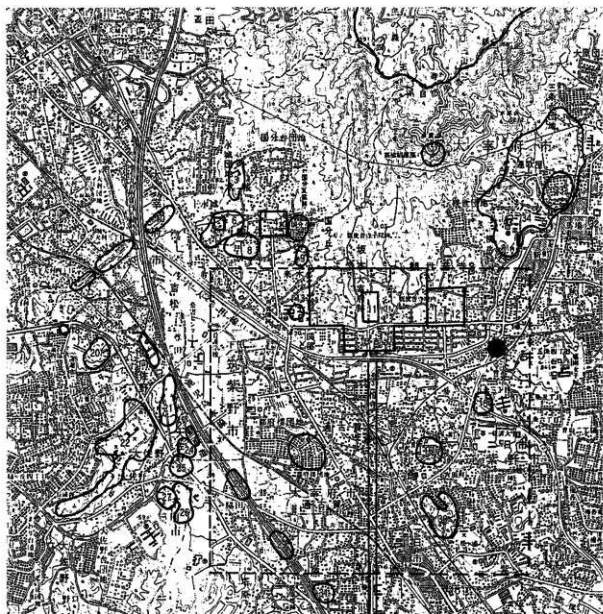


図2 太宰府市とその周辺の遺跡 (1/30,000)

- | | | | |
|------------|------------------|-----------|--------------------------|
| 1. 大野城跡 | 10. 水城跡 | 19. 原江遺跡 | 28. 筒塚遺跡 |
| 2. 磐屋城跡 | 11. 大宰府政庁跡 | 20. 藤原遺跡 | 29. 唐人塚遺跡 |
| 3. 神ノ尾遺跡 | 12. 観世音寺 | 21. 前田遺跡 | 30. 塚遺跡 |
| 4. 筑前岡分寺跡 | 13. 遺物印出土地 | 22. 宮ノ本遺跡 | 31. 彌山山遺跡 |
| 5. 辻遺跡 | 14. 大宰府桑坊跡 (城跡内) | 23. 羅川遺跡 | 32. 太宰府天賣宮 (安奈寺跡) |
| 6. 園分松本遺跡 | 15. 君畑遺跡 | 24. フケ遺跡 | 33. 浦城跡 |
| 7. 筑前園分尼寺跡 | 16. 般若平跡 | 25. 尾崎遺跡 | 34. 原遺跡 |
| 8. 園分千足町遺跡 | 17. 市ノ上遺跡 | 26. 船道遺跡 | 35. 大宰府桑坊跡156・157・158次調査 |
| 9. 藤原印出土地 | 18. 神ノ前遺跡 | 27. 殿城戸遺跡 | |

II. 調査組織

調査を実施した平成6年度、および整理報告を主体的に行った平成13年度の調査組織は以下のとおりである。

(平成6/1994年度)

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	白木三男
	文化課長	花田勝彦
	文化財保護係長	高田克二
	文化振興係長	大田重信
	主任主事	岡部大治
		川谷 豊
	主 事	今村江利子
調査	技術主査	山本信夫
	主任技師	狭川真一 城戸康利 山村信榮 中島恒次郎 重松麻里子 (調査担当。平成7年6月30日退職)
	技 師	井上信正 (調査担当)
	技師 (嘱託)	田中克子 (~6年7月31日) 下川可容子

(平成13/2001年度)

総括	教育長	關 敏治
庶務	教育部長	白石純一
	文化財課長	木村和美
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	神原 稔
	事務主査	藤井泰人
	主任主事	大石敬介
	嘱 託	鈴木弘江
調査	主任主査	城戸康利
	主任技師	山村信榮 中島恒次郎 井上信正 (整理担当)
	技師 (嘱託)	高橋 学 宮崎亮一 下川可容子 森田レイ子 佐藤道文

Ⅲ. 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市五条2丁目2475-4、2475-5、2476-2、2744-4外に所在する。

西鉄五条駅の北側および西側における駅前広場整備事業に際して、太宰府市都市計画課より平成4年度に埋蔵文化財取扱いについての事前問い合わせが文化課（現、文化財課）にあった。

鏡山猛氏による大宰府条坊復原案によると、このあたりは大宰府条坊の東端付近に位置しており、宅地跡などを含む遺構が検出される可能性が高いとみられる地点である。また以前に九州歴史資料館・太宰府市教育委員会により行われた近隣の発掘調査では中世鎌倉時代の遺構が密度高く検出されている。こうした状況から、当初から古代・中世を中心とする遺構が密度高く埋蔵されている可能性が予想されていた。

工事計画について都市計画課と協議をすすめていった結果、駅前広場は最終的に道路登録されることになり、発掘調査を要すると判断された。また駅舎西側については自転車駐輪場が建設されることになり、工事で遺跡が破壊されるため発掘調査を実施することになった。都市計画課と調査に向けて期間・予算等の調整を行い、整備工事開始前の平成6年度に調査を実施することになった。なお、調査対象地は駅前の人および車・バスの出入りの多い地点であり、一度に調査を行うのは難しい状況にあったため、調査区を分割して実施することにした。駅舎北側の広場については、調査地の北東の建造物下を第156次調査、西側を第158次調査とした。駅舎（第138次調査）と第156次調査の間については、西鉄バスの巡回場所になっておりこれを妨げることができないこと、また工事に際しては掘削が遺構面まで及ばないことから、調査は行わず現状保存とした。また駅舎西側の自転車駐輪場建設地区については、第157次調査とした。

発掘調査は平成6年7月29日から平成7年3月末までおこなった。開発対象面積は3,800㎡、調査面積は総計1,200㎡を測る。それぞれの調査面積・期間・担当者等については、各次調査の項で述べているので参照していただきたい。

Ⅳ. 調査整理の方法

今回の調査は、いずれも遺構面までバックホーにより表土除去を行った。

測量は各担当者が行い、トラバース測量にて原点を設け、国土座標第II座標系により位置を明示した。

作図は遺物取り上げ用の遺構略測図を1/100で作成し、遺構個別図・土層図を1/20で作図したほか、遺構全体図を1/20で記録した。これらの図面は担当者を中心に行い、作図委託も行った。

以上、調査・整理方法については基本的に『佐野地区遺跡群』（太宰府市の文化財第14集 1989）、「太宰府市における埋蔵文化財調査指針」（太宰府市教育委員会 2000年4月）の内容に準じている。

なお本著作成にあたっては、これまでの他報告書と若干異なった資料提示方法をとった。今回報告する第156・157・158次調査の出土遺物量はかなり多く、土師器小皿a・小皿b・坏aといった供膳具および貿易陶磁器類が大半をしめる。このことは当地域の歴史的経緯を知る上で重要な要素であるが、量が膨大であるため、次のような方法で報告することにした。土師器については、口径の1/3以上残存している破片を抽出し、巻末の土師器計測表に掲載し、必要に応じて実測を行い本文図版に掲載した。貿易陶磁器については「大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編一」により分類し、巻末の出土遺物一覧表に分類と出土点数（破片数）を掲載し、特殊なものについては本文図版に掲載することにした。

鉄製品については、鉄釘が多く次いで刀子も散見されるが、今回は鉄釘・刀子は極力出土遺物一覧表に掲載するのみにし、これ以外の特殊品を本文図版に掲載した。

銭貨については、最後に3調査区まとめて一覧表に掲載した。

↑出現、↓増加、↓減少

2000.2補訂

紀年銘	AD	大宰府土器型式	磁器区分	国産陶器型式(型式の上段) 長崎 緑釉	原産地磁器	埋蔵地磁器	
⑥	800	V	(A古)	緑段O-10 井戸・岩段78	長門?・備前	白磁1類	唐三彩・二彩 鉄胎
	825	VI		黒段K-14	長門・赤北(池 野)・(黒段K-14)	越州系青磁II類 長砂織系青磁・貫軸 磁器・磁輪	
	850			黒段S-4 黒段K-90	赤野 黒野K-90		青磁磁器・磁輪 初期イースラム陶器
①	900	VII	(A新)				
	925	VIII					
	950	IX		虎沢山I (折戸O-53)	近江		
	1000	X	B	折戸O-53	越州系青磁I類 白磁XI類		
	1050	XI		東山H-72 (丸石2)			
②	1100	XII	C	丸石2 百代寺 東山H-105 藤岡S-1	白磁純II,III,VI-3,VI,XII, XIII類 黒II,IV,V,VI,VI類	初期龍泉系・新安樂系青磁0類 唐所系青磁 初期高麗系磁器II,III類 青白磁	
		XIII				白磁III類・純XIV類	
	1150	XIV			龍泉系青磁純I-1~4,6, 黒I類 河安樂系青磁純I-IV,黒I類	白磁純VII,IV,4,黒I類増加	
	1200	XV	D			白磁純VII,黒V,IV-1類	
	1230	XVI			龍泉系青磁純II-a類	白磁純VII-2類	
③	1250	XVII	E		龍泉系青磁I類 白磁IX類	龍泉系青磁純II-c類 白磁X類 黒釉陶器	
	1300	XVIII					
④	1330	XIX	F		龍泉系青磁IV類	白磁B,C類 安南鉄胎	
	1350	XX					
⑦	1450						
⑧	1500						

紀年銘資料

- ①AD.927 延長5年,大宰府74次SD205A 溝
②AD.1091 寛治5年,平安京左京4条1坊SE井戸
③AD.1224 貞治3年,大宰府33次SD605 溝
④AD.1304 寛文2年,大宰府109,111次SD3200溝
⑤AD.1330 元禄2年,大宰府41次SX1200溝
⑥AD.784 延暦3年,長岡宮102次SD10201溝
⑦AD.1459・1465 長祿3・寛正3年,福岡市井村田CII・SG16池
⑧AD.1501 文龜元年,大宰府70次SD1805溝
⑨AD.1265 文永2年,藤多62次713土溝

文献

- ①九州歴史資料館『大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報』1982
②田辺昭三・吉川義彦『平安京跡発掘調査報告左京四条一坊』1975 平安京調査会
③九州歴史資料館『大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報』1975
④九州歴史資料館『大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報』1989
⑤九州歴史資料館『大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報』1978
⑥長岡宮市埋蔵文化財センター『長岡宮市埋蔵文化財調査報告書第1集』1988
⑦福岡市教育委員会『井村田C遺跡II』『福岡市埋蔵文化財調査報告書179』1988
⑧九州歴史資料館『大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報』1982
⑨福岡市教育委員会『博多48』『福岡市埋蔵文化財調査報告書397』1995

図3 大宰府土器形式と国産陶器・貿易陶磁器年

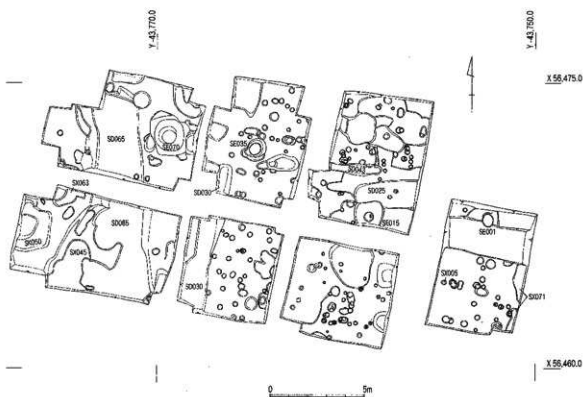


Fig.156-1 大宰府条坊跡第156次調査全体遺構図 (1/200)

V. 調査の概要

(1) 大宰府条坊跡第156次調査

1. 調査の経緯および調査・整理方法

調査区は、太宰府市五条2丁目2475-4外に位置する。調査面積は300㎡で、平成6年7月29日～平成6年8月26日に調査を実施し、重松麻里子が担当した。遺物は現在コンテナ約60箱に保管している。

ここは、調査以前にはRC造建物が立っており、地中には建物のコンクリート基礎が深く根ざしていた。これを除去すると遺構を破壊してしまう恐れがあり、このためコンクリート基礎はそのまま残り、基礎の間を縫うように重機で掘り下げることにした。この結果、7グリッドの調査区が設けられた。調査区はa～gのグリッド名を付し、これを地区番号に代替して記録をとることになった。

その他の調査・整理方法については、「例言」および「IV. 調査整理の方法」を参照していただきたい。

2. 層位 (Fig.156-2・3, Pl.156-1・2)

調査区内で確認した最も下位の地盤は、灰色粗砂礫～白茶色細砂である。この上に淡黄色シルトが堆積しており、調査した遺構面の基盤となっている。

なお、地盤についての基本的な層位は、第157・158次調査と同様である。

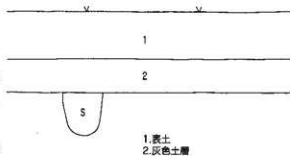
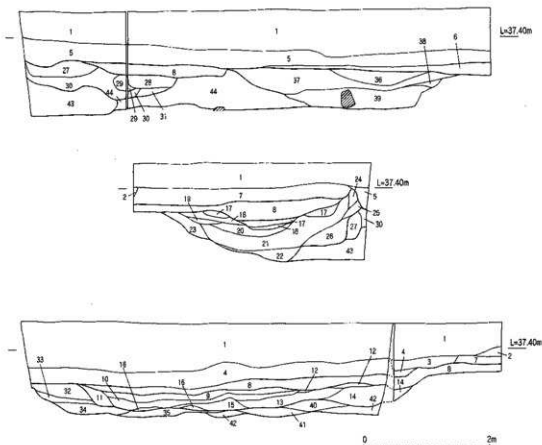


Fig.156-2 大宰府条坊跡第156次調査土層模式図



【大宰府条坊跡第156次調査gグリッド北・西・南壁土層図(1)内は遺物取り上げ土色名】

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. 表土層(コンクリート基礎含む) (表土) | (S-63関係) |
| 2. 暗灰褐色砂質土(遺物片少量含む) (灰土) | 27. 淡黄灰色細砂質土 (S-63) |
| 3. 暗褐色砂質土(細砂粒少量含む) (#) | 28. 暗灰色粘質土 (S-63) |
| 4. 暗灰色砂質土(遺物片やや多い) (#) | 29. 暗灰色砂質土(しまっている, 遺物断片含む) (S-63白砂) |
| 5. 黄褐色砂 (#) | 30. 黄褐色砂質土(細砂粒含む) (S-63粗砂) |
| 6. 黄褐色粘質土(しまっている, 遺物・炭片含む) (#) | 31. 黄灰色粘質土(灰色粘土ブロック少量含む) (S-63粗砂) |
| 7. 暗褐色砂質土(遺物片やや多い) (#) | |
| (S-45関係) | |
| 8. 黄褐色砂質土(遺物・炭多量を含む) (S-45) | (S-65関係) |
| 9. 暗褐色粘質土(遺物・炭多量を含む) (S-45暗灰色土) | 32. 淡灰色粘質土 (S-65) |
| 10. 灰色粘質土(灰色粘土, 黄白色細砂が混じる) (#) | 33. 淡黄褐色粘質土 (S-65) |
| 11. 暗褐色砂質土 (#) | 34. 暗黄褐色砂質土 (S-65) |
| 12. 灰白色細砂(硬し含む) (#) | 35. 暗灰色粘質土 (S-65) |
| 13. 暗褐色粘質土(黄白色細砂が混じる) (#) | 36. 暗褐色粘質土(遺物・炭多量, 粗土も少量混じる) (S-65) |
| 14. 黄灰色砂質土(黄色細砂混じる) (#) | 37. 灰色粘質土(細砂が混じっており, しまりが悪い, 炭・遺物断片少量含む) (S-65) |
| 15. 黄白色細砂(灰色粘土を乱層状に含む) (#) | 38. 暗灰色砂質土(赤色粘土ブロック混じる) (S-65) |
| 16. 黄褐色粘質土 | 39. 黄褐色粘質土+黄白色細砂ブロック (S-65) |
| (S-50関係) | (黄色砂層関係) |
| 17. 灰褐色粘土 (S-50) | 40. 黄白色細砂(灰色粘土が少なく, しまっている) (黄色砂層) |
| 18. 灰色粘質土 (S-50) | 41. 黄白色細砂(遺物含む, 黄褐色粘土が少量混じる) (黄色砂層) |
| 19. 灰色粘質土 (S-50) | 42. 暗黄褐色粘質土 |
| 20. 灰褐色粘質土(黄土塊混じる) (S-50) | 43. 灰色粘土(黄色細砂が混じる) (黄色砂層) |
| 21. 灰色粘質土(炭・遺物多量を含む) (S-50) | 44. 黄褐色粘質土+黄白色細砂ブロック(下に暗褐色粘土・白色細砂が混じる) (黄色砂層) |
| 22. 暗黄褐色粘質土(暗褐色) (S-50灰色粘土) | |
| 23. 灰褐色粘質土(黄白色細砂混じる) (S-50灰色粘土) | |
| 24. 暗褐色粘質土(しまっている) (S-50灰色粘土) | |
| 25. 赤色砂質土(遺物混じる, しまっている) (S-50灰色粘土) | |
| 26. 灰褐色粘質土(灰含む) (S-50灰色粘土) | |

Fig.156-3 大宰府条坊跡第156次調査gグリッド壁面土層図(1/60)

遺構面は、水田耕作面下の灰色土層を除去後に検出した。gグリッドにおいては、156SX045などの大型遺構が検出されたが、調査範囲が狭小のため掘り下げ時には判然とせず、遺構面がはっきりとするまで重機により掘削をおこなった。

3. 遺構

井戸

156SE001 (Fig.156-4, Pl.156-2)

aグリッドで検出した井戸である。掘方の平面プランは円形を呈し、直径約1.8m、深さ0.79mを測る。中央には桶とみられる円形の井戸枠を据える。井戸枠は、2つ確認している。

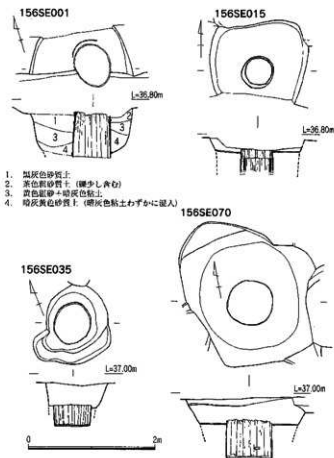


Fig.156-4 大宰府条坊跡第156次調査井戸実測図 (1/60)

0.53mを測る。

中央には桶とみられる円形の井戸枠を掘える。井戸枠は2つ確認している。外側の井戸枠は、直径50cm、長さ36cm以上を測り、幅約10cmの板材を使用している。内側の井戸枠は、直径44cm、長さ22cm以上を測り、幅約7~9cm程度の板材を使用している。

この2つの井戸枠の関係については、外側を廃して内側の井戸枠を新たに設けたのか、両者が同時併存して使用するものだったのか、判断はできていない。なお、井戸枠内の下位、および裏込め部分を完全に掘削していないため、井戸枠の全容は不明である。

埋土は、井戸枠内(上からS-21、枠内)、井戸枠裏込め(灰色砂)に分かれる。

156SE035 (Fig.156-4, Pl.156-3)

d グリッドで検出した井戸である。掘方の平面プランは直径1.0~1.06mの円形を呈し、井戸の深さは0.74mを測る。

中央には円形の桶を井戸枠として掘える。桶は、直径60~66cm、最大長35cmを測り、幅約10cmの板材を使用している。

埋土は、遺構検出面から井戸枠上面まで(灰色土)、井戸枠内(枠内)、井戸枠裏込め(黒色土)に分かれる。

156SE070 (Fig.156-4, Pl.156-3)

f グリッドで検出した井戸である。掘方の平面プランは直径2.12m四方の隅丸方形を呈し、南北にテラス状の段を設ける。井戸の深さは1.0mを測る。

中央には円形の桶を井戸枠として掘える。桶は、直径72~76cm、最大長58cmを測り、幅約10cmの板

外側の井戸枠の残存状況は悪いが、径の約1/4程度残存しており、元来外側の井戸枠と同等規模の桶だったと考えられる。

内側の井戸枠は、土圧によりやや歪んで検出されたが、直径58~71cm、最大長71cmを測る。幅約10cmの板材を18枚使用して組まれており、上下2ヶ所にて幅2~3cmのタガを用いて固定している。

この2つの井戸枠の関係については、外側を廃して内側の井戸枠を新たに設けたのか、両者が同時併存して使用するものだったのか、判断はできていない。

埋土は、遺構上面(灰色土)、井戸枠内(枠内)、井戸枠裏込め(灰色土)に分かれる。なお調査時には、外側の井戸枠に関連する遺物も「灰色土」として遺物取り上げを行っているようである。

156SE015 (Fig.156-4, Pl.156-2)

b グリッドで検出した井戸である。157SX026除去後に検出した。掘方の平面プランは隅丸方形を呈し、直径約1.56m、深さ

材を使用している。なお、桶の下位に長方形の穴が開いており、裏込めから同等の大きさの石が露出してきているのを確認している。調査時の所見では、偶然ではなく何かを意図した可能性を想定している。

埋土は、井戸枠内（上から、S-69・枠内）、井戸枠裏込め（上から、茶色土・灰色土）に分かれる。

なお、出土遺物は破片資料のみで実測可能なものはなかったが、出土陶磁器から13c後半の遺構と考えられる。

溝

156SD025 (Fig.156-1)

bグリッドで検出した溝状遺構である。東西に走行し、最大幅1.5m、深さ0.1m前後を測る。埋土は茶色砂質土である。

156SD030 (Fig.156-1)

d・e・gグリッドで検出した溝状遺構である。およそ南北に走行する。最大幅2.68m、最大深0.38mを測る。

156SD043 (Fig.156-1)

bグリッドで検出した溝である。ほぼ東西に走行し、幅0.41～0.62m、深さ0.14～0.25mを測る。

156SD065 (Fig.156-1・156-3, Pl.156-1)

f・gグリッドで検出した溝である。ほぼ南北に走行し、幅2.5～2.6m、最大深0.6mを測る。fグリッドでは溝の北端が途切れており、長土坑状を呈す可能性は高い。街区を限るような遺構とみられる。出土遺物は破片が多いが、平安後期埋没とみられる。

土坑

156SK050 (Fig.156-1・156-3)

gグリッドで検出した遺構である。南北2.46m、東西1.6mの規模で検出したが、壁面土層観察によれば南北長3.16m、深さ0.68mに及ぶ。ここでは土坑として報告したが、156SD065の例もあり、東西溝になる可能性もある。

埋土は、上からS-50・灰色粘土の順である。

その他の遺構

たまり状遺構

156SX026

bグリッドで検出した。156SD025・156SE015を広く覆う。

156SX045 (Fig.156-1, Pl.156-1)

gグリッドで検出した遺構である。土師器供膳具を中心とする遺物を多量含む。

なお、SX045暗灰色土層は156SD065の可能性が高い。

156SX063 (Fig.156-1・156-3)

gグリッドで検出された遺構である。

156SX071 (Fig.156-1)

aグリッドの東端で検出された遺構である。たまり状遺構とみられるが、南北に連なる溝または連続土坑の可能性もある。検出長は3.6m、深さは0.05～0.1m。東側が調査区外にのびているため、幅は不明である。なお、遺物は出土していない。

小穴

156SX005 (Fig.156-1, Pl.156-3)

a グリッドで検出した遺構である。円形の掘り方で、径0.24m、深さ0.23m。ほぼ完形の土師器小皿1点および坏a 3点が出土しており、坏aはいずれも灯明皿として使用されている。調査時には土器埋納遺構の可能性も考えている。

4. 遺物

井戸出土遺物

156SE001 枠内出土遺物 (Fig.156-5)

土師器

小皿 b (1) 口径7.1cm、器高1.1cm、底径4.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (2) 口径12.2cm、器高2.8cm、底径8.3cmを計る。底部切り離しは糸切り。

須恵質土器

鉢 (3) 口縁部の破片である。残存高2.9cmを計る。内外に回転ナデを施す。焼成は良好で、明灰色を呈す。

156SE015 灰色砂出土遺物

(Fig.156-5)

土師器

小皿 a (6) 口径8.0cm、器高1.5cm、底径6.6cmを計る。

須恵質土器

鉢 (7) 口縁部の破片である。残存高2.6cmを計る。焼成は良好で、明灰色を、口縁部は黒灰色を呈す。

瓦質土器

鉢 (8・9) 8は口縁部の破片である。残存高6.0cmを計る。内面はハケ目を施し、外面は指頭による成形の後、粗いナデを施す。胎土は1mm程度の白色・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好で、灰黒色～明灰色を呈す。9は体部下半の破片である。残存高6.1cmを計る。内面はハケ目を施し、外面は指頭による成形の後、

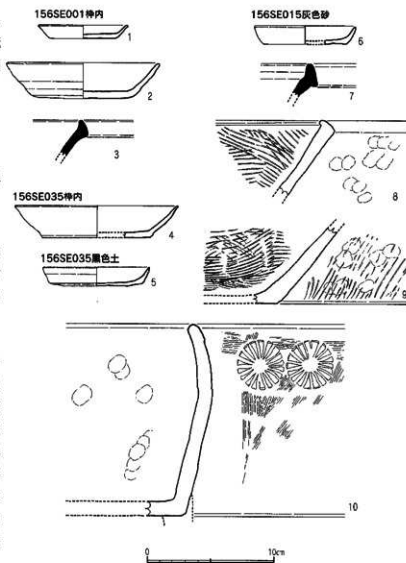


Fig.156-5 大宰府条坊跡第156次調査井戸出土遺物実測図 (1/3)

ハケ目を施す。胎土は精良で0.5mm以下の茶色砂粒を多く含む。焼成は良好で、表面は黒灰色、胎土は明淡灰色を呈す。

火舎(10) 残存高15.2cmを計る。体部内面は指張による最終成形が行われた後、粗いヨコナデを施す。底部内面は不定方向のナデを施す。外面は体部下半をヘラケズリした後、ミガキcを施す。なお、体部上部には、菊花文が型押しにより陰刻される。胎土は1~2mm程度の白色砂粒を多く含む。焼成は良好で、表面は灰黒色を、胎土は淡茶灰色を呈す。

156SE035枠内出土遺物 (Fig.156-5)

土師器

坏a(4) 口径13.0cm、器高2.5cm、底径8.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。

156SE035黒色土出土遺物 (Fig.156-5)

土師器

小皿a(5) 口径8.4cm、器高1.5cm、底径7.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

溝出土遺物

156SD025出土遺物 (Fig.156-6)

土師器

小皿a(土師器計測表参照) 口径7.6~8.3cm、器高1.05~1.5cm、底径5.8~6.4cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿b(土師器計測表参照) 口径6.6~7.0cm、器高1.45~1.65cm、底径4.5~5.1cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏a(土師器計測表参照) 口径11.6~14.6cm、器高2.2~3.7cm、底径7.6~10.4cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

須恵質土器

鉢(1) 口縁部の破片である。残存高2.9cmを計る。内外に回転ナデを施す。焼成は良好で、明灰色を、口縁部は黒灰色を呈す。

156SD030褐色粘土出土遺物 (Fig.156-6)

土師器

小皿a(土師器計測表参照) 口径7.8cm、器高1.4cm、底径6.1cmを計る。底部切り離しは糸切り。

小皿b(土師器計測表参照) 口径6.0~7.0cm、器高1.45~1.75cm、底径4.6~5.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏a(土師器計測表参照) 口径11.2~14.9cm、器高2.3~3.65cm、底径7.8~10.4cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

須恵質土器

摺り鉢(2) 底部の破片である。残存高2.4cmを計る。内面には摺り目を施し、外面は粗いナデを施す。底部と体部の境にはケズリを施す。胎土は精良。焼成は良好で、明灰色を、体部外面は黒灰色を呈す。

瓦質土器

火舎(3) 口縁部の破片である。残存高2.3cmを計る。内外面とも横方向のミガキを施す。ミガキの単位幅は細い。表面の還元が進んでおり、灰黒色に光っている。

石製品

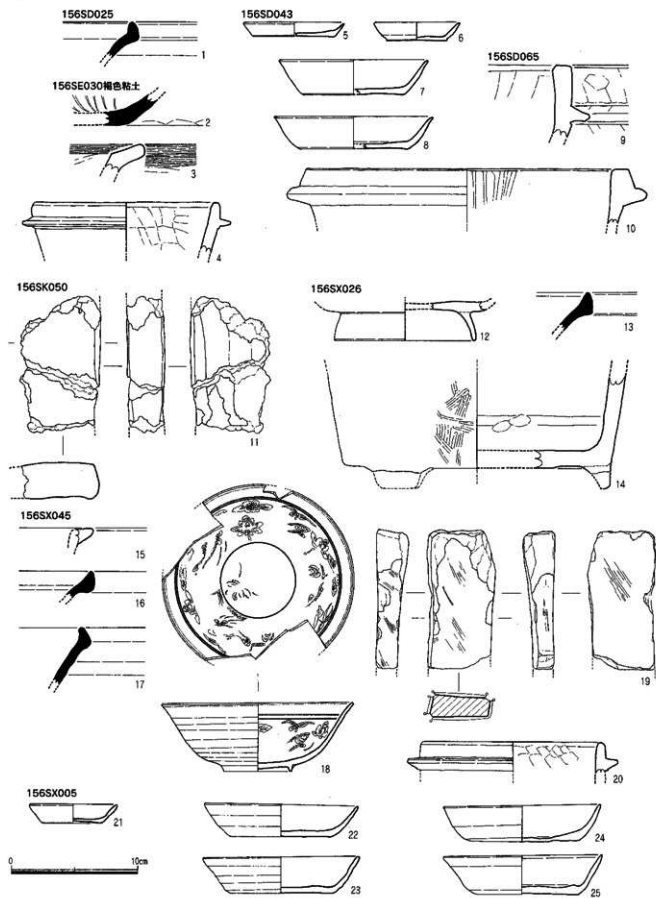


Fig.156-6 大宰府条坊跡第156次調査溝・その他の遺構出土遺物実測図 (1/3)

石鍋 (4) 体部上半の破片である。口径14.6cm、残存高4.0cmを計る。内外ともケズリにより成形する。使用による摩耗のため、内面の削りはやや不明瞭。外面は煤で覆われており、調整不明である。

156SD030灰色砂出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.4cm、器高1.4cm、底径6.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.6cm、器高1.75cm、底径4.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.8cm、器高3.0cm、底径8.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。

156SD043出土遺物 (Fig.156-6)

土師器

小皿 a (5) 口径8.0cm、器高1.2cm、底径6.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。

小皿 b (6) 口径6.8cm、器高1.5cm、底径4.8cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (7・8) 口径11.8～12.6cm、器高2.6～2.8cm、底径8.2～8.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

156SD065出土遺物 (Fig.156-6)

石製品

石鍋 (9・10) 9は体部上半の破片である。残存高5.7cmを計る。使用による摩耗のため、内面のケズリはやや不明瞭。鍋の下半は煤が付着している。10も体部上半の破片である。口径25.4cm、残存高4.3cmを計る。内外ともケズリにより成形する。使用による摩耗のため内面の削りはやや不明瞭。鍋から口縁部にかけて煤が付着している。

土坑出土遺物

156SK050出土遺物 (Fig.156-6)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5～8.4cm、器高0.95～1.7cm、底径5.6～6.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.4～7.4cm、器高1.4～1.9cm、底径4.2～5.3cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。穿孔されたものもある。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.4～16.6cm、器高2.3～3.5cm、底径7.3～12.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

土製品

不明製品 (11) 板状の製品である。残存長10.8cm、残存幅6.4cm、厚さ2.9cmを計る。器面全体にナデを施し、裏面(最右図)は、最後に図上縦方向に幅2cm程の強いナデを施す。焼成はあまく、軟質に仕上がる。色調は淡茶灰色～橙茶灰色を呈す。

その他の遺構出土遺物

たまり状遺構出土遺物

156SX026出土遺物 (Fig.156-6)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.1～8.1cm、器高1.05～1.35cm、底径5.8～6.4cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.4~12.8cm、器高2.5~3.05cm、底径7.6~9.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

碗 c (12) 底部の破片である。内傾した脚の長い高台を付す。残存高3.1cm、高台径11.2cmを計る。内面は不定方向のナデを施す。外面はいずれも回転ナデを施す。底部切り離しは不明。

須恵質土器

鉢 (13) 口縁部の破片である。残存高3.0cm。内外面とも回転ナデを施す。焼成は良好で、明灰色~灰黒色を呈す。

瓦質土器

火舎 (14) 体部下半から底部が残存する破片である。残存高8.0cm、復元される器部底径は21.2cmを計る。底部には角の丸い長方形を呈した脚が1カ所残存しているが、脚数は不明である。内面体部下半に成形時の指頭痕が観察されるが、仕上げはヨコナデを施す。内面底部は不定方向のナデを施す。外面体部はミガキcを施す。外面底部の切り離しは不明。脚取り付け部には接合のためのナデは観察される。胎土のきめはやや粗く、1~2mmの白色砂粒を多く含む。焼成は良好ではなく、表面は灰黒色、胎土は橙茶色を呈す。

156SX045出土遺物 (Fig.156-6、巻頭図版2)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5~8.8cm、器高1.0~1.65cm、底径5.2~6.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿と使用されたものもある。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.0~7.5cm、器高1.25~1.85cm、底径4.0~6.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿と使用されたものもある。穿孔されたものもある。

坏 a (土師器計測表参照) 口径10.4~16.0cm、器高2.15~3.7cm、底径7.0~12.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿と使用されたものもある。

壺 (15) 口縁部の破片である。残存高1.6cmを計る。胎土のきめは粗く、0.2~3.0mmの砂粒、微細な雲母片を多く含む。焼成はやや不良で、内外面とも淡橙茶色を呈す。なおここでは壺として報告したが、別器種の可能性もある。

須恵質土器

鉢 (16・17) いずれも口縁部の破片である。16は残存高2.0cmを計り、内外面とも回転ナデを施す。焼成は良好で、内外面とも暗灰色を呈す。17は残存高4.5cmを計り、内外面とも回転ナデを施す。焼成は良好で、灰白色~黒灰色を呈す。

白磁

碗 (18) 大半が残存する。口径15.3cm、器高5.4cm、高台径5.4cmを計る。内面には型押しによるとみられる花魚文が施される。素地はきめ細かく精良で、白色を呈す。釉は水色味をおびた透明釉でガラス質になっており光沢がある。褐斑が若干あり、また外面に数カ所ピンホールが観察される。焼成は良好。器壁が薄く文様も繊細で上質の印象を受ける。X-2b類。

石製品

砥石 (19) 現存長10.9cm、幅5.4cm、厚さ2.4cmを計る。擦痕は4面で確認される。

石鍋 (20) 口縁部の破片である。口径14.6cm、残存高2.7cmを計る。使用による摩耗のため、内面のケズリはやや不明瞭。外面は煤が付着している。

156SX045暗灰色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.8~8.0cm、器高1.25~1.85cm、底径6.4~6.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径7.3cm、器高1.6cm、底径5.25cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.6~13.6cm、器高2.45~3.3cm、底径8.0~9.65cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

156SX063出土遺物

土師器

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.9~7.0cm、器高1.55~1.7cm、底径4.8~4.85cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.0~13.3cm、器高2.85~3.4cm、底径7.7~8.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿と使用されたものもある。

小穴出土遺物

156SX005出土遺物 (Fig.156-6)

土師器

小皿 b (21) 口径6.9cm、器高1.5cm、底径4.9cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (22~25) 口径12.2~12.5cm、器高2.6~3.1cm、底径8.1~9.6cmを計る。いずれも底部切り離しは糸切りで、灯明皿として使用されている。

各層出土遺物

表土出土遺物 (Fig.156-7, Pl.156-4)

土師質土器

壺 (1) 口縁部の破片である。口径18.8cm、残存高4.95cmを計る。口縁部外面には沈線が一条巡っている。内面は横方向のハケ目を施した後ヨコナデを施し、口縁部付近は指頭にて調整している。口縁部及び外面は横方向のミガキ c を施す。胎土は0.2~5mm程度の砂粒・雲母片をやや多く含む。焼成は良好で、内外面とも淡茶色を呈す。

瓦質土器

火舎 (2) 体部下半から底部が残存する破片である。残存高11.9cm、復元される器部底径は25.8cmを計る。底部には角の丸い長方形を呈した脚が1カ所残存しているが、脚数は不明である。内面体部に成形時の指頭痕を施す。内面底部は不定方向のナデを施す。外面体部は縦方向のヘラミガキを施す。脚取り付け部には接合のためのナデは観察される。胎土のきめはやや粗く、0.2~2mmの砂粒・雲母片を多く含む。焼成は良好で、黒灰色~灰黒色を呈す。

土製品

羽口 (3) 円筒状の羽口である。現存長7.9cm、幅6.6~6.7cmを計る。

石製品

滑石製品 (4・5) いずれも一見すると硯のような印象をもつ滑石製加工品である。4は現存長5.85cm、幅6.25cm、厚さ1.5cmを計る。表面はやや凹面を呈している。内面は方形に0.6cm程度の深さで挟られ、またその脇には直径0.8cmの円形の穴を穿つ。図上側面から0.5~0.7cmの位置に罫線を刻んでいる。方形に穿つための罫線か。裏面はやや凸面を呈しつつ平坦に削っている。5は長さ5.75cm、幅3.85cm、厚さ1.3cmを計る。表面は方形に挟られている。決りは長さ4.7cm、幅3.1cm、深さ0.4cmを計る。

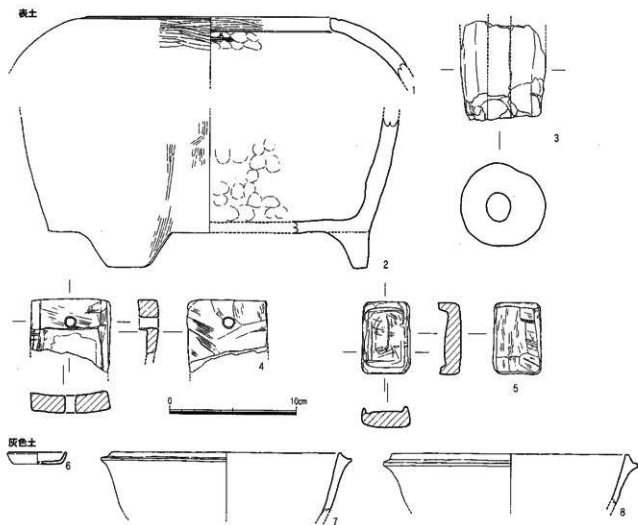


Fig.156-7 大宰府条坊跡第156次調査各層出土遺物実測図 (1/3)

表面は平坦に削っている。

灰色土層出土遺物 (Fig.156-7)

須恵質土器

小皿 (6) 口径4.7cm、器高0.95cm、底径3.7cmを計る小皿である。内外面とも回転ナデを施し、底部および底部と体部の境は、手持ちのケズリを施す。内面に自然釉らしい付着物が観察される。胎土は緻密で、精良である。焼成・還元とも良好で、灰白色を呈す。瀬戸産か。

土師質土器

鍋 (7・8) 口縁部付近に鋳をもつ鍋である。いずれも体部上半が残存する破片である。7は口径19.8cm、残存高4.9cmを計る。内面および口縁部はヨコナデを施す。鋳の下位には煤が付着する。胎土のきめは粗く0.2~4.0mm程度の砂粒および微細な雲母片を含む。灰白色~黒灰色~淡灰色を呈す。8は口径20.0cm、残存高4.1cmを計る。内面および口縁部はヨコナデを施す。鋳の下位は二次焼成により器面が剥落している。胎土のきめは粗く0.2~5.0mm程度の砂粒および微細な雲母片を含む。明灰色~灰白色~黒灰色を呈す。

その他の出土遺物

金属製品 (Fig.156-8、Pl.鉄製品)

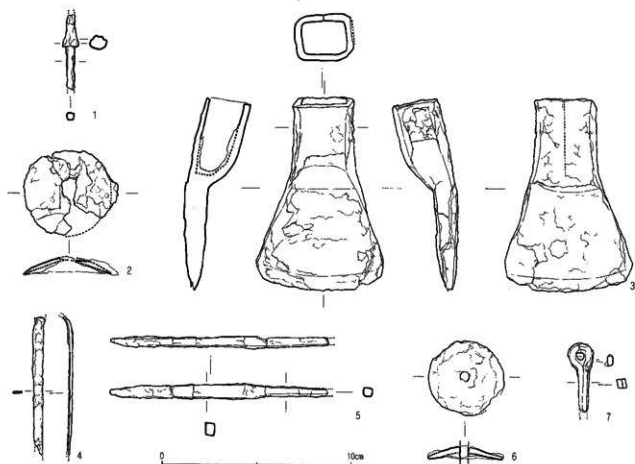


Fig.156-8 大宰府条坊跡第156次調査出土金属製品実測図 (1/2)

鉄鎌? (1・5) 現存長4.0cmを計る。中央部は断面円形で径0.9cm程度を計る。その他の部分は断面方形で径約0.45cmを計る。SE001灰茶色土出土。5は現存長11.5cmを計る。図の左側の断面は四角形で最大0.9×0.5cmを計る。図の右側の断面は隅丸方形で0.5×0.5cm程度を計る。SD065出土。いずれも工具等の可能性もある。

鉄製紡錘車 (2・6) いずれも円盤部分のみ残存する。2は径4.5cm、円盤の厚さ約0.2cm、高さ約0.8cmを計る。中央の孔は腐蝕によるものである。SX026出土。6は径4.0cm、円盤の厚さ約0.2cm、高さ0.7cmを計る。中央に鉄芯が残存している。鉄芯の直径は0.4cmを計る。灰色土層出土。

鉄製手斧 (3) ほは完形品である。長さ10.2cm、刃先の幅6.75cmを計る。柄を取り付ける部分は断面四角形の袋状になっている。外法は3.2×2.5cm、内法は2.35×1.75cm、深さ4.0cmを計る。内部には木質が残存している。なおX線による観察では、柄取り付け部分の手斧内側の中心部に縦方向の継ぎ目らしいものが観察されている。SX045出土。

へら状鉄製品 (4) 現存長7.4cm、幅0.6cm、厚さ0.15cmを計る。図の上端が湾曲している。SE050出土

ピン状鉄製品 (7) 現存長3.7cm、幅1.4cmを計る。0.5×0.3cm程度の断面四角形の1本の鉄の棒を折り曲げて製作している。灰色土層出土

5. 小結

当調査区では、井戸4基、溝5条、土坑5基その他を検出した。

ここは鉄筋コンクリート建物跡地の調査で、遺構面を破壊しないために既存建物基礎コンクリートの抜壊をおこなわなかった。このため調査は建物基礎の間を縫うようにおこなっている。調査担当者は退職しており、調査時の所見・記録類のみがこの整理報告の基となったが、こうした調査だったため遺構面全体の把握に苦慮したことが窺える。

担当者が代わっていることなども含めて十分な総括が難しいが、敢えて2つの点について述べ、まとめたい。

まずこの調査区の遺構の主体は13～14世紀である。その中でも遺物を多く出土した156SX045は注目される。この遺構は特にgグリッドにおいて検出されており、遺構面の最上層に位置するものである。黒色系の埋土で、中には大量の土器を含んでいる。この下層には156SK050・156SD065などの大型遺構があり、狭い調査区の中ではこれらとの関係が判然としなかったようであるが、156SX045も同様に大型遺構の可能性もあり、隣接する第158次調査（本書報告）の158SD001のような大量廃棄遺構の可能性を考える必要もあるだろう。十分な報告はできなかったが、ここで出土した土師器供膳具の量は、158SD001と同様中世五条地区の繁栄を物語るにふさわしいものといえよう。

次に、大宰府条坊に係わる時期の遺構はこの調査では少なかった。後述の「VI. まとめ」でも述べるように、当調査区から約170m北の大宰府条坊跡第217次調査（平成13年度調査）において、左郭12坊路とみられる南北道路の側溝が検出されている。この道路は当調査区の東隣を走行しており（「VI. まとめ」図5）、これに隣接する地点を南北に走行するとみられる156SX071が何らかの関連がある可能性があるが、遺物もなく、詳細は不明である。こうした中、f・gグリッドで検出した156SD065は平安後期に遡る遺構として注目される。北に対してやや西に振れて走行し、北端は調査区内で途切れているが、条坊内の区割りの溝でも同様の例はあり、蛇行しつつもさらに北に延長される可能性はある。ここでは大宰府条坊内部の区割りに関する溝と考えたい。

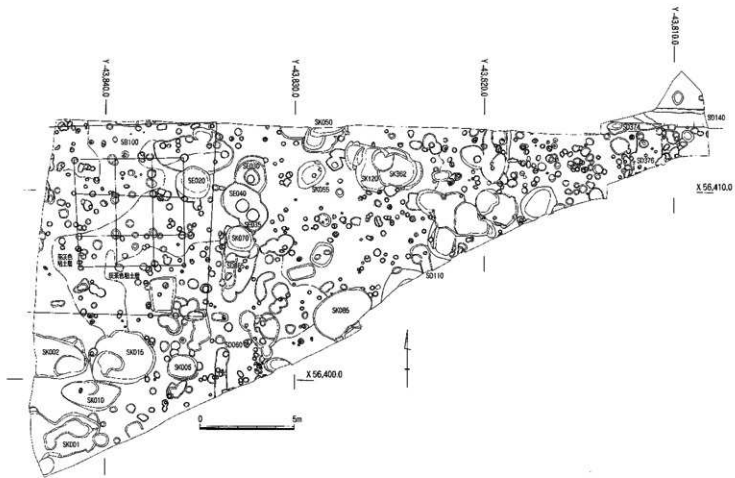


Fig.157-1 大宰府秦坊跡第157次調査第1面全体遺構図 (1/200)

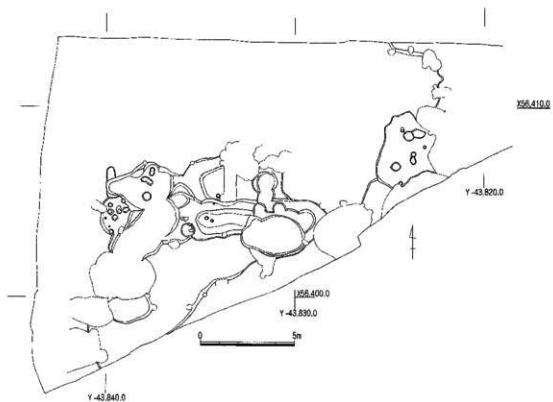


Fig.157-2 大宰府条坊跡第157次調査第II面全体遺構図 (1/200)

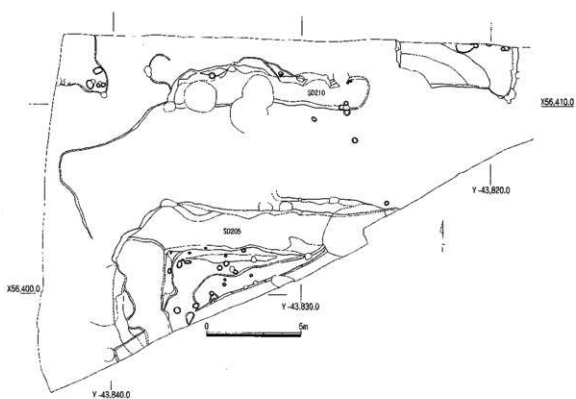


Fig.157-3 大宰府条坊跡第157次調査第III面全体遺構図 (1/200)

(2) 大宰府条坊跡第157次調査

1. 調査の経緯および調査・整理方法

調査区は、太宰府市五条2丁目2744-4外に位置する。調査面積は350㎡で、平成6年9月1日～平成6年11月30日に調査を実施し、井上信正が担当した。遺物は現在コンテナ約50箱に保管している。

本調査では、排土を外部に搬出することができなかったため、場内に排土を置くことになった。その上、地表から遺構面まで約1.6mもあり、排土置き場を確保することが調査範囲を決定づけることとなった。このため、西区・中央区・東区の3区分け、西から順に調査を行った。

その他の調査・整理方法については、「例言」および「IV. 調査整理の方法」を参照していただきたい。

2. 層位 (Fig.157-4～6, Pl.157-3・4)

調査区内で確認した最も下位の地盤は、灰色粗砂礫～白茶色細砂である。この層は中世の井戸の湧水層として機能していたことが伺える。そしてこの上に淡黄色シルト～砂が堆積しており、調査した遺構面の基盤となっている。

なお、地盤についての基本的な層位は、第156・158次調査と同様である。

調査では、遺構面は3面確認した。調査した順（時代の新しい順）に第I遺構面、第II遺構面、第III遺構面とした。

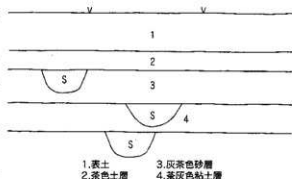


Fig.157-4 大宰府条坊跡第157次調査土層模式図

第I遺構面は、水田耕作面下の茶色土層を除去後に検出した。茶色土層出土遺物は遺構面全体の廃絶時期に近似する層位とみなされる。ただ、層の大半は重機による表土除去時にはぎ取っているため、茶色土層に実際に含まれていた遺物でない場合も多い。よって、茶色土層は遺構面を覆う人工層位と認識していただきたい。なお、調査区南西隅は重機による掘削時に遺構面がわからず60～70cmほど掘り下げすぎている。重機除去時には付近は黒色土が広がっていることを確認しており、また調査区西壁の土層観察では、溝あるいは土坑とみられる大型の遺構が存在したことがわかっている。後述のように157SK002・015・005は同一遺構だった可能性があり、また157SK001および157SX043は土層観察より同一遺構とみられる。

第I遺構面の調査区南西部では、灰茶色砂層（整地層）が広がっており、これを除去した後に検出した遺構面を第II遺構面とした。

また、第II遺構面には茶灰色粘土層（整地層）が広がっており、これを除去した後に検出した遺構面を第III遺構面とした。

3. 遺構

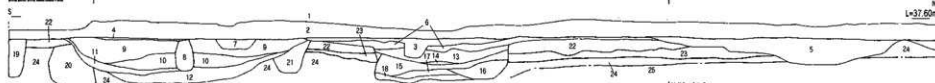
第I面検出遺構

建物

157SB100 (Fig.157-7)

調査区北西隅に位置する大型建物である。確認した面積は約75㎡にもおよび、さらに北及び西に広

西区西壁土層



X56.396.0

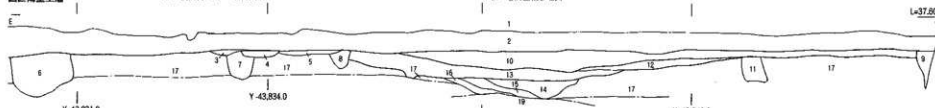
【大宰府条坊跡第157次調査西区西壁土層名】 () 内は遺物取り上げ土色名

1. 表土 (表土)
2. 暗灰色粘質土 (団粒作上。最下位は鉄分沈積) (茶色土層)
3. 明茶褐色土 (一部、下位に鉄分沈積) (＃)
4. 茶褐色土 (＃)
5. 深黒灰色土 (土層片含む)
6. 黒灰色土 (炭を多く含む)
7. 明茶色土
8. 暗い黄褐色土
9. 黄灰色土 (SK001黄灰色土)
10. 黒色土 (SK001黄色土)
11. 灰色粘土 (SK001灰色粘土)
12. 淡灰色土 (SX043)

13. 暗茶灰色粘質土 (黄褐色土層ブロック含む) (SK002)
14. 淡茶色土 (黄褐色土層ブロック、採むすかに含む) (SK002)
15. 茶褐色土 (黄褐色土層ブロック含む) (＃)
16. 暗灰茶色粘土 (炭を多く含む、黄褐色土層ブロック含む) (＃)
17. 淡茶色土 (灰色粘土層ブロック、黄褐色土層ブロック含む)
18. 黄褐色シルト (黄褐色シルト・灰褐色土層ブロック含む) (＃)
19. 淡茶褐色土 (土層片含む)
20. 淡茶灰色粘土 (黄褐色土層ブロック含む、きめ細かい)
21. 灰褐色粘土
22. 灰褐色粘土 (団粒を多く含む) (灰茶色土層)
23. 茶褐色粘土 (茶灰色粘土層)
24. 淡黄灰色シルト堆山
25. 暗灰色粗砂堆山

X56.405.0

西区南壁土層



Y-43.831.0

Y-43.834.0

Y-43.837.0

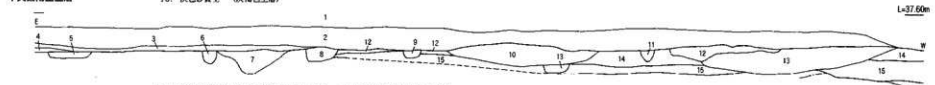
Y-43.840.0

【大宰府条坊跡第157次調査西区南壁土層名】 () 内は遺物取り上げ土色名

1. 表土 (表土)
2. 暗灰色粘質土 (団粒作上。最下位は鉄分沈積) (茶色土層)
3. 灰色粘砂の層化層
4. 茶褐色粘質土 (SD080)
5. 黄褐色シルト (酸化している)
6. 暗灰褐色粘質土 (S-114)
7. 灰茶褐色粘質土 (S-101)
8. 灰茶褐色土 (暗色シルトブロック含む)
9. 淡茶褐色土 (きめ細かい)
10. 灰色粘質土 (灰褐色土層)

11. 淡灰褐色砂
12. 淡灰色粘土 (若干砂が混入する) (茶灰色粘土層)
13. 茶灰色粘土層 (＃)
14. 黄褐色粘土 (黄褐色シルトブロック、暗灰色土層ブロック含む) (SD205淡茶色土)
15. 淡茶褐色シルト (暗灰色土層ブロック少し含む) (＃)
16. 淡茶灰色シルト (黄褐色シルトブロック多量含む) (＃)
17. 淡黄灰色シルト堆山
18. 黄褐色シルト
19. 茶褐色レキ砂

中央区南壁土層



L=37.60m

【大宰府条坊跡第157次調査中央区南壁土層名】 () 内は遺物取り上げ土色名

1. 表土 (表土)
2. 暗灰色粘質土 (団粒作上。最下位は鉄分沈積) (茶色土層)
3. 灰茶褐色土
4. 淡茶褐色土 (褐色土層ブロック含む)
5. 黄灰色砂+灰色砂
6. 暗灰色粘質土
7. 中々暗い淡黄灰色粘質土
8. 暗灰色粘質土 (黄色土層土含む)

9. 灰茶褐色粘土
10. 暗茶褐色土 (炭を多く含む、堆山土層ブロック観察される)
11. 暗灰色土
12. 明るい灰茶砂質土
13. 中々暗い暗茶褐色土
14. 灰黄色粘質土 (灰茶色土層)
15. 茶褐色粘土 (茶褐色粘土)



Fig.157-5 大宰府条坊跡第157次調査区壁面土層図 (1/60)

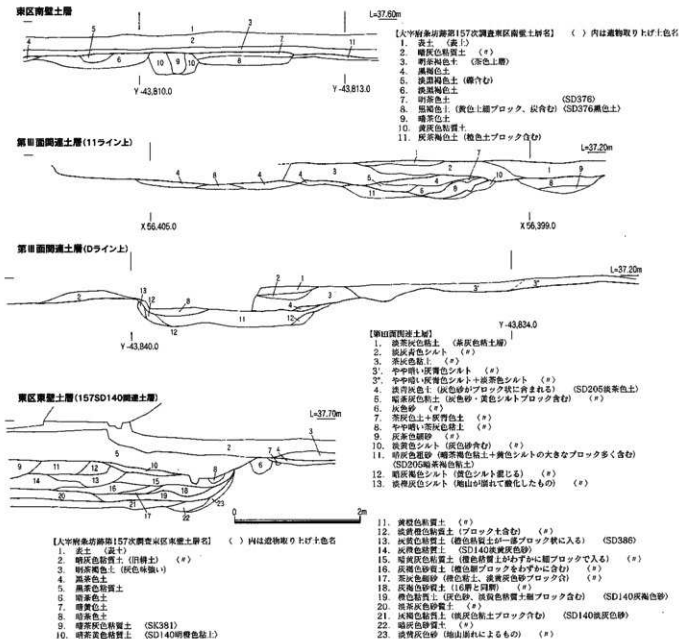


Fig.157-6 大宰府条坊跡第157次調査区壁面土層図および第三面南壁土層図 (1/60)

がる可能性もある。仮に157SX007を建物西側の一部とみなすことが可能ならば、面積は90㎡におよぶ建物となるが、確定はできなかつたため、本報告では、3×3間の身舎をもち、南北東に縁(あるいは廂)をもつ建物を想定し報告した。

建物はほぼ正方位を向いており、その規模は身舎の南北5.78m、東西5.68m、廂を含めると南北9.88~10.14m、東西約7~7.5mを測る。一見、総柱建物のように見えるが、柱穴の規模・深さはまちまちで、浅くかつプランが不成形のものも多い。さらにその配列は一見してわかるような整然としたものではない。これだけの規模を有しながら、通常の掘立柱建物のように建物を支える基礎としてこれらの小穴が機能しうるかどうかが疑問が残る。このため、一般の掘立柱建物というより、柱根石が露出した礎石建物風の建物を想定し、その抜き取り痕が小穴として検出されたものと考えている。なお、掘立柱建物また身舎の周囲を巡る小穴は、小規模で身舎と平行しておらず、身舎の小穴に比べてさらに小規模であり、建物の主柱をなしていたとは考えにくい。廂とするより縁と想定している。

なお建物の時期は、切り合い関係・出土遺物いずれも良好なものが少なく確定できないが、当遺構の埋土を周辺遺構埋土と比較することで、建物下層を13世紀後半頃と考えている。

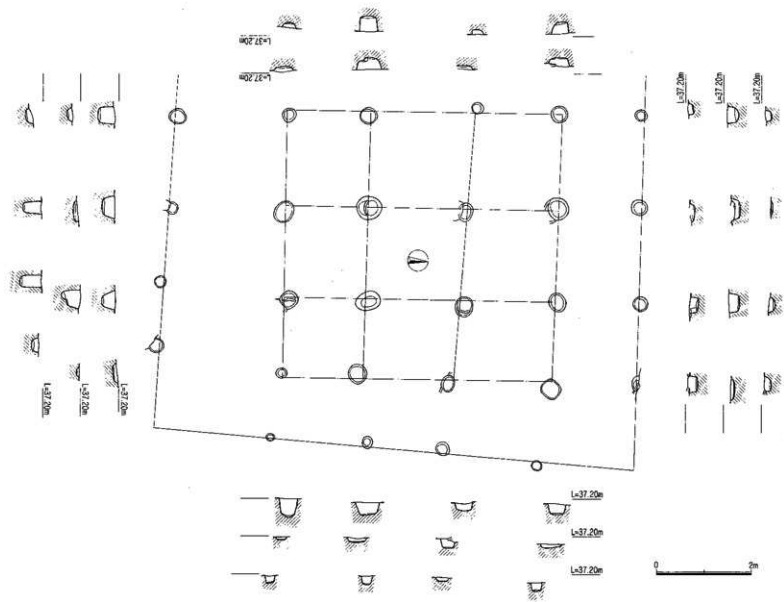


Fig.157-7 I57SB100实测图 (1/80)

井戸

157SE020 (Fig.157-8, Pl.157-5)

調査区西側で検出した。平面プランはほぼ円形を呈し、直径1.6~1.86m、深さ1.52mを測る。遺構検出面から約1.18m掘り下げたのち、中央に径0.52~0.6m、深さ0.36mほどの円形の穴を掘り、径39cm、高さ21cmの曲物を据え水澄ましとしている。この水澄ましから垂直に円形の井戸枠部があったとみられるが、枠は遺存しておらず、円形の掘り方のみ検出されている。

埋土は、遺構上面（灰色土）、井戸枠部（上から暗茶色土・灰色粘土・黒灰色粘土・青灰色粘土）、曲物内（明茶色土）、井戸枠裏込め（茶黄色土）に分かれる。

なお、灰色土層除去後に157SB100の柱穴のひとつ（157SX058）が検出されており、157SB100建築以前に掘削されたものである。

157SE030 (Fig.157-8, Pl.157-5)

調査区西側で検出した。平面プランは円形~隅丸方形を呈し、南北1.79m、東西1.7m、深さ1.35mを測る。遺構検出面から約0.8m掘り下げたのち、中央に径0.96~1.08m、深さ0.26mほどの穴を掘り、さらにその中央南よりに径0.44m、深さ0.33mの穴を掘り、径44cm、高さ20cmの曲物を据え、水澄ましとしている。

埋土は、遺構上面から曲物検出まで（上から淡茶色砂・茶灰色砂・灰茶色砂・茶灰色粘土・灰色砂）、曲物内（玉王）に分かれる。

なお、出土遺物は破片で計測できなかったが、12世紀後半から13世紀にかけての遺物が出土している。

157SE035 (Fig.157-8, Pl.157-6)

調査区西側で検出した。平面プランは円形~隅丸方形を呈し、南北1.88m、東西1.66m、深さ1.58mを測る。遺構検出面から約1m掘り下げたのち、中央に径約0.8m、深さ0.6mほどの穴を掘り、井戸枠を据え、周囲を白灰色砂で埋めて固定している。井戸枠は円形の桶で、長さ65cm前後の短冊状の板材を使って円く組み、外側上下2ヶ所にタガを取り付けるものである。桶は上端径64cm、下端径74cmを測る。この桶の上位の外周には、上位のタガの位置まで厚さ約1cm、幅約10cmの板材が重なっている。これは楔状に板材を打ち込み、桶を固定したとも考えられるが、板材の上端が水平であることや、同時期の桶を使用した井戸例から考えると、上位に別の桶が重なっており、埋没後の地下水位によりその桶の下端のみ残存して検出されたと考えるのが妥当であろう。

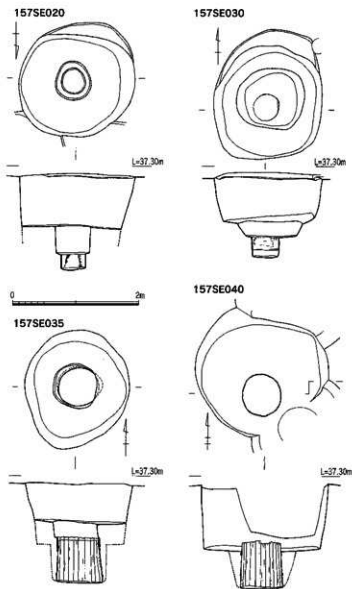


Fig.157-8 大宰府桑坊跡第157次調査井戸実測図 (1/60)

埋土は、井戸枠内の最終埋没土をSX061とし、それ以下の井戸枠部（上から灰色土・灰褐色粘土）、井戸枠部桶内（目玉）、井戸枠裏込め（上から淡茶色土・青灰色粘土）に分かれる。

157SE040 (Fig.157-8、Pl.157-6)

調査区西側で検出した。157SE030・035により切られているが、平面プランは径2.1m程度の円形を呈すとみられ、深さ1.66mを測る。遺構検出面から約1m掘り下げたのち、中央に径0.96～1.05m、深さ0.6mほどの穴を掘り、井戸枠を据えている。井戸枠は円形の桶で、長さ68～72cm前後、厚さ約1cmの短冊状の板材を使って円く組み、外側上下2ヶ所にタガを取り付けるものである。桶は上端径62cm、下端径69cmを測る。この桶の上位の外周には、上位のタガを巡るように厚さ約1cm、幅約10cmの板材が検出されているが、ほとんど腐蝕しており状況は不明である。157SE035同様、井戸枠桶の下端が遺存していたことも考えられよう。

埋土は、遺構上面から井戸枠検出まで（上から灰色砂・茶黄色土・茶色砂）、井戸枠部桶内（上から暗灰色粘土・目玉）、井戸枠部桶裏込め（茶色砂礫）に分かれる。

溝

157SD060 (Fig.157-1・157-5)

調査区西半で検出した。ほぼ南北に走行し、157SD065の南延長上に位置する。幅0.65m、深さ0.05～0.08m。埋土は明茶砂質土で、流水痕跡はみられない。東西を画する小区割りに伴うものとみられる。

157SD065 (Fig.157-1)

調査区西半で検出した。ほぼ南北に走行し、157SD060の北延長上に位置する。幅0.7～0.74m、深さ0.07～0.2m。157SD060と同様、東西を画する小区割りに伴うものとみられる。なお、溝底のレベル値は北側に向かって低くなるが、流水痕跡はない。埋土は黒灰色砂質土。

157SD110 (Fig.157-1)

調査区中央南端で検出した溝状遺構である。やや西に振れつつ南北に走行する。検出長1.1m、幅0.66m、深さ0.07m程度。東西を画する小区割りに伴う遺構の可能性も考えられる。埋土は暗茶色土。

157SD140 (Fig.157-6、Pl.157-5)

調査区北東隅で検出した大溝または堀である。ほぼ東西に走行している。検出長5.65m、深さ0.72mで、溝の南半分のみ幅3.55m分を検出した。溝の北半は調査区外にあるが、これは第138次調査で検出しており（条138SD010、「大宰府条坊跡VI」1994参照）、溝幅は5～5.5mに復原される。本遺構は、南北を画する大区割りに伴う遺構と想定される。埋土の観察では地山土が細かいブロック状に混入しており、自然堆積ではなく埋め戻しが行われた可能性が窺える。なお第138次調査では流水（あるいは溜水）があったとされるが、そのような痕跡はみられなかった。もし流水あるいは水位の変化があれば南肩下位の地山粗砂層が崩れていると考えられるが、そのような状況は見受けられない。所見が異なる結果となったが後考をまちたい。なお出土遺物が少なかったことも、第138次調査とは異なる結果となった。埋土は、上から明橙色粘土・淡黄灰色砂・灰褐色砂・淡灰色砂の順である。

157SD373・374・386 (Fig.157-6)

調査区北東隅で検出した溝群で、いずれも157SD140埋土の上に掘られた東西溝である。157SD140が埋没した後も、周辺と比べて小穴などが極端に少なく、こうした溝群が走行しているのは、157SD140掘削以降、境界としての意識が継続していたことを示すものである。なお、ここを境界とするのは現在でも同様で、調査区と北隣接地との境界となっている。

157SD376 (Fig.157-6)

調査区東端で検出した溝状遺構である。ほぼ南北に走行しており、溝埋没後北端が157SD140に切られている。検出長2.6m、幅1.37m、深さ約0.1m。埋土は黒褐色土で、埋土中に黄色を呈した細かいブロック状の土塊および炭がみられる。流水痕跡はみられない。東西を画する小区割りに伴うものとみられる。

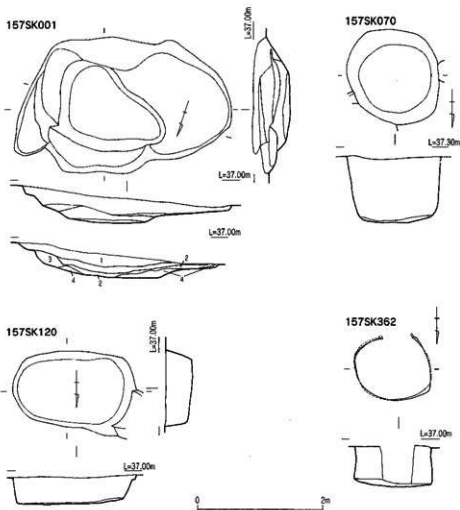


Fig.157-9 大宰府桑坊跡第157次調査土坑実測図 (1/60)

土坑

157SK001

(Fig.157-9, Pl.157-3)

調査区南西隅で検出した。この付近は遺構検出時に遺構面を掘り下げ過ぎており、調査区西壁土層

観察からは、本遺構が南北幅3.9m、東西幅3.7m以上、深さは0.7m (SK001最下部からみると深さ0.86m) に及ぶことがわかる。なお、調査では、遺構西側の長さ3.03m、幅2.15m、深さ0.57mの土坑をS-1とし、最下層は別にS-43として調査を行っている。埋土は、上から黄灰色土・黒色土・灰色粘土・茶黄色土、そしてSX043 (淡灰褐色土埋土) の順である。遺物は黄灰色土層および黒色土層から多く出土し、これ以下の層位からはあまり出土していない。

157SK002 (Fig.157-1・157-5, Pl.157-3)

調査区南西隅で検出した。調査時には埋土の違いによりS-2・3・4と遺構番号を分けたが、これらは同一遺構であり、S-2 (SK002) に統合した。この付近は遺構検出時に遺構面を掘り下げ過ぎているが、検出したプランおよび調査区西壁土層観察をあわせると、本遺構が南北幅2.12m、東西幅2.9m以上、深さは0.5~0.6mに及ぶことがわかる。本遺構の東延長上には、埋土が類似したSX005、SX010、SX015があり、本遺構と同一遺構の可能性もある。ただ確証が得られていないため、別遺構として報告している。

なお、調査では遺構埋土毎に遺構番号を付けて遺物取り上げを行っている。埋土は上からS-2・3・4の順である。

157SK005 (Fig.157-1)

調査区南西で検出した。平面プランはほぼ楕円形を呈す。長さ1.6m、幅1.33m、深さ0.42mを測る。

黒灰色砂埋土。なおここから出土した滑石製石鍋破片が157SK015黒灰色土層から出土した同破片と接合した。このことは157SK002の項で述べたように、157SK002・005・010・015は同一遺構だったことを傍証する事例の一つと考える。

157SK010 (Fig.157-1)

調査区南西で検出した。平面プランは不定形を呈す。長さ3.14m、幅1.55m、深さ0.35mを測る。黒灰色砂質土埋土。

なお、出土遺物が破片のため、埋没時期は不明である。

157SK015 (Fig.157-1)

調査区南西で検出した。平面プランは不定形を呈す。長さ3.48m、幅2.81m、深さ0.45mを測る。埋土は大きく2層に分かれ、上から茶色土・黒灰色土の順である。なお黒灰色土層から出土した滑石製石鍋破片が157SK005から出土した同破片と接合した。このことは157SK002の項で述べたように、157SK002・005・010・015は同一遺構だったことを傍証する事例の一つと考える。

157SK050 (Fig.157-1)

調査区中央の調査区北壁沿いで検出した。平面プランはややいびつな楕円形を呈しているようで、長さ1.8m、幅0.5m以上あるとみられるが、検出面積が狭いため本来の形状は明確ではない。埋土は、淡灰茶砂質土が主体で、埋土中に黄色土、濃黄色を呈したブロック状の土塊がみえることから、人為的に埋め戻されていることがわかる。状況から井戸の裏込め部分と推測されるが、明らかではない。なお遺構の低位は調査区北壁の崩落防止を鑑みて完掘していない。

なお、遺物はほとんど出土していない。

157SK055 (Fig.157-1)

調査区中央北側で検出した。平面プランはやや崩れた方形プランを呈す。長さ1.66m、幅1.24m、深さ0.18mを測る。黒色砂質土埋土。

157SK070 (Fig.157-9, Pl.157-6)

調査区の南側で検出した。平面プランは楕円形を呈し、長さ3.26m、幅2.16m、深さ0.49mを測る。調査区の西側で検出した。平面プランは円形を呈し、径約1.5m、深さ約1mである。形状から井戸と推定されるが、埋土観察でも井戸枠の痕跡は検出されず、十分な確証がえられなかったため土坑として報告した。井戸を掘りかけて止めたものであろうか。

埋土は、上から淡茶色砂・茶灰色土・暗灰色粘土・暗灰色砂の順である。

157SK080 (Fig.157-1)

調査区の南側で検出した。平面プランは楕円形を呈し、長さ1.36m、幅0.8m以上、深さ0.24mを測る。土塊。明茶褐粘質土埋土。SK085に切り込む。

157SK085 (Fig.157-1)

調査区の南側で検出した。平面プランは楕円形を呈し、長さ3.26m、幅2.16m、深さ0.49mを測る。埋土は上から明茶色土・黒色土・灰黒色土・淡茶色土の順である。埋土にはブロック状の土塊が見られることから、人為的な埋め戻しが行われているようで、土層観察では東側から遺構が埋め戻された様子が確認されている。なお、遺構下底部の淡茶色土層には、157SD205淡茶色土に伴う遺物が含まれている。

157SK120 (Fig.157-9)

調査区中央北側で検出した。平面プランは楕円形を呈し、長さ2.94m、幅1.22m、深さ0.49mを測る。埋土は上から黒茶色土・灰黒色土の順である。

157SK362 (Fig.157-9)

調査区中央北側で検出した。平面プランは楕円形を呈し、長さ1.2m、幅1.0m、深さ0.65mを測る。埋土は、暗灰色砂質土。形状から井戸と推定されるが、十分な確証がえられなかったため土坑として報告した。

第II面検出遺構

たまり状遺構

157SX156・157・171・176・177 (Fig.157-2)

調査区西側南寄り検出した。いずれも不定形で、厚さ5～10cm程度に埋土が堆積している状況である。これらは、第III面の157SD205に添うように堆積しており、157SD205の沈み込みでできた凹みを埋めた整地層と認識している。

第III面検出遺構

溝

157SD205 (Fig.157-3・157-6、Pl.157-3・4)

調査区西側南寄り検出した。ほぼ正方位を向いた東西溝・南北溝が調査区内でL字状に接合している。幅2.0～2.6m (平均約2.4m程度)、深さは0.19～0.58m (平均0.25～0.35m程度)である。溝底はほぼ水平である。なお東西溝・南北溝の掘削に際する優先順や切り合い関係はみられない。

埋土は上から淡茶色土・暗茶褐色粘土の順に堆積している。下層の暗褐色粘土層には粗砂が多く含まれていることから、溝底は流水作用があったことを示すものと考えられる。ただ暗褐色粘土層の堆積範囲がL字に折れ曲がった付近に限られており、流水は恒常的なものではなかった可能性が高い。

当遺構は大宰府条坊関連区画に関する遺構の可能性があり、157SD210とともに道路側溝（東西道路南側溝および南北道路東側溝）となるとみられる。L字に折れ曲がった部分が交差点になる可能性を指摘しておく。

157SD210 (Fig.157-3、Pl.157-4)

調査区西側北寄り検出した。ほぼ東西に走行する溝である。幅1.6～2.15mで、深さ0.12～0.25mで、溝底はほぼ水平である。本遺構を検出したのは西区であるが、溝の東側については、中央区および東区では検出できなかった。遺構の深さが浅く、削平により消失したものとみられる。また溝の西端は調査区内で閉じている。この溝西端は157SD205の屈曲点のほぼ真北に位置している。

埋土は、茶灰色粘土層（第III面を覆う整地層）と同層とみられ、開口したまま茶灰色粘土層により埋没したものとみられる。流水痕跡もみられない。埋土からは弥生時代前期の遺物片が出土したのみである。

なお、当遺構は大宰府条坊関連区画に関する遺構の可能性があり、157SD205とともに道路側溝（東西道路北側溝）となるとみられる。溝西端が途切れているのは、157SD205の所見と併せることで道路交差点の存在を傍証する可能性がある。

3. 遺物

第I面出土遺物

井戸出土遺物

157SE020灰色土出土遺物 (Fig.157-10)

土師器

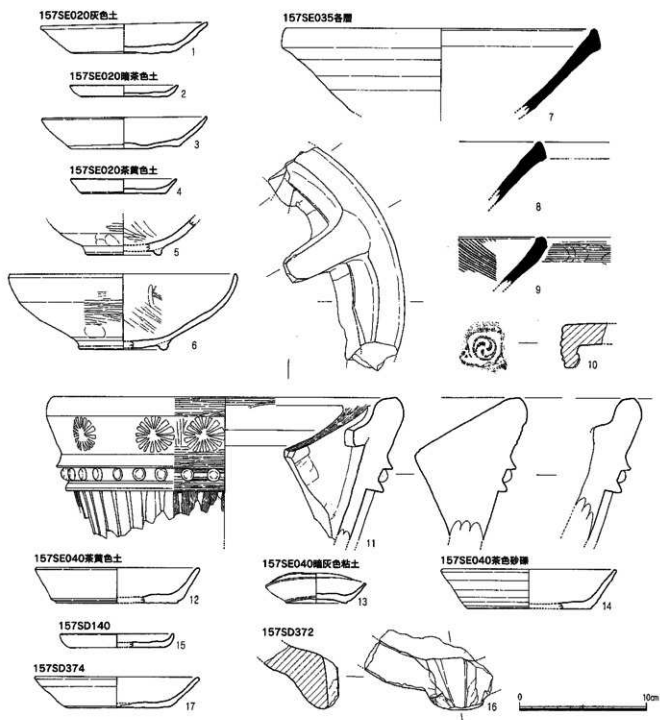


Fig.157-10 大宰府条坊跡第157次調査井戸・溝出土遺物実測図 (1/3)
 坏 a (1) 口径13.2cm、器高2.3cm、底径8.2cmを計る。底部切り離しは糸切り。
 157SE020暗茶色土出土遺物 (Fig.157-10)
 土師器
 小皿 a (2) 口径8.5cm、器高1.0cm、底径6.9cmを計る。底部切り離しは糸切り。
 坏 a (3) 口径13.0cm、器高2.5cm、底径9.2cmを計る。底部切り離しは糸切り。
 157SE020茶黄色土出土遺物 (Fig.157-10)

土師器

小皿 a (3) 口径8.4cm、器高1.2cm、底径6.9cmを計る。底部切り離しは糸切り。

瓦器

椀 c (4・5) 4は底部が残存する破片である。残存高2.85cm、高台径6.0cmを計る。5も破片資料である。口径17.8cm、器高6.0cm、高台径7.1cmに復原される。いずれも内面および外面体部はミガキ c を施し、外面体部下半は底部押圧による指頭痕が観察される。

157SE035灰色土出土遺物 (Fig.157-10, Pl.157-7)

須恵質土器

鉢 (8) 口縁部の破片である。残存高5.0cmを計り、内外面とも回転ナデを施す。焼成は不良で、内面は淡橙茶色～淡灰色、外面は淡茶色、口縁部は明灰色を呈す。

瓦質土器

火舎 (11) 上部が残存する破片である。口径28.2cm、残存高11.25cmを計る。内面は、上端から2.5～3.8cmの位置に突帯が巡っており、途中数カ所に縦断面三角形の受け部が取り付くようである。外面は、上部に菊花文を型押しにより陰刻した周帯があり、その下に水平方向に突帯が二重に巡っている。この二重突帯の間には珠文が付される。二重突帯の下は縦方向に突帯を巡らしている。外面、口縁部および内面の縦断面三角形の受け部上面にミガキを施し、内面のその他の部分はナデを施す。胎土はきめ細かく0.2～1.0mmの砂粒を少量、微細な雲母片をやや多く含む。焼成は良好で、黒灰色～灰黒色～淡茶色～淡灰色～淡橙色を呈す。

157SE035目玉出土遺物 (Fig.157-10)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.8cm、器高1.2cm、底径5.2cmを計る。底部切り離しは糸切り。

瓦質土器

鉢 (9) 口縁部の破片である。残存高3.8cmを計る。内面は斜め方向にハケ目を施す。外面は成形にともなう指頭痕の上を水平方向にハケ目を施す。胎土のきめはやや粗く、0.2～1.0mmの砂粒をやや多く含む。焼成は良好で、灰白色～暗灰色～灰黒色を呈す。

157SE035淡茶色土出土遺物 (Fig.157-10)

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5cm、器高1.2cm、底径5.0cmを計る。底部切り離しは糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.5cm、器高1.4cm、底径4.5cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.9～12.5cm、器高2.7～3.0cm、底径7.3～8.5cmを計る。底部切り離しは糸切り。灯明皿と考えられるものもある。

須恵質土器

鉢 (7) 体部上半が残存する破片である。口径25.1cm、残存高6.7cmを計る。内外面とも回転ナデを施す。内外とも体部下半は器面が剥落している。焼成は不良で、淡橙茶色～灰黒色～淡灰色を呈す。

瓦

軒平瓦 (10) 瓦当のみ残存する。文様は巴文である。胎土のきめはやや粗く0.2～3.0mmの砂粒を多く含む。焼成は良好で、明黒灰色～黒灰色～明灰色を呈す。

157SE040茶黄色土出土遺物 (Fig.157-10)

土師器

坏 a (12) 口径13.0cm、器高2.8cm、底径10.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

157SE040暗灰色粘土出土遺物 (Fig.157-10)

土師器

小皿 b (13) 完形品だがかなり歪んでいる。推定口径は8.0cm、器高2.4cm、底径4.8cmを計る。底部切り離しは糸切り。

157SE040茶色砂礫出土遺物 (Fig.157-10)

土師器

坏 a (14) 口径13.8cm、器高3.1cm、底径10.1cmを計る。底部切り離しは糸切り。灯明皿として使用されている。

溝出土遺物

157SD140出土遺物 (Fig.157-10)

土師器

小皿 a (15) 口径9.0cm、器高1.1cm、底径8.2cmを計る。底部切り離しは糸切り。

157SD372出土遺物 (Fig.157-10, Pl.157-7)

石製品

石臼 (16) 石臼の片口の部分が残存している。砂岩製。

157SD374出土遺物 (Fig.157-10)

土師器

坏 a (17) 口径13.0cm、器高2.5cm、底径8.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

157SD376出土遺物

土師器

坏 a (土師器計測表参照) 口径9.15cm、器高1.05cm、底径7.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

土坑出土遺物

157SK001黄灰色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.6~9.4cm、器高0.8~1.4cm、底径6.2~7.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.7~13.2cm、器高2.05~2.9cm、底径8.1~9.5cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿と使用されたものもある。

157SK001黒色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.7~9.0cm、器高0.8~1.35cm、底径5.9~7.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.0~13.8cm、器高2.1~2.9cm、底径7.8~9.3cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿と使用されたものもある。

157SK001茶黄色土出土遺物

土師器

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.8cm、器高2.5cm、底径8.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。

157SK002出土遺物 (Fig.157-11)

土師器

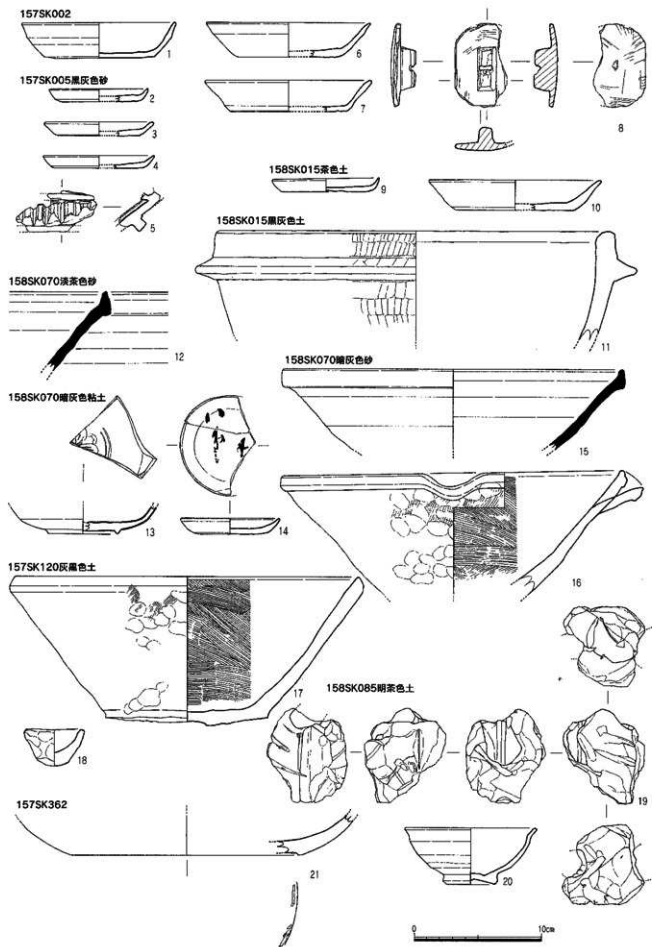


Fig.157-11 大宰府桑坊跡第157次調査土坑出土遺物実測図 (1/3)

坏 a (1) 口径12.2cm、器高2.8cm、底径8.2cmを計る。底部切り離しは糸切り。灯明皿として使用されている。

157SK005黒灰色砂出土遺物 (Fig.157-11、巻頭図版2、Pl.157-7)

土師器

小皿 a (2~4) 口径7.8~8.8cm、器高1.0~1.1cm、底径6.8~7.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (6・7) 口径13.0~13.2cm、器高2.5~2.7cm、底径8.8~9.3cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

緑釉陶器

屋根 (5) 小型の塔の屋根の一部とみられるものである。図上の計測では残存高3.3cm、残存幅6.35cm、残存奥行き2.0cmを計る。表面は幅0.9cm程の断面円形の部品が縦列しており、屋根瓦を表現している。瓦部の上部には横木とみられるものを渡しており、さらにその上部は垂直に立ち上がっている。瓦が綻かないことから、屋根の最上部付近とみられる。軒下には屋根を支える柱材を表現した断面方形の作り出しが水平に取り付いている。素地は土師質で明茶色を呈し、胎土は精良である。この上に暗緑色に発色した釉が薄く施釉される。釉は残存している表面は全面施釉されているが、裏面は部分的なものであったことが観察される。焼成は良好。

石製品

滑石製品 (8) 楕円形の薄板につまみを作り出した製品である。全面を細かな削りで成形している。つまみは底部が長さ3.4cm、幅1.4cm、頂部が長さ2.9cm、幅約0.8cmを計り、中央部には長軸に直交して径0.3cm程の断面半円形の溝が穿たれる。板部は長さ6.7cm、現存幅4.1cmを計り、つまみの中心が板部の中心と想定すると幅5.0cmに復原される。つまみが付された面はほぼ平面であるが、反対面はやや凸面を呈す。凸面側の中央部は、図上右上から左下にかけて摺った痕跡がありその部分が光っている。ただ滑石という素材からかなり弱い力で摺ったものと想定される。版画のパレンのような押圧や摺りを目的とした製品、あるいは石鍋の補修部品とみられるが、正確な用途は不明である。

石鍋 (11) ここで出土した石鍋が157SK015黒灰色土出土の石鍋と接合した。これについては157SK015黒灰色土の項で述べる。

157SK015茶色土出土遺物 (Fig.157-11)

土師器

小皿 a (9) 口径8.5cm、器高1.1cm、底径7.1cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (10) 口径13.0cm、器高2.5cm、底径9.2cmを計る。底部切り離しは糸切り。灯明皿として使用されている。

157SK015黒灰色土出土遺物 (Fig.157-11)

石製品

石鍋 (11) 体部上半が残存する破片である。口径31.4cm、残存高8.6cmを計る。内外ともケズリにより成形しているようであるが、内面のケズリは使用による摩耗のため不明瞭である。なお158SK005黒灰色土で出土した石鍋とこの石鍋が接合する。

157SK055出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.6~8.0cm、器高1.05~1.1cm、底径6.0~6.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切りとみられる。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.8cm、器高1.55cm、底径4.9cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.1cm、器高2.95cm、底径8.0cmを計る。底部切り離しは糸切り。

157SK070淡茶色砂出土遺物 (Fig.157-11)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.2~8.7cm、器高1.2~1.55cm、底径5.9~6.7cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径7.0cm、器高1.7cm、底径4.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.1~15.8cm、器高2.4~3.3cm、底径8.9~11.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

須恵質土器

鉢 (12) 体部上半が残存する破片である。残存高6.3cmを計る。内外面とも回転ナデを施す。焼成は良好で、体部は明灰色、口縁部は暗灰色を呈す。

157SK070茶灰色土出土遺物

土師器

小皿 b (土師器計測表参照) 口径7.1cm、器高1.55cm、底径5.5cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.0~11.8cm、器高2.65cm、底径8.4~8.5cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

157SK070暗灰色粘土出土遺物 (Fig.157-11)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.3~8.6cm、器高0.95~1.55cm、底径5.8~6.95cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.5~12.6cm、器高2.3~2.9cm、底径7.35~9.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

高麗青磁

皿 (13) 底部の破片である。残存高2.2cm、高台径5.5cmを計る。釉は全面にやや厚めに施釉され、やや不透明で青みの強い青灰色に発色し、柔らかな光沢がある。外面にわずかに貫入がみとめられる。高台の置付は釉が拭き取られている。素地は、明灰色を呈し、きめ細かいがわずかに空隙がある。内面見込みには陽刻型押しが施されることが断面観察でも確認されるが、釉が厚く不透明であるため文様は判然としない、ただ、陽刻部分が盛り上がっているため、使用に伴う擦れによりこの部分の釉の表面が荒れている。こうしたことも含めて判断すると、この陽刻型押しは一つの花文を中央に配し、周辺に二重の同心円がとりまいてると判断される。焼成良好で、上質に仕上がる。

157SK070暗灰色砂出土遺物 (Fig.157-11、木製品はFig.157-12)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.9~8.8cm、器高1.0~1.5cm、底径5.75~7.15cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切りとみられる。

小皿 a (14) 口径7.9cm、器高1.2cm、底径5.8cmを計る。底部切り離しは糸切り。内面に墨書されるが、内容不明。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径7.1cm、器高1.5cm、底径4.95cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.1~12.2cm、器高2.45~2.6cm、底径8.2~9.05cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

須恵質土器

鉢 (15) 体部上半が残存する破片である。口径27.0cm、残存高6.4cmを計る。焼成良好で、口縁部は灰黒色、その他は明灰色を呈す。

瓦質土器

片口鉢 (16) 体部上半が残存する破片である。口径27.3cm、残存高9.9cmを計る。内面は横から斜め方向にハケ目を施す。外面はハケ目を施した後、指頭により器面調整を施す。胎土は精良で、0.5mm以下の白色砂粒を含む。焼成は良好で、表面は明灰色～暗灰色、胎土内は黒灰色を呈す。

木製品 (Fig.157-12)

円盤状製品 (1~4) 1は8.2×8.4cmの円盤で、厚さ1.5cmを計る。2は8.9×8.8cmの円盤で、厚さ0.5cmを計る。3は現存長11.3、現存幅7.7cm、厚さ0.4cmを計り、直径約6.7cmの円盤

に復原される。4は現存長11.4cm、現存幅4.5cm、厚さ0.4cmを計り、直径約6cm程度の円盤に復原される。いずれも小型の曲物底等に使用されたものか。

箸状製品 (5) 現存長12.6cm、断面は0.6×0.5cmを計る。

157SK080出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.6cm、器高1.15~1.35cm、底径6.25~7.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

157SK085明茶色土出土遺物 (Fig.157-11、巻頭図版2)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.4~9.5cm、器高0.9~1.55cm、底径6.1~7.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径13.0~13.5cm、器高2.15~2.85cm、底径9.1~10.0cmを計る。底部切

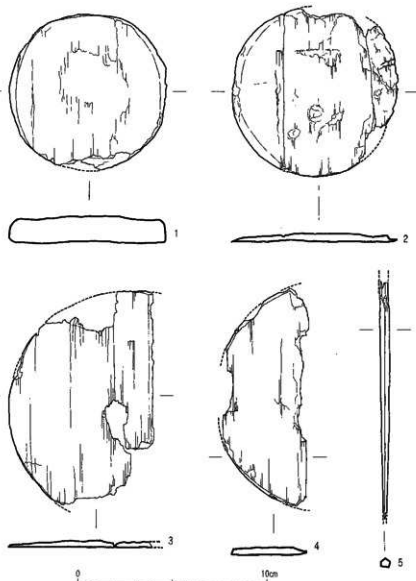


Fig.157-12 157SK070暗灰色砂出土木製品実測図 (1/2)

り離しはいずれも糸切り。

黒釉陶器

天目碗 (20) 体部の一部が欠損している。口径10.4cm、器高4.5cm、高台径4.3cmを計る。釉は外面底部および体部下部をのぞき全面施釉しているが、口縁部内面は釉がやや灰茶色に発色した透明釉で、その他は黒茶色に発色した不透明釉が施釉される。素地は緻密で、茶白色を呈す。焼成は良好で、上質のつくりである。

その他の遺物

焼土塊 (19) 7.45×6.4×6.4cmが残存する。葉屑などが一緒に含まれていたようで痕跡が残存している。なお3箇所に径2cm前後の棒状のものを押し当てた痕跡がある。2本の平行した棒材の間を直角に1本の棒材が通っている状況にみてとれる（展開図左上図）。壁土などであろうか。

157SK085黒色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.3~9.1cm、器高1.05~1.55cm、底径6.2~8.05cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

杯 a (土師器計測表参照) 口径12.4~13.6cm、器高2.5~2.6cm、底径9.2~9.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

157SK085灰黒色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.0cm、器高1.3cm、底径6.5cmを計る。底部切り離しは糸切り。

157SK120黒茶色土出土遺物 (Fig.157-11)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5~8.7cm、器高1.05~1.4cm、底径5.2~6.95cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.8~7.2cm、器高1.2~1.3cm、底径5.1~5.5cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

杯 a (土師器計測表参照) 口径11.6~12.6cm、器高2.75~3.05cm、底径7.6~8.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

小鉢 (18) ミニチュアの手づくね土器である。口径4.8cm、器高2.9cmを計る。外面は指頭により成形し、内面はナデている。胎土は精良。焼成は良好で、茶灰色を呈す。

瓦質土器

鉢 (17) 破片資料である。口径28.0cm、器高10.8cm、底径12.7cmを計る。内面は横から斜め方向にハケ目を施す。外面については、体部上半はハケ目を施した後、指頭により器面調整を施し、体部下半はヨコナデ後、指頭により器面調整を施す。底部には板状圧痕がある。胎土は良好で1mm以下の茶色砂粒を多く含む。焼成は良好で、外面は明灰色、内面は黒灰色を呈す。

157SK120灰黒色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.35cm、器高1.15cm、底径6.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.8cm、器高1.4cm、底径4.95cmを計る。底部切り離しは糸切り。灯明皿として使用されている。

杯 a (土師器計測表参照) 口径11.35~12.0cm、器高2.75~2.95cm、底径7.0~7.5cmを計る。底部切

り離しはいずれも糸切り。

157SK362出土遺物 (Fig.157-11, Pl.157-7)

越州窯系青磁

大坏 (21) 体部下部から底部の破片である。残存高3.3cm、底径18.2cmを計る。底部は中央を0.2cmほど削ることで高台状に作りだしている。高台の内側に目跡の痕跡がある。内面は傷が多くみられる。使用によるものか。釉は灰緑色を呈し、全体的に白濁するが、やわらかい光沢がある。素地は明灰褐色～青灰色を呈し、きめ細かく精良であるが、若干空隙がある。焼成は良好である。

第II面出土遺物

たまり状遺構出土遺物

157SX171出土遺物 (Fig.157-13)

須恵器

蓋 c 3 (1) 口径14.3cm、器高2.6cmを計る。天井部と体部の境に回転ヘラケズリを施す。切り離しは回転ヘラ切り。

壺 (2) 底部の破片である。残存高3.3cm、高台径9.0cmを計る。淡茶灰色を呈す。切り離しは回転ヘラ切り。

土師器

小皿 a (3) 口径9.4cm、器高1.0cm、底径8.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 c (4) 体部下半が残存する。残存高4.0cm、高台径10.6cmを計る。内外面および外面底部にミガキ a を施す。

甕 a (5・6) いずれも口縁部が残存する破片である。5は残存高4.8cmを計る。内面の口縁部は胴部との境に稜はつくらず緩やかに外反する。口縁部内面は横方向のハケ目を施し、胴部内面は縦方向のヘラケズリを施す。外面口縁部～胴部はヨコナデを施す。6は残存高8.0cmを計る。内面の口縁部は胴部との境に稜をつけて直線的に外反する。口縁部内面は横方向のハケ目を施し、胴部内面は縦方向のヘラケズリを施す。外面口縁部はヨコナデを施し、胴部は縦方向のハケ目を施す。

第III面出土遺物

溝出土遺物

157SD205淡茶色土出土遺物 (Fig.157-13, Pl.157-7)

須恵器

蓋 c 1 (8) 口径15.3cm、残存高3.7cmを計る。天井部はカキ目を施す。天井部は丸く高い。

蓋 c 3 (9・10) いずれもつまみの付く蓋である。9は口径16.0cm、残存高2.1cm、10は口径16.4cm、器高2.2cmを計る。いずれも天井部全面に回転ヘラケズリを施し、口縁部も丁寧に成形し足の長い断面三角形に仕上げる。10のつまみもきちんと成形しており、兩者ともきちんとつくられたという印象を受ける。

坏 (11・12) 11は口径15.0cm、器高4.3cm、高台径10.0cmを計る。底部切り離しは回転ヘラ切り。12は残存高5.3cmを計る。内外面とも回転ナデを施し、内面下半は工具を使用したようなナデが観察され、外面下半はかなり丁寧に回転ヘラケズリを施している。全体的に丁寧に作られた印象を受ける。

高坏 (13) 下半が残存する破片である。残存高5.1cm、脚部底径9.9cmを計る。皿部の外面底部は回転ヘラケズリを施す。

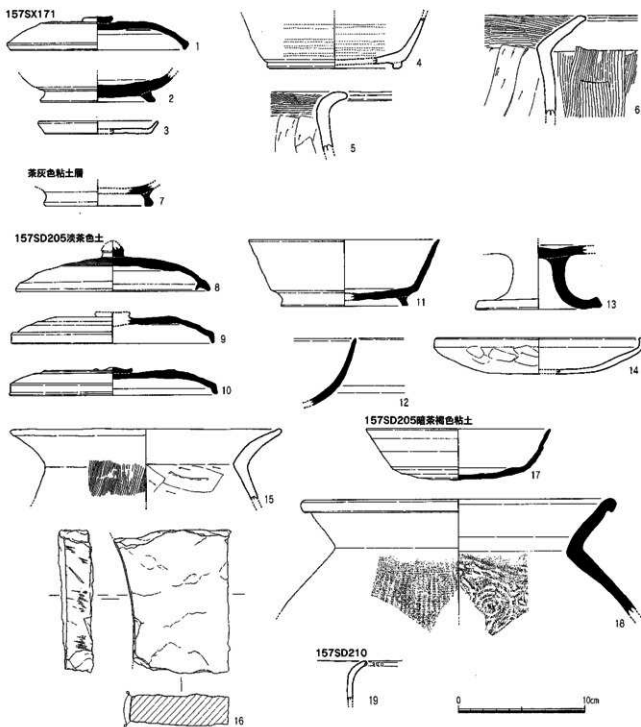


Fig.157-13 大宰府条坊跡第157次調査第II・III面出土遺物実測図 (1/3)

土師器

皿 b (14) 口径16.4cm、器高2.85cm、底径4.4cmを計る。口縁部はヨコナデ、内面は不定方向のナデを施し、外面底部は手持ちのヘラケズリを施す。

甕 a (15) 口縁部が残存する破片である。口径21.4cm、残存高5.8cmを計る。内面の口縁部は胴部との境に稜をつけて直線的に外反する。口縁部はヨコナデを施し、胴部内面は横～斜め方向のヘラケズリを施し、外面胴部は縦方向のハケ目を施す。

石製品

砥石 (16) 1面のみ擦痕が観察され、その他は欠損している。擦面にはよく光るほどよく研磨されている。残存長11.3cm、残存幅7.9cm、残存厚2.8cmを計る。

157SD205暗茶褐色粘土出土遺物 (Fig.157-13、Pl.157-7)

須恵器

坏 a (17) 口径14.5cm、器高4.1cm、底径11.0cmを計る。底部切り離しは回転ヘラ切りで、外面の体部と底部の境付近を広い範囲で回転ヘラケズリを施す。

甕 (18) 口径24.8cm、残存高9.2cmを計る。口縁は丸く玉縁に仕上げる。外面は平行叩きを施し、肩部に水平方向にカキ目を施す。内面は同心円文の叩きを施す。

157SD210出土遺物 (Fig.157-13)

弥生土器

甕 (19) 口縁部の破片である。口縁部にわずかに刻目が観察される。板付II式。

各層出土遺物

茶灰色粘土層出土遺物 (Fig.157-13)

須恵器

坏 c (7) 底部の破片である。比較的高い、しっかりした高台を有す。残存高1.7cm、高台径8.6cmを計る。焼成還元とも良好。

その他の出土遺物

金属製品 (Fig.157-14)

鉄製刃先? (1) 現存長7.3cm、幅3.5cm、厚さ最大1.0cmが残存する。現状では、厚さ0.15cm程度の鉄板を折り曲げたような状況に見えるが、折り曲げた内側には錆で埋められており、内部にも金属が充填されていた可能性もある。確定はできないが何かの刃先と考える。SE035淡茶色土出土。

鉄鎌? (2) 現存長6.7cmを計る。中央部は断面円形で1.2cm程度を計る。図の上部は断面长方形で0.6×0.5cmを計る。図の下部は断面方形で0.8×0.7cmを計る。工具等の可能性もある。S-77出土。

銅製金具 (3) やや湾曲した薄い銅板である。2.8×3.8cmが残存する。厚さは0.15cm。中央に径約1.0cmの孔があく。S-106出土。

鉄製刀子? (4) 残存長7.0cm、幅1.5cm、最大厚さ0.4cmを計る。S-115暗灰褐色砂出土。

コイル状鉄製品 (5) 幅0.15×0.35cmの細い鉄棒を反時計回りに巻いている。コイルは円形で直径は約1.2cmを計る。S-351出土。

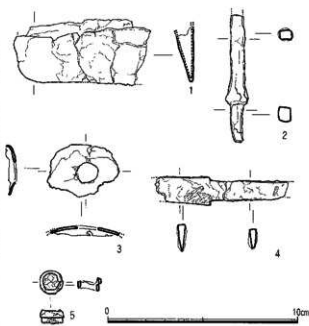


Fig.157-14 第157次調査出土金属製品実測図 (1/2)

5. 自然科学分析報告 (Fig.157-15・16)

分析・報告 バリノ・サーヴェイ株式会社

(1) 目的および試料

今回対象とするのは、中世（13世紀後半から14世紀ころ）の遺構（157SK001）である。本遺構の覆土中には、有機物を含む黒色土が存在し、土器や骨片などが検出されている。このような有機質で骨や植物遺体が残存している土壌の場合、花粉化石の保存が良好である可能性が高く、当時の植生に関する情報がえられると考えられる。そこで、遺構内の花粉分析を実施し、周辺植生について検討を行う。試料は、S-1号遺構の覆土から採取された試料3点である。

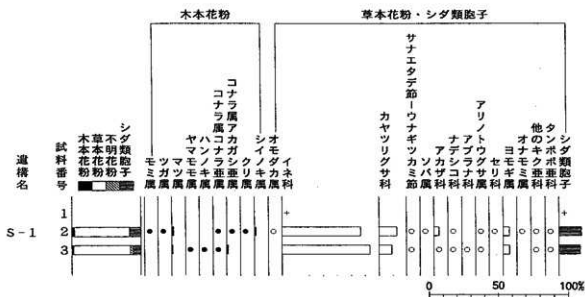
(2) 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウム処理、篩別、重液（臭化亜鉛；比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類（Taxa）について同定・計数を行う。

結果は、総花粉・孢子数から不明花粉を除いたものを基数とした百分率で算出し、花粉化石分布図として表示する。なお、図表中で複数の種類をハイフンで

種 類	試料番号	1	2	3
木本花粉				
モミ属		-	1	
ツガ属		-	3	
マツ属		-	13	5
ヤマモモ属		-	-	1
ハンノキ属		-	-	1
コナラ属コナラ亜属		-	2	3
コナラ属アカガシ亜属		-	5	5
クリ属		-	3	
シイノキ属		-	11	
草本花粉				
オモダカ属		-	1	
イネ科		1	459	273
カヤツリグサ科		-	104	40
サナエタデ節—ウナギツカミ節		-	1	3
ソバ属		-	1	
アカザ科		-	29	4
ナデシコ科		-	1	4
アブラナ科		-	-	2
アリノトウグサ属		-	1	1
セリ科		-	1	
ヨモギ属		-	35	20
オナモミ属		-	1	
他のキク亜科		-	6	1
タンポポ科		-	3	2
不明花粉		-	7	16
シダ類孢子				
シダ類孢子		2	129	66
含 計				
木本花粉		0	38	15
草本花粉		1	643	350
不明花粉		0	7	16
シダ類孢子		2	129	66
総計（不明を除く）		3	810	431

Fig.157-15 157SK001花粉分析結果



出現率は、木本花粉・草本花粉・シダ類孢子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

Fig.157-16 157SK001主要花粉化石の産状

結んだものは種類間の区別が困難なものである。

(3) 結果

結果を表2・図2に示す。試料番号1では少なかったが、試料番号2・3からは多くの花粉化石が得られた。試料番号2・3では、木本花粉の割合が低く、草本花粉の割合が極端に高い。特にイネ科の割合が高く、その他、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが検出される。

(4) 考察

今回の分析結果をみると、試料番号2・3では、イネ科が多産する。このような傾向は、当社が行った条坊120次調査のS-61遺構でイネ科が多産した状況と似ており、局地的な植生を反映しているといえる。おそらく、周囲にはイネ科をはじめカヤツリグサ科、アカザ科、ヨモギ属などが生育する草地であったと考えられる。イネ科は風媒花であり、他の草本類よりも花粉生産量は多いので、過大評価されている可能性もあるが、イネ科が周囲の植生の主要な構成要素であったことが指摘される。一方、ソバ属の花粉化石が検出されるが、ソバ属の花粉化石は当社が行った結果中でもしばしば見られることから、当時周辺でのソバ栽培が示唆される。

6. 小結

当調査区では、遺構面3面あり、掘立柱建物1棟、井戸4基、溝12条、土坑42基その他を検出した。

調査区内の遺構遺物の状況について時代の古い順に述べ、まとめたい。

遺物は縄文時代の土器片が最も古く、弥生時代前期の遺物も出土している。このことから弥生時代以前から人の活動があったことが想定されるが、いずれも遺構に伴うものではない。

最も古い遺構は第III面の遺構で、157SD205、および157SD210が検出された。

157SD205は、調査区内でL字型に折れ、真東および南に延長している遺構である。開削時期は不明だが、埋土からは7世紀末～8世紀初頭の遺物がまとも出土しており、8世紀初頭まで機能した溝とわかる。また157SD210は真東西に走行する溝で、157SD205より浅く前述の弥生時代前期の土器片しか見つかっていないが、埋土が類似しているほか、157SD205が屈曲する地点で西端は止まっていることから、157SD205に関連する遺構の可能性が高いと判断している。こうした状況からこれら両者は道路の両側溝と推定できる。この2条の溝芯間距離（東西溝で計測）は約7.5mで、条坊内の他の道路と比べてやや幅広ではある。また157SD210の西端がこの位置で止まり、かつ157SD205がL字に折れ曲がっているのは、ここが交差点であったことを示すものと考えられる。

さて、近年の大宰府研究では第II期政庁の成立は8世紀初頭（715～720年頃）とされているが、この側溝が8世紀初頭に埋没していることは、道路が機能していたのは政庁1期に遡る可能性がある。政庁1期に廻りかつ正方位に走行する大宰府条坊関連遺構の検出は初出であろう。しかも第II期政庁を基準とした政庁中軸線からは東に約1kmも離れており、当時の街区施工範囲を示す遺構としても注目される。なお、この道路といわゆる大宰府条坊街区との関係については、「VI. まとめ」で後述する。

この第III面の遺構は、茶灰色粘土層により覆われ整地されている。茶灰色粘土層は西調査区の広い範囲を覆っており、埋土は第III面遺構の埋土に類似したシルト質～粘土質である。ごくわずかに平安時代後期の遺物がみられるが上層の第II面遺構からの混入の可能性が高く、この整地自体は8世紀代のものと考えられる。

茶灰色粘土層の上には第II面の遺構が展開しているが、その大半は157SD205に添った位置に展開する不定形のたまり状遺構である。ここからは、8世紀代の遺物の他、底部切り離しが糸切りの土師器も検出しており、8世紀後半以降、特に平安後期に157SD205の沈み込みにより生じた窪みを整地した痕跡と

考えているが、連続土坑状を呈した条坊側溝の可能性もあることも指摘したい。

第II面を覆うように灰茶色砂層が広がっているが、その範囲は西調査区南側付近の狭い範囲である。この層の出土遺物は12世紀中頃以降の遺物が主体をなしている。一部13世紀後半に下る遺物もあるが、これについては、第I面に展開する遺構埋土が黒色土を主体とするもので灰茶色砂層との分別は比較的容易ではあったが、第I面の遺構の一部の大型遺構には水が溜まっていたためか遺構壁面を抉り断面形が袋状になっているものもあり、壁面検出に難航したものがある。こうした遺構埋土の一部が灰茶色土層の奥に入り込むことで灰茶色砂層に13世紀後半の遺物が混入した可能性は捨てきれない。この層の出土遺物の主体が平安後期であることを重視したい。

灰茶色砂層の上に第I面の遺構が展開している。ここで検出される遺構は12世紀中後半～13世紀後半頃の遺構である。この状況は近隣の調査でも変わらない。出土遺物が細片で陶磁器も少ない遺構の場合、時期判断が難しいが、平安後期の遺構もある程度展開していると考えられるが、それほど多くはないようである。13世紀に入ると遺構がかなり多くなる。13世紀後半頃に埋没した遺構が最も多く、これ以前には活発な土地利用があったようである。ここでは大型建物(157SB100)や井戸群が検出されており、生活空間だったことが窺え、その遺構密度からも活発な活動が行われていたことが類推できる。また調査区北東隅で検出した157SD140は、出土遺物が細片で平安後期～13世紀代までの時期幅を想定する必要があるが、第138次調査で検出した138SD010(13世紀後半埋没)のすぐ南側にあるため同一遺構とみることも可能である。これが認められれば当溝は幅5～5.5m、深さ約0.7mを計る堀状の遺構に復原される。大宰府条坊跡第138次調査報告書である「大宰府条坊跡VI」には、近辺の調査における同時期の同規模の遺構として、大宰府史跡第33次調査で検出されたSD605(幅5.8m、深さ1.2m)を挙げ、当調査区の北西隣付近で東に屈曲して138SD010(157SD140)につながるとし、この近辺にこうした堀状の施設で区画された大きな空間が存在したことを推定している。SD605からは「貞応三年(1224年)」と記された呪符木簡が出土しており、築造時期を考える資料の一つと捉えられているが、これに従うと当調査区は13世紀代の区割りの北西の一角を占めていることになる。

この中をみてみると井戸・土坑が集中する場所が列状に並んでいるのが概観される。157SB100の東には井戸が、南は土坑が列状に並んでいる。層位の項でも述べたように、当調査区南西隅は重機による表土除去時に遺構面を過度に掘削しており、157SB100南に並ぶ157SK002・015・005や157SK001は東西に延びる連続土坑または溝だった可能性がある。北と西は上述のように157SD140に連なる溝が走行していると考えられ、狭い範囲に大型建物1棟が建っていたと想定される。また調査区中央東寄り(Y=43.820)付近にも土坑群が南北に並んでいるように見られる部分もあり、さらに東には157SD376もある。これらは何らかの境界付近に掘削された遺構群の可能性があると仮説として提示しておく。

尚、調査区南西で検出した157SK001の埋土は花粉分析を行った。この結果多量のイネ科に関する花粉化石の検出をみた。分析報告では周辺に農地が広がっていた可能性を述べている。ただ、遺構埋没時期である13世紀後半頃は周辺に街区が広がっており、農地が広がっていたという想定は難しいように思う。報告に述べているように遠隔地からの花粉飛来も考えられるのかもしれないが、近隣に花粉供給源があったとするのが自然だろう。何故ここにこれだけの量のイネ科の花粉が存在するのか、その花粉含有経路を十分考える必要がある。このためには土壌堆積復元の分析も欠かせないと考える。珪藻類の分析やその他の分析方法も今後採用しなければならないだろう。なお、「VI.まとめ」の項でも述べるように、平安後期には付近が田であった可能性があり、このころ土壌に含まれた花粉が残留していたことも考慮しなければならないだろう。いずれにせよ、古環境復元については、考古学的手法のみならず各分野の分析研究を併せて、総合的な検討が必要である。

(3) 大宰府条坊跡第158次調査

1. 調査の経緯および調査・整理方法

調査区は、太宰府市五条2丁目2475-5外に位置する。調査面積は550㎡で、平成6年12月1日～平成7年3月31日に調査を実施し、井上信正が担当した。遺物は現在コンテナ約150箱に保管している。

調査・整理方法については、「例言」および「IV. 調査整理の方法」を参照していただきたい。

なお、第I面遺構全体図および158SX001の土師器検出時実測図については、航空測量により図化した。前者は写測エンジニアリング株式会社が、後者はアジア航測株式会社が行った。

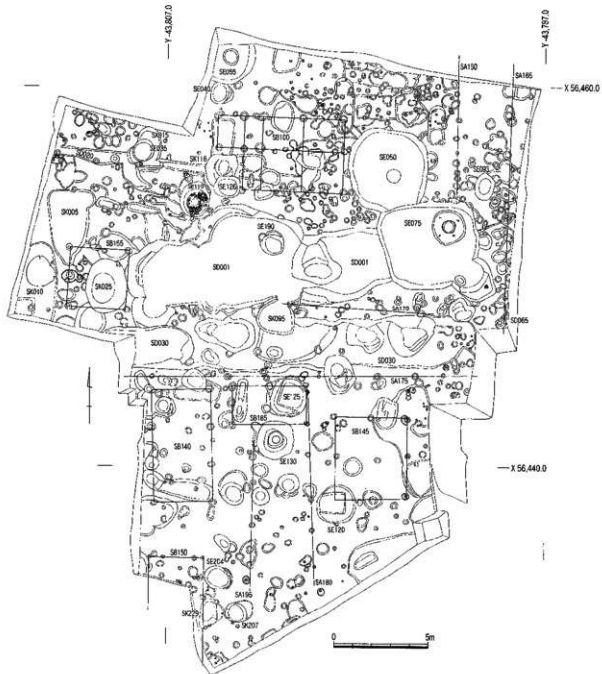


Fig.158-1 大宰府条坊跡第158次調査第I面全体遺構図 (1/200)

2. 層位 (Fig.158-3・158-4)

調査区内で確認した最も下位の地盤は、花崗岩岩盤である。岩盤は、調査区北西隅(158SD055付近)でのみ確認したが、その広がりについては不明である。この上には、灰色粗砂礫～白茶色細砂が堆積しており、中世の井戸の湧水層として機能していたことが伺える。そしてこの上に淡黄色シルトが堆積し

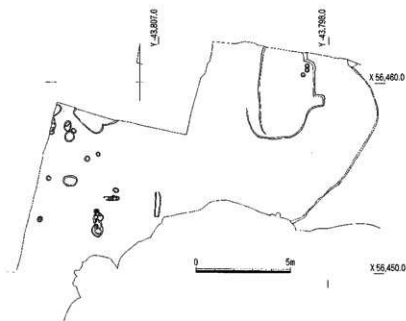


Fig.158-2 大宰府条坊跡第158次調査第II面全体遺構図 (1/200)

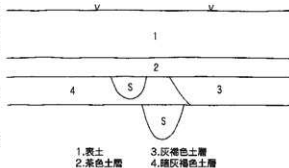
ており、調査した遺構面の基盤となっている。本報告にあたって整理を進めていく上で縄文時代の遺物が散見されるが、この淡黄色シルト層が縄文時代の遺物包含層だった可能性もある。

なお、地盤についての基本的な層位は、第156・157次調査と同様である。

調査では、遺構面は2面確認した。調査した順(時代の新しい順)に第I遺構面、第II遺構面とした。

第I遺構面は、水田耕作面下の茶色土層を除去後に検出された。茶色土層出土遺物は遺構面全体の廃絶時期に近似する層位とみなされる。ただ、層の大半は重機による表土除去時にはぎ取っているため、茶色土層に実際に含まれていた遺物でない場合も多い。よって、茶色土層は遺構面を覆う人工層位と認識していただきたい。

また第I遺構面の調査区北西部では、灰褐色土層、暗灰褐色土層の二つの整地層を検出した。これを除去した後に検出した遺構面を第II遺構面とした。



3. 遺構

欄列

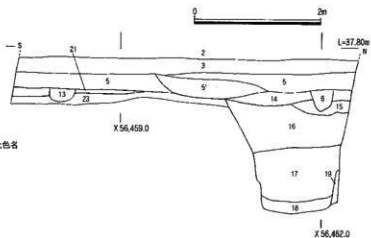
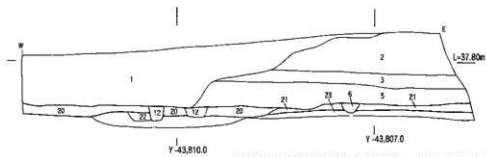
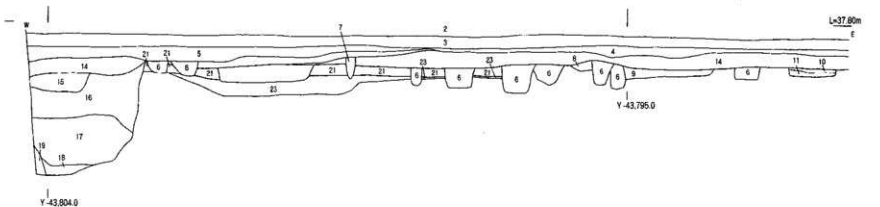
158SA160 (Fig.158-1)

調査区の北東で検出した。検出長約5.2mで、ほぼ南北に走行している。欄列北側は調査区外にさらに延長する可能性がある。南側は158SE075・158SD001により消失した可能性が想定される。

158SA165 (Fig.158-1)

調査区北東で検出した。検出長約9.7mで、ほぼ南北に走行している。北側は調査区外にさらに延長する可能性がある。南側も調査区外にさらに延長していることも想定されるが、南北に走行する他の欄列と同様、158SD030により区切られている可能性がある。

158SA170 (Fig.158-1)



【大宰府条坊跡第158次調査北壁・西壁土層名】 () 内は遺物取り上げ土色名

1. カタラン (黄土)
2. 貝砂土 (※)
3. 暗灰褐色粘質土 (水田耕作土層) (※)
4. 黄褐色粘質土 (酸化鉄・マンガン含む) (※)
5. 灰褐色粘質土 (茶色土)
- 5'. 黒紫色土 (※)
6. 黒紫色土
7. 暗灰茶色土
8. 茶褐色土
9. 暗黄褐色土
10. 灰褐色
11. 黒紫色土
12. 茶褐色粘質土
13. 暗灰色土
14. 茶色土
15. 茶褐色粘質土 (SE055)
16. 黄褐色粘質土 (※)
17. 暗灰色粘質土 (※)
18. 花崗岩・パイラン土+暗灰色粘質土 (※)
19. 暗灰褐色粘土
20. 暗灰褐色粘質土 (灰褐色土)
21. 暗黄褐色粘質土 (暗灰褐色土)
22. 暗黄褐色粘質土
23. 茶褐色粘土 (暗灰褐色土・灰褐色土)

Fig.158-4 大宰府条坊跡第158次調査区北壁・西壁土層図 (1/60)

調査区中央で検出した。検出長約7.0mで、ほぼ東西に走行している。西側は158SD001により消失している可能性があるが、柱間隔から想定すると東側はこれ以上延長しないとみられる。

158SA175 (Fig.158-1)

調査区中央で検出した。検出長約15.8mで、ほぼ東西に走行している。東西両端とも調査区外にさらに延長している可能性がある。

158SA180 (Fig.158-1)

調査区南側中央で検出した。検出長約9.3mで、ほぼ南北に走行している。柱間隔から想定すると南

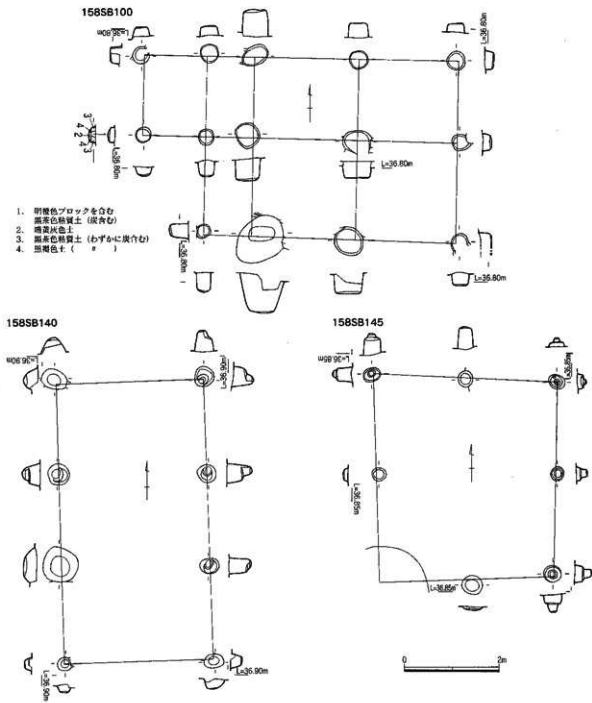


Fig.158-5 大宰府条坊跡第158次調査掘立柱建物実測図その1 (1/80)

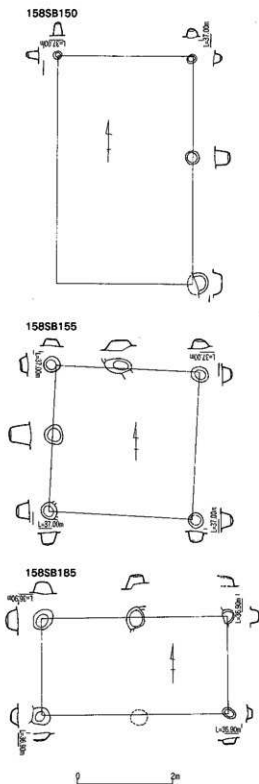


Fig.158-6 大宰府条坊跡第158次調査
掘立柱建物実測図その2 (1/80)

調査区西側中央で検出した。建物南側が調査区外に延びる可能性もあるが、158SD030が南北を区切る境界だった可能性を考えると、2×2間の側柱建物とするのが妥当か。この場合、南北3.1m、東西3.02mを測る。

北両端ともこれ以上延長しない可能性がある。

158SA195 (Fig.158-1)

調査区南側中央で検出した。検出長約7.8mで、ほぼ南北に走行している。ただ、同一調査内の他の構列と比べると柱間が不統一であり、構列とするには若干疑問がある。一応参考例として報告した。

掘立柱建物

158SB100 (Fig.158-5, Pl.158-1)

調査区北側中央で検出した。2×2間総柱の身舎をもつ建物で、身舎の北西に1×1間の張り出しが付属するため、東西横を呈す。この張り出し部まで含めると東西6.64m、南北3.86mを測る。なお身舎と張り出し部との間には、身舎から1/3間ほど西側の位置に身舎に柱筋をそろえて柱穴が並んでいる。建物の構造については、1×1間の張り出し部を玄関入口、身舎西壁から1/3間の張り出し部を縁と考えると理解しやすいのではなかろうか。

本遺構の柱東部埋土には橙色土細ブロック・焼土を含むものが多くみられた。建物廃絶後、柱を抜き取って人為的に埋め戻したことが推定される。

なお、建物が作られなかった身舎の南西隣には井戸(158SE126)があり、当建物と同時併存していたことも考えられる。

158SB140 (Fig.158-5, Pl.158-1)

調査区南西で検出した。西側が調査区に近接しているが、1×3間の側柱南北棟と推定する。南北5.91m、東西3.11mを測る。

158SB145 (Fig.158-5)

調査区南東で検出した。2×2間の側柱建物である。南北4.08m、東西3.9mを測る。

158SB150 (Fig.158-6)

調査区南西隅で検出した。西側が調査区に近接しているが梁行1間と推定している。南側は調査区外に延びており桁行は2間以上となる。側柱南北棟であろう。南北4.8m、東西2.87mを測る。

158SB155 (Fig.158-6, Pl.158-2)

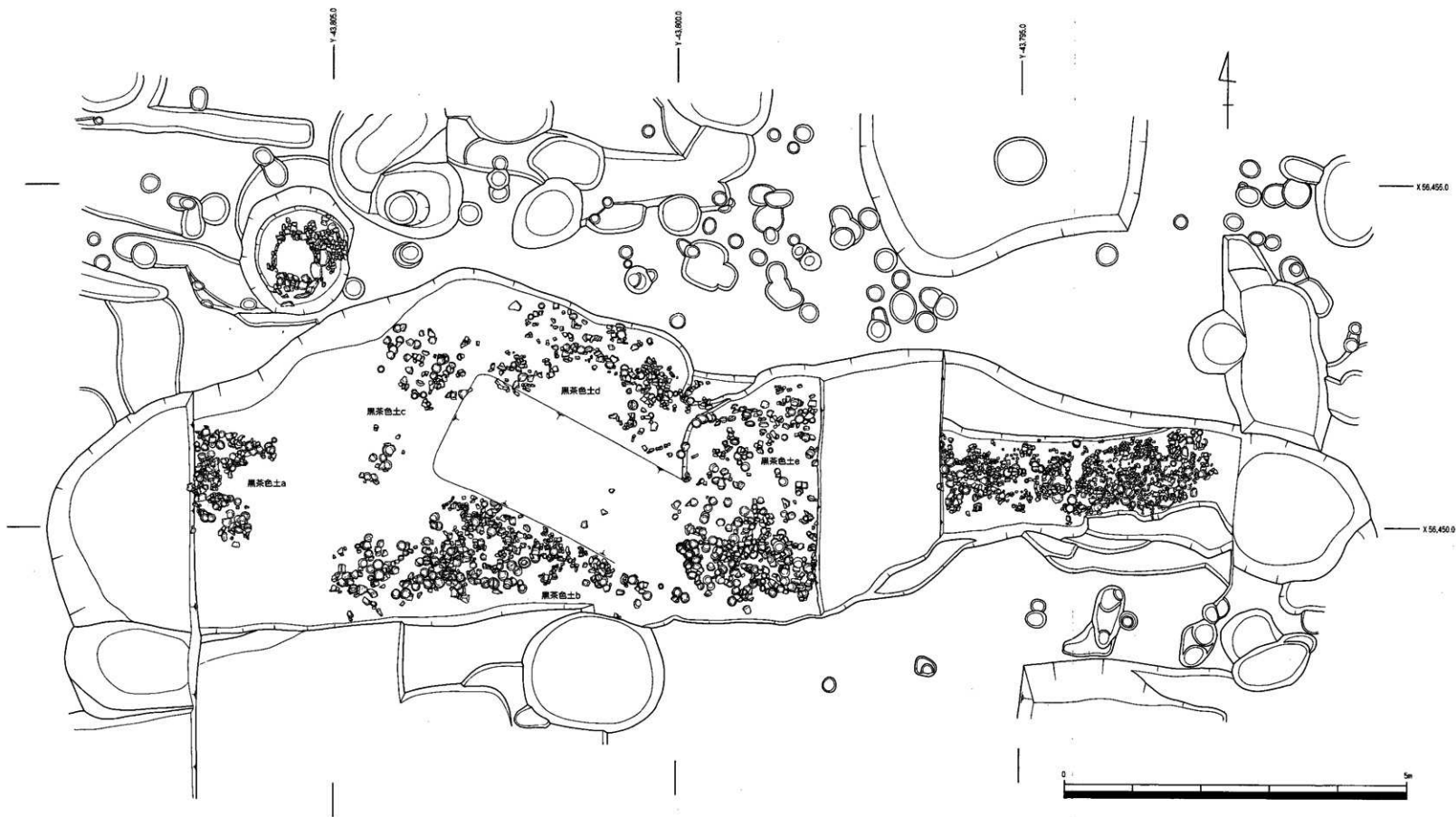


Fig.158-7 158SD001遺物出土状況（中央～西側の遺物は黒茶色土層、東側は黒灰色土層。1/50）

158SB185 (Fig.158-6)

調査区中央南側で検出した。1×2間の側柱東西棟である。東西3.92m、南北2.06mを測る。

溝

158SD001 (=158SD060) (Fig.158-7・8、巻頭図版1、Pl.158-2・3)

調査区中央で検出した。ほぼ東西に走行し、溝の両端は調査区内で完結する。長さ20m、幅5m、深さ0.6~0.7m。その規模から当遺構は南北を画する区画溝的な性格を有していたことが窺える。近辺で南北を画するような東西に走行する遺構が多く、その中でも当遺構が最も後出していることが切り合い関係からわかるが、先行する遺構の性格を受け継いでいることは十分予想される。

埋土は、大きく5層に分層された。上から暗茶色土・黒茶色土・黒褐色土・黒灰色土・暗灰色土に分層される。ここからコンテナ80箱以上の遺物が出土した。大半が土師器・供膳具である。

暗茶色土層からはコンテナで約17箱ほどの遺物が出土した。比較的破片資料が多い印象を受ける。

黒茶色土層からは最も多いコンテナ約35箱ほどの遺物が出土した。ここから非常に多くの完形品の出土をみた。他の層位と比べて異質といえる。また、平面的な遺物出土密度に粗密が認められ、全体に満遍なく廃棄されたわけではなく、廃棄の単位が存在したと考えられる。調査担当者の主観ながら、それぞれ廃棄のまとまり毎に番号をつけ、遺物取り上げを行っている。(S-1黒茶色土a-e)。

なお暗茶色土層と黒茶色土層は、埋土が類似しており分層が難しい部分もある。かつ両者とも出土遺物が多いため、遺物をどちらに帰属させるかという判断が難しいものもあった。ただ、両層間に遺物の少ない層を薄く噛んでいること (Fig.158-8土層図4層)、暗茶色土層の遺物は破片資料が多いのに対し、黒茶色土層は完形品が多いことを含めて考慮し、分別を行っている。なお、黒茶色土層としたものは、基本的に黒茶色土層に帰属するものである。

黒茶色土層の下位には、遺物をあまり含まない黒褐色土層がある。ここからはコンテナ約7箱ほどの遺物が出土している。さらにその下には黒灰土層がある。

黒灰色土層も遺物を多く含み、コンテナで約23箱ほどの遺物を出土した。ただ完形品が少なく、破片資料が多いという印象を得た。

最下層は遺物の少ない暗灰色土層が堆積している。ここからはコンテナで約1.5箱ほどの遺物の出土があった。

付近の地山は灰色砂礫層である。この層位は隣接する井戸158SE070の湧水層と同じであり、158SK190を井戸の痕跡と考えると、溝底から湧水していた可能性がある。H6-7付近では、溝の南壁の下位が崩落し、地山の砂および淡黄灰シルトが底に溜まっているのが確認され、湧水または湧水による地山崩落を考慮しておく必要がある。

最後に158SD060は本遺構の東端部である。当初別遺構の可能性を考えていたため埋土の関係が一致しないが、本遺構と全く同一遺構であることを述べておく。

158SD020 (Fig.158-8)

調査区北西端で検出した。やや南に東西に走行している。検出長8m、幅0.42~0.78m、深さ0.17~0.2m。黒灰土埋土。ここからは平安後期の遺物が出土している。

158SD030 (=158SD070) (Fig.158-8、Pl.158-3)

調査区のほぼ中央で検出した。ほぼ東西に走行している。検出長19.9m、幅2.8m、深さ約0.1~0.6m。溝の東端は調査区内で閉じており、西端は調査区外へ延びているが、この付近で完結している状況が観察された。本遺構は南北を画する区画溝的な性格を有していた可能性がある。158SA170・175と隣接・

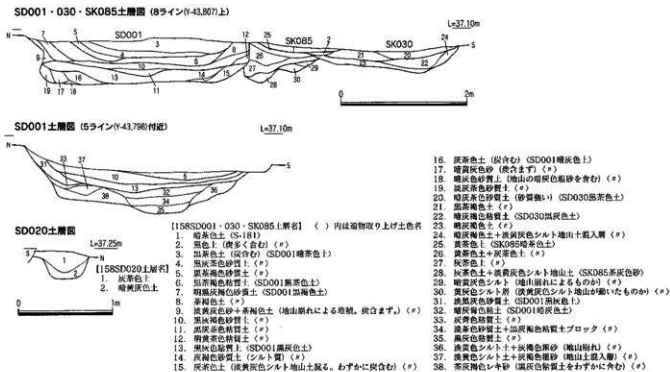


Fig.158-8 大宰府条坊跡第158次調査溝土層図 (SDO01は1/60、SDO20は1/40)

平行していることは注意すべきである。またS-181との切り合い関係から158SD001より最終埋没時期が古いことがわかる。

溝は上下で様相が異なっている。上層は、幅約2.8m、深さ約0.1~0.15mの浅い溝状の遺構である。東端は調査区内で切れており、西端は調査区外へ延びているが、この付近で完結している状況が観察された。埋土は黒茶色土である。溝の下面は、土状が東西に連なって検出された。調査では、これらの土坑を西からa~eに分けている。埋土は上層と若干異なり少し砂質の強い黒灰色土である。

遺物はコンテナ約20箱ほど出土している。なお、158SD070も同一遺構で各層位も対応している。

158SD065 (Fig.158-1)

調査区の東端中央で検出した溝状遺構である。南北に走行する。南北に長い土坑の可能性もある。黒茶色土埋土。出土遺物からは平安後期以降の埋没と想定される。

井戸

158SE035 (Fig.158-9)

調査区北西隅で検出した。平面プランは円形を呈し、径1.05~1.1m、深さ0.8mを測る。井戸枠などは残存していなかった。素掘りの井戸の可能性もある。井戸最下位の地山は灰色粗砂でここが湧水層とみられる。埋土は、上から暗灰褐色砂・灰色砂の順である。一応、土色を分けているが、土質はほとんど同じである。

なお、出土遺物から12世紀代の埋没とみられる。

158SE050 (Fig.158-9, Pl.158-4)

調査区北東で検出した。平面プランは円形~隅丸方形を呈し、南北4.38m、東西4.22mを測る。地表から約0.7m程掘り下げた後、中央南寄りに径0.68~0.76m、深さ1.4m以上の穴を掘り、井戸枠を据えている。井戸枠は円形の桶を数段重ねるものであるが、調査時では、枠内が狭くて深いため、安全を考えて上から3段目の井戸枠上面を確認したところで掘り下げのを止めた。検出できた井戸枠について述べると、上から1段目の桶は、幅約10cm、長さ約40cmの短冊状の板材を使って円く組んでいる。上端径56~62cm、下端径約64cmを測る。上から2段目の桶は、幅約10cm、長さ約80cmの短冊状の板材を使

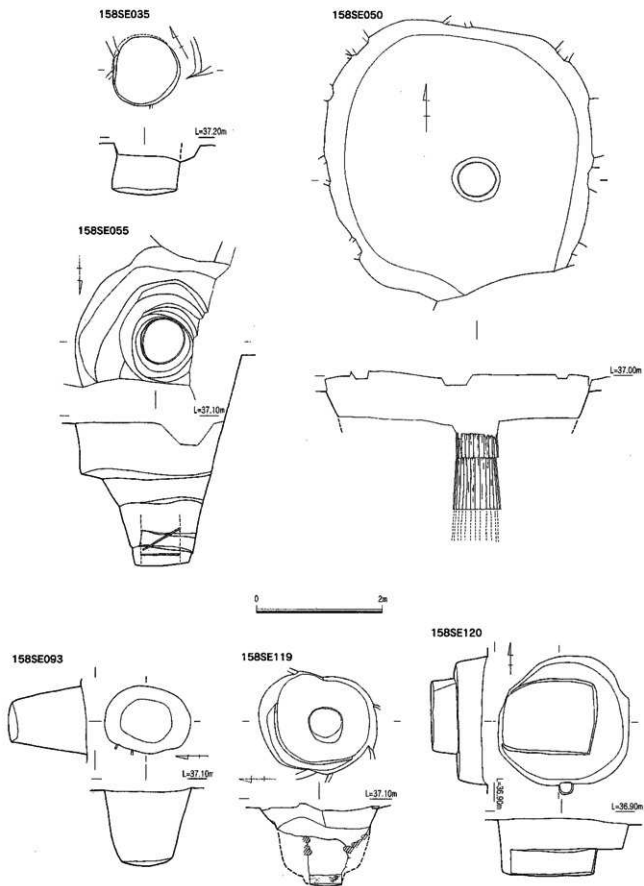


Fig.158-9 大宰府条坊跡第158次調査井戸実測図その1 (1/60)

って円く組んでいる。上端径約61cm、下端径約75cmを測る。上から3段目の桶も他と同様とみられる。上端径約67cm。なおいずれの桶も裏込め部分を掘り下げていないため、タガの状況は不明である。

埋土は、遺構上面から井戸枠検出まで（上から灰色砂・暗茶色土）、井戸枠内（黒灰色土）に分かれる。

158SE055 (Fig.158-9・158-4, Pl.158-4)

調査区北端で検出した。平面プランは径約2.8m程度の円形を呈すとみられ、深さは2.25mを測る。井戸枠などは検出されず、地表から1.68m以下で、井戸枠のタガに使用したとみられる竹製のタガを2つ検出した。井戸枠は桶を使用していたと考えられ、井戸廃絶時に抜き取られたものとみられる。残存するタガから桶の直径が60cmほどであったことが窺える。掘削は、調査区内の浅い井戸が穿たれる灰色粗砂地山の下の花崗岩岩盤を掘り抜き、さらに下の目の粗い花崗岩風化土まで至っている。

埋土は遺構上面から井戸枠タガ検出まで（上から暗茶色土・明茶色土・暗青色粘土）、タガ内（暗茶灰色土）、タガ外側（青灰色粘土）に分かれる。

158SE075

調査区北東で検出したもので、2時期の井戸を検出した。新段階を第1井戸・古段階を第2井戸とした。

158SE075第1井戸 (Fig.158-10, Pl.158-4)

平面プランは円形～隅丸方形を呈し、南北4.64m、東西5.1mを測る。この巨大な掘り方の北東寄りの位置に井戸枠がある。遺構検出面から約0.9m掘り下げた時点で、掘り方の北東寄りの位置に古い井戸の埋没プランおよび古井戸の井戸枠四隅の柱材を検出したようで（158SE075第2井戸）、その中央にあらかじめ桶を据えたものとみられる。桶は幅9.5～11.5cm、厚さ0.5cmの短冊状の板材23枚を使って円く組み、下位の2ヶ所をタガで固定したものである。桶の板材はほとんどの上部が腐蝕しているが、内1枚が両小口まで残っており、その長さが61.5cmを測る。

井戸の掘削は158SE075第2井戸に準じるもので、第2井戸の枠の残存状況が良好なことから、あらかじめ下へ掘削しているわけではなさそうである。なお井戸枠は遺構検出面でも確認されており、S-144としている。

埋土は、遺構上面から井戸枠検出まで（上からS-144・灰茶色土・暗茶色土・暗灰色粘土）、井戸枠内（枠内）、井戸枠裏込め（暗青色粘土）に分かれる。

158SE075第2井戸 (Fig.158-10, Pl.158-5)

158SE075第1井戸の裏込めである暗青色粘土掘り下げ時に検出した。平面プラン円形～隅丸方形を呈した径約1.8mの掘り方を有し、当遺構を検出した157SE075第1井戸掘り方底面から、深さ0.77mが残存している。井戸枠は、四隅に6～9cm×13～15cm×60～71cmの4本の柱材を据え、柱材の間に5cm×10cm程度の椀木を横に入れて方形の枠を作り、椀木の外に、幅10cm程度、長さ60cm以上と推定される短冊状の板材を縦に並べて、板材の外の裏込め土を入れるという構造である。縦板材は井戸枠東辺の一部で検出したが、ほとんど腐蝕しており詳細は不明。また四隅の柱材には椀木用の腐穴は見あたらなかった。

井戸の掘削は、灰色粗砂地山の一部とみられる白茶色細砂層の最下位まで至っており、ここが湧水層とみられる。なお、その下層の花崗岩岩盤の上面が一部見える。

井戸枠が検出された埋土は、第1井戸の暗青色粘土層である。この層位に第2井戸の埋土が含まれている可能性があるが、第1井戸枠設置裏込めとの分層はできなかった。第1井戸枠設置時に第2井戸枠の大半が露出した可能性も考え、暗青色粘土層は第1井戸に帰属させている。

158SE093 (Fig.158-9, Pl.158-5)

調査区の北東隅で検出した。平面プランは楕円形を呈し、長径1.33m、短径1.04m、深さ1.18mを測る。付近で検出される井戸の湧水層とみられる灰色粗砂地山まで掘削が及んでおり、形態を含めて井戸と判断するに至った。井戸枠等は検出されておらず、素掘りの井戸の可能性もある。

埋土は、上から灰茶色土・黒灰色土・灰色土・暗灰色粘土に分かれる。黒灰色土層は炭を多く含む層である。

158SE119 (Fig.158-9, Pl.158-5)

調査区北西で検出した。平面プランは楕円形～隅丸方形を呈し、長径1.86m、短径1.53m、深さ1.24mを測る。遺構検出面から1.1mほど掘り下げた後、ほぼ中央に径0.68m、深さ0.12～0.19mの穴を掘り、径47～52cm、厚さ0.3cm前後、残存高20cm（上面が腐蝕）の曲物を掘え、水澄ましとしている。水澄ましの上部の構造については不明であるが、残存する裏込めから円筒形の空間を保持するための井戸枠があった可能性がある。なお推定井戸枠部の裏込めには10～20cm程度の石が多く投げ込まれている。調査では井戸枠が石積みだった可能性について検討したが、積んだような痕跡は見あたらないため、これらの石は裏込めと判断するに至った。井戸の掘削は地山の灰色粗砂を掘り下げており、曲物部分はその下層の花崗岩岩盤を掘りこんでいる。灰色粗砂地山が湧水層だったことには違いなく、花崗岩岩盤に溜めるような構造だったようである。

埋土は、遺構上面から推定井戸枠部検出まで（灰茶色土）、推定井戸枠内（淡茶灰色土）、曲物内（暗青色粘土）、井戸枠裏込め（灰褐色砂礫土）に分かれる。

158SE120 (Fig.158-9, Pl.158-6)

調査区南東で検出された。平面プラン円形を呈し、径2.0～2.05m、深さ0.9mを測る。遺構検出面から約0.5mほど掘り下げた後、中央から西寄りにかけて、平面プラン長方形の掘り方を検出した。これは長軸1.54m、短軸1.18m、深さ約0.4mを測るもので、推定方形の井戸枠を設置した痕跡と考える。井戸枠材などは出土していない。井戸の掘削は、灰色粗砂地山の一部とみられる白茶色細砂層に至っている。

埋土は、遺構上面から井戸枠プラン検出まで（上から、灰色粘土・炭層・淡灰色粘土）、井戸枠内（上から、灰青色粘土・灰褐色砂、裏込め（淡黄色シルト土）に分かれる。

158SE125 (Fig.158-10, Pl.158-6)

調査区中央南側で検出された。平面プラン円形～隅丸方形を呈し、径2.14～2.25m、深さ0.83mを測る。遺構検出面から約0.3mほど掘り下げると、中央から東寄りにかけて、平面プラン方形の掘り方を検出した。これは長軸1.57m、短軸1.33m、深さ約0.5mを測るもので、推定方形の井戸枠を設置した痕跡と考える。井戸枠材などは出土していない。井戸の掘削は、灰色粗砂地山に至っている。

埋土は、遺構上面から井戸枠プラン検出まで（暗茶色土）、井戸枠内（上から、暗青色粘土・腐植土）、裏込め（灰青色シルト土）に分かれる。

158SE126 (Fig.158-10, Pl.158-6)

調査区北西で検出した。平面プランは隅丸方形を呈し、長径1.24m、短径1.12m、深さ1.51mを測る。遺構検出面から約0.83mほど掘り下げると、中央部で平面プラン楕円形の掘り方を検出した。これは長軸0.67m、短軸0.53mの規模で、これをさらに0.68m掘り下げて、円形の井戸枠を掘えている。井戸枠は桶とみられるものだが、破壊が著しく、特に北側の残りが悪い。井戸枠抜き取りなどの行為が行われたのであろう。井戸枠板材は4枚残存しており、残りのいいものは幅10cm、厚さ0.5cm、長さ30cmを測る。板材12枚程度使用したと推測される。井戸の掘削は灰色粗砂層に至っている。付近は礫を多く含んでいる。

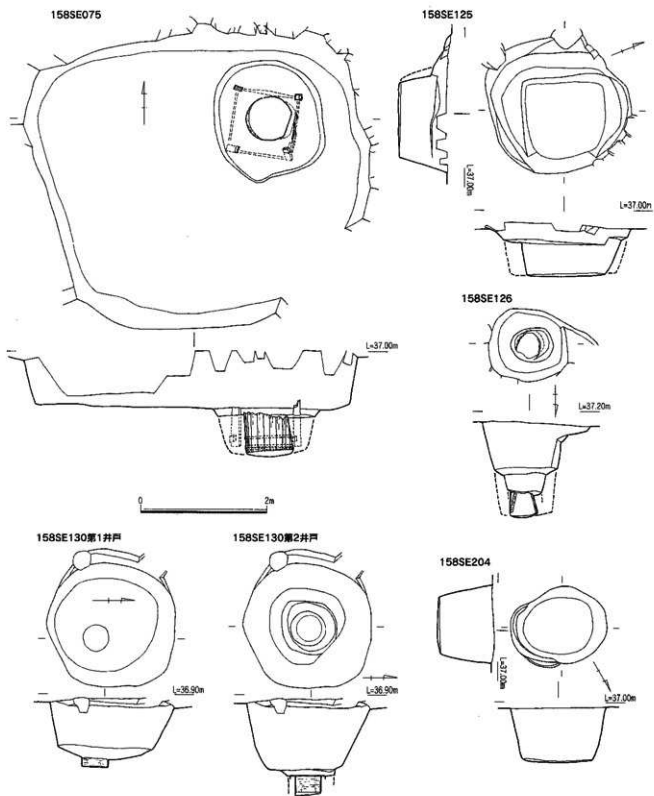


Fig.158-10 大宰府条坊跡第158次調査井戸実測図その2 (1/60)

埋土は、遺構上面から井戸枠プラン検出まで（灰茶色土）、井戸枠上部（灰色土）、残存井戸枠内、井戸枠裏込め（明灰色砂）に分かれる。

なお、出土遺物から平安後期に埋没したと推測している。

158SE130

調査区中央南側で検出したもので、2時期の井戸を検出した。新段階を第1井戸・古段階を第2井戸とした。

158SE130第1井戸 (Fig.158-10、Pl.158-7)

平面プランは円形を呈し、径1.94~2.04m、深さ1.1mを測る。最下位には、中央からやや南東寄りの位置に径40cm、高さ14cm程度の円形の曲物を据え、水澄ましとしている。井戸の掘削は、灰色粗砂地山の一部とみられる白茶色粗砂礫層の最下位まで至っており、ここが湧水層とみられる。地山からの湧水が曲物に至るように、曲物の裏込めに礫砂層を使用している。なお、調査当初に遺構に切り込むPitと考えていたS-288は、この曲物の直上にあり、水澄ましと同様の円形プランを有していることから、曲物の上位にあった円形の井戸枠痕跡の可能性が高い。このためその下位の淡茶色土・暗灰色粘土出土遺物には、井戸構築時の井戸枠裏込め土・井戸廃絶時の井戸枠内埋土、それぞれの遺物が含まれていることになり、遺物の取り扱いには注意を要する。

埋土は、遺構上面から曲物検出まで（上からS-288・淡茶色土・暗灰色粘土）、曲物内（枠内）、曲物裏込め（灰色礫砂）に分かれる。

なお、出土遺物から12世紀後半~13世紀前半にかけての井戸と考える。

158SE130第2井戸 (Fig.158-10、Pl.158-7)

158SE130第1井戸の裏込めを除去していく際、第1井戸の水澄まし曲物より下位で、横たわった板材3枚を検出した。これを除去してさらに掘り下げると、下から曲物を使用した水澄ましが発見されたことで、当遺構を第2井戸とした。

遺構検出面から1.1m掘り下げたところで、掘り方のほぼ中心に、平面プラン円形~隅丸方形で、径約0.85m、深さ約0.4mの穴を掘り、直径42cm、厚さ0.15cm前後、高さ25.5cmの曲物を据えている。また、曲物とは別に、曲物の最上部と同じ水平レベルで、桶のタグとみられる竹製の枠を検出した。曲物と同心円状に検出され、直径56cmを測る。この竹製の枠や水澄ましの上部で検出された板材の存在から、曲物の上位には桶製の井戸枠があったものと推定される。第1井戸を構築する際抜き取られたものであろう。井戸の掘削は、白茶色粗砂礫層を除去して、花崗岩岩盤が露出したところで一旦止め、曲物部分はその下層の花崗岩岩盤を掘りこんでいる。白茶色粗砂礫層が湧水層だったことには違いなく、花崗岩岩盤に溜めるような構造だったようである。

埋土は、曲物内（遺物出土なし）、曲物裏込め（暗青色粘土）に分かれる。

出土遺物は少なく、時期決定はむずかしい。

158SE190 (Fig.158-11)

調査区のほぼ中央の158SD001の埋土除去後に検出した遺構である。検出したのは不定形の土坑状の凹みで、1.4×1.3mの規模で、深さ0.2mを測る。埋土は上から暗青色粘土・明青色シルトの順である。凹みの掘削は、灰茶色粗砂まで至っている。

この土坑状の凹みは、158SD001掘削前に存在した井戸枠の痕跡で、158SD001掘削にあわせて井戸枠が抜き取られたと推測している。ここに井戸枠が存在したと想定し、なおかつG15~7付近をあらためてみると、158SD001の掘り方がこの凹みを中心に同心円状に幅広く広がっている状況を確認することができる。このことから当遺構は158SD050・075のような巨大な掘り方を持った井戸だったと考えられる。なお、当遺構の掘り方プランは158SD001調査時には確認されておらず、かつ158SD001の遺物廃棄が溝肩にまで及んでいることを考えると、幅広く広がった部分には当遺構に帰属する埋土はなく、当遺構の巨大な掘り方は158SD001掘削時にすべて除去され、そこに158SD001埋土が新たに入ったと考えている。

158SD001のプランを基に推測される井戸全体の規模は、径5.5m、深さ1.13mとなる。

158SE204 (Fig.158-10, Pl.158-7)

調査区の南西端で検出した。平面プランは楕円形を呈し、長径1.5m、短径1.24m、深さ0.87mを測る。付近で検出される井戸の湧水層とみられる灰色粗砂地山の一部の白茶色細砂まで掘削が及んでおり、形態を含めて井戸と判断するに至った。井戸枠等は検出されおらず、素掘りの井戸の可能性もある。

埋土は、上から暗茶色粘質土・茶褐色土・淡茶褐色砂質土・灰茶色土+灰色砂土に分かれるが、遺物は、一括して取り上げている。

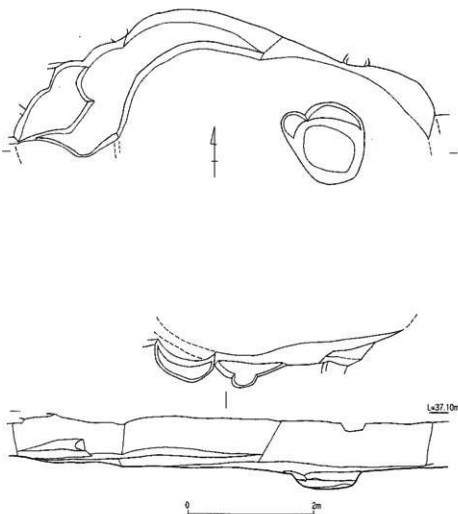


Fig.158-11 158SE190及び周辺実測図 (1/60)

土坑

158SK005 (Fig.158-1)

調査区の西側北寄りで検出した。平面プランは南北に長い楕円形を呈す。長さ4.2m、最大幅2.54m、深さ0.24mを測る。埋土は、淡茶褐色土である。なお、出土遺物より平安後期に埋没したと考える。

158SK010 (Fig.158-1)

調査区の西側北寄りで検出した。平面プランは南北に長い楕円形を呈すとみられる。検出長3.93m、検出幅2.07m、深さ0.25mを測る。埋土は暗茶灰色粘土である。

158SK025 (Fig.158-12, Pl.158-2)

調査区中央西側で検出した。平面プランは円形を呈す。長さ2.87m、幅2.32m、深さ0.96mを測る。埋土は、上から茶褐色土・灰黄色土・灰色土に分かれる。

158SK040 (Fig.158-1)

調査区北西端で検出した。平面プランは楕円形を呈す。長さ1.1m、幅0.94m、深さ0.63mを測る。埋土は、上から黄茶色土・黒色土に分かれるが、黄茶色土からの遺物出土はなかった。

158SK095 (Fig.158-1)

調査区中央で検出した。平面プランは円形を呈す。規模は2.3×1.95m、深さ0.37mを測る。埋土は茶色土+淡黄色砂である。なお埋土中より、長さ60cm、幅6cm、厚さ1.2cmの板材が検出された。井戸枠等に使用されるものとみられるが、当遺構が井戸とは考えられないので、廃棄されたものとする。なお当遺構はS-179と共に158SD001に切り込む遺構であり、調査区全体の中で最も新しい遺構の一つとみられる。

158SK118 (Fig.158-1)

調査区北西で検出した。平面プランは楕円形を呈す。長さ2.0m、幅1.6m、深さ約0.75mを測る。埋土は上から暗茶色土・暗灰色粘質土に分かれる。

158SK207 (Fig.158-12, Pl.158-7)

調査区南西端で検出した。長さ1.47m、幅1.07m、深さ0.75mを測る。検出時の平面プランは楕円形を呈し、遺構検出面から約0.3m掘り下げると、直径約0.95mの円形プランを呈した掘り方が検出される。掘削は、灰色粗砂地山の一部とみられる白茶色細砂層に至っており、井戸の可能性もある。

158SK229 (Fig.158-12, Pl.158-7)

調査区南西端で検出した。平面プランは楕円形を呈し、長さ1.64m、幅1.2m、深さ0.66mを測る。掘削は、灰色粗砂地山の一部とみられる白茶色細砂層に至っている。

その他の遺構

たまり状遺構

158SX015 (Fig.158-1)

調査区北西端で検出した。平面プランは南北に長軸をもつ楕円形を呈す。長さ1.8m、幅1.24m、深さ0.19mを測る。ここから土師器が多く出土した。埋土は炭をわずかに含む黒褐色土である。

小穴群

158SX237 (Fig.158-21)

調査区南西で検出した。

4. 遺物

掘立柱建物出土遺物

158SB100出土遺物 (Fig.158-13)

土師器

小皿 a (1・2) 1は口径9.2cm、器高1.3cm、底径8.3cmを計る。底部切り離しは糸切り。2は口径10.4cm、器高1.1cm、底径9.4cmを計る。口縁部には煤が付着しており灯明皿として使用されたことがわかる。底部切り離しは糸切り。いずれもS-83出土。

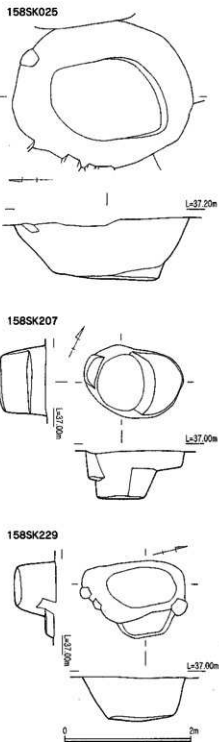
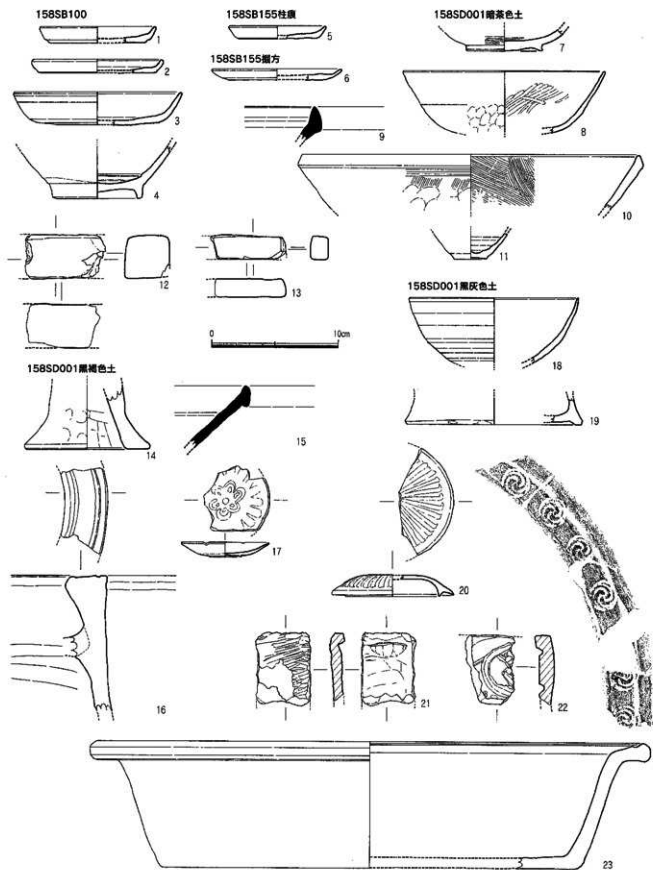


Fig.158-12 大宰府条坊跡第158次調査土坑実測図 (1/60)



坏 a (3) 口径13.3cm、器高2.6cm、底径9.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。S-109柱痕より出土。

白磁

碗 (4) 底部が残存する破片である。VIII類。S-42出土。

158SB155柱痕出土遺物 (Fig.158-13)

土師器

小皿 a (5) 口径7.8cm、器高1.0cm、底径6.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。S-47出土。

158SB155掘方出土遺物 (Fig.158-13)

土師器

小皿 a (6) 口径10.3cm、器高0.9cm、底径7.2cmを計る。底部切り離しは糸切り。S-47出土。

溝出土遺物

158SD001暗茶色土出土遺物 (Fig.158-13, Pl.158-8)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5~9.6cm、器高0.95~1.75cm、底径5.6~7.75cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.2~7.3cm、器高1.25~1.85cm、底径4.35~6.25cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径10.6~17.0cm、器高2.05~3.5cm、底径7.0~12.9cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切りとみられる。灯明皿として使用されたものもある。

瓦器

碗 (7・8) 7は底部が残存する破片である。残存高1.7cm、高台径6.1cmを計る。体部は内外面ともミガキcを施す。8は口縁部~体部が残存する破片である。口径16.0cm、残存高4.9cmを計る。内面はミガキcを施す。外面体部下半は底部押圧による指頭痕が観察され、体部上半~口縁部は回転ナデを施す。

須恵質土器

鉢 (9) 口縁部の破片である。残存高2.6cmを計る。内外面とも回転ナデを施す。焼成はやや不良で、淡灰茶色~淡茶色を呈す。

瓦質土器

鉢 (10) 口縁部の破片である。口径27.2cm、残存高4.4cmを計る。内面はハケ目を施し、外面は指頭痕およびハケ目を施す。胎土はきめ細かく約0.5mmの砂粒を若干含む。焼成はやや不良で、茶白色~灰白色~淡橙色を呈す。

中国陶器

茶入 (11) 底部の破片である。残存高2.0cm、底径2.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。内外面とも回転ナデを施して成形した後、底部および内外面を全面施釉する。素地は茶褐色~暗灰色を呈し、緻密で精良で、微細な白色砂を若干含む。わずかな空隙もある。釉は不透明で明茶褐色に発色する。ごく薄く鉄釉を施す。焼成は良好である。

土製品

棒状製品 (12・13) 12は一端が残存する製品である。現存長5.95cmで、断面は方形で1.95×1.45cmを計る。焼成は良好で、淡茶色~淡灰色を呈す。13は両端とも欠損している。現存長6.3cm、断面は方形で3.5×3.6cmを計る。焼成はやや不良で、淡灰色~茶白色を呈す。

158SD001黒茶色土上層出土遺物

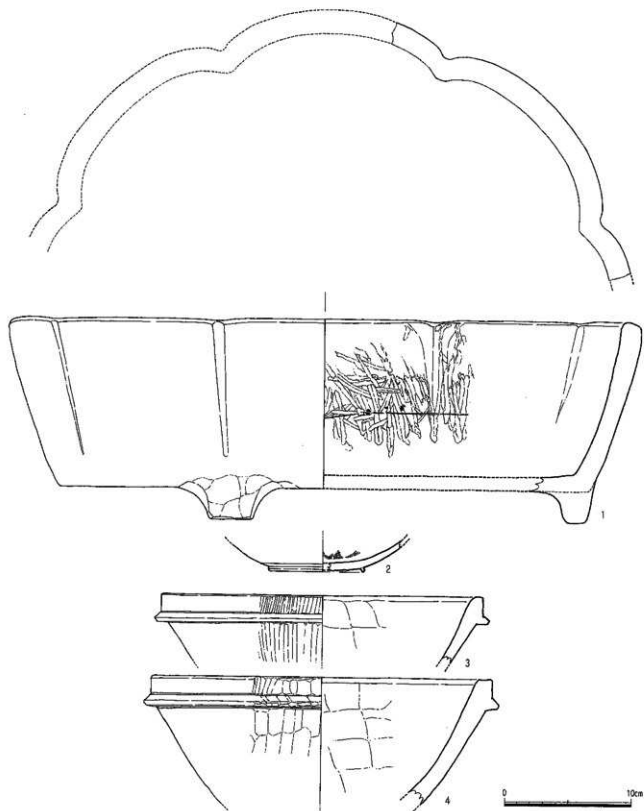


Fig.158-14 158SD001黒茶色土出土遺物実測図 (1/3)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.6~8.7cm、器高0.95~1.7cm、底径5.5~6.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.8~6.9cm、器高1.65~1.75cm、底径4.7~4.9cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。穿孔されたとみられるものもある。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.7~12.6cm、器高2.35~2.75cm、底径7.8~9.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

158SD001黒茶色土出土遺物 (Fig.158-14)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5~8.9cm、器高0.8~1.5cm、底径5.5~7.4cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.5~7.5cm、器高1.05~1.9cm、底径4.45~6.1cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.4~15.3cm、器高2.25~2.95cm、底径7.95~11.1cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

石製品

石鍋 (4) 体部上半が残存する破片である。口径27.0cm、器高10.0cmを計る。内外面ともケズリにより成形している。内面のケズリは使用による磨耗のため不明瞭である。外面は煤が付着しており、黒色を呈す。

158SD001黒茶色土a出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.0~8.4cm、器高1.1~1.35cm、底径6.05~7.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.7~7.15cm、器高1.2~1.85cm、底径4.9~5.45cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.4~13.0cm、器高7.5~9.6cm、底径2.05~2.85cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

158SD001黒茶色土b出土遺物 (Fig.158-14)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.65~8.6cm、器高1.0~1.4cm、底径6.0~7.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.6~6.85cm、器高1.45~1.55cm、底径4.6~5.1cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.6~15.45cm、器高2.35~3.5cm、底径7.6~10.9cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

瓦質土器

火舎 (1) 口径49.6cm、器高15.9cm、器底径42.4cmを計る。口縁は1.8cmほど凹ませ輪花にしている。花卉は8弁に復原される。底部は断面円形の脚を付すが脚数は不明。内外面ともミガキcを施す。なお外面は、漆とみられる付着物で覆われている。漆の方向が窺えることから、刷毛などで薄く塗られたと考えられる。胎土は精良、焼成は良好で、灰褐色を呈す。

158SD001黒茶色土c出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.1~8.6cm、器高1.2~1.35cm、底径6.3~6.95cmを計る。底部切

り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.35~15.6cm、器高2.3~2.9cm、底径7.8~11.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

158SD001黒茶色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.55~8.55cm、器高0.9~1.45cm、底径5.6~7.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.4~7.5cm、器高0.5~1.7cm、底径4.6~5.9cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.4~15.1cm、器高2.35~3.45cm、底径7.85~10.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

158SD001黒茶色土出土遺物 (Fig.158-14, Pl.158-8)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.55~8.7cm、器高0.9~1.7cm、底径5.7~7.1cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.6~7.4cm、器高1.2~1.85cm、底径4.55~5.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.55~16.3cm、器高2.1~3.45cm、底径7.7~12.3cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

瓦器

碗 c (2) 底部の破片である。残存高2.6cm、高台径6.6cmを計る。内面はミガキ c を施し、外面は不定方向のナアを施す。底部は回転ヘラ切りで、小さな高台を付す。

高麗青磁

瓶 (Pl.158-8) 頸部の破片とみられる。残存高は4.6cm程度。素地は緻密で灰青色を呈す。軸は内外に施釉し、内面は透明釉を薄く施釉し、外面は緑灰色に発色する不透明釉を施釉する。なお外面に文様があるが、これは素地の外面には細く摺り込みを入れ、その中に化粧土のような白色の土を詰める所作を行っている。

石製品

石鍋 (3) 体部上半が残存する破片である。口径25.4cm、器高5.3cmを計る。内外面ともケズリにより成形している。内面のケズリは使用による磨耗のため不明瞭である。外面は煤が付着しており黒色を呈す。

158SD001黒褐色土出土遺物 (Fig.158-13, Pl.158-8)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5~8.9cm、器高0.9~1.7cm、底径5.2~7.2cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.2~7.4cm、器高1.05~1.75cm、底径4.1~5.5cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.45~16.5cm、器高2.2~3.45cm、底径7.7~12.3cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

器台 (14) 底部の破片である。残存高5.1cm、底径10.0cmを計る。外面はナアの後、指押さえを施

す。内面は横方向にケズリを施す。胎土のきめはやや粗く0.2～2.0mmの砂粒をやや多く含む。焼成は良好で、内外面とも淡橙茶色を呈す。

須恵質土器

鉢 (15) 口縁部の破片である。残存高4.9cmを計る。内外面とも回転ナデを施す。焼成は良好で、口縁部外面が黒色、その他は明灰色を呈す。

土師質土器

火鉢 (16) 口縁部の破片である。残存高10.7cmを計る。口縁部の外面に1本および頂部2本の沈線が巡る。口縁部頂部には煤が付着している。内面は横方向に断面三角形の突帯があり、その途中に別に突起がとりついている。内外面ともヨコナデを施す。胎土のきめはやや粗く、0.1～8.0mm程度の砂粒や雲母片を多く含む。焼成は良好で内面は淡橙茶色～淡茶灰色、外面は明灰色を呈す。

青白磁

皿 (17) 口径7.0cm、器高1.15cm、高台径2.6cmを計る。口縁部は部分的にわずかに凹ませて輪花をつくる。内面も型押しによるとみられる花文が施される。素地は白色で緻密である。釉は透明釉がかけられ淡青色に発色する。焼成は良好。

158SD001黒灰色土出土遺物 (Fig.158-13、巻頭図版2、Pl.158-8)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.2～8.9cm、器高0.85～1.7cm、底径5.2～7.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.3～7.4cm、器高0.9～1.8cm、底径4.25～6.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径10.8～16.7cm、器高1.65～3.55cm、底径7.5～12.35cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。中には焼成前に猫などの動物の爪で引っかいたような傷があるものや穿孔されたものがある。灯明皿として使用されたものもある。

瓦器

椀 (18) 体部上半が残存する破片である。口径13.4cm、残存高5.2cmを計る。内面は丁寧なナデを施し、外面は口縁部から回転ヘラケズリを施す。胎土は精良で、0.5mm以下の白色砂粒が含まれる。焼成は良好で、硬質に仕上がる。明灰色～暗灰色を呈す。

土師質土器

火舎 (23) 口径44.2cm、器高10.0cm、底径33.0cmを計る。口縁部は大きく外反し、巴文が陰刻され、その外周を沈線が巡る。体部は内外面ともヨコナデを施し、内面底部は不定方向のナデを施す。底部の切り離しは不明。胎土は3mm以下の白色砂粒を多く含む。焼成は良好で、茶灰色を呈す。

高麗青磁

梅瓶 (19) 底部の破片である。残存高2.1cm、底径14.0cmを計る。内外面とも施釉し、高台底のみ釉を拭き取る。釉は不透明で外面および底部は灰青色に発色し、内面は灰緑色に発色する。光沢は柔らかい。素地は灰色～淡褐色を呈し、きめ細かく精良であるが白色砂を若干含む。わずかに空隙がある。焼成は良好だが、一部還元不良である。

青白磁

蓋 (20) 口径9.6cm、器高1.65cm、内面のかえり部分は7.4cmを計る。外面全体に放射状の文様をヘラ彫りし、口縁部とかえりの間をのぞいて全面施釉する。釉は光沢のある透明釉で、やや黄味を帯びた青白色に発色する。素地は精良で乳白色を呈す。

石製品

滑石製品 (21・22) 21は残存長5.9cm、幅4.4cm、厚さ1.2cmを計る。方形板状に削った後、一端の一端に幅3.1cmほどのケズリを施している。22は残存長5.5cm、残存幅3.9cm、厚さ1.6cmを計る。一面に幅約0.5cm、深さ約0.5cmの断面三角形の掘り込みが、円形に巡り、その内外にも削った痕跡がある。反対の面は、平滑なケズリを施す。ここには煤が付着している。

ガラス (巻頭図版2) 明青色に発色するガラス片である。

158SD001暗灰色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.7~8.5cm、器高0.95~1.4cm、底径5.7~7.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径7.2cm、器高1.15cm、底径5.7cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.4~12.8cm、器高2.35~2.75cm、底径8.25~9.5cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

158SD001暗灰色土下層出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.6cm、器高1.2cm、底径5.9cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.2cm、器高2.35cm、底径8.7cmを計る。底部切り離しは糸切り。

158SD030黒茶色土(158SD070黒茶色土)出土遺物 (Fig.158-15、Pl.158-9)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5~8.9cm、器高0.8~1.75cm、底径5.5~6.9cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.0~7.4cm、器高1.4~1.9cm、底径4.35~5.75cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.2~5.8cm、器高2.05~2.9cm、底径7.2~11.7cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。灯明皿として使用されたものもある。

壺×壺 (1) 口縁部の破片である。残存高3.6cmを計る。口縁部内側に幅0.5cmほどのわずかな沈線が観察される。内外面ともヨコナアを施す。

鍋 (2) 口縁部の破片である。残存高6.8cmを計る。内面および口縁部はヨコナア、外面はハケ目を施す。なお外面には煤が付着している。胎土は0.5~1.0mmの白色砂粒を少量含む。焼成は良好で、明茶灰色を呈す。

須恵質土器

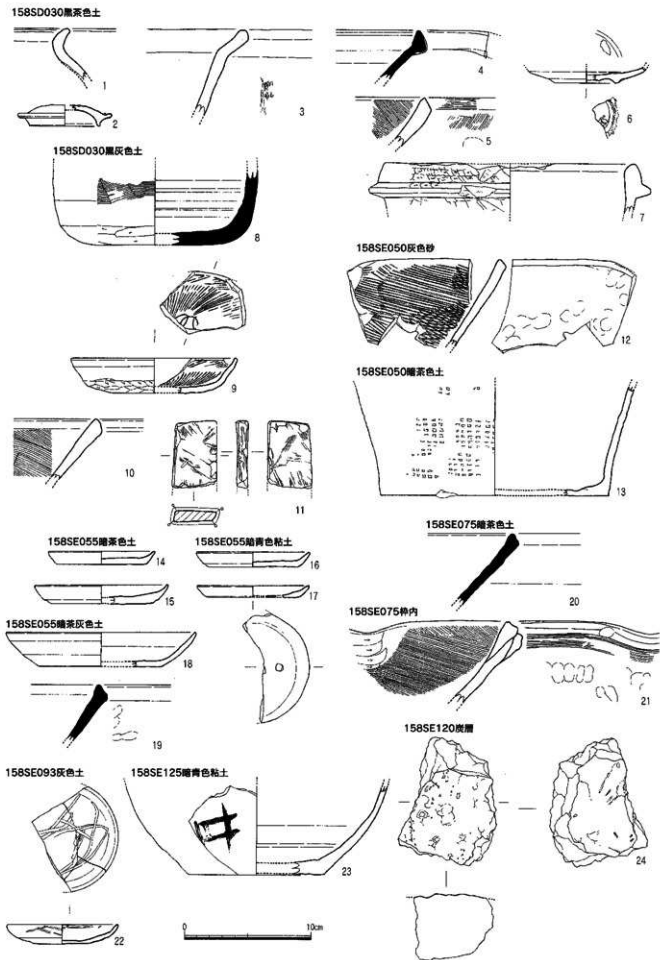
片口鉢 (4) 口縁部の破片である。残存高3.9cmを計る。内外面とも回転ナアを施す。焼成は良好で、暗灰色~黒灰色を呈す。

瓦質土器

鉢 (5) 口縁部の破片である。残存高4.0cmを計る。内外面ともハケ目を施す。焼成は良好で、淡灰色を呈す。

緑釉陶器

壺×水注 (Pl.158-9) 壺や水注の肩部につく耳の破片である。小片で明確ではないが縦耳の可能性がある。5.6×4.5cmが残存する。器厚は0.5cm程度である。素地は黒粒や1mm以下の砂粒をわずかに含



み、やや粗い印象を受ける。灰褐色を呈す。釉は外面および内面の一部に施釉され、淡緑灰色に発色している。

高麗青磁

蓋 (2) 最大径7.4cm、器高1.65cm、口縁部のかえりの直径5.6cmを計る。つまみが付くか否かは不明。全面施釉する。釉は不透明で、光沢は弱く、灰青色に発色する。釉の厚みは不均衡で表面に滑らかさがない。また細かい貫入が入る。素地は明灰色を呈し、やや粗く、微細な白色砂を少量混入する。細かな空隙あり。焼成は良好である。

皿 (6) 底部の破片である。残存高1.3cm、高台径5.1cmを計る。内外面とも全面施釉し、高台底のみ釉を拭き取り、一部は削り取っていることが観察される。目跡は高台の内側につく。釉は不透明で、柔らかい光沢があり、灰青色に発色する。細かい貫入が入る。素地は若干微細な白色砂を含むが、きめ細かい。空隙あり。焼成は良好である。S-70黒茶色土出土。

石製品

石鍋 (7) 口縁部が残存する破片である。口径20.0cm、残存高3.8cmを計る。内外面ともケズリにより成形する。使用による摩耗のため、内面の削りはやや不明瞭。外面は煤で覆われている。S-70黒茶色土出土。

158SD030黒灰色土出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.5~8.8cm、器高1.2~1.4cm、底径6.25~7.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.5~7.2cm、器高1.3~1.9cm、底径4.9~5.1cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径13.05cm、器高2.8cm、底径8.7cmを計る。底部切り離しは糸切り。

158SD030黒灰色土a出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径11.8cm、器高2.5cm、底径8.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

158SD030黒灰色土b出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.45~8.6cm、器高0.9~1.25cm、底径5.9~6.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.9cm、器高1.55cm、底径5.3cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.5~12.4cm、器高2.4~2.95cm、底径7.7~8.85cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

瓦質土器

鉢 (10) 口縁部が残存する破片である。残存高4.9cmを計る。内面はハケ目を施し、口縁部および外面上部はヨコナデ、外面下部はナデを施す。胎土は1mm以下の白色砂粒を多く含む。焼成は良好で、明灰色を呈す。

158SD030黒灰色土c出土遺物 (Fig.158-15, Pl.158-9)

須恵器

壺 (8) 底部の破片である。残存高6.0cm、底径13.8cmを計る。内面はヨコナデを施し、内面底部はナデを施す。外面はヨコナデを施した後、上部にハケ目またはカキ目とみられる横方向の条痕が観察さ

れる。体部と底部の境は手持ちのヘラケズリを施し丸く仕上げる。底部の中心付近は指頭による器面調整を施す。胎土は1.5mmまでの白色砂粒をやや多く含む。焼成は良好で、外面は暗茶褐色を、内面および胎土は赤茶褐色を呈す。

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5~7.8cm、器高1.05~1.15cm、底径5.4~5.5cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.8~12.2cm、器高2.05~2.6cm、底径8.0~8.25cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 (9) 口径13.2cm、器高2.7cm、底径11.2cmを計る。口縁端部はわずかに折り曲げる。内面は磨耗しているが、放射状暗文を二段にわたって施しているのが観察される。外面はヨコナデを施し、その上を横方向のヘラミガキを施している。底部は手持ちヘラケズリを施す。畿内産。

石製品

砥石 (11) 残存長5.3cm、幅3.5cm、厚さ0.9cmを計る。四面が使用されている。

158SD030黒灰色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.0~8.2cm、器高0.95~1.2cm、底径6.1~7.1cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.6~7.3cm、器高1.55~2.1cm、底径4.8~5.5cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.0cm、器高2.55cm、底径8.0cmを計る。底部切り離しは糸切り。

158SD070黒灰色土出土遺物

土師器

小皿 b (土師器計測表参照) 口径7.2cm、器高1.9cm、底径4.9cmを計る。底部切り離しは糸切り。

井戸出土遺物

158SE050灰色砂出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.8cm、器高1.15cm、底径7.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

瓦質土器

鉢 (12) 口縁部の破片である。残存高7.0cmを計る。内面はハケ目、外面は指押さえて器面調整しており、一部ナデが観察される。胎土は0.2~1.5mmの白色砂粒を含むが、きめ細かく精良である。焼成は良好で、黒褐色~黒灰色~黒色を呈す。

158SE050暗茶色土出土遺物 (Fig.158-15、Pl.158-9)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.2~8.4cm、器高1.15~1.35cm、底径6.1~7.5cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.75cm、器高2.3cm、底径8.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

高麗陶器

壺×甕 (13) 底部の破片である。残存高8.5cm、底径18.0cmを計る。内面はタタキの当て具痕とみられる凹凸があるが、上から回転ナデを施しているため詳細は不明である。外面は格子目のタタキを施

し、胴部と底部との境付近は回転ナデを施す。底部は円盤状と考えられ、胴部との境に目跡が付着している。素地は0.2～1.5mmの砂粒を少量含むが、きめは細かい。釉は灰緑色を呈し、光沢は弱い。全体的に白濁しており、一部に褐斑が浮いている。焼成・還元ともに良好である。

158SE055暗茶色土出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 a (14・15) 14は口径8.4cm、器高1.0cm、底径7.0cmを計る。底部切り離しは糸切り。15は口径10.55cm、器高1.5cm、底径8.4cmを計る。底部切り離しは不明である。

158SE055暗青色粘土出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 a (16・17) 16は口径9.0cm、器高1.15cm、底径6.9cmを計る。底部切り離しは糸切り。17は口径8.9cm、器高0.95cm、底径7.6cmを計る。底部切り離しは糸切り。底面には直径0.5cmほどの穴が焼成前に穿たれている。

158SE055暗茶灰色土出土遺物

坏 a (18) 口径15.0cm、器高2.7cm、底径9.8cmを計る。底部切り離しは糸切り。

須恵質土器

鉢 (19) 口縁部の破片である。残存高4.5cmを計る。内外面ともナデを施す。焼成は良好で、暗灰色～灰色～明褐色を呈す。なお外面の口縁部以下に煤が付着している。

158SE075灰茶色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.95cm、器高1.0cm、底径6.3cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.95～12.0cm、器高2.6～2.75cm、底径8.5～8.9cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

158SE075暗茶色土出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.4cm、器高1.7cm、底径4.9cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径15.6cm、器高2.7cm、底径11.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

須恵質土器

鉢 (20) 口縁部の破片である。残存高5.6cmを計る。内外面ともナデを施す。焼成は良好で、暗青灰色を呈す。

158SE075枠内出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.0cm、器高1.25cm、底径6.3cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.5～12.4cm、器高2.4～2.75cm、底径8.35～8.7cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

瓦質土器

片口鉢 (20) 口縁部の破片である。内面はハケ目を施し、外面は指頭による成形の後、口縁部直下を横方向にハケ目を施す。胎土は粗く、0.2～2mm程度の砂粒を少量含む。焼成は良好で、内面は黒灰色～灰白色、外面は暗灰色～灰色を呈す。

158SE093黒灰色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.8~8.95cm、器高1.0~1.2cm、底径6.65~7.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径16.4cm、器高2.55cm、底径11.5cmを計る。底部切り離しは糸切り。
158SE093灰色土出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径9.05~9.4cm、器高1.05~1.15cm、底径7.0~7.6cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 呼応径15.0~16.5cm、器高2.45~2.85cm、底径11.6~11.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

瓦器

小皿 a (22) 口径8.8cm、器高1.55cm、底径7.1cmを計る。内面はこて当てを施した後、粗いミガキ c を施す。外面はヨコナデを施した後に粗いミガキ c を施す。底面は回転ヘラ切り。板状圧痕あり。胎土は0.2~1mmの砂粒を含むがきめ細かく精良である。焼成は良好で、黒色~黒灰色~灰色を呈す。内面は一部銀色を呈す。

158SE119灰茶色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.55~9.6cm、器高1.0~1.25cm、底径7.4~8.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

158SE120炭層出土遺物 (Fig.158-15)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径9.8cm、器高1.0cm、底径8.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

土製品

炉壁? (24) 残存長10.15cm、残存幅7.7cm、残存厚5.25cmを計る。全体に焼き締まっている。胎土は粗く砂粒を含む。焼成は良好で全体に還元しており、灰色~灰褐色を呈す。

158SE120灰青色粘土出土遺物

土師器

坏 a (土師器計測表参照) 口径15.4~16.95cm、器高2.7~3.2cm、底径10.75~11.3cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

158SE125暗茶色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径9.6cm、器高1.0~1.05cm、底径7.8~8.15cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径14.0cm、器高2.75cm、底径11.0cmを計る。底部切り離しは糸切り。

158SE125暗青色粘土出土遺物 (Fig.158-15, Pl.158-9)

中国陶器

鉢 (23) I-1類。底部の破片である。胎土のきめは細かいが、0.2~2mmの砂粒を多量含む。釉はない。焼成は良好で明茶色を呈す。なお外面に墨書されているが、内容は不明である。

158SE190暗青色粘土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.8~8.6cm、器高1.05~1.55cm、底径5.7~7.05cmを計る。底部切

り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.5~15.2cm、器高2.15~3.3cm、底径8.9~12.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

158SE190明青色シルト出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.2cm、器高1.3cm、底径6.05cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.4cm、器高2.7cm、底径8.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

158SE204出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.8~8.2cm、器高1.0~1.15cm、底径6.2~6.4cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

土坑出土遺物

158SK010出土遺物 (Fig.158-16)

土師器

小皿 a (1) 破片資料である。口径11.4cm、器高1.2cm、底径7.6cmを計る。底部切り離しはヘラ切り。

坏 c (2) 底部が残存する破片である。残存高2.6cm、高台径8.9cmを計る。底部切り離しは不明。

158SK025茶褐色土出土遺物 (Fig.158-16, Pl.158-9)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.5~8.4cm、器高0.9~1.4cm、底径5.2~6.8cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

小皿 a (3) 口径7.5cm、器高1.0cm、底径6.0cmを計る。底部切り離しは糸切り。なお外面底部に墨書があるが、内容は不明である。

小皿 b (土師器計測表参照) 口径6.3~7.4cm、器高1.2~1.5cm、底径4.7~5.4cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.2~16.8cm、器高2.15~3.25cm、底径7.5~12.0cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

瓦器

椀 (4) 口径14.4cm、器高6.0cm、高台径4.3cmを計る。内面は回転ナデの後コテ当て (ミガキ b) を施す。外面は口縁部直下より回転ヘラケズリを施す。外面底部には円盤状の高台を回転ナデにより貼り付けた後、高台底部内側に回転ヘラケズリを施す。胎土は0.5mm以下の白色砂粒をやや多く含むが精良である。焼成・還元ともに良好で、明灰色~暗灰色を呈す。なお、見込みは重ね焼きによる変色が観察される。

158SK025灰黄色土出土遺物 (Fig.158-16)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.6cm、器高1.1cm、底径5.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

須恵質土器

片口鉢 (6) 口縁部の破片である。残存高3.4cmを計る。内外面ともヨコナデを施す。焼成は良好で明灰色~暗灰色を呈す。

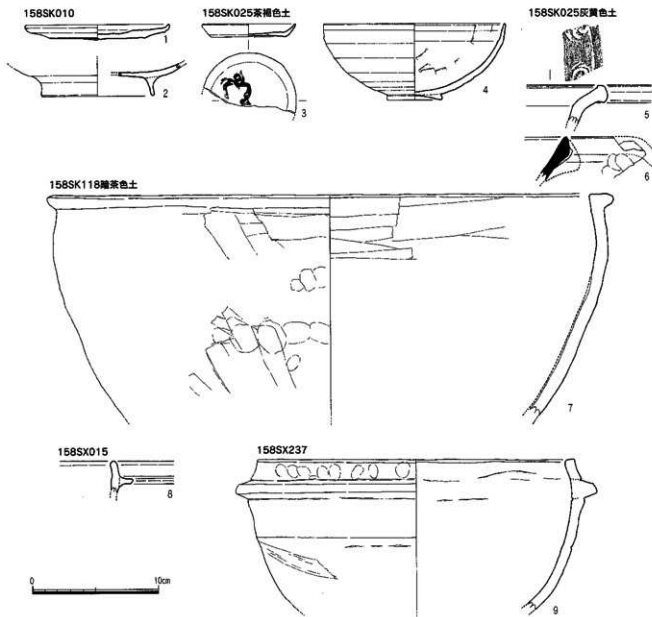


Fig.158-16 大宰府桑坊跡第158次調査土坑及びその他の遺構出土遺物実測図 (1/3)

土師質土器

火舎 (5) 口縁部の破片である。残存高3.1cmを計る。口縁部は大きく外反し、巴文が陰刻され、その外周を沈線が巡る。体部は内外面ともヨコナデを施す。胎土は1mm以下の白色砂粒を少量含む。焼成は良好で、明灰色～暗灰色を呈す。

158SK025灰色土出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.9～8.2cm、器高1.1～1.3cm、底径5.9～6.25cmを計る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.2～12.7cm、器高1.95～2.65cm、底径7.2～8.35cmを計る。底部切り離しは糸切り。

158SK040黒色土出土遺物

坏 a (土師器計測表参照) 口径12.0~12.8cm、器高2.15~2.55cm、底径8.0~8.4cmを計る。底部切り離しは糸切り。

158SK095淡黄色砂出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径7.7cm、器高1.2cm、底径6.45cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.4~12.2cm、器高2.4~2.45cm、底径8.2~8.9cmを計る。底部切り離しはいずれも糸切り。

158SK118暗茶色土出土遺物 (Fig.158-16, Pl.158-9)

土師質土器

鍋 (7) やや歪みがあるが、口径44.5cm、残存高17.5cmに復原される。内面下半は器面剥落しているが、内外面とも工具によるナデ調整を施す。胎土のきめは粗く0.2~3mmの砂粒を大量に含む。焼成は良好で、暗褐色~茶褐色を呈す。なお被熱したようで内外面とも褐色化している。

緑釉陶器 (二彩)

壺 (Pl.158-9) 底部の破片である。残存高1.9cmを計る。素地は灰褐色を呈し、黒粒や1mm以下の砂粒を含みやや粗い。釉は内外に施軸され、外面は濃緑色、内面は濃緑色と暗黄褐色の二色に発色する。

158SK207出土遺物

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.6~8.8cm、器高0.95~1.1cm、底径6.4~7.1cmを計る。底部切り離しは糸切り。

その他の遺構出土遺物

158SX015出土遺物 (Fig.158-16)

土師器

小皿 a (土師器計測表参照) 口径8.0~8.1cm、器高1.0~1.3cm、底径5.8~6.1cmを測る。底部切り離しは糸切り。

坏 a (土師器計測表参照) 口径11.8~16.6cm、器高2.4~3.15cm、底径7.9~12.8cmを測る。底部切り離しは糸切り。

土師質土器

羽釜 (8) 口縁の一部である。残存高2.5cm、鐏の長さ1.1cm程度を計る。内外面ともナデを施す。焼成は良好で茶灰色~暗灰色を呈す。なお外面下部は煤の付着が観察される。

158SX237出土遺物 (Fig.158-16)

土師質土器

羽釜 (9) 口径25.0cm、残存高11.9cm、鐏の長さ約1.0cmを計る。被熱している。内面および断面の観察によると、半球型の胴部に鐏を付け、さらに口縁部を付けるといった製作工程だったことが推測される。内外面とも磨耗している部分が多いが、ナデを施しているのが観察される。胎土のきめはやや粗く0.2~3mmの砂粒を多く含む。焼成はやや不良か。赤茶灰色~茶灰色を呈し、被熱による黒褐色~淡灰褐色に変色した部分がある。

各層出土遺物

茶色土層出土遺物 (Fig.158-17、巻頭図版2、Pl.158-9)

瓦器

碗 (1) 口縁部の破片である。口径11.0cm、残存高2.7cmを計る。内面は螺旋状のミガキを施し、外面は不定方向のナデを施す。胎土は精良で、明灰色を呈す。器面は黒灰色を呈す。楠葉産1V-2形式である。

緑釉陶器

碗? (2) 底部の破片である。残存高1.0cm、高台は欠損しているが、径約7cmに復原される。内面は不定方向のミガキを施しその上に施軸する。外面底部も全面に施軸する。

皿 (3) 底部の破片である。残存高1.5cm、底径7.1cmを計る。内面は不定方向のミガキを施しその上に施軸する。外面底部も全面に施軸する。京都産。

土製品

不明製品 (4) 脚部の破片とみられる。残存長7.8cmを計る。底部は円形を呈し、径約14cm前後に復原される。体部は右上がりの強いナデを施し、底部は平滑に器面調整をする。胎土は2mm以下の白色砂粒・茶色砂粒を含む。焼成は良好だが軟質である。淡茶色を呈す。

白磁

碗 (5) 底部のみ残存する破片である。残存高1.65cm、高台径4.8cmを計る。高台はケズり出す。施釉は内面にのみ観察され、見込みには文字が記され、その周りを二重の円が巡っている。いずれもヘラ書きにより陰刻されている。素地のきめは細かいが砂味で、微細な白色砂を若干含む。空隙があり、明灰色～明茶灰色を呈す。釉は透明釉で光沢があり灰緑色を呈す。ガラス質であり貫入が入る。焼成は良好である。該当する分類はなく新しいものか。なお文字は8文字ほど確認でき「十年□ 月明□ 明□ (水カ)」と読める。詩文の一節とも考えられるが内容は不明である。

中国陶器

皿 (6) 口径9.4cm、器高3.2cm、底径2.9cmを計る。内面は丁寧なナデを施し、外面は回転ナデを施す。底部は粗い糸切りとみられる。外面に軸がかかっているが、自然軸か。素地は緻密で暗紫赤色を呈す。焼成は良好である。

瓦類

軒丸瓦 (8) 単弁瓦の瓦当の一部である。図上の計測では残存高5.5cm、残存幅6.5cm、厚さ2.1cmを計る。胎土は0.2～2.5mmの砂粒を多量含むが、きめは細かい。焼成・還元とも良好で、青灰色を呈す。I9地区より出土。

縄文土器

深鉢 (7) 破片である。器面は風化により磨耗しているため、調整不明。胎土のきめは粗く、0.2～0.5mmの砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好で淡褐色～淡茶色を呈す。

ガラス (巻頭図版2) 明青色に発色するガラス片である。

灰褐色土層出土遺物 (Fig.158-17)

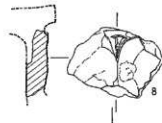
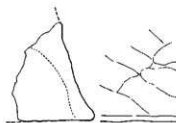
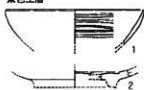
土師器

坏 a (9) 口径11.5cm、器高2.2cm、底径9.0cmを計る。底部切り離しはヘラ切り。

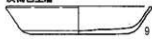
碗 c (10) 底部が残存する破片である。残存高2.0cm、高台径7.8cmを計る。底部切り離しはヘラ切りで、板状圧痕も観察される。

暗灰褐色土層出土遺物 (Fig.158-17)

茶色土層



灰褐色土層



暗灰褐色土層

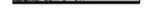
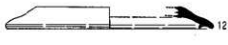


Fig.158-17 大宰府桑坊跡第158次調査各層出土遺物実測図 (1/3)

須恵器

蓋1 (11・12) いずれも口縁部が残存する破片である。11は口径12.3cm、残存高1.9cmを計る。内外面とも回転ナデを施す。12は口径16.4cm、残存高1.7cmを計る。内外面とも回転ナデを施す。天井部切り離しはヘラ切りである。

坏c (13・14) いずれも底部の破片である。14は残存高2.2cmを計る。比較的高い高台が付く。15は残存高1.75cm、高台径7.0cmを計る。底部切り離しはヘラ切りである。

土師器

大蓋3 (15) 口径20.2cm、器高2.1cmを計る。器面が風化により荒れており、調整の観察が難しいが、外面は回転ナデを施した後、ミガキaを施す。内面はミガキaのみ観察される。天井部はヘラケズリを施し、その上をミガキaを施している。

皿a (16) 口径15.4cm、器高2.0cm、底径11.85cmを計る。底部切り離しはヘラ切りで、板状圧痕が観察される。

その他の出土遺物

金属製品 (Fig.158-18、Pl.鉄製品)

鉄釘 (1) 現存長9.2cm。断面は四角形で1.0×0.9cm。頭部の一方がやや幅広になっている。SD001暗茶色土出土。

不明鉄製品 (2) 2は断面方形で0.4×0.35cmの鉄棒の先端を直角に折り曲げ、曲げた先をさらに図の水平方向に折り曲げた形状をしている。図上の計測で、現存高3.6cm、先端部の折り曲げは2.15×1.9cmである。SD001暗茶色土出土。

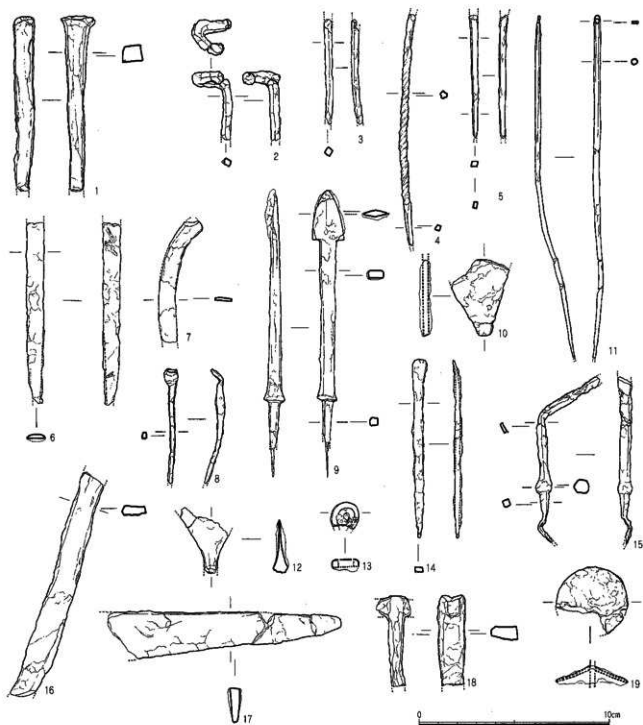


Fig.158-18 大宰府条坊跡第158次調査出土金属製品実測図 (1/2)

棒状鉄製品 (3・5) 3は現存長5.5cm、断面は方形で最大 $0.45 \times 0.4\text{cm}$ を計る。SD001黒茶色土出土。5は現存長6.5cm、断面は方形で最大 $0.5 \times 0.35\text{cm}$ を計る。SD001黒茶色土出土。

ドリル状鉄製品 (4) 両端が欠損している。現存長は12.3cm、断面は方形で $0.25 \times 0.3\text{cm}$ 程度。この鉄棒をねじり曲げている。SD001黒茶色土出土。

ヘラ状鉄製品 (6・7・14) 6は現存長9.6cm、幅1.0cm、厚さ0.25cmを計る。断面は片面が平らで片面が凸面という蒲鉾型をしている。下半は徐々に細くなっている。また部分的に木質が残存している。

SD001黒褐色土出土。7は図上の現存長6.4cm、幅0.9cm、厚さ0.2cmを計る。上端はこれ以上続かないものとみられる。SD001黒褐色土出土。14はほぼ完形品とみられる。長さ9.4cm、図の上端部の幅は0.75cm、下端部の幅は0.2cm、厚さは0.3cmを計る。図の上端部は薄くなっており、ゆるやかに曲がっている。SE075灰茶色土出土。

鉄釘？(8) 現存長6.05cm。図の上端は扁平に成形しており、わずかに曲がっている。この部分は長さ0.8cm、幅0.7cm、厚さ0.2cm。その下の棒部は幅0.2cm、厚さ0.2~0.5cmを計る。SD001黒褐色土出土。

鉄鏃(9) 現存長15.1cmを計る。先端に三角形の尖頭部をもつ。この部分は長さ2.7cm、幅1.7cm、最大厚0.4cmに復原される断面は菱形とみられる。基部の長さは8.5cmで、尖頭に近い部分の断面は0.8×0.4cmの長方形で、柄部付近の断面は1.0×1.1cmの円形である。柄部は下端が錆により欠損しているが、0.45×0.45cm程度の断面隅丸方形である。SD001黒褐色土出土。

鉄鏃？(10・12・15) 10は現存長4.1cm、現存最大幅3.1cm、厚さ0.55cmを計る。錆による膨張が著しいため厚さは0.3cm程度とみられる。形状が12と類似しており、鉄鏃の可能性を考えているが、断定はできない。SD001黒褐色土出土。12は現存長3.5cm、現存最大幅2.5cm、厚さ0.1~0.8cmを計る。二股

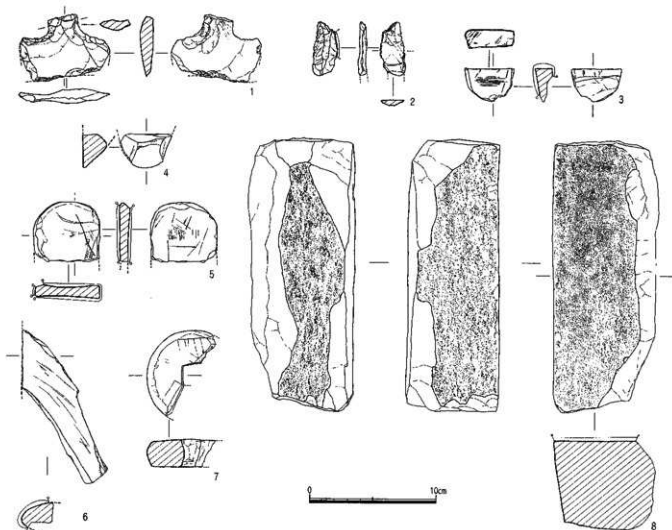


Fig.158-19 大宰府条坊跡第158次調査出土石製品実測図 (1/3)

の鎌か。SE050灰色砂埋土。15は9に類似した形状をもつた鉄鎌と考えている。茎部の途中は折れ曲がっているが、延ばすと7.5cm程度になる。尖頭に近い茎部の断面は0.2×0.6cmの長方形で、柄部付近の断面は0.75×0.8cmの円形である。柄部は下端が錆により欠損しているが、0.4×0.4cm程度の断面隅丸方形である。S-45黒色土出土。

箸状鉄製品(11) 延ばすと長さ18.2cm程度になる。断面は0.3×0.35cmの円形で、図の下にいくほど細くなる。図の上端は扁平で断面は0.15×0.35cmの長方形である。この部分には直径0.17cm程度の穿孔がある。SD060明茶色土出土。

リング状鉄製品(13) 断面が0.3×0.4cmの四角形を呈した鉄棒を、1.4×1.5cmのリング状に曲げている。これは、Fig.156-8-5のピン状鉄製品と類似しており、同様の製品の可能性がある。S-58出土。

鉄製五徳(16・18) 16は五徳の脚部とみられる。現存長12.5cm、断面は1.6×0.6cmの四角形を呈す。脚が外に開くように先端を斜めに切ったような加工をしている。18は五徳の脚部と輪部との接合部とみられる。現存長4.8cm、脚部の断面は1.4×0.7cm、輪部の断面は0.9×0.95cm程度の方角を呈す。いずれ

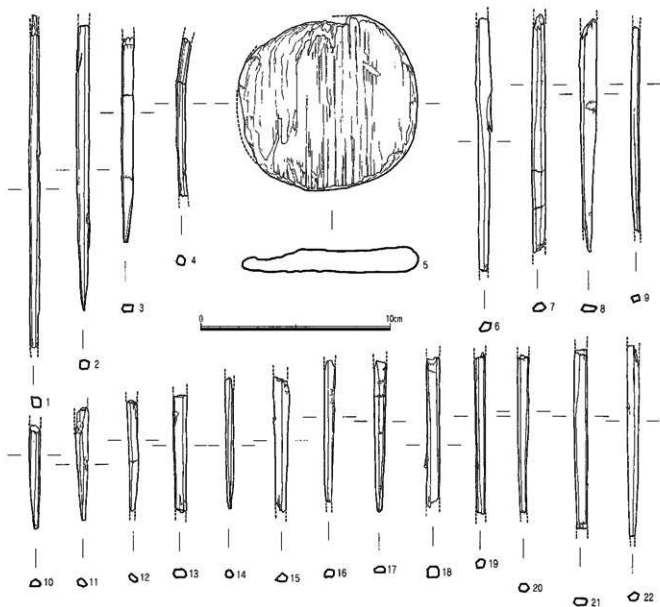


Fig.158-20 大宰府条坊跡第158次調査出土土製品実測図(1/2)

も茶色土層出土。

刀の茎子? (17) 現存長12.3cm、現存最大幅2.5cm、厚さ0.3~0.55cmを計る。茶色土層出土。

鉄製紡錘車 (19) 円盤部分が残存する。径3.6~3.8cm、円盤の厚さ0.15cm、円盤の高さ0.9cmを計る。中央に鉄芯がわずかに残存している。芯はやや斜めに入っているようである。茶色土層出土。

石製品 (Fig.158-19)

石匙 (1) 高さ5.3cm、幅7.1cm、厚さ1.3cmを計る。安山岩製。SD030黒茶色土出土。

剥片 (2) 黒曜石の縦長剥片である。長さ4.15cm、幅1.95cm、厚さ0.5cmを計る。微細剥離がみられる。SE050灰色砂出土。

砥石 (3・5・6) 3は現存長3.6cm、幅3.9cm、最大厚1.4cmを計る。SD030黒茶色土出土。5は現存長5.65cm、幅5.2cm、厚さ1.0cmを計る。茶色土層出土。6は現存長13.0cm、現存幅3.5cm、厚さ1.6cmを計る。SD030黒茶色土出土。

片刃石斧 (4) 先端部のみ残存する。現存長2.6cm、幅4.0cm、最大厚1.8cmを計る。欠損後、二次的に使用している。泥岩製。SD001黒褐色土出土。

滑石製品 (7) 円盤の中央を方形にくり抜いた製品である。円盤の直径7.3cm、厚さ2.2cm、くり貫き孔の一辺は1.6cm程度である。S-80黒色土出土。

不明製品 (8) 現存長21.5cm、現存幅8.5cm、現存厚7.0cmを計る。3面を平坦に加工している。なお、図の上面は擦れている。凝灰岩製。塚か。S-144出土。

木製品 (Fig.158-20)

箸状製品 (1~4、6~22) いずれも断面が0.5cm四方前後の大きさをもつ。先端が確認できるものもある。1はSE050暗灰色土出土。2~4はSE075枠内出土。6~22はSE190暗青色粘土出土。

円盤状製品 (5) 9.25×9.4cmの円盤で、厚さ1.4cmを計る。小型の曲物底等に使用されたものか。SE075枠内出土。

5. 小結

当調査区では、遺構面が2面あり、欄列6条、掘立柱建物6棟、溝12条、井戸13基、土坑51基以上その他を検出した。

当調査区で最も古い遺物は縄文時代の土器や石器片で、第157調査と同様、付近に当時の遺跡があった可能性がある。

遺構で古いのは第II面整地層の下で検出した9世紀埋没とみられる土坑 (S-401) ではある。ただ、遺物はさらに古いものがあり、遺構には伴わないものの7世紀後半から奈良・平安時代の遺物が散見される。158SD030黒灰色土出土の畿内産暗文土師器やI9地区茶色土層出土の単弁軒丸瓦なども注目されよう。こうした状況を考えて、付近に当時の遺構が展開していた可能性は十分にある。特に、南に隣接する第157次調査で検出した街区画に伴う溝とみられる157SD205の埋土中に7世紀後半~8世紀初頭の遺物を含むことを考えると、大宰府造営の早い段階からこの付近まで街区が広がっていた可能性も考えておかねばならないだろう。ただ大宰府条坊の東端に位置することもあり、多種多量の遺物を出土する条坊中心部ほどの活発な活動があったわけではなかったと考えられる。

平安時代後期に入り、12世紀中頃から後半になると、遺構・遺物も散見されるようになる。158SB100は2×2間総柱の身舎をもち、身舎の北西に1×1間の張り出しが付属する建物で、出土する遺物から12世紀中頃前後の建物とみられる。北西張り出し部の南には同時期の井戸 (158SE126) もあり、井戸を取り込んだ建物の可能性がある。なおこの他の当時の遺構については十分抽出できてはならず、

不明な部分も多い。出土遺物が細片で陶磁器も少ない遺構の場合、遺構の時期の決定が難しいが、この他にも平安後期の遺構もある程度展開しているものと考えられる。特に調査区北側は、遺構密度が高く平安後期の遺物も散見されることから、小規模な建物等が展開していた可能性はあるだろう。

13世紀に入り遺構・遺物ともかなり多くなる。13世紀後半頃に埋没した遺構が最も多く、活発な土地利用があったことがわかる。出土遺物が細片のため時期が明確ではないものもあるが、建物・井戸・溝・権列の大半がこの当時のものであろう。いずれも正方位を意識しているようで、遺構全体図(Fig.158-1)に示すとおり、比較的整然と区割りされた街並みを検出した。

調査区の南には、第157・138次調査で検出した溝(157SD140(138SD010))が東西に走行しているが、当調査区の中央にも、東西に横たわるように溝(158SD030・001)が相次いで掘削されている。158SD001の両端および158SD030の西端は途切れているとみられるが、158SD001の西延長上には第163次調査(未報告。「VI.まとめ」図5参照。)の東西溝があり、南北を分ける区画溝として機能していたようである。158SA170・175の権列も同様の位置を東西に走行しており、境界として認知されていたことを窺うことができる。建物は15~20㎡程度の小規模のものが多い。なお建物・権列の中には平安後期に遡るものも含まれる可能性もあるが、確定できないものはここに含んでいる。

井戸は、素掘りの井戸(木製の枠や水澄ましが残っていないと思われるものの中にはある)も存在するようであるが(158SE035・093・204)、たいてい曲物を最下位に据えて水澄ましにしたものか、縦板をタガで固定した、いわゆる桶を井戸枠に使用したものかまたは両方を備えたものを採用しているようである。中には直径5~6mほどもある掘り方をもつ井戸もある。158SE050については桶を3段以上組んで作られている。かなり深く掘っているため、必然的に掘り方も大きくなったものと考えられるが、158SE075・158SE190などの井戸枠は浅い位置で検出しており、ここまで大きな掘り方にする必然性はないように思われる。類似した井戸は南に隣接する第138次調査でも検出されているが、こうした大きな掘り方を持つ理由は不明である。なお、井戸の掘削深度に差がみられることは注目される。付近の地盤は下位に砂礫層が広がっており、本調査区付近の狭範囲内では、同時期の地下水位の差はほとんどないと推定することができよう。そうすると、井戸掘削深度は当時の地下水位を示すと考えられ、類似する掘削深度をもつ同時期の井戸は、同時に開口していたとみなすことができるのではないだろうか。今回はこれを踏まえた井戸掘削時期の検討は行っていないが、周辺調査報告が進むに伴い、こうした見地からも整理検討することも、今後の課題としたい。

調査区中央を東西に走行する158SD001から土師器供膳具を中心とした膨大な量の遺物が廃棄されていたことは特筆すべきである。出土遺物の大半が土師器の坏a・小皿a・小皿bで占められる。出土遺物の中には古い遺物もある程度含まれているが、土層観察によると埋没は自然堆積に近い状況で、埋土中にブロック状土塊がほとんど含まれていない。さらに、数層に分層され、層毎に遺物量の多少があることも含めると短期間に土器廃棄・埋没があったとは想定しにくい。また廃棄の範囲が認められ、同時に廃棄されたのはバンケース数箱単位だったことが158SD001黒茶色土層の調査所見から窺える。必ずしも大饗宴が頻繁に行われていたわけではなく、溝の埋没はある程度長期にわたり、その都度少しづつ土器廃棄が行われたと考えている。ただ、このような土師器供膳具の廃棄行為が集中継続した結果としてこれだけの遺物量をほころ土器廃棄遺構となったのである。こうした遺構は、同時代では、鎌倉・博多などの大都市に限られている。このような遺構が検出される背景が中世太宰府にもあったことは特筆すべきであり、多くの人が集まるような場所だったことが窺える。

VI. まとめ

大宰府条坊跡第156・157・158次調査及び周辺の土地利用の検討

各調査についての所見は、各小結で述べた。ここでは周辺調査を含め、最近の調査研究成果に照らしつつ、この地区の土地利用についての所見を述べることにしたい。なお、以下の遺跡名は略称を使用する。大宰府条坊跡第158次調査は「条158次」「条158次調査」などとなる。また、以下に使用する条坊関連用語についてであるが、都城におけるこうした用語を大宰府条坊に適用することは厳密には不適切であるとされているものもある。ただ、こうした用語は大宰府条坊に使用しても親和性が認められるため、あえてここでは使用することにする。

1. 発掘調査を基にした大宰府条坊復原研究の現状

今回報告した条156・157・158次調査が所在する一帯は、大宰府条坊の範囲内と考えられている。

大宰府条坊の復原研究は、鏡山猛氏の研究にはじまる。現在も氏の研究は大宰府条坊を考える上で重要であり、氏の研究に従って発掘調査も進められてきたといえる。

その後、発掘調査成果を取り入れた条坊復原研究も徐々にすすめてきたが、その中でも現在に至る調査の礎となったのが狭川真一氏による大宰府条坊復原の研究である。狭川氏は国土座標を用いた遺構の測量成果を用い、大宰府政庁の中軸線の振れ(G.N.0° 34' 24" E)が条坊域の設計基準でもあったと仮定して、この振れを考慮して条坊内の道路・溝等を計算するという研究手法をとった。この結果、条坊内の道路を路面幅3mで両側に幅1mの側溝をもつというモデルを提示し、この道路幅(5m幅)を除き、条坊一区画の内法が東西89m、南北111mという政庁Ⅲ期条坊一区画モデル案を提示した(狭川(1990))。氏はこの中で、政庁Ⅲ期条坊関連遺構に近接する位置にそれを遡る政庁Ⅱ期段階の道路が存在することも紹介し、条坊の成立が政庁Ⅱ期に遡ることを指摘した。このように測量成果を用い政庁中軸線の振れを考慮して遺構の位置を確定するという狭川氏の手法は、現在の大宰府条坊プラン復原研究の手法として活用されている。

狭川氏の研究および研究手法を受けて、筆者も大宰府条坊の復原を試みている。井上(1997)では、条168・181次調査など左郭1～2坊を東西に細長く調査した事例を紹介し、それまで不明だった左郭での条坊関連遺構(左郭1坊路)の存在を示し、右郭・左郭を問わず同一の間隔(約90m程度)で南北道路が重なって検出されることを推定した。このことから導いて、政庁Ⅱ期における条坊街区設計と政庁中軸線(ひいては第Ⅱ・Ⅲ期政庁・推定朱雀大路)がずれており、街区は政庁中軸線を中軸とした東西対称ではないことを推測した。またこの中で条坊内の宅地割りが東西2ないし4分割(左郭1坊は東西3分割)されている可能性についても示した。

条坊内の調査は緊急調査ながらその後も継続して続けられており、右郭・左郭ともに条坊関連遺構の事例が増加したことから、筆者はあらためて条坊プランについて検討を加えてみた(井上(2001.12))。この際、特に政庁Ⅱ期街区に伴う条坊関連遺構に注目し、坊路の起点を条168次(未報告)検出の南北道路(左郭1坊路)両側溝の溝芯々距離の midpoint、条路の起点を条178次(未報告)検出の東西道路両側溝の溝芯々距離の midpoint とし、これまでの調査で検出されている正方位を向く溝・道路について政庁中軸線の振れを考慮して起点とのそれぞれの距離(坊は政庁中軸線に直交する軸上の東西距離、条は政庁中軸線に平行する軸上の南北距離)を求め、これまでの条坊研究でも推定されていた大尺250尺前後(約88～90m程度)の値を除くという計算を試みた。除して整数が得られるものが多数を占めれば等間隔の区割りが存在したことになるというものである。この結果、約90mで除した時、南北方向の坊痕跡は13地点、東西方向の条痕跡は6地点でほぼ整数値が得られ、その範囲は右郭は最大8坊、左郭は最大12坊、

南北は16条の範囲におよぶものであった。ここで得られた結果から、条坊一区画の設計ラインは250大尺としてはやや広めの、一辺約89.9～90.0mの正方形に復原される可能性があるとした（以下、この条坊復元案を90m条坊案とする。）。また政庁Ⅲ期条坊およびその後の鎌倉時代の溝等もこの復元ライン上あるいは近接する位置で検出される事例が多いことを述べた。このことは、政庁Ⅱ期の街区が政庁Ⅲ期街区や、場所によっては中世の街区まで影響を与えたことを示すといえよう。なお最新の発掘調査成果としては、この復元案に基づく左郭12坊路推定ライン上の条217次調査で、平安中期埋没の南北溝（道路側溝？）1条および平安後期埋没の南北道路（新旧2時期あり）が検出されている（『遺跡だより第48号』）。

この条坊復元案がどこまで有効であるかは今後の条坊内の調査でも検証していかなばならない。また、この復元案が有効であった場合、どの範囲まで広がるのか、また、街区がどう変遷してきたのかについても今後の課題といえる。

2. 本調査区付近の条坊内の位置

さて「1. 調査地の位置と歴史」で述べたように、宇佐神宮関連史料である『八幡宇佐宮御神領大鏡』（以下「宇佐大鏡」とする）の「府中宇佐町」の項を解釈すると、平安時代後期の一般認識として左郭12坊までが大宰府条坊ということが出来るが、本調査区付近は大宰府条坊のどの位置にあったのであろうか。

条坊呼称と具体的な位置が明記された文献史料に、『観世音寺文書』の長徳二（996）年七月二十五日の記事がある。ここには、観世音寺の「寺家門前」の「左郭四条七坊八坊内」に、四至が「東限大野河、南限同河、西限寺大門、北限大路」で示される土地があったことを記している。これはすなわち左郭4条7・8坊の2区画にまたがる観世音寺領があり、その土地の西限は観世音寺の「大門」が所在する左郭4条7坊だったことを示している。そこで、長徳2年を含む政庁Ⅲ期の間をとおして条坊呼称が変わらないものであったと仮定すると、この記事を基に政庁Ⅲ期の条坊内の位置を具体的に復元することができる。なお政庁Ⅲ期条坊案は具体化していないが、前述のように政庁Ⅲ期街区は政庁Ⅱ期街区を踏襲し、ある程度プランが近似していると考えられるため、政庁Ⅱ期街区の設計案である90m条坊案を政庁Ⅲ期街区にも適用させて検討することにする。

そこで90m復元案を地図に重ねると、大宰府政庁の位置を坊数の起点とした場合、観世音寺南大門の前が左郭7坊に位置することがわかる。これにより「観世音寺文書」長徳2年の記事と90m条坊案が合致する蓋然性が高いと考え、観世音寺南大門前を左郭4条7坊として復元したのが図6である。

これにより本報告調査地点をみると、条157次調査区付近に左郭7条11坊の交差点が通り、条156・158次調査は左郭7条12坊の中に位置している。「左郭7条12坊」とは、即ち「府中宇佐町」の位置である。

そこであらためて「宇佐大鏡」の「府中宇佐町」の項にみえる久安四（1148）年十二月十七日の府の下文をみると、左郭7条12坊にある（原文は「在郭七條二防」。これを誤記とする意見に従う。）「府中宇佐町」には「在家二十八家」があり、その四至は「東限京極大路、南限田、西限馬出子午小道、北限馬場」と記されている。この記述によれば、左郭7条12坊全体が「府中宇佐町」だったわけではないことが窺える。「府中宇佐町」の西限は「馬出子午小道」と記されており、東限の「京極大路」と比べると、道の規模とみられる「小道」と「大路」の表記差があることから、前者は坊間路等の条坊内部の南北道路だったのであろう。そうすると「府中宇佐町」は、左郭7条12坊の中でも京極に接した東寄りの位置に所在したことになる。

この中に「在家二十八家」があったとすれば、一家またはその建物の範囲はかなり狭いものだったと想像される。この付近で検出されたほぼ同時期の建物と考えられるのが条158次調査検出の掘立柱建物158SB100である。どこに「馬出子午小道」が通っていたかが問題となるが、いずれにせよ158SB100は

府中宇佐町の在家か、あるいはほぼ近い位置にあった建物だったことになる。また条156次調査検出の溝156SD065もほぼ同時期であり、「府中宇佐町」に何らかの関連のある遺構の可能性がある。

なお、「府中宇佐町」の南限は田となっており、条158次調査で平安時代後期の遺構が北に片寄り、南側に当期の遺構があまり存在しないという所見と重なる。また条157次調査の157SK001（13世紀後半埋没）の埋土中にイネ科の花粉が多量含まれていた。中世には付近が街区であったことを考えると、このイネ花粉はここに持ち込まれた何かに附着しており、それが埋土とともに埋没したと想定できるが、別に、当時の周辺土壌が過去の水田耕作土で形成されており、花粉化石を多量含んでいたため、これが花粉供給源となったか、あるいは花粉を含む土壌そのものが157SK001の埋土となったとも想定できないだろうか。いずれも推測を脱しないため、別の分析手法と併せて今後明らかにしていかなければならない。

3. 大宰府条坊に係わる遺構の検討

今回の調査区において、条坊関連遺構が検出されたのは条157次調査で、埋没時期が8世紀初頭の157SD205および関連遺構とみられる157SD210がこれに該当し、両者は道路遺構と考えている。90m条坊案によると条157次調査区が左郭7条11坊交差点に位置しており、157SD205の屈曲部がこの交差点だと理解できる。なお90m条坊案の7条ラインは157SD210付近を通っており、検出した道路はやや南にずれてはいるが復元案の許容範囲である。ただ、ずれている理由は今後の課題としたい。

この条坊関連遺構は、埋没時期がかなり古いことが注目される。157SD205は灰茶色粘土層という8世紀前半頃の整地層にも覆われており、埋土からも8世紀初頭以前の遺物が出土する。これまで検出された条坊関連遺構の中で古い埋没時期をもつものは、政庁前面の不庁官街域で検出されたSD2340（8世紀前半～中頃）などがあるが、埋没が8世紀初頭に遡る条坊関連遺構の検出はこれが初めてではないだろうか。近年の研究では第11期政庁の造営は8世紀初頭の715～720年頃とされるが、この遺構はこの頃に溝としての機能を終えたことになる。これはすなわち政庁1期に遡る街区に関する遺構の可能性も想定しなければならない。またここは政庁中軸線から約1kmも東の地点であり、当初から広い範囲で街区設計が行われたことも注目すべきである。条158次調査でも、遺構には伴わないものの7世紀後半から8世紀前半頃の遺物が散見され、付近に街区が広がっていた可能性はある。政庁1期に街区が成立した可能性があることを筆者は想定しているが、157SD205・210は具体的に政庁1期併行期の街区が存在したことを窺う示唆的な遺構といえよう。ただ8世紀初頭段階で埋没しており、付近は政庁II期当初の街区には含まれなかった可能性がある。いずれにせよ、街区成立期の状況および街区の変遷については、さらに当期の遺構の検出例の増加を待たねばならないだろう。

なお本報告調査区では、8世紀前半以降遺物量が減り、平安前期の遺物は特に少ない状況にある。平安中期の遺構遺物もごくわずかながら散見されるものの、他所で多くみられる平安後期の土師器丸弁などもあまり出していない。遺物が多くなるのは土師器供膳具の底部切り離しが糸切りになる12世紀前半～中頃以降のようである。奈良時代以前の遺物の方が多く出していることを考えると、11世紀代までは付近の土地利用が少なかった可能性も考える必要がある。周辺調査の整理報告を待ちたい。

4. 条坊区画の中世への影響

条坊関連遺構は前述の157SD205・210以外には検出されなかった。ただ、各調査区とも中世に下る遺構が正方位を向いていることは、中世街区が大宰府条坊の区割の影響を受けていることを物語っていると考える。条157次調査の第II面検出のたまり状遺構群と捉えている遺構群が総じて連続土坑状の道路側溝だったことも考えられなくはないだろう。

そこで、仮に157SD205・210の上に政庁III期の11条道路が存在したと仮定し、157SD205・210の溝心に11条ラインがくるように、前述の90m条坊案を南に6mずらしたのが図5である。

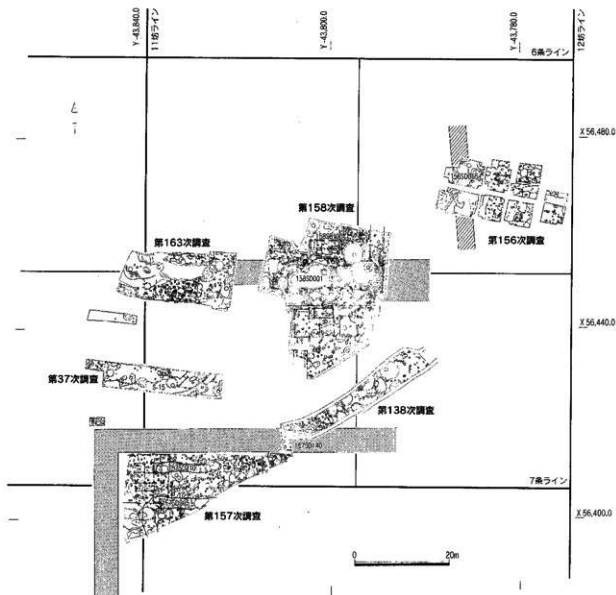


図5 推定条坊区割と大宰府条坊跡第156・157・158次調査および周辺調査 (1/800)

これを基に、平安後期から中世の街区を概観する。

条156次調査検出の156SD065は、東西を4分割する位置に走る南北溝と理解することができる。埋設時期も12世紀中頃であり、これは井上(1997)で指摘したような条坊一区画内の区割りに関する溝(東西1/4分割ライン上)とみてよいだろう。

また13世紀後半の大量土器廃棄溝158SD001付近に条坊一区画の南北を区切るラインが通る。付近にはこの他にも溝や溝列が東西に走行し、またこれに沿って井戸や大型土坑が並んでいるようにも見える。この状況は西隣の条163次調査区にも延長している。これについては条坊一区画を南北に2分割するような境界が存在し、これが中世まで境界意識が働いていたためにここに溝が掘削されたと考えたと理解しやすいのではないだろうか。また、この南側を南北にさらに2分割する位置(南北1/4分割ライン上)の条37次調査区で東西に走行する平安後期埋設の溝状遺構(S-15)がみられ(未報告)、この南側を南北にさらに2分割する位置(南北1/8分割ライン上)に157SD140が東西に走行している。1/8区割が大宰府条坊にあったかどうか定かではないが、こうした状況から、大宰府条坊を下敷きに、この付近の中世の街

区割りがなされた可能性を指摘したい。

なお、中世の街区が大宰府条坊街区を踏襲した事例は、他にも御笠川南条坊や観世音寺付近でも確認できそうである。今後中世街区を考える上で大宰府条坊の影響も考えていく必要があらう。

5. 最後に

本報告調査地点付近を左郭7条12坊とする点については、さらなる大宰府条坊の調査研究の進展が必要であるとする。また大宰府条坊の中世街区への影響も含めて今後の調査研究の進展に期待したい。

<参考文献>

鎌山猛 「大宰府の道路と条坊」『史淵16・17』 1937年（鎌山猛『大宰府都城の研究』風潮書房1968年 所収）
 鎌田元一 「平城遷都と藤原三年格」『律令公民制の研究』角書房 2001年
 宮本雅明 「大宰府の都市」『大宰府古史建築・美術』云編』 1998年
 狭川真一 「大宰府条坊の復興—発掘調査成果からの試案—」『奈良制研究第6号』奈良制研究会 1990年
 狭川真一 「大宰府の遺宮」『古文化談叢第31集』九州古文化研究会 1993年12月
 山村信彦 「大宰府成立論—政庁第11期における大宰府の成立」『牟田裕二君追悼論集』牟田裕二君追悼論集刊行会 1994年
 宮崎光一 「奈良時代の道路と獨立柱建物群。『道路だより第35号』大宰府市教育委員会 1996年12月
 井上信正 「大宰府条坊の区割りについて—発掘調査からの試案—」『奈良制研究第13号』奈良制研究会 1997年
 井上信正 「今は町外れでした」『道路だより第48号』大宰府市教育委員会 2001年7月
 井上信正 「大宰府の街区割り」と街区成立についての予察」『奈良制・古代都市研究連巻17号』奈良制・古代都市研究会 2001年12月 他

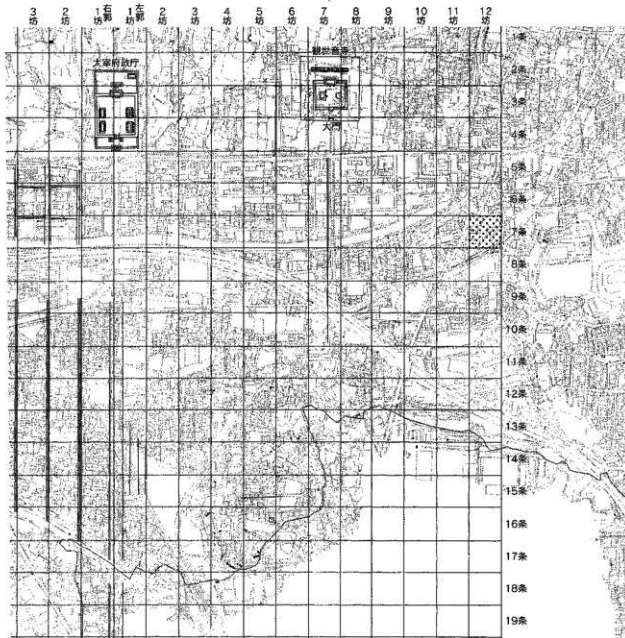


図6 90m条坊案と本報告調査地点

出土銭貨計測表

※銭貨分類は、次の文献を参照した。

永井久美男「日本出土銭総覧」1996年度版 兵庫埋蔵銭調査会 1996

大宰府条坊跡第156次調査

※ 径の単位はcm、重さの単位はg。

遺構名	地区番号	銭貨名	天地外径	天地内径	左右外径	左右内径	厚さ(最大)	重量	備考
S-20	b	□条□□	2.42	2.01	2.45	2.04	0.12	2.9	拓本1
S-26	b	嘉祐通寶(真書)	2.35	1.97	2.37	2.00	0.13	2.4	
S-26	b	□□元寶	—	—	—	—	0.12	—	
S-26	b	皇宋通寶(篆書)	—	—	2.35	2.02	0.09	—	
S-32	b	不明	—	—	—	—	0.12	—	破片
S-45	g	崇寧通寶(当十銭)	3.36	3.11	—	—	0.29	4.8+	拓本6
S-45	g	不明	—	—	—	—	0.11	—	破片
S-45	g	祥符□□	—	—	—	—	0.10	—	拓本2
S-55褐色土	f	元豊通寶(行書)	2.38	1.86	2.39	1.84	0.16	2.9	
S-61	f	景德元寶(真書)	2.57	1.98	2.58	1.99	0.11	2.6	拓本3
S-63	g	□□通□	—	—	—	—	0.14	—	政和通寶とみられる
灰色土	a	熙寧元寶(篆書)	2.44	2.08	2.41	2.09	0.15	3.3	拓本4
灰色土	b	開元通寶	2.43	2.06	2.40	2.04	0.14	—	拓本5
灰色土	g	元豊通寶(行書)	2.47	1.86	—	1.85	0.10	—	

大宰府条坊跡第157次調査

※ 径の単位はcm、重さの単位はg。

遺構名	地区番号	銭貨名	天地外径	天地内径	左右外径	左右内径	厚さ(最大)	重量	備考
S-20茶褐色土	F10	元祐通寶(篆書)	2.49	2.05	2.45	2.03	0.11	—	拓本7
S-21	F21	□□元寶	—	—	—	—	0.12	—	開元通寶とみられる
S-40暗灰色粘土	F9	皇宋通寶(篆書)	2.48	2.05	2.45	2.04	0.10	3.4	
S-40目玉	F9	政和通寶(分階)	2.41	2.01	2.45	2.01	0.12	2.5	拓本8
S-85明茶色土	D8	崇寧通寶(当十銭)	3.43	3.13	3.44	3.13	0.29	7.2	
S-85黒色土	D7	元豊通寶(篆書)	2.20	1.70	2.21	1.76	0.10	0.6	拓本9
S-352	EF5	□□□寶	2.55	1.95	—	—	0.12	—	

大宰府条坊跡第158次調査

※ 径の単位はcm、重さの単位はg。

遺構名	地区番号	銭貨名	天地外径	天地内径	左右外径	左右内径	厚さ(最大)	重量	備考
S-1黒茶色土	GH5	天聖元寶(篆書)	2.53	2.10	2.52	2.06	0.12	—	拓本10
S-1黒茶色土	GH7	皇宋通寶(真書)	2.55	1.88	2.52	1.87	0.10	—	
S-1黒茶色土	GH6	元□□□	—	—	—	—	0.15	—	
S-1黒褐色土	GH6	元豊通□(行書)	2.44	1.82	—	—	0.11	—	元豊通寶とみられる
S-1黒褐色土	GH3~4	皇宋通寶(真書)	2.52	1.94	2.49	2.00	0.11	2.4	實字か異体字。拓本11
S-1暗茶色土	GH7	熙寧元寶(真書)	2.41	2.02	2.41	1.98	0.10	1.9	拓本12
S-1暗茶色土	GH7	熙寧元寶(真書)	2.44	2.07	2.42	2.08	0.13	3.1	
S-1暗茶色土	GH3	聖宋元寶(行書)	2.31	1.94	2.33	1.87	0.12	1.9	拓本13
S-1暗茶色土	GH3	元豊通寶(行書)	2.12	1.84	2.15	1.90	0.13	1.7	縁が削られている。拓本14
S-1暗茶色土	GH3	淳化元寶(行書)	2.23	1.81	2.25	1.81	0.11	2.6	拓本15
S-30黒茶色土	F5	祥化元寶(真書)	2.55	1.93	—	—	0.13	—	
S-30黒茶色土	F7	不明	2.64	—	—	—	0.10	—	破片
S-30黒灰色土b	F7	□□□□	—	—	—	—	0.12	—	
S-75灰茶色土	H3	紹□元寶	2.44	1.69	2.43	1.72	0.10	—	拓本16
S-75暗茶色土	HI2	□和□寶(篆書)	—	—	—	—	0.10	—	至和通寶か
S-75暗茶色土	HI2	聖宋元寶(行書)	2.43	2.04	2.44	2.03	0.14	3.1	拓本17
S-166	J5~6	元祐通寶(行書)	2.39	1.95	2.40	1.95	0.14	2.4	拓本18

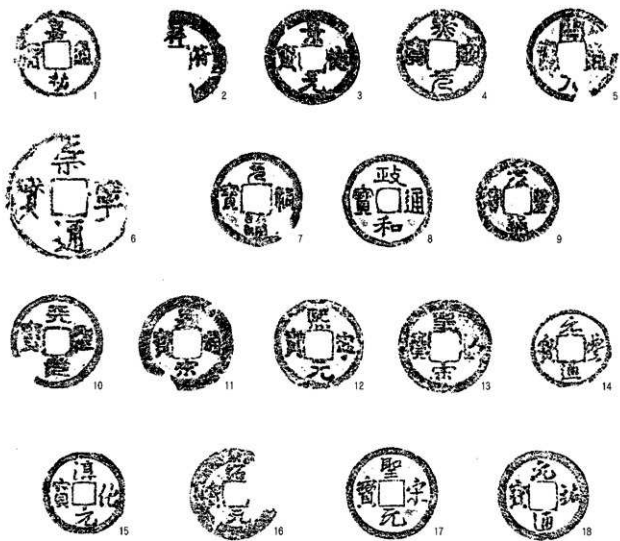


图4 大宰府桑坊跡第156・157・158次調査出土銭貨拓影 (1/1)

大宰府条坊跡第156・157・158次調査標列・独立柱建物・溝の標高・方位一覧

※政庁南門中点からの距離は、政庁中軸線の概れ (G.N.0° 34' 24" E) を考慮し口出している。

大宰府条坊跡第156次調査

遺構名	計測位置	X座標	Y座標	政庁南門中点からの距離 (m)		遺構の方向
				南北距離 (Δx)	東西距離 (Δy)	
156SD25	東端任意中点	56469.150	-43756.650	-228.870	1066.424	G.E.1° 2' 30" N
	西端任意中点	56469.100	-43759.400	-228.948	1063.674	
156SD65	北端任意中点	56474.200	-43772.200	-223.976	1050.824	G.N.2° 23' 9" W
	南端任意中点	56467.000	-43771.900	-231.173	1051.196	
156SX071	北端任意点	56465.470	-43750.970	-232.493	1072.140	G.N.10° 17' 25" E
	南端任意点	56462.000	-43751.600	-235.970	1071.545	

大宰府条坊跡第157次調査

遺構名	計測位置	X座標	Y座標	政庁南門中点からの距離 (m)		遺構の方向
				南北距離 (Δx)	東西距離 (Δy)	
157SB100	身舎北東隅小穴任意点	56411.750	-43835.850	-287.060	987.802	G.N.0° 12' 4" E
	身舎南東隅小穴任意点	56406.050	-43835.870	-292.760	987.839	
157SD080	北端任意中点	56401.000	-43833.810	-297.789	989.949	G.N.3° 40' 42" E
	南端任意中点	56399.600	-43833.900	-299.190	989.873	
157SD085	北端任意中点	56406.600	-43833.470	-292.186	990.233	G.N.1° 25' 56" E
	南端任意中点	56405.000	-43833.510	-293.786	990.209	
157SD110	北端任意中点	56406.750	-43823.250	-291.934	1000.451	G.N.16° 41' 57" W
	南端任意中点	56405.750	-43822.950	-292.931	1000.781	
157SD140	東端任意中点	56413.450	-43808.400	-285.085	1015.234	G.E.3° 4' 39" S
	西端任意中点	56413.700	-43813.050	-284.882	1010.581	
157SD205	北端任意中点	56401.450	-43838.300	-297.384	985.455	G.N.1° 39' 37" W
	南端任意中点	56398.000	-43838.200	-300.833	985.590	
	東端任意中点	56403.300	-43829.000	-295.441	994.736	
157SD210	西端任意中点	56403.400	-43837.000	-295.421	986.735	G.E.0° 42' 58" S
	東端任意中点	56410.650	-43827.350	-288.075	996.312	
157SD210	西端任意中点	56410.800	-43836.200	-288.013	987.461	G.E.0° 58' 16" S
	北端任意中点	56413.050	-43810.250	-285.304	1013.386	
157SD376	南端任意中点	56411.400	-43810.350	-287.165	1013.304	G.N.3° 28' 6" E

大宰府条坊跡第158次調査

遺構名	計測位置	X座標	Y座標	政庁南門中点からの距離 (m)		遺構の方向
				南北距離 (Δx)	東西距離 (Δy)	
158SA160	北端任意中点	56459.640	-43791.700	-238.731	1031.470	G.N.0° 14' 19" W
	南端任意中点	56454.840	-43791.680	-243.530	1031.538	
158SA165	北端任意中点	56458.200	-43788.800	-240.142	1034.385	G.N.1° 43' 42" E
	南端任意中点	56448.920	-43789.080	-249.424	1034.198	
158SA170	東端任意中点	56448.100	-43793.500	-250.288	1029.786	G.E.3° 56' 2" S
	西端任意中点	56448.580	-43800.480	-249.878	1022.802	
158SA175	東端任意中点	56444.860	-43792.340	-253.516	1030.978	G.E.0° 22' 18" N
	西端任意中点	56444.760	-43807.760	-253.771	1015.560	
158SA180	北端任意中点	56443.940	-43799.500	-254.508	1023.828	G.N.2° 21' 36" W
	南端任意中点	56434.720	-43799.120	-263.720	1024.300	
158SA195	北端任意中点	56442.100	-43802.360	-256.376	1020.986	G.N.1° 5' 55" E
	南端任意中点	56434.800	-43802.500	-263.677	1020.920	
158SB100	北東隅小穴任意点	56458.300	-43797.660	-240.130	1025.524	G.E.1° 2' 20" S
	南東隅小穴任意点	56454.440	-43797.730	-244.991	1025.493	
158SB140	北東隅小穴任意点	56444.080	-43804.730	-254.420	1018.597	G.N.2° 7' 29" W
	南東隅小穴任意点	56438.150	-43804.510	-260.348	1018.876	
158SB145	北東隅小穴任意点	56442.500	-43794.190	-255.895	1029.152	G.N.0° 58' 58" E
	南東隅小穴任意点	56438.420	-43794.260	-259.975	1029.123	
158SB150	北東隅小穴任意点	56435.200	-43805.000	-263.302	1018.416	G.N.3° 58' 21" E
	北西隅小穴任意点	56435.400	-43807.880	-263.131	1015.534	
158SB155	北東隅小穴任意点	56451.340	-43809.050	-247.204	1014.204	G.N.2° 46' 13" E
	南東隅小穴任意点	56448.240	-43809.200	-250.305	1014.085	
158SB185	北東隅小穴任意点	56444.300	-43799.580	-254.149	1023.744	G.E.0° 43' 51" N
	北西隅小穴任意点	56444.250	-43803.500	-254.237	1019.825	
158SD001	東端任意中点	56451.040	-43795.400	-247.367	1027.857	G.E.4° 37' 58" N
	西端任意中点	56450.100	-43807.000	-248.423	1016.267	
158SD020	東端任意中点	56455.600	-43805.000	-242.904	1018.212	G.E.7° 11' 57" S
	西端任意中点	56456.560	-43812.600	-242.020	1010.602	
158SD030	東端任意中点	56446.600	-43792.000	-251.773	1031.301	G.E.1° 35' 14" N
	西端任意中点	56446.140	-43808.600	-252.399	1014.706	

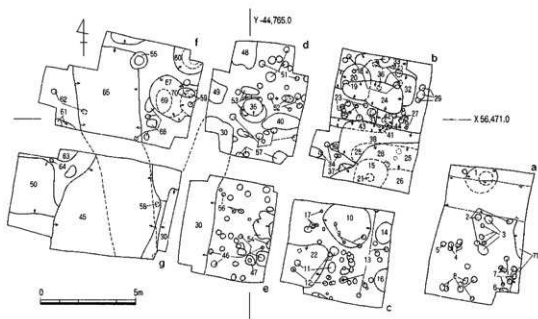


Fig.156-9 大宰府条坊跡第156次調査 遺構略測圖 (1/200)

大宰府糸井跡第156次調査 遺構番号台帳 (1)

S-番号	遺構番号	種別	備考	埋土状況(古→新)	遺構間切台(古→新)	時期	グリッド番号
1	156SD001	井戸	内外に2つの井戸枠あり。 井戸枠はいずれも礎を使用。	灰色土→赤内→灰黒色土		XIX期	a
2		小穴群				13C	a
3		小穴群					a
4		小穴群				13C後～14C	a
5	156SX005	小穴	土器層が、可明瞭あり。			XIX期～	a
6		小穴				13C後～14C	a
7		小穴群					a
8		小穴群					a
9		小穴群			10→9		c
10		たまり状遺構		黒色土→褐色砂	10→9	13C中～	c
11		小穴群					c
12		小穴群					c
13		小穴群				13C後～	c
14		たまり状遺構				13C後～	c
15	156SD015	井戸	内外に2つの井戸枠あり。 井戸枠はいずれも礎を使用。	灰色砂→赤内→2	25→28-15→26	XIX期	b
16		たまり状遺構					c
17		小穴群				平安中～	c
18		小穴群					b
19		小穴				13C後～14C前	b
20		土坑		灰色粘質土+灰白色粗砂	20→18・19・24	13C後～	b
21	156SD015	井戸枠内縁状 礎状土	15の井戸枠	褐色粘質土	25→28-15→26	13C	b
22		小穴群		灰色粘土		平安後～	c
23		たまり状遺構					b
24		たまり状遺構		褐色粘質土	32→24	13C後～14C前	b
25	156SD025	礎状遺構	東西に走行する。	茶色粘質土	25→38→26→15	XIX期～	b
26	156SX026	たまり状遺構		灰黄色粘砂質土	25→28-15→26	13C後～14C	b
27		小穴群					b
28		小穴			25→28-15→26		b
29		小穴群					b
30	156SD030	溝?	南北に走行する	灰色砂→褐色粘土		XIX期	d・e・g
31		小穴					b
32		たまり状遺構		茶色粘質土	33→32→24	XVI期～	b
33		たまり状遺構		赤褐色粘質土(灰・雑土混じり)	33→32		b
34		小穴群				13C～	d
35	156SF035	井戸	井戸枠に礎を使用	黒色土→赤内→灰色土	53の一部分→35	XVII期～	b
36		小穴群			36→24・32・33		b
37		たまり状遺構			37→28		b
38		たまり状遺構		暗灰色砂質土	25・43・39→ 38→28		b
39		たまり状遺構		灰色粘質土	39→38		d
40		土坑		暗灰色粘質土			d
41		小穴			43→41→38		b
42		たまり状遺構			42→24・38		b
43	156SD043	溝		黒色土(焼土・灰多く含む)	43→38・41	XIX～XX期	b
44		小穴群			44→42		b
45	156SX045	たまり	遺物多量含む。平安後期遺物も含む。 45黄色砂・45灰色粘土は、黄色砂層・ 灰色粘土層に由来	暗灰色土→45	48・50・60→45	13C後～	g
46		小穴群					e
47		小穴		灰色土→赤色土		13C前～	e
48		たまり状遺構		灰色粘質土			d
49		土坑					d
50	156SK050	土坑	50黄色砂は、褐色砂層に由来	灰色粘土→50	50→45	XVIII～XX期	d
51		小穴群					d
52		小穴群					d
53		小穴群			53の一部分→35	13C後	d
54		たまり状遺構					e
55		土坑		黒色土→灰色土→褐色土	65→55	13C後～14C前	f
56		小穴群					e
57		小穴群					d
58		小穴			58→45		e
59		小穴群					f
60		たまり状遺構		黒色土→暗灰色粘土→灰色土		13C後～	f
61		たまり状遺構					f
62		小穴					f
63	156SX063	たまり状遺構		粗砂→白色砂→63		XIX期～	g
64		小穴					e
65	156SD065	溝		灰色粘質土(黄白色粗砂混)	65→65	12C中～	f・g
66		たまり状遺構		暗褐色粘質土			f
67		たまり状遺構		黒色土→灰色土	70→67→59	13C後～14C前	f
68		小穴群					f
69	156SD070	井戸枠内縁状 礎状土	70の井戸枠内	茶色粘質土		13C後～	f
70	156SF070	井戸	井戸枠に礎を使用	灰色土→茶色土→赤内→69	70→67	13C後～	f
71	156SK071	溝orたまり	南北に走行する				a

大塚南条坊跡第156次調査 遺構番号台帳 (2)

層位等					
表土	表土				
灰色土層	灰色土層		遺構発出時の人工層位		
黄色砂層	黄色砂層		45黄色砂から変更		6
灰色粘土層	灰色粘土層		45灰色粘土層から変更		6
粗砂層	156S0063 粗砂		63粗砂層に変更		6
白色砂層	156S0063 白色砂		63白色砂層に変更		6

大宰府桑切跡第156次調査 出土遺物一覧表 (1)

S-1灰青色土

土 師 器	環a (イト)、破片
甕草葦系青磁	甕; II-b (1)

S-1枠内

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
甕草葦系青磁	甕; II-b (1)、III-2c (1)
灰青土器	鉢 (束縛系)、片口鉢
白 磁	磁甕; 壺 (1)、甕×磁IX (1)

S-1灰色土

灰 青 磁	破片
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
甕草葦系青磁	甕; ?破片 (1)
灰 青 土 器	鉢 (束縛系)、片口鉢
白 磁	磁甕; 壺 (1)

S-2

灰 青 磁	環、蓋3
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、破片
甕草葦系青磁	甕; II-b (2)
灰 青 土 器	片口鉢

S-3

土 師 器	環a (イト)、破片
甕草葦系青磁	甕; II-b (1)
阿波系青磁	II-b (1)
白 磁	磁甕; IV~VIII (1)、IX (1)
石 製 品	チャート破片
中 国 陶 器	磁甕; c-b (1)

S-4

灰 青 磁	壺
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、破片
白 磁	甕; II-3 (1) 甕; IX (1) 磁甕; 破片 (1)
金 属 製 品	破片

S-5

土 師 器	環a (イト)、環a (別刷)、小皿b
甕草葦系青磁	甕; 破片 (1)
白 磁	磁甕; IX-1 (1)

S-6

土 師 器	環a (イト)、破片
甕草葦系青磁	甕; III-2c (1)、?破片 (1)
石 製 品	玉石
中 国 陶 器	磁甕; 甕I-b (1)

S-7

土 師 器	環a (イト)、小皿a?
灰 青 土 器	破片
中 国 陶 器	磁甕; 甕II (1)

S-8

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、破片
甕草葦系青磁	甕; I (1)
石 製 品	玉石、磁石? (粘板竹)

S-9

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
そ の 他 遺 物	

S-10

灰 青 磁	甕
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
瓦	破片
甕草葦系青磁	甕; I (1)、II-b (2)
灰 青 土 器	破片
白 磁	磁甕; III-2? (1)、IX (1)
石 製 品	磁石
中 国 陶 器	磁甕; 甕×水注 (1)、甕I (1)、D (1)
そ の 他 遺 物	

S-11

土 師 器	環a (イト)、破片
白 磁	磁甕; V (1)

S-12

灰 青 磁	甕、破片
土 師 器	環a、破片
白 磁	磁甕; V-2 (1)

S-13

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
白 磁	磁甕; V (1)
	磁甕; 破片 (1)
そ の 他 遺 物	

S-14

土 師 器	環a、小皿a (イト)
甕草葦系青磁	甕; I-2 (1)、III-2c (1)、破片 (1)
灰 青 土 器	こね鉢 (束縛系)
金 属 製 品	破片

S-15灰色砂

灰 青 磁	破片
土 師 器	環a (イト)、小皿b
甕草葦系青磁	甕; II-b (1)、III-2c (1)
灰 青 土 器	こね鉢 (束縛系?)
灰 青 土 器	こね鉢、すり鉢、火倉
白 磁	磁甕; 破片 (1)
瓦	破片
金 属 製 品	破片

S-15枠内

灰 青 磁	破片
土 師 器	環a (イト)、環a破片、小皿a (イト)
瓦 製 土 器	鉢、片口鉢
石 製 品	玉石

S-16

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、甕
-------	--------------------

S-17

土 師 器	環、甕、甕 (角四石入)
-------	--------------

S-18

灰 青 磁	破片
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、破片
阿波系青磁	甕; I-2b? (1)

S-19

灰 青 磁	破片
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、破片
白 磁	磁甕; IX-1b (1)
瓦	破片
金 属 製 品	鉄釘?

S-20

灰 青 磁	甕、鉢、破片
土 師 器	環a (ヘラ、イト)、環c、小皿a (イト)、大皿a×穴皿a、甕 大皿a
灰 色 土 器	A
甕草葦系青磁	甕; II-b (2)、III-2 (1)
中 国 陶 器	甕 (済波?)
金 属 製 品	銅鏡 (口赤口)

S-21

土 師 器	環a (イト)、破片
阿波系青磁	甕; I-2b (1)
瓦 製 土 器	鉢

S-22

灰 青 磁	甕、壺?
土 師 器	環a (イト)、環a
甕草葦系青磁	破片?
白 磁	磁甕; V (1)、V-4a (1)
瓦	破片
金 属 製 品	磁片

S-23

土 師 器	環a (イト)、環c、小皿a (イト)、甕
石 製 品	石碓 (磨石製)

大府府条坊訪第156次調査 出土遺物一覧表 (2)

S-24

須 恵 器	鏡、鏃
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
瀬 島 系 青 磁	鏡: II-b (1)、III-2c (1)
須 恵 質 土 器	破片
白 磁 類	鏡: V (1)
瓦 質 土 器	鏃: IX (1)、IX-1 (1)、IX-1b (1)
輸入陶磁器 (未分類)	朝鮮系無釉陶器破片 (1)
石 製 品	石錘 (滑石製)、滑石破片
金 属 器 具	鉄片、鉄釘
ガラス (未分類)	香炉か (1)
中 国 陶 器	鏃: 耳壺V×VI (1) 他器種: E (1)

S-25

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
瀬 島 系 青 磁	鏃: I×II (見込み) スタンブ文「田」 (1)、II-b (9) II×III (1)、III-2c (1) 他器種: 小鏡I-1a (1)、鏃? (1)
須 恵 質 土 器	鏃 (東播磨系)
白 磁 類	鏃: VII-1a (1)、IX (2)
土 師 器	伊壁
金 属 器 具	鉄片
中 国 陶 器	鏃: 耳壺 (1)、耳壺VII (1)
そ の 他	灰土塊

S-26

須 恵 器	鏡、鏃
土 師 器	環a (イト)、大环c、小皿a (イト)、鏃?
瀬 島 系 青 磁	鏃: II (1)、II-b (5)、III-1 (1)、III-2 (1)、III-2c (1) 他器種: 埴田 (1)
須 恵 質 土 器	鏃 (東播磨)
瓦 質 土 器	鏃、火倉
國 産 陶 器	鏃 (常滑)
白 磁 類	鏃: VII-1か (1)、VIII-2 (1)、IX (2)、IX-1 (2) 燧石、燧石区画 (1)
瓦	埴田 (埴田印?)、丸瓦破片
石 製 品	埴田破片
金 属 器 具	銅製鏃、鉄釘、鉄製針線鏃、鋼鏃 (漆箱遺物 (高野)、□×□ 型糸通貫鏃 (除著))
中国陶器	鏃: 耳壺 (1)、耳壺か (1) 他器種: A'-b (1)、鏃II (1)

S-27

土 師 器	環、破片 (イト)、破片
-------	--------------

S-28

土 師 器	環a (イト)、环
-------	-----------

S-29

土 師 器	環a (イト)、破片
-------	------------

S-30褐色土

須 恵 器	鏃
土 師 器	環a (イト)、環a (灯明)、小皿a (イト)、小皿b
瀬 島 系 青 磁	鏃: II (1)
瀬 島 系 青 磁	鏃: IX (2)、II-a (1)、II-b (5) 他器種: 埴田3a×c (1)、埴田 (1)、鏃II×IV (1) 鏃? (1)、?破片 (1)
同安宮系青磁	鏃: I-1b×c (1) 鏃: I-2b (1)
須 恵 質 土 器	鏃 (東播磨系)、埴田鏃
瓦 質 土 器	鏃、埴田鏃、火倉
白 磁 類	鏃: IV (1)、V-4a (1)、破片 (1) 鏃: VI (1)、IX-1 (1)、XI (1)
打 製 品	石錘 (滑石製)
金 属 器 具	鉄片
ガラス (未分類)	破片 (大型品の底部か) (1) 大型品白線破片 (青磁×滑石製) (1)
中 国 陶 器	鏃: 破片 (1) 鏃: I×III (1) 他器種: 鏃I×II (1)、A'-b (1)

S-30灰色砂

須 恵 器	破片
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
瀬 島 系 青 磁	鏃: II-b
同安宮系青磁	鏃: 破片 (龍泉×陶史) (1) 鏃: I? (1)
瓦 質 土 器	破片
瓦	破片 (埴田印)
石 製 品	石錘 (滑石製)
中 国 陶 器	他器種: 鏃II (1)

S-31

土 師 器	環a、小皿a (イト)、鏃
-------	---------------

S-32

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
瀬 島 系 青 磁	鏃: II-b、鏃II (1)
瓦	破片
石 製 品	and-f

S-33

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
瓦	破片 (埴田印)
そ の 他	焼土塊

S-34

須 恵 器	破片
土 師 器	小皿a (イト)、破片
白 磁 類	燧石、埴田 (1)

S-35灰色土

須 恵 器	破片
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、鏃
瓦	破片
同安宮系青磁	鏃: I-1b (1)
打 製 品	滑石破片
中 国 陶 器	他器種: 小鏡I-2 (1)

S-35砂内

土 師 器	環a、破片
白 磁 類	鏃: V-4×VII-1'×3 (1) 鏃: IX-1 (1)
破 片	破片 (1)
中 国 陶 器	他器種: B'-b (1)

S-35黒色土

土 師 器	小皿a (イト?)、イト
石 製 品	滑石破片
金 属 器 具	鉄片

S-36

須 恵 器	環
土 師 器	環a (イト)
そ の 他	焼土塊

S-37

土 師 器	環a
-------	----

S-40

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
瀬 島 系 青 磁	鏃: I (1)
須 恵 質 土 器	鏃 (東播磨系)
瓦 質 土 器	鏃
國 産 陶 器	鏃 (常滑)

S-41

土 師 器	環a (イト)
須 恵 質 土 器	鉄釘
金 属 器 具	鉄片

S-42

須 恵 器	破片
土 師 器	環a (イト)、破片
瓦	燧石

大宰府系坊第156次調査 出土遺物一覧表 (3)

S-43

遺 意 物	壺
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
甕系系青磁	碗: B-b (1)
同安室系青磁	碗: I-2b (1)
瓦 質 土 器	破片
土 製 品	土玉
瓦	瓦片
金 屬 製 品	刀子片
中 西 陶 器	磁器種: B (1)、盤1 (1)

S-44

土 師 器	环a (イト)、小皿a、破片
中 西 陶 器	磁器種: 壺1 (1)

S-45

遺 意 物	坏身、器、瓶、破片
土 師 器	环a (イト)、坏 (灯明)、柄c、小皿a (イト)、小皿a (灯明)
瓦	小皿b、羽籠、罎、大甕、罎
土 師 器	小皿
甕系系青磁	碗: I (5)、I-2 (4)、I-4a (1)、I-6b (1)、II (7)、II-a (2)、II-b (17)、II-c (1)、II-2 (4)、II-2c (3)、破片 (1)
同安室系青磁	碗: I (2)、I-1a (1)、I-1b (2)、破片 (甕象×同安) (1)
瓦 質 土 器	鉢: I (1)、I-2b (1)
瓦 質 土 器	鉢 (茶湯系)、すり鉢、片目鉢 (茶湯系)
瓦 質 土 器	鉢、片目鉢
陶 産 物 器	罎 (茶湯) (1)、罎 (2)
白 磁	碗: II-1 (1)、IV (1)、IV-1a (2)、V (1)、V-4b (1)、V-4XVIII-1-3 (1)、V×VI (1)、V~VII (1)、VIII (2)、IX? (1)、X-2b (1)、破片 (5)
白 磁	碗: B×III (1)、II-1 (1)、V×VI (1)、VII (2)、IX (4)、IX-1 (4)、IX-2 (1)、X-b (1)、破片 (2)
白 磁	香爐: 輪文圓IX (3)、香 (1)、香b (1)、IX類口蓋 (1) 耳帯 (1)、破片 (5)
青 白 磁	皿×III (1)
輸入陶磁器	青銅小瓶? (1)
瓦	瓦 (釘穴あり) (磁器用)、新平瓦 (磁器用式地用)、瓦玉
石 製 品	石鏡 (滑石製)、滑石破片、砥石
金 屬 製 品	鉄片、鉄釘、銅線 (漆器埋藏) (当土製)、押釘口、壺1点
中 西 陶 器	壺: 四耳壺 I×VI×VII (1)、破片 (1)
白 磁	鉢: I-1a (1)、IV-1 (1)
白 磁	碗: 破片 (1)
白 磁	佛器種: III (1)、蓮×水注 (1)、壺1 (1)、A'-a (1) A'-b (4)、B'-b (1)、c-b (1)、F (1)
そ の 他	焼土片

S-45磁灰白土

遺 意 物	壺
土 師 器	环a (イト)、小皿a、小皿b
甕系系青磁	碗: I (1)、IXII (1)、II-b (1)、II-2c (1)
同安室系青磁	碗: I (1)
瓦 質 土 器	破片
中 西 陶 器	磁器種 (茶湯)? (1)
白 磁	碗: IV~VII (1)
白 磁	碗: VIII-IXI (1)、IX (1)
白 磁	壺: 香爐片 (2)
白 磁	?破片 (1)

S-46

遺 意 物	破片
土 師 器	环a (イト)
金 屬 製 品	鉄釘

S-47灰白土

土 師 器	环、破片
甕系系青磁	碗: B-b (1)

S-48

土 師 器	环a (イト)、破片
白 磁	碗: VII-2b (1)
中 西 陶 器	罎: 破片 (1)

S-49

前 土 師 器	壺、破片
土 師 器	环a (へた?、イト)
甕系系青磁	碗: I (1)
瓦 質 土 器	鉢
金 屬 製 品	茶注

S-50

土 師 器	环a (イト)、坏 (灯明)、小皿a (イト)、小皿b、小皿c、坏c×小皿c、罎、煎釜
瓦	破片
甕系系青磁	碗: I×I×5 (1)
甕系系青磁	碗: I (2)、I-2 (1)、II (1)、II-b (7)、II-c (1) II×II (1) II-2 (2)、破片 (1)
同安室系青磁	碗: 破片: 小皿 (1)
同安室系青磁	碗: I-1 (1)、I-1b (2)
瓦 質 土 器	鉢、茶湯系
瓦 質 土 器	鉢、破片
中 西 陶 器	罎 (茶湯)
白 磁	碗: 破片 (1)
土 師 器	碗: IX (2)、IX-1 (1)、IX-1b (1)
瓦	破片 (香土注 (1)、?香土注 (1)、破片 (1))
土 製 品	牛蒡用貝破片
瓦	破片 (椅子脚)、破片、瓦玉
金 屬 製 品	鉄片、鉄釘、鉄製埋藏品
中 西 陶 器	鉢: I (1)、I-1b (1)、I-2a (1)
白 磁	碗: 破片 (1)
白 磁	佛器種: 香×水注 (1)、小皿-2 (1)、壺1 (1)
白 磁	洗土罎

S-50灰白土

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
甕系系青磁	碗: I-4a (1)
同安室系青磁	碗: I (1)
白 磁	碗: IX (1)

S-51

土 師 器	环a (イト)、破片
-------	------------

S-52

土 師 器	环a (イト)、破片
瓦	瓦玉等

S-53

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、破片
-------	---------------------

S-54

土 師 器	环a (イト)、破片
-------	------------

S-55色土

土 師 器	环a (イト)
金 屬 製 品	銅銭 (元徳通寶 (行書))

S-55灰白土

土 師 器	环a (イト)、破片
瓦 質 土 器	こね鉢 (茶湯系)
白 磁	碗: IX (1)、IX-2 (1)、破片 (1)

S-55灰白土

土 師 器	环、小皿a (イト)、破片
-------	---------------

S-56

土 師 器	小皿a (イト)、破片
-------	-------------

S-57

遺 意 物	罎、蓋?
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、罎
甕系系青磁	碗: I-4a (1)、II-b (1)
白 磁	罎: 破片 (1)
中 西 陶 器	磁器種: E (1)

S-58

土 師 器	坏破片、破片
-------	--------

S-59

遺 意 物	罎
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、罎
瓦 質 土 器	鉢
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	香爐: 破片 (1)

大宰府条坊跡第156次調査 出土遺物一覧表 (4)

S-60灰色土

土 師 器	坏a (イト)、坏 (打物)
土 師 器	破片
龍泉窯系青磁	碗: II-2 (1)
瓦 器	土 器
白 磁	磁 皿: IX-1 (1)
石 製 品	玉 石
中 國 陶 器	他器類: A'-a (2)
そ の 他	土 塊

S-60暗灰色粘土

土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗: II-b (1)
国 産 陶 器	常備?

S-60灰色土

須 恵 御 器	
土 師 器	坏a

S-61

土 師 器	坏a (イト)、小皿a、銅
須 恵 質 土 器	
白 磁	碗: V-4XII-1-3 (1)
	※胎: 赤×水注 (1)
金 属 製 品	銅鏡 (淨物元履 (真器))

S-62

龍泉窯系青磁	碗: II-b (1)
--------	-------------

S-63

須 恵 御 器	
土 師 器	坏a (イト)、坏a (打物)、小皿a (イト)、小皿b
瓦 器	陶 器
龍泉窯系青磁	他器類: 飯皿 (1)
河安窯系青磁	碗: I-1b (1)
白 磁	磁 皿: IX-1 (1)
金 属 製 品	銅鏡 (□□□□)

S-63白色砂 (肌、白砂)

土 師 器	坏a (イト)
-------	---------

S-63粗砂 (肌、粗砂)

土 師 器	坏a (イト)
-------	---------

S-64

土 師 器	坏a (イト)、破片
-------	------------

S-65

須 恵 御 器	甕、碗、破片
土 師 器	坏a (イト)、碗c、小皿a (イト)、甕a
瓦 器	陶 器
龍泉窯系青磁	碗: I (2)、I-2 (1)、I-6 (1)
河安窯系青磁	碗: I-1 (1)、I-1b (4)
	皿: I (2)
須 恵 質 土 器	片口鉢、破片
国 産 陶 器	常備 (1)
白 磁	碗: II-3×4 (1)、V (2)、V~VII (1)、V×VIII (1)
	破片 (2)
	皿: II×III (1)
	香筒: 破片 (1)
瓦 器	平瓦 (隅田明)、丸瓦破片
石 製 品	石 鏡 (滑石製)
金 属 製 品	鉄釘、鉄線?
中 國 陶 器	他器類: 皿 (1)、水注V-2 (1)、盤I'-a (2)、A'-a (1)
そ の 他	土 塊

S-66

土 師 器	坏a (イト)、破片
龍泉窯系青磁	碗: I-4a (1)
瓦 器	瓦 破片
中 國 陶 器	鉢: I (1)

S-67灰色土

須 恵 御 器	甕c、破片
土 師 器	坏a (イト)、坏a (打物)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗: I (1)、II-2c (1)
	他器類: 坏皿-3b (1)
須 恵 質 土 器	鉢
国 産 陶 器	常備 (1)
白 磁	碗: 破片 (1)
	皿: IX (1)
石 製 品	石 鏡 (滑石製)

S-67灰色土

土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗: III×水注 (1)
河安窯系青磁	皿: I (1)
須 恵 質 土 器	破片
白 磁	碗: IX (1)
中 國 陶 器	他器類: 甕×水注 (1)

S-68

須 恵 御 器	
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗: II-b (1)
金 属 製 品	銅押、鉄釘

S-69

土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗: II-b (1)
須 恵 質 土 器	鉢?
白 磁	磁 皿: IX (1)
瓦 器	陶 器
石 製 品	石 鏡 (滑石製)
金 属 製 品	鉄片

S-70年内

須 恵 御 器	
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)
瓦 器	破片
龍泉窯系青磁	碗: II-b (1)
河安窯系青磁	碗: I-1b (1)
白 磁	磁 皿: IX (4)
	香筒: 破片 (1)
白 磁	芥子蓋 (1)
須 恵 質 土 器	須 恵 質 灰陶器

S-70灰色土

土 師 器	坏a (イト)
龍泉窯系青磁	碗: II-b (1)
	他器類: 坏皿-4 (1)
須 恵 質 土 器	鉢
白 磁	皿: IX-1c (1)
瓦 器	瓦 破片

S-70灰色土

土 師 器	坏破片
瓦 器	瓦 破片
龍泉窯系青磁	除胎碗: 飯皿c (1)
瓦 器	瓦 破片 (隅田明)

表1

須 恵 御 器	
土 師 器	坏a (イト)、小皿b、甕
龍泉窯系青磁	碗: I-2 (II)、I-4 (1)、I-4a (1)、II-b (3)、破片 (1)
	他器類: 坏皿-2b (1)
河安窯系青磁	碗: I-1a (1)、I-1b (2)
	皿: I-1b (1)、I-2b (1)
上 野 質 土 器	鉢
須 恵 質 土 器	鉢 (東條系)
瓦 器	土 師 御 器
白 磁	碗: V-4×VIII-1-3 (1)、VIII (1)
	皿: IX-1 (1)、破片 (1)
	香筒: 赤×水注 (1)、甕 (1)、破片 (1)
黒 製 陶 器	天日陶 (2)
藤 戸	入子 (1)
国 産 磁 器	小瓶? (奈良~) (1)、瓶 (透骨~) (1)
上 野 質 土 器	陶 器
瓦 器	平瓦破片、破片 (6×5L)
石 製 品	軽石、滑石加工品
中 國 陶 器	甕: 耳甕 (1)
	甕、破片 (1)
	他器類: 赤×水注 (1)

大宰府発跡第156次調査 出土遺物一覧表 (5)

灰色土器

須 恵 器	弁c、廉c、梗
土 師 器	坪a (イト) (灯明) (高さ1cm程度)、坪c、小皿a (イト)、小皿c、小皿c、蓋a、蓋?、高台破片、大樽蓋
瓦	類c?、蓋?
藤原實系内棺	類1 (1)
藤原實系内棺	類1 (1) 2)、I-1 (3)、I-2 (5)、I-3 (1)、I-4 (2)、I-8a (1) (4)、II-a (5)、II-c (2)、III (1)、II-b (4) (6)、III-2 (2) III-2B+c (1)、III-2c (4)、破片 (7) 類1? (1)、I×II (1) 巻掛鉢：小皿 (2)、?皿 (1)、坪皿 (1)、坪皿-1 (1) 坪皿-2×3 (3)、坪皿-3b (1)、坪皿-3b×備 (1)、坪皿-4 (1) 坪皿-4b (1)、蓋皿 (1)、皿×備 (1)、破片 (4)
阿安實系内棺	類1-1b (6)、I-1 (3)、I-1c (1)
	類1 (3)、I-1 (1)、I-2b? (1)
瓦	類：?皿-1? (1)
土 師 瓦 土 器	すり鉢、火舎
須 恵 瓦 土 器	こね鉢 (東博系)
瓦 質 土 器	こね鉢、片鉢、煎
阿 安 陶 器	類 (燈油) (1)、蓋 (1)
百	類：II (1)、IV (3)、IV-1a? (1)、IV-1a (2)、IV-1b (1)、V (2)、V-2 (2)、V-4b (1)、V-4×VII-1-3 (5) V×VII (3)、V×VIII (1)、VIII (1)、VIII-0 (1)、IX (2) IX-2 (1) 破片 (13) 類：II×III (2)、III-1 (3)、III-2 (1)、VI-1 (1)、VI-1b (1) IX (9)、IX-1 (5)、破片 (3)、?破片 (1) 蓋物：蓋 (2)、鉢皿 (1)、機×蓋皿 (4)、破片 (3) ※×水注
青 白 磁	燈? (1)、合子鉢 (1)、陶蓋 (1)、破片 (1)、?破片 (1)
短蓋首 (輸入)	物部系陶胎陶器
瀬 戸 瓦	?蓋 (1)
阿 安 磁 器	蓋 (近江中) (1)
土 製 品	伊波
瓦	類 平瓦 (いぶし) (碓子町)、破片 (奥目町)
石 製 品	石鉢 (5石製、割なし)、群石、玉布
金 銀 銅 品	鍍洋、鉄釘、鉄片、鉄製紡錘車、銅鏡 (原平、心貫 (鎌倉) 御心鑑裏、元氣遺言 (行芳))
中 国 陶 器	類：※×水注 (4)、破片 (5) 鉢：I-1b (2)、I-2 (1)、III×VIIa (1)、IV (1)、VI-1 (1) 破片 (2) 瓦：破片 (2)、II (1) 巻掛鉢：類1 (1)、類1-b (2)、蓋皿 (1)、小皿1-2 (1) A-a (1)、A-b (1)、B-b (1)、c-b (2)、F (3)

黄色砂器 (II、S-45黄色砂)

土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、破片
藤原實系内棺	包巻類：破片 (1)
瓦	類c? (1)
金 銀 銅 品	鉄片

黄色砂器 (II、S-50黄色砂)

土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)
中 国 陶 器	包巻類：A-b (1)

灰色粘土器 (II、S-45灰色粘土)

土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)
-------	------------------

青トレンチ

土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、破片
-------	---------------------

Z1

土 師 器	坪a (イト)
-------	---------

Z2

土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、破片
-------	---------------------

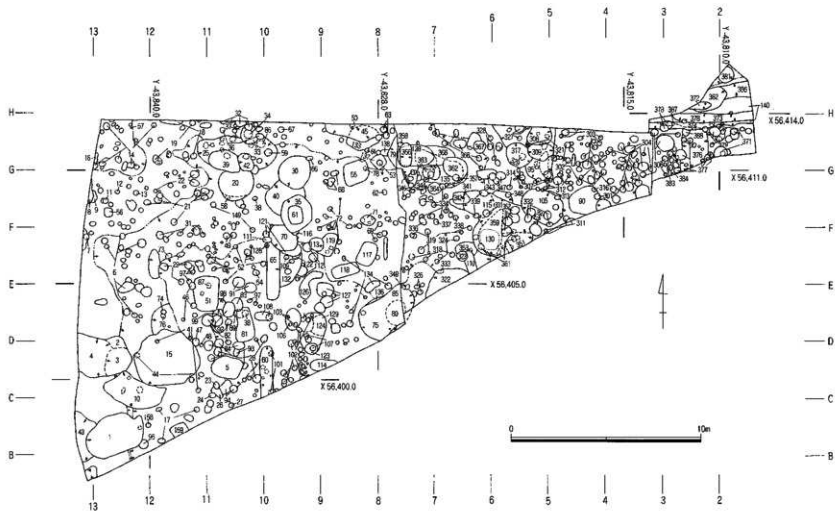


Fig.157-17 大塚府桑坊跡第157次調査 第I遺構面略測図(1/2000)

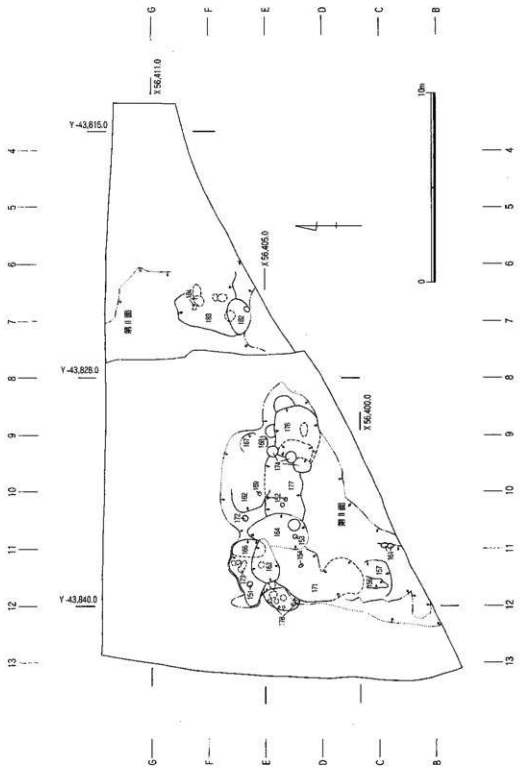


Fig.157-17 大宰府桑坊跡第157次調査 第Ⅱ遺構面略測図 (1/200)

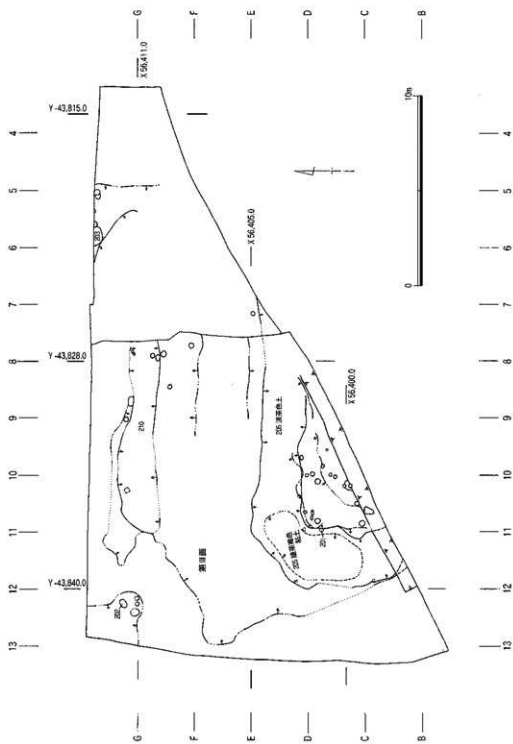


Fig.157-19 大宰府条坊跡第157次調査 第Ⅲ遺構面略測図 (1/200)

大宰府糸紡跡第157次調査 遺構番号台帳 (1)

第1画 (西区)

S-番号	遺構番号	種別	備考	現上状況 (古→新)	遺構群区分 (古→新)	時期	地区番号
1	157SK001	土坑	43と写 遺構とみられる	43→茶褐色土→灰色粘土→黒色土→黄灰色土	96→1	XV前期～	B12
2	157SK002	土坑	3・4も写→遺構、なお10・15は明確と考えている	4→3→2	3→10	13C11～後	C12～13
3	157SK002	土坑	2の遺構の一部				C12
4	157SK002	土坑	2の遺構の一部				C12～13
5	157SK005	土坑		黒灰色砂		13C中～後	C10
6	小穴群	157SB100の一部を含む		黒灰色土			D612
7	小穴	157SB100の一部を含む		黒灰色土			E13
8	小穴			黒灰色土	8→8		F13
9	小穴			黒灰色土	9→8		F12
10	157SK010	土坑		黒灰色砂質土			D612
11	小穴			黒灰色土			F12
12	157SB100	小穴	157SB100の一部	黒灰色土			F12
13	小穴						F12
14	小穴群	157SB100の一部を含む					G12
15	157SK015	土坑		黒灰色土→茶褐色土	44→15	13C中～	C11～12
16	小穴			黒灰色土			G12
17	小穴						B11
18	小穴群	157SB100の一部を含む		黒灰色砂質土			G11
19	小穴群	157SB100の一部を含む					G11
20	157SK020	井戸	水遣まじりに遺物を使用。	茶褐色土→黒灰色土→黄灰色粘土→黒灰色粘土→茶褐色土→黄灰色土	25→58(100)→20→39→42	13C中期	F10
21	小穴群	157SB100の一部を含む					F11
22	小穴群				26→23		F11
23	小穴				26→23		C10
24	小穴				26→23		C10
25	たまり状遺構			淡茶褐色粘質土	98→25→100→39→33→42→59	G10付添	
26	小穴				26→23・24		C10
27	小穴						C10
28	小穴群						C10
29	小穴群	包圍層と小穴群 157SB100の一部を含む		黒灰色土			F11
30	157SK030	井戸	水遣まじりに遺物を使用。	灰土→灰色砂→茶褐色粘土→灰赤色砂→茶褐色粘土→黄褐色砂	40→30→66	12C後～13C	F09
31	小穴群	157SB100の一部を含む		淡茶褐色粘土			E11
32	小穴群	157SB100の一部を含む					G10
33	土坑			明茶褐色土			G10
34	小穴			茶褐色土	34→33		G10
35	157SK035	井戸	井戸中に遺物使用。	内灰粘土→黄褐色土→黄褐色土→灰粘土→黄褐色土→灰粘土→61	70→115→35→40→35	13C後～	F9
36	小穴群						G10
37	土坑			灰赤無色土			G10
38	157SB100	小穴	157SB100の一部				F10
39	土坑				20→100→39		G10
40	157SK040	井戸		茶色砂層→白土→暗茶色粘土→灰色砂→黄褐色土→灰粘土	60→30・35	13C後～	F9
41	小穴群						C11～12
42	土坑状遺構	たまりの可能性もあり			42→20		G10
43	157SK001	土坑	1と同一遺構とみられる。	43→1		13C	B13
44	小穴群	157SK002とみられる			44→15		C11～12
45	157SK045	たまり		黒灰色土→黄褐色土	50→133→45→63	13C後～	G8
46	小穴群						D11
47	小穴						C11
48	小穴						C11
49	小穴群	157SB100の一部を含む					E10
50	157SK050	土坑	井戸の可能性あり、遺物はほとんど出していない。	淡茶褐色粘質土 (黄色プロッタを多量に含む)	50→133→45	13C後以降	G8
51	土坑				87→98→51		D610～11
52	小穴群						E10
53	小穴	137と同一遺構、137の柱根か		黒褐色土	137→53	11～12C中	C7～8
54	小穴			黒灰色土			E10
55	157SK055	土坑		黒色砂質土	78→85	13C後	F12
56	小穴						G12
57	小穴						
58	157SB100	小穴	157SB100の一部、20灰色土の下層で検出した。		58(100)→20		F10
59	小穴				25→58		C9
60	157SD060	溝	南東隅、65と一連の溝とみられる。東西方向の区割りに関する溝か。	明茶褐色粘土	101→60	12～13C	C9
61	157SK035	井戸群内遺構跡		黒灰色砂質土			F9
62	小穴						F7
63	小穴群				45→63		G7
64	小穴				74→64		G8
65	157SD065	溝	南東隅、60と一連の溝とみられる。東西方向の区割りに関する溝か。	黒灰色粘質土	128・132→65→70	12～13C	D69

大宰府築坊跡第157次調査 遺構番号台帳 (2)

第1圖 (西區)

S-番号	遺構番号	種別	備考	現状状況 (古→新)	遺構調査年 (古→新)	時期	地区番号
66		小穴			30-66		G9
67		小穴					G9
68		小穴群					F8
69		小穴群					RF7-8
70	167SK070	土坑 (井?)	井戸の可能性あり	褐色色砂→暗灰色粘土→茶灰色土→灰茶色砂 黒色土 (混合含む)	65・121-70-35	XXI期-	E9
71		小穴					F8
72		小穴群					F8
73		小穴					E11
74	167SB100	小穴	157SB100の一部		74-64		D11
75	167SK075	たまり	S-80・85・349を覆う層。茶色土層とは層上は異なる。		85-80・349-75	13C中～後	D7
76		小穴		明茶色土			D11
77		小穴群					D10
78		小穴	55跡去後埋出		78-66		G8
79		土坑	135と同一段階	灰茶色土→明黄緑色土			G7
80		土坑		黄褐色土	85-80-75	13C中～後	D7
81		土坑			88(100)-81		D10
82		小穴群					D10
83		小穴					D10
84		小穴					C10
85	167SK085	土坑		灰茶色土→灰褐色土→黒色土→明茶色土	85-80-75	XVII期後	D7-8
86		小穴	25跡去後埋出		86-25		G10
87		小穴	51跡去後埋出		87-51		D10
88	167SB100	小穴	157SB100の一部		89-88-81		D10
89		小穴			89-88		D10
90	167SK090	土坑		増黄褐色土→黄褐色土	90-301・316	XVII期前	F4
91		小穴群					DE10
92		土坑	たまりの可能性もあり。		92-99(100)-82		D10
93		小穴群					C10
94		小穴群					C10
95		土坑		暗茶色土	321-65-307・308・317	XVII期前	FG5
96	167SK096	小穴	遺物多い		96-1	XVI<XVII期前	B12
97		小穴群					E11
98		土坑			98-51・82・92		D10
99	167SB100	小穴	157SB100の一部		98-82・82		D10
100	167SB100	独立柱礎物	身倉が9×3間建柱礎物。三隅(あるいは四隅)に跡がまわる。		100-20		D-G10-13
101		小穴群			101-60		C9
102		小穴群					C9
103		小穴群			106-104-103		D9
104		土坑			106-104-103		D9
105		土坑		灰茶色粘土→灰茶色土	105-532	13C中～後	F4-5
106		小穴		明茶色土	106-104-103		D9
107		小穴群			124-107		D9
108		小穴					D9-10
109		小穴群					E9
110	167SD110	溝状遺構	法蓮堂北に平行。巨溝溝か。	明茶色土	70-111	平安後～中世	E9
111		小穴					E9
112		小穴群			119-115		E9
113		小穴					E9
114		土坑					C8-9
115		土坑		灰色粘土→黄褐色粘土→暗灰色砂	115-351		P6
116		小穴			70-118-35		E9
117		土坑		増黄褐色土			F8
118		土坑		茶灰色粘土			E8
119		土坑?		赤灰色粘土	119-113		E8
120	167SK120	土坑	黄赤土坑とみられる	灰褐色土→黄褐色土	368-120-356	XXI期-	G7
121		小穴群			121-70		E9
122		小穴			132-122-121		E9
123		小穴		白黄色粘土	124-123		C9
124		たまり状土坑		明茶色粘土	129・131-124-107・125		D9
125		土坑		黒褐色土 (混合含む)	130-125-350-351	13C後～	EP5-6
126		たまり		明茶色粘土			DF5
127		小穴群					D6
128		小穴			128-65		F9
129		小穴	124跡去後埋出		129-124		D9
130		土坑		明黄褐色土 (砂質が強い、混合含む)	130-125		E5-6

大宰府乗坊跡第157次調査 遺構番号台帳 (3)

第1區 (西区)

S-番号	遺構番号	種別	備考	地上状況 (西→東)	遺構開口台 (西→東)	時期	地区番号
131		小穴	124跡を被覆す		131~124		D9
132		土坑			132-65→109	13C後~	B9
133		土坑			50→133-45	13C後~	G8
134		小穴群					DE7~8
135		土坑	79と同一遺構	灰茶色土→明褐色土上	135→120・344・345・362・364・368	13C中~後	FG6~7
136		85の一部か?		灰褐色土 (灰層かを含む)			D8
137		小穴	53と同一遺構		137-53	11C~12C+	G7~8
138		小穴					G7
139		穴跡					-
140	157SD140	溝	東西に走る大溝。堀の縁部を引す。第136SD10と同一遺構である。	灰褐色土→灰褐色砂→灰褐色土→新褐色土上	140→373・374・386・376	平安後期~13C中+	HI1~3
141~148		穴跡					-
149		小穴群					F10
150		穴跡					-

第2區 (西区)

151		小穴					E11
152		小穴群					D10
153		小穴					D10
154		小穴			171→154		D11
155		穴跡					-
156	157SX156	たまりか?	窪地	灰褐色土	157→156		HC11
157	157SX157	たまり泉遺構	窪地	灰褐色土	167→156		BC11
158		小穴	前川の遺構				B12
159		小穴	前川の遺構				B12
160		穴跡					-
161		小穴群	前川の遺構。南側小穴は17と同一遺構		灰褐色土上層-161		B10
162		たまり泉遺構	窪地か?		169→162	平安後~	E10
163		砂地		灰褐色砂質土		平安後~	DE10~11
164		たまり	窪地	灰褐色粘土 (砂混じり)		平安後~	DE10
165		穴跡					-
166		たまり	窪地	赤色粘土 (層下部に暗褐色色砂質土ブロックを含む)		平安後~	E11
167		たまり泉遺構	窪地か?				F9
168		小穴					B9
169		小穴			169→162		E10
170		穴跡					-
171	157SX171	たまり	窪地。177と一連の遺構とみられる	暗灰色粘土	171→154・164	平安後~	D11
172		小穴	前川の遺構。52の一部の可能性あり				E10
173		小穴	166の下層	灰褐色粘質土ブロック、黄色土			E11
174		小穴群			176→177→174→灰褐色砂土層	平安後~	D9
175		穴跡					-
176	157SX176	たまり	窪地	暗灰色砂質土		平安後~	D8~9
177	157SX177	たまり	窪地。171と一連の遺構とみられる		177→176	平安後~	D9~10
178		小穴群		暗褐色粘質土の灰褐色砂		平安後~	D11
179		穴跡					-
180		穴跡					-
181		小穴	前川の遺構 337	赤褐色土			F7
182		たまり	窪地	暗灰色砂質土			DE~7
183		たまり	窪地	赤褐色土 (砂質土塊)			DE9~7
184		小穴群		灰褐色粘土 (砂質土塊)		奈良後~	F8

第3區 (西区)

201		小穴	上層の掘りのこしとみられる	灰褐色土、灰褐色土、砂が混じる	201→205		C10
202		小穴	上層の掘りのこしとみられる				G12
203		たまり泉遺構	上層の掘りのこしとみられる	灰褐色土		平安後~	G5
205	157SD205	溝	溝の内で土字に折れ、東および西に北行。東折区画の痕跡とみられる。S-210とともに遺跡区画となるか	暗褐色粘土上→灰褐色土		39C前	BCD8~11
210	157SD210	溝	東西に走行。埋土はS-205に類似。東折区画の痕跡とみられる。S-210とともに遺跡区画となるか。	暗褐色粘土			FGクイン

第4區 (中央区)

301		小穴			90→301		F4
302		小穴群		暗褐色粘土			FG4
303		小穴群		暗褐色シルト土			G4
304		小穴群		暗褐色シルト土			FG3
305		穴跡					-

大宰府条坊跡第157次調査 遺構番号台帳 (4)

第1區 (中央区)

S-番号	遺構番号	経 緯	備 考	残存状況 (古→新)	高麗層切合 (古→新)	時 期	地区区分
306		小穴跡		黒灰色砂質土			G2-3
307		小穴跡		黒灰色砂質土	95-307		G5
308		たまり状遺構		黒褐色土	95-308		G5
309		たまり状遺構		暗褐色砂質土	95-309-309		G5
310		穴跡					
311		小穴跡		地山シルト土・暗茶色土			F4-6
312		小穴跡		暗茶色土			F5
313		小穴跡		暗茶色土	105-313		F4-6
314		小穴跡		地山シルト土・暗茶色土			F5
315		穴跡					-
316		小穴			90-316		F4
317		土坑		暗灰色砂質土	329-317		G5
318		小穴跡		暗茶色土			E6-7
319		小穴跡		暗茶色土			E6-7
320		穴遺					-
321		小穴跡			321-96		G5
322		土坑		礫砂	333-322	13C層か	E6-7
323		小穴			110-323		E6
324		小穴跡		灰褐色土			R6
325		穴跡					-
326		小穴跡		暗茶色土			D7
327		小穴跡		黒灰色砂質土			G5
328		小穴跡		灰色砂質土			G5-6
329		小穴	317跡と接続	暗茶褐色土	329-317		G5
330		穴遺					-
331		小穴	欄外の一部か				R6
332		小穴跡		黒灰色砂質土	105-332		F5
333		小穴	322跡と接続		333-322		D6
334		小穴跡		黒灰色砂質土			F6
335		穴遺					-
336		小穴	欄外の一部か	黒灰色砂質土			F7
337		小穴	欄外の一部か	黒灰色砂質土			F6
338		小穴	欄外の一部か	黒灰色砂質土			F6
339		小穴跡					F6
340		穴遺					-
341		小穴		黒色土			F6
342		小穴		灰青色砂質土			F6
343		小土坑		灰褐色土			F5-6
344		小穴跡					F7
345		穴跡					-
346		小穴跡					F7
347		小穴跡					F5
348		小穴		黒色土			F6
349		小穴	75跡と接続		349-75		D7
350		穴遺					-
351		たまり		黒褐色砂質土	125-350-351-352	平安後期～中世	EFS-6
352		小穴跡			351-352		EFS
353		小穴			353-110-323		B6
354		小穴			354-105	中世	F5
355		穴遺					-
356		土坑		新茶色土	120-356-356	XX層以降～	C7
357		小穴			362-367	13C～	G6
358		小穴		灰褐色土	358-356	13C～	G7
359		たまり		灰褐色土	100-125-359-361		F5-6
360		穴跡					-
361		小穴跡			125-361-359		E5-6
362	157SK362	土坑	井戸か?	暗灰色砂質土	368-362-357	13C層～	G6
363		小穴跡			363-344・346	中世	G7
364		小穴			135-364	中世	F7
365		穴跡					-
366		小穴跡				中世	G6
367		小穴				12C～	G6
368		土坑			368-120・362		C6
369		穴跡					-
370		穴跡					-
371		小穴跡		黒色土		中世～	G1
372		土坑		黒色土	382-372	中世～	H2
373	157SD373	溝	東西溝。140段段後に幅閉される。	黒色土	140-374-373-375	13C～	G1-2
374	157SD374	溝	東西溝。140段段後に幅閉される。	灰褐色土	140-387-374-375	XVII期～	G2-3
375		穴跡					-

大塚府桑坊跡第157次調査 遺構番号台帳 (5)

第1區 (中央区)

S-番号	遺構番号	形 質	備 考	埋土状況 (古→新)	遺構層切台 (古→新)	時 期	地区番号
376	157SD376	溝	南北溝。東西方向の区画9に関する溝か。	黒色土	376-377・140	XVI期～	G2
377		小穴群			376-377		G2
378		小穴			373-378		G2
379		小穴群		黒灰色土			G2
380		土層					-
381		土坑		淡灰褐色土	140-381		H1
382		土坑		灰青色土	140-382	XIX～	H2
383		小穴群			384-383		G2
384		溝		褐色灰色土	384-383		G2
385		穴蓋					-
386	157SD386	溝	東西溝。140埋没後に掘削される。	淡灰青色シルト質土	140-386	13C期～	H1
387		小穴			387-374	19C	G3
388		小穴			376-388		G2

層位等

黄土	黄土						
茶色土層	茶色土層		第157調査遺構出土層の人工層位				
灰青色砂層	灰青色砂層		竪目面を覆う築地層			平安後期～	
黒灰色粘土層	黒灰色粘土層		竪目面を覆う築地層。 F11区は土層の遺構・築地層埋土が残存していた可能性あり。			8C期	

大宰府集切跡第157次調査 土器審計調査表(3)

A: 内底ノズル B: 敷底底面

S-120(灰白色)

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト a-001	1/1	8.55	1.15	6.6	○	○	
		イト a-001	1/2	8.8	1.4	4.95	○	○	灯明
		イト a-003	1/1	11.35	2.75	7.2	○	○	
		イト a-001	1/2	11.85	2.85	7.5	○	○	
イト a-002	1/2	12.0	2.95	7.0	○	○			

S-125(灰白色)

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト a-001	1/3	9.0	1.4	17.0	○	○	
		イト a-002	1/3	9.3	0.95	17.0	○	○	

S-132

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト b-001	1/2	8.55	1.85	4.55	○	○	

S-133 (灰青色)

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト a-001	1/2	8.5	1.15	6.9	○	○	

S-140

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト R-001	1/1	9.0	1.1	8.3	○	○	

S-171

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト R-005	1/1	9.4	1.0	8.4	○	-	

S-351

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト a-001	1/3	8.7	1.2	16.4	○	○	

S-356

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト a-001	1/3	7.0	1.1	15.0	○	○	
		イト a-001	1/3	8.7	1.7	4.9	○	-	
		イト a-002	1/2	11.6	2.9	6.9	○	○	
		イト a-003	1/1	11.8	2.75	7.9	○	○	
		イト a-001	1/3	11.205	2.75	7.2	○	○	灯明

S-374

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	鉢a	イト R-001	1/3	113.0	2.5	8.4	-	○	

S-375

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	小皿a	イト a-001	1/1	8.15	1.05	7.1	○	○	

S-382

検出	器種	器物番号	残存率	口径	高さ	底径	A	B	備考
土師器	鉢a	イト a-001	1/3	112.11	2.6	8.45	○	○	灯明

大宰府発跡跡第157次調査 出土遺物一覧表 (1)

S-1焼灰色土

土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)、小皿a (灯明)
甌京系青磁	襷	1×II (1)、II-b (7)、II-c (1)、III-2B+c (1)、破片 (1)
同安系青磁	襷	1-b (1)
瓦	土 器	?
白	磁	磁器: 耳瓶 (1)
輸入陶磁	器	朝鮮系灰陶磁器破片 (1)
(未分類)		
肥前系陶磁器	破片	(1)
土 器	品	伊掣
瓦	品	瓦本
金 属 品	品	鉄釘×複数
中 国 陶 器	品	鉢: 1-b (1)
		他遺物: 煎豆 (1)、龍目-b (1)、B'-a (1)、無銘破片 (1)

S-1黒色土

甌京系青磁	襷	跡c、破片
土 師	部	跡a (イト)、跡a (灯明)、小皿a (イト)、小皿a (灯明)
甌京系青磁	襷	1 (1)、II-a' (1)、II-b (1)
		II-d (風呂みにスタンプ文「女王宮堂」)
		皿: 1 (1)
同安系青磁	襷	1-1 (1)、1-2b (1)
甌京系青磁	襷	破片
瓦	土 器	(1)
土 器	品	伊掣
金 属 品	品	鉄片、刀子
中 国 陶 器	品	他遺物: 龍目-b (1)、B'-b (1)、F (1)
そ の 他	品	瓦反、漆製品

S-1黄褐色土

土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)
甌京系青磁	襷	1-2 (1)、II-a (1)、III-2 (1)
口	磁	磁器: 破片 (2)
瓦	土 器	破片

S-2

土 師	部	跡a (イト)、跡a (灯明)、小皿a (イト)
瓦	土 器	製鉢
甌京系青磁	襷	1 (3)
瓦	土 器	製鉢
白	磁	磁器: 龍×重区 (1)
輸入陶磁	器	朝鮮系灰陶磁器? (S-3、S-4と統合) (1)
(未分類)		
瓦	土 器	短平瓦 (母子明)
中 国 陶 器	品	他遺物: 瓷か (1)

S-3

土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)
口	磁	磁器: IX (1)
金 属 品	品	鉄片

S-4

瓦	土 器	製鉢
土 師	部	跡a (イト)
口	磁	磁器: V~VII (1)

S-5黒灰色砂

瓦	土 器	製鉢、破片
土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)
甌京系青磁	襷	II (1)、II-b (1)、III-1Ab (1)
鉢 陶 器	品	所産製 (中国産) (1)
白	磁	磁器: 破片 (2)
		皿: IX-1 (1)、IX-1a (1)
石 製 品	品	石刷 (磨石製)
金 属 品	品	鉄釘
中 国 陶 器	品	他遺物: 煎豆 (1)、A'-b (1)
そ の 他	品	焼灰土塊

S-6

土 師	部	跡a (イト)、破片
口	磁	磁器: VII? (1)

S-7

土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)、破片
越州系青磁	襷	跡: 1×III水取子 (1)
甌京系青磁	襷	II-b (1)

S-8

土 師	部	跡a (イト)、小皿a
甌京系青磁	襷	II-b (1)
土 器	品	絞漉?

S-9

瓦	土 器	製鉢
土 師	部	小皿a (イト)、破片

S-10

土 師	部	小皿a (イト)、小皿a (イト)
瓦	土 器	製鉢
甌京系青磁	襷	破片 (1)
		他遺物: 破片 (1)
同安系青磁	襷	?破片 (1)
石 製 品	品	磨石
金 属 品	品	鉄釘

S-11

土 師	部	小皿a (イト)、製?、破片
瓦	土 器	製鉢

S-12

土 師	部	跡a、研破片
-----	---	--------

S-13

瓦	土 器	製鉢
土 師	部	跡a

S-14

瓦	土 器	製鉢
土 師	部	跡a (イト)、引葉?、破片
甌京系青磁	襷	1×II (1)

S-15褐色土

瓦	土 器	製鉢、重3
土 師	部	跡a (イト)、跡a (灯明)、小皿a (イト)
甌京系青磁	襷	1 (2)、II×III (1)
瓦	土 器	製鉢
口	磁	磁器: V~VII (1)、VIII (1)、破片 (1)、 少器: 龍×重区 (1)、龍×水注 (2)、破片 (1)
瓦	土 器	製鉢
石 製 品	品	石刷 (磨石製)、磨石
金 属 品	品	鉄釘
中 国 陶 器	品	他遺物: 龍 (1)、B'-b (1)
そ の 他	品	焼灰土塊

S-15黒灰色土

瓦	土 器	製鉢、製磨鉢
土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)、製a、鉢×磨
甌京系青磁	襷	龍×小皿 (1)
瓦	土 器	製鉢
口	磁	磁器: VII (1)、破片 (1)
		少器: 龍×水注 (2)
石 製 品	品	石刷 (磨石製)

S-16

土 師	部	跡a
中 国 陶 器	品	他遺物: B' (1)

S-17

土 師	部	跡a (イト)
そ の 他	品	焼灰土塊

S18

瓦	土 器	製鉢
土 師	部	跡a (イト)、小皿a

S-19

土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)、破片
-----	---	---------------------

S-20灰色土

瓦	土 器	製鉢
土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)、高台破片
瓦	土 器	製鉢
甌京系青磁	襷	1 (1)、1-6 (1)
白	磁	磁器: 破片 (1)
		皿: III-1 (1)、IX (1)
瓦	土 器	製鉢

S-20褐色土

瓦	土 器	製鉢?
土 師	部	跡a (イト)、小皿a (イト)
白	磁	磁器: VII (1)

大宰府桑坊跡第157次調査 出土遺物一覧表 (2)

S-20灰色粘土

土 師 器	小皿a (イト)、甕?、破片
中 陶 器	他器種? 7破片 (1)

S-20黒灰色粘土

土 師 器	小皿a、破片
瓦	破片
銅 器	銅系青銅 他器種? 小瓶? (1)

S-20青灰色粘土

土 師 器	杯、小皿a
-------	-------

S-20明灰色土

土 師 器	杯a (イト)
金 属 器 品	銅片

S-20赤色土

銅 器	銅 甕?
土 師 器	杯a (イト)、小皿a (イト)
瓦	破片c
銅 系 青 銅 器	鏡: I-I (2)、II-a (1)、II-b (1)
同 系 青 銅 器	鏡: I-1c×III (1)
白 磁 器	磁 瓶: III-1 (1)
石 製 品	磨石破片
金 属 器 品	銅鏡 (穴地透貫 (原倉))
中 陶 器	他器種: 甕I-1 (1)、A'-b (1つは茶色土と混白) (3)

S-21

土 師 器	杯a (イト)、小皿a (イト)、甕
瓦	破片
銅 系 青 銅 器	鏡: II-b (1)
同 系 青 銅 器	鏡: I-1b (1)
金 属 器 品	銅鏡 (口元透貫)

S-22

土 師 器	杯a、破片
-------	-------

S-23

土 師 器	杯a (イト)
-------	---------

S-24

土 師 器	杯a、小皿a
-------	--------

S-25

土 師 器	杯a、破片
弥 生 土 器 類	

S-26

銅 器	甕?
土 師 器	杯a、杯c
銅 系 青 銅 器	鏡: II (1)
金 属 器 品	鉄片

S-27

銅 器	杯×甕
-----	-----

S-28

銅 器	甕
土 師 器	杯a (イト)、甕、破片
白 磁 器	磁 瓶: VIII-1? (1)
石 製 品	滑石破片、ob-uf

S-29

銅 器	甕 杯
土 師 器	杯、破片 (平中環鏡)
石 製 品	滑石
金 属 器 品	鉄片

S-30淡茶色砂

銅 器	銅 甕、鏡、供養具破片
土 師 器	杯a (イト)、小皿a (イト)、破片
銅 系 青 銅 器	鏡: II-b (1)
白 磁 器	磁 瓶: V-VIII (1)、VIII (1)
石 製 品	鏡: II×III (1)、VIII-1c× (1)

S-30茶褐色砂

銅 器	甕 杯、甕
土 師 器	杯a (イト)、杯c、甕 (内四片入)
瓦	破片?

S-30灰茶色砂

銅 器	銅 甕、杯×甕 (へろ記号)
土 師 器	杯a、小皿a、破片
瓦	小皿a (イト)
瓦	銅 破片 (断子類)

S-30茶灰色粘土

銅 器	銅 甕、杯×甕
土 師 器	杯
白 磁 器	磁 瓶: V-4b (1)
縄 文 土 器 類	(中陶)

S-30日赤

瓦	甕 鏡
---	-----

S-31

銅 器	銅 破片
土 師 器	小皿a (イト)
茶 色 土 器	A 破片?
茶 色 土 器	B 破片
瓦	破片c
石 製 品	滑石破片

S-32

土 師 器	杯a (イト)、小皿a (イト)
石 製 品	and-f
中 陶 器	他器種: E (1)

S-33

銅 器	甕 杯
土 師 器	杯a (イト)、甕?
銅 系 青 銅 器	鏡: II (1)
瓦 質 土 器	破片
石 製 品	磁 瓶: V-VIII (1)

S-34

土 師 器	杯a (イト)、破片
-------	------------

S-35灰色土

土 師 器	杯a (イト)、小皿a (イト)
銅 系 青 銅 器	鏡: 破片 (2)
同 系 青 銅 器	鏡: I-1b (1)
土 師 器	土 甕 すり鉢
銅 系 青 銅 器	鏡 破片、鉢 (銅鏡)
瓦 質 土 器	火倉、鉢
土 製 品	大青銅 鈔
瓦	銅 平瓦
石 製 品	磁 瓶?

S-35灰褐色粘土

土 師 器	杯a (イト)、杯破片 (打割)
銅 系 青 銅 器	鏡: II (1)

S-35日赤

銅 器	こね鉢
土 師 器	杯a (イト)、小皿a (イト)
銅 系 青 銅 器	鏡: I-1 (2)
他 器 種	杯: 2×IV (1)
土 師 器	土 甕?
瓦 質 土 器	こね鉢
白 磁 器	磁 瓶: 破片 (1)
輸入陶磁器	陶器? (2)
(未分類)	

S-35淡茶色土

銅 器	杯c、甕
土 師 器	杯a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、小皿b (打割あり)、小皿c、甕
銅 系 青 銅 器	鏡: I (1)、II (1)、III? (1)、II-b (2)、破片 (2)
同 系 青 銅 器	鏡: I-1b (1)
銅 系 青 銅 器	こね鉢、破片、鉢 (銅鏡)
銅 質 陶 器	破片 (1)
白 磁 器	磁 瓶: V-2 (1)、V-VIII (1)、VIII (1)
他 器 種	銅×鏡EX? (1)
縄 文 土 器	瓦 破片?
土 師 器	銅 打割付甕
瓦	銅 平瓦
金 属 器 品	鉄釘、刃先?
中 陶 器	他器種: 磁II? (1)、c-b (1)、E (1)

大宰府桑坊跡第157次調査 出土遺物一覽表 (3)

S-35黄灰色土

須 志 部	壺、甕
土 師 部	坏a (イト)、坏c、小瓶a (イト)、甕
瓦	筒瓦
石 部	品 黄石破片

S-36

土 師 部	坏f、小瓶a (イト)、破片
口	磁(壺)：破片 (1)

S-37

土 師 部	坏f、小瓶a、甕
-------	----------

S-38

土 師 部	小瓶破片、破片
金 属 製 品	鉄片

S-39

土 師 部	坏a (イト)、丸足坏c、小瓶a (イト)
瓦	筒瓦破片
甕身窯系青磁	甕：II (1)、II-b (2)
中 国 陶 器	色影絵：A'-b (1)

S-40灰色砂

土 師 部	坏a (イト)、小瓶a (イト)、小瓶b
金 属 製 品	鉄片
中 国 陶 器	色影絵：A'-b (1)

S-40茶黄色土

須 志 部	破片
土 師 部	坏a (イト)、小瓶a (イト)
瓦	筒瓦破片
甕身窯系青磁	惣形鉢：盤II (1)
阿波窯系青磁	甕：I-1b (1)
白	磁 甕、VII? (1)
瓦	瓦(破片) (格子印)

S-40茶色砂

須 志 部	壺
土 師 部	坏a (イト)、甕
甕身窯系青磁	甕：II-a (1)
瓦	筒瓦破片 (格子印)

S-40褐色粘土

土 師 部	坏、小瓶a (イト)
甕身窯系青磁	甕：II-b (1)
白	磁 甕：V (1)、破片 (1)
石 部	品 玉石
金 属 製 品	銅鏡 (烏木遺物(漆着))

S-40目玉

金 属 製 品	銅鏡 (鼓初遺物(分葬))
---------	---------------

S-40目玉下

甕身窯系青磁	甕：IXII (1)
--------	------------

S-40茶色砂線

土 師 部	坏a (印明)、甕
-------	-----------

S-41

土 師 部	坏a (イト)、小瓶a
瓦	筒瓦
甕身窯系青磁	甕：III-2 (1)
白	磁 甕：?破片 (1)
金 属 製 品	鉄釘

S-42

須 志 部	蓋c
土 師 部	破片

S-43

須 志 部	壺
土 師 部	坏f、破片
甕身窯系青磁	甕：I (1)
白	磁 甕：IV (1)、IX-2 (1)
瓦	筒瓦破片

S-44

土 師 部	坏f、小瓶a (イト)
-------	-------------

S-45 (S-45-黒茶色土と同-)

金 属 製 品	鉄片
---------	----

S-45黒茶色土

須 志 部	壺b、甕
土 師 部	坏e (イト)、小瓶a (イト)、小瓶b
甕身窯系青磁	甕：II (1)
阿波窯系青磁	甕：I (1)
須 志 窯 土 器	こね鉢(束帯系)、鉢、片口鉢(束帯系)
瓦 部	土 部 鉢
白	磁 甕：V-2? (1)、VIII (1)、VIIIa (1)、破片 (1)
瓦	筒瓦 甕? (近世?) (1)
瓦	筒瓦 破片 (いふふ)

S-45黄灰色土

土 師 部	坏a (イト)、小瓶b
瓦	筒瓦
白	磁 甕：破片 (1)

S-46

須 志 部	壺
土 師 部	坏a、小瓶a、破片
白	磁 甕：IX-1 (1)

S-47

土 師 部	坏e (イト)、破片
甕身窯系青磁	甕：IXII (1)

S-48

白	磁 甕：IV (1)
---	------------

S-49

土 師 部	破片
甕身窯系青磁	甕：II-b (1)

S-50

白	磁 甕：V-VII (1)
---	---------------

S-51

須 志 部	壺、壺×鉢、供懸長
土 師 部	坏a (イト)、甕、破片
甕身窯系青磁	甕：II-b (1)
白	磁 甕：破片 (1)

S-52

須 志 部	破片
土 師 部	坏e (イト)、小瓶b、甕
黒色土部	破片
瓦	筒瓦破片

S-53

土 師 部	小瓶a、破片
-------	--------

S-54

土 師 部	壺、破片
瓦	筒瓦

S-55

土 師 部	坏a (イト)、坏e (印明)、小瓶b
瓦	筒瓦
甕身窯系青磁	甕：II-c (1)、II×III (1)
阿波窯系青磁	甕：I-1b (1)
白	磁 甕：II (1)、IX (1)、IX-1 (1)
青 白 磁	甕 (1)
瓦	筒瓦破片 (格子印)、瓦工
中 国 陶 器	惣形鉢：壺×鉢 (1)

S-56

石 部	品 ob-f
-----	--------

S-57

土 師 部	破片
-------	----

S-58

土 師 部	破片
瓦	筒瓦

S-59

土 師 部	小瓶a (イト)、破片
-------	-------------

大塚前桑坊跡第157次調査 出土遺物一覧表(4)

S-60

土 師 器	FeN 甕c、破片(イト)
白 磁	磁器;破片(1)
金 銅 製 品	鉄釘

S-61

須 恵 器	破片
土 師 器	Fea(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	瓶;II×III(1)
河安窯系青磁	瓶;?破片(1)
須 恵 貫 上 器	下り鉢
瓦 葺 土 器	穴内、鉢
白 磁	瓶;破片(2)
土 師 器	伊達
石 製 品	神石
金 銅 製 品	鉄釘?、鍔

S-62

土 師 器	Fea(イト)、破片
瓦 葺 土 器	
金 銅 製 品	磁環

S-63

土 師 器	小皿、破片
龍泉窯系青磁	瓶;I(1)

S-64

須 恵 器	破片
-------	----

S-65

須 恵 器	蓋c
土 師 器	Fea(イト)、小皿a(イト)
河安窯系青磁	瓶;破片(1)
須 恵 貫 上 器	破片
龍 泉 窯 系 青 磁	?瓶×皿(1)
白 磁	磁器;?破片(1)

S-66

土 師 器	破片(イト)
-------	--------

S-67

土 師 器	破片
-------	----

S-68

土 師 器	Fea、破片
龍泉窯系青磁	磁瓶;小皿II-b(1)

S-69

土 師 器	Fea(イト)、小皿b、破片
瓦 葺 土 器	破片
石 製 品	水石

S-70淡灰色土

須 恵 器	片、世
土 師 器	Fea(イト)、小皿a(イト)、小皿b、甕c
龍泉窯系青磁	瓶;I(1)、II-b(2)
	磁器類;壺II(1)
河安窯系青磁	瓶;I-b(1)
須 恵 貫 上 器	こね鉢(草履系)、破片
白 磁	磁器;破片(2)
瓦 葺 土 器	破片
石 製 品	平台、礬石
金 銅 製 品	鉄釘

S-70茶灰色土

須 恵 器	蓋
土 師 器	Fea(イト)、Fea(灯明)、小皿a(イト)、小皿b
河安窯系青磁	瓶;I-1c(1)
須 恵 貫 上 器	こね鉢
白 磁	磁器;IX(1)
	磁器;破片(1)
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶磁破片(1)
(未分類)	
瓦 葺 土 器	破片
金 銅 製 品	刀子
中 國 陶 器	鉢;VI-1(1)

S-70灰白色土

土 師 器	Fea(イト)、Fea(灯明)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	瓶;II-b(1)
高 麗 青 磁	片;IIIa(1)
河 南 陶 器	瓶(密附)
白 磁	皿;IX-1(1)、?破片(1)
	磁器;磁(1)
瓦 葺 土 器	IS-700灰砂と漆合(1)
瓦 葺 土 器	瓦
石 製 品	鉄釘

S-70暗灰色砂

土 師 器	Fea(イト)、Fea(灯明)、小皿a(イト)、小皿a(蓋部)
	小皿b、蓋
龍泉窯系青磁	磁器類;坪皿4×5(1)
須 恵 貫 上 器	鉢(家徳系)
瓦 葺 土 器	こね鉢
白 磁	皿;IX(1)
瓦 葺 土 器	瓦
石 製 品	斧石、鉄釘
木 製 品	刀鞘状製品、破片

S-71

土 師 器	Fea(イト)、小皿a(イト)、破片
龍泉窯系青磁	瓶;I(1)、II-b(1)
門 戶 磁 器	?
金 銅 製 品	鉄釘
そ の 他	焼土塊

S-72

土 師 器	Fea(イト)、小皿a(イト)、破片
そ の 他	焼土塊

S-73

土 師 器	Fea、小皿a、破片
-------	------------

S-74

土 師 器	Fea(イト)、小皿a(イト)、破片
龍泉窯系青磁	瓶;I(1)
金 銅 製 品	刀子?

S-75

須 恵 器	磁
土 師 器	Fea(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	瓶;II(1)、II-a(1)、III-2c(1)、?破片(1)
	磁器類;坪皿-1(2)
須 恵 貫 上 器	こね鉢
白 磁	磁器;V-VIII(1)
	皿;IX(1)、IX-1(1)
石 製 品	礬、硃?
中 國 陶 器	磁器類;壺II-1(2)

S-76

須 恵 器	破片
土 師 器	小皿a、破片
河安窯系青磁	瓶;II(1)

S-77

土 師 器	Fea、破片
金 銅 製 品	刀子、鉄釘?
そ の 他	焼土塊

S-78

土 師 器	小皿a(イト)、破片
-------	------------

S-79

土 師 器	Fea(イト)、破片
河安窯系青磁	瓶;I-1b(1)

S-80

土 師 器	Fea(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	瓶;II-b(2)、III(1)、III-2(3)、破片(1)
	磁器類;坪皿-1(1)
白 磁	磁器;V-4×VIII-1+3
瓦 葺 土 器	破片(焼灯明)
中 國 陶 器	鉢;I(1)
	磁器類;蓋I-2(1)、壺II&III(1)、壺II(2)、破片(1)

大宰府系坊跡第157次調査 出土遺物一覽表 (5)

S-81

須 恵 部	鏡、銅鏡片
土 師 部	环a、环c、小皿a

S-82

須 恵 部	环c、鏡
土 師 部	环a (イト)、高台鏡片
瓦 部	鏡片
白 磁	碗；V~VII (1)、V×VIII (1)、VIII (1)
土 師 部	伊勢
金 銅 製品	銅押

S-83

須 恵 部	鏡片
土 師 部	环a
白 磁	碗；V~VII (1)、鏡片 (1)
瓦 部	鏡片 (鏡目印)
その他	焼土塊

S-84

土 師 部	环破片、鏡片
-------	--------

S-85明褐色土

須 恵 部	鏡、鏡片
土 師 部	环a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗；I (2)、II-b (2)、III-2c (1)、IV (1) 他器種：坏皿-1 (1)、坏皿-1a (1)
河内窯系青磁	碗；I-b (1) 皿；I-1a (1)
須 恵 質上器	鉢
白 磁	皿；IX (3) 香爐；香炉 (1)、香 (2)
須 恵 陶器	大口瓶 (中国産) (1)
金 銅 製品	鉄釘、錠秤、銅銭 (敏達遺物 (五十銭))
中国 陶器	壺；耳瓶VIIa (1) 他器種：壺 (2)、甕I-2 (1)、A' (1)
その他	焼土塊

S-85黒色土

須 恵 部	鏡
土 師 部	环a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗；II-b (3)、III-2 (1)、III-2c (2)、鏡片 (1) 他器種：坏皿-1 (3)、鏡片 (1)
河内窯系青磁	鉢、鉢 (輪縁部)
白 磁	碗；鏡片 (2) 皿；IX (1) 香爐；耳瓶×水注 (1)、碗×鏡IX (3)、鏡片 (1)
瓦 部	鏡目印 (鏡子印)
金 銅 製品	鉄釘、錠秤 (元豊遺物 (敏達))
中国 陶器	他器種：壺 (1)、瓶I-b (2)、瓶I-2 (1)、瓶II (1) 甕II-1 (1)、B'-b (1)
その他	焼土塊

S-85灰黒色土

須 恵 部	鏡
土 師 部	环a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗；I (1)、II-b (4) 他器種：鏡片 (1)
白 磁	碗；V-4×VII-1・3 (1) 皿；IX (2) 香爐；香 (2)
金 銅 製品	鉄釘 (1)
中国 陶器	他器種：壺 (1)、A'-b (1)、B'-a (1)
その他	焼土塊

S-85淡褐色土

須 恵 部	环c、鏡
土 師 部	环a (イト)、环 (~8c)、壺a、鏡破片
土 器	从加埜

S-86

土 師 部	鏡破片
龍泉窯系青磁	碗；I-2c (1)

S-87

須 恵 部	环c
土 師 部	小皿a (イト)、鏡片

S-88

土 師 部	鏡破片
-------	-----

S-89

土 師 部	环a、鏡片
黒色土 師 部	鏡片

S-90灰褐色土

土 師 部	环a、小皿a、鏡片
龍泉窯系青磁	碗；×II (1)
その他	焼土塊

S-90黄褐色土

須 恵 部	环c、鏡
土 師 部	环a (イト)、小皿a (イト)、不明鏡種
瓦 部	鏡種
龍泉窯系青磁	碗；II-b (1)
瓦 部	土 茶鉢、火盆
白 磁	皿；IXIII (1)、IX-1 (1)
瓦 部	鏡破片 (鏡子印)
中国 陶器	他器種；A' (1)、A'-b (1)

S-91

須 恵 部	鏡破片
土 師 部	鏡破片
瓦 部	碗
瓦 部	丸瓦鏡片

S-92

須 恵 部	鏡
土 師 部	环a (イト)、鏡片
瓦 部	鏡破片
その他	焼土塊

S-93

土 師 部	小皿a (イト)、鏡片
-------	-------------

S-94

土 師 部	环a (イト)、鏡片
-------	------------

S-95

須 恵 部	鏡破片
土 師 部	环a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	碗；I (1)
瓦 部	鏡破片 (鏡子印)
中国 陶器	他器種；瓶I-b (1)、瓶II (1)、c-b? (1)

S-96

土 師 部	环a (イト)、小皿a (イト)、高台鏡片
-------	-----------------------

S-97

土 師 部	环a (イト)、小皿a (イト)、鏡片
-------	---------------------

S-98

須 恵 部	環?、供養具
土 師 部	环a、鏡片

S-99

土 師 部	鏡破片
-------	-----

S-101

土 師 部	鏡破片
-------	-----

S-102

土 師 部	环a (イト)、壺?、鏡片
河内窯系青磁	碗；鏡片 (1)
白 磁	碗；IV (1)
瓦 部	鏡破片 (鏡子印)

S-104

須 恵 部	环c、鏡
土 師 部	环a (イト)、鏡、鏡片

大宰府発跡第157次調査 出土遺物一覽表 (6)

S-105黒紫色土

須 恵 部	珪c.
土 師 部	珪a (イト)、珪c?、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	襷: II-b (1)、II-2c (1)、破片 (1)
	他器種: 坪皿-1 (2)
須 恵 部 土 師 部	
珪	磁蓋: IX-2 (1)
	蓋物: 鉢 (1)
瓦 類	瓦丸破片、破片
石 製 品	石磨 (薄石製)、青磁??
中 国 陶 器	瓷: 破片 (紫色土と接合) (1)、破片 (1)
	他器種: 壺I-b (2)

S-105灰青色土

須 恵 部	珪
土 師 部	珪a (イト)、珪、貯蔵器
龍泉窯系青磁	襷: 片口こね鉢 (末層系)
石 製 品	瓶石
金 属 製 品	鉄釘
そ の 他	焼土塊

S-106

土 師 部	破片
金 属 製 品	不明銅製品

S-107

須 恵 部	珪1?、珪
土 師 部	珪c

S-108

土 師 部	珪破片、破片
龍泉窯系青磁	襷: II-b (1)
中 国 陶 器	他器種: A' (1)

S-109

土 師 部	珪a、破片
-------	-------

S-110

土 師 部	珪a×小皿a、破片
金 属 製 品	鉄片

S-111

土 師 部	珪a (イト)、小皿a
-------	-------------

S-112

須 恵 部	珪c、破片
土 師 部	珪a、破片

S-113

須 恵 部	破片
土 師 部	珪a (イト)、珪c、破片
龍泉窯系青磁	襷: I (1)
	他器種: 小瓶 (1)

S-114

須 恵 部	破片
土 師 部	珪a (イト)、破片
土 製 品	不明銅製品
中 国 陶 器	他器種: B'-b (1)、雑輸入丸

S-115暗灰色砂

須 恵 部	珪
土 師 部	珪a (イト)、小皿a (イト)、把手
龍泉窯系青磁	襷: I-2? (1)、I-4? (1)、II (1)、II-b (2)、II2 (1)
	他器種: 坪皿-1 (1)
須 恵 部 土 師 部	こね鉢 (東播系)、片口鉢
國 産 陶 器	罎 (常滑)
珪	磁蓋: IX (3)、IX-1b (1)
	蓋物: 襷×皿IX (1)
金 属 製 品	刀子
中 国 陶 器	他器種: c-2群 (2)、A' (1)、B'-b (1)、c-b (2)
そ の 他	焼土塊

S-115灰青色土

須 恵 部	珪: I-1b (1)、?破片 (1)
瓦 類	瓦: V×VII (1)

S-116

土 師 部	珪a (イト)、破片
-------	------------

S-117

土 師 部	珪a
瓦 類	瓦
龍泉窯系青磁	襷: I (1)
	他器種: 鉄片
中 国 陶 器	瓷: ?破片 (1)

S-118

土 師 部	破片
-------	----

S-119

土 師 部	珪a [イト]、破片
-------	------------

S-120黒紫色土

土 師 部	珪a (イト)、珪a (臼群)、珪c (イト)、小皿a (イト)、小皿b (灯明)
須 恵 部 土 師 部	こね鉢 (東播系)
瓦 類	瓦: V-2a (1)
石 製 品	漆物: 舟 (1)
金 属 製 品	合子器 (1)
瓦 類	瓦
石 製 品	鉢石
金 属 製 品	鉄釘
中 国 陶 器	瓷: 破片 (1)
	他器種: c群 (小皿品)、A' (1)、E (1)

S-120黒色土

須 恵 部	珪c
土 師 部	珪a (イト)、小皿a (イト)、小皿b (灯明)、異合破片
	子づくね (小鉢)
瓦 類	瓦
龍泉窯系青磁	襷: II (1)
須 恵 部 土 師 部	こね鉢
瓦 類	漆物: 破片 (1)
そ の 他	焼土塊

S-121

須 恵 部	珪、珪
土 師 部	珪a (イト)、破片

S-122

土 師 部	珪破片、破片
-------	--------

S-123

須 恵 部	破片
土 師 部	珪a
瓦 類	破片
石 製 品	破片 (1)

S-124

須 恵 部	珪a、珪、?
土 師 部	珪a、珪a
瓦 類	破片
そ の 他	焼土塊

S-124+群

須 恵 部	珪
土 師 部	珪
瓦 類	破片 (1)
輸入陶磁器	古銅破片 (1)
(土身群)	
瓦 類	瓦破片 (面白印)

S-125黒色土

土 師 部	珪a (イト)、珪c×珪c、小皿a
龍泉窯系青磁	襷: I? (1)、II (3)、II-b (1)、II-2c (1)
	他器種: 破片 (1)
阿波窯系青磁	襷: I-1 (1)、I-1b (1)
須 恵 部 土 師 部	こね鉢
瓦 類	瓦: 破片 (1)
	蓋: IX-1 (1)
石 製 品	罎: 鉢 (1)、破片 (1)
瓦 類	破片
瓦 類	瓦丸破片
金 属 製 品	鉄釘
中 国 陶 器	他器種: 永世V? (1)、龍I-b (2)、龍I-2 (1)、c-b (1)
	破片 (1)
そ の 他	焼土塊

大宰府桑坊跡第157次調査 出土遺物一覧表 (7)

S-126

須恵器	須恵、破片
土師器	須恵a
黒色土器	B 破片
瓦	須恵破片

S-127

須恵器	須恵、破片
土師器	須恵a、煮炊具

S-128

土師器	須恵a (イト)、器?
-----	-------------

S-129

土師器	須恵破片
-----	------

S-130

須恵器	須恵×鉢
土師器	須恵a (イト)、破片

S-131

土師器	須恵破片
-----	------

S-132

土師器	須恵、小皿a、破片
須恵質土器	鉢 (茶碗蓋?)
白磁	磁器: 破片 (白磁×同安)

S-133

須恵器	須恵
土師器	須恵a (イト)、小皿a、小皿b、牛耳具片
須恵系青磁	須恵: B-b (1)
阿波青磁	須恵 (寄附)
白磁	磁器: 破片 (1)
阿波青磁	須恵: 破片 (白磁×青磁、S-331と接合) (1)
阿波青磁	須恵: 破片、須恵質破片
阿波青磁	須恵: 破片 (1)
その他	磁器種: A' (1)
その他	磁器土塊

S-134

須恵器	須恵破片
土師器	須恵a (イト)
須恵質土器	破片
白磁	磁器: 茶 (1)
滑石	磁器? (1)
瓦	須恵破片

S-135明鏡色緑土

土師器	須恵a (イト)
-----	----------

S-135所茶色土

須恵器	須恵a、須
土師器	須恵a (イト)、須c、小皿a (イト)、須a、破片 (須寄?)
瓦	須、須破片
須恵系青磁	須: B-b (1)、破片 (1)
阿波系青磁	須: 破片 (2)
白磁	磁器: IV (1)、V×VII (1)、IX (1)、IX-1 (1) 須: IX-1a
瓦	須破片
石製品	石製 (磨石類)、磨石
中国陶器	鉢: I-1b (1) 磁器種: A' (1)、c-b (2)

S-136

土師器	須恵a
土師器	不明製品
その他	磁器土塊

S-137

土師器	須恵a、破片
白磁	磁器: IV (2)

S-138

須恵器	須恵破片 (須あり)
-----	------------

S-140明鏡色緑土

土師器	須恵a (イト)、須、小皿a (イト)、破片
-----	------------------------

S-140成灰色砂

土師器	須恵a (イト)、小皿a (イト)、須a、須 (内四石入)
須恵質土器	破片
金属製品	鉄釘

S-140成褐色砂

須恵器	須恵3、須、破片
土師器	須恵a
阿波系青磁	須: I (1)
瓦	須丸瓦破片
金属製品	鉄釘
中国陶器	磁器種: B-b (1)

S-140成灰色砂

土師器	須恵a、須、須a、破片
-----	-------------

S-149

土師器	須恵破片
-----	------

S-151

金属製品	鉄釘
------	----

S-152

土師器	須恵破片
金属製品	刀子??

S-153

土師器	須恵破片
白磁	磁器: V (1)

S-154

土師器	須恵破片
-----	------

S-156

須恵器	須恵
土師器	須恵

S-157

須恵器	須恵a、須1
土師器	須恵a、須 (内四石入)、破片

S-158

土師器	須恵破片
-----	------

S-159

土師器	須恵破片
-----	------

S-161

土師器	須恵破片
阿波系青磁	須: I-1b (1)

S-162

須恵器	須恵、須
土師器	須恵a (イト?)、須c
白磁	磁器: V-4b (1)

S-163

須恵器	須恵a、煮、供養具
土師器	須恵a、須、破片

S-164

須恵器	須恵a、須c
土師器	須恵a (イト)、須c、須
白磁	磁器: ?破片 (1)
瓦	須丸瓦
石製品	須品破片 (加工品)

S-166

須恵器	須恵a、須
土師器	須恵a (イト)、須c、小皿a (イト)
瓦	須丸瓦破片
白磁	磁器: V-4×VII-1-3 (1)、V~VII (1)
石製品	須品nd-f

S-167

土師器	須恵a、須c
白磁	磁器: V×VII (1) 茶碗: 小皿? (1)
須文土器	破片
石製品	須品nd-f

大宰府系坊跡第157次調査 出土遺物一覽表 (B)

S-186	土 師 器 磁片	S-302	土 師 器 灰a (イト)、小皿a (イト)	
S-189	土 師 器 灰a	瓦 器 残	そ の 他 焼土塊	
S-171	須 恵 器 灰c、蓋c3、蓋1、碗、壺	S-303	須 恵 器 磁片	
土 師 器 小皿a (イト)、鏡a	土 師 器 灰a (イト)、小皿a (イト)、磁片	S-304	須 恵 器 灰 (イト)、小皿a (イト)	
S-172	瓦 類 磁片?	白 磁 器 蓋 (1)	そ の 他 焼土塊	
S-173	土 師 器 坪磁片、裏磁片	S-306	須 恵 器 灰 (イト)、小皿a (イト)、炊飯具、磁片	
縄 文 土 器 磁片?	河安宮系青磁 類: I-1b (1)	白 磁 器 蓋 (1)	そ の 他 焼土塊	
S-174	須 恵 器 蓋	S-307	土 師 器 灰a (イト)、小皿a (イト)、磁片	
土 師 器 灰a (イト)、灰c、坪磁片	龍泉宮系青磁 類: II (1)	須 恵 器 灰a (イト)、小皿a (イト)、磁片	河安宮系青磁 類: II (1)	
土 製 品 伊壁	S-308	須 恵 器 磁片	土 師 器 灰a (イト)、小皿a (イト)	
S-176	須 恵 器 灰a、高坪、壺	瓦 器 残	龍泉宮系青磁 類: II-b (1)	
土 師 器 灰c	須 恵 器 灰a (イト)、小皿a (イト)	白 磁 器 蓋 (1)	土 師 器 灰a (イト)、小皿a (イト)	
黒色土器B 残	土 師 器 灰a (イト)、小皿a (イト)	瓦 類 瓦玉	瓦 器 残	
瓦 器 磁片	龍泉宮系青磁 類: II-b (1)	金 属 製 品 銅片	S-177	須 恵 器 蓋
白 磁 器: IV (1)、V-4×VIII-1・3 (2)、VIIIa (1)、磁片 (2)	S-178	土 師 器 灰a (イト)、磁片	土 師 器 小皿a (イト)、大皿c×皿c、壺	
瓦 類 瓦玉	S-182	須 恵 器 蓋、壺	土 師 器 灰a、磁片	
金 属 製 品 銅片	河安宮系青磁 類: I-1b (1)	白 磁 器: II×III? (1)	河安宮系青磁 類: I-1b (2)	
S-177	須 恵 器 蓋	白 磁 器: 壺 (1)	S-184	土 師 器 蓋有磁片、磁片
土 師 器 小皿a (イト)、大皿c×皿c、壺	青 白 磁 器 (1)	瓦 類 瓦平、瓦丸磁片	S-201	土 師 器 蓋
S-178	土 師 器 灰a (イト)、磁片	そ の 他 焼土塊	S-203	土 師 器 灰a (イト)、壺、磁片
S-182	須 恵 器 蓋、壺	S-183	須 恵 器 灰、壺	
土 師 器 灰a、磁片	土 師 器 灰a、灰c、裏a、磁片	土 師 器 灰a、灰c、裏a、磁片	河安宮系青磁 類: I-1b (2)	
河安宮系青磁 類: I-1b (1)	S-184	土 師 器 蓋有磁片、磁片	S-205 淡赤色土	
白 磁 器: II×III? (1)	S-201	土 師 器 蓋	須 恵 器 灰c、灰、蓋3、蓋、伊壁片、蓋c3、高坪、皿c1	
白 磁 器: 壺 (1)	S-203	土 師 器 灰a (イト)、壺、磁片	土 師 器 蓋a、高台磁片、皿b、磁片	
青 白 磁 器 (1)	S-184	土 師 器 蓋有磁片、磁片	縄 文 土 器 磁片?	
瓦 類 瓦平、瓦丸磁片	S-205 淡赤色土	須 恵 器 灰c、灰、蓋3、蓋、伊壁片、蓋c3、高坪、皿c1	瓦 類 平瓦	
そ の 他 焼土塊	S-184	土 師 器 蓋有磁片、磁片	石 製 品 玉珎、磁石	
S-183	須 恵 器 灰、壺	S-201	土 師 器 蓋	
土 師 器 灰a、灰c、裏a、磁片	S-203	土 師 器 灰a (イト)、壺、磁片	S-205 淡赤色土	
河安宮系青磁 類: I-1b (2)	S-205 淡赤色土	須 恵 器 灰c、灰、蓋3、蓋、伊壁片、蓋c3、高坪、皿c1	土 師 器 蓋a、高台磁片、皿b、磁片	
S-184	土 師 器 蓋有磁片、磁片	縄 文 土 器 磁片?	縄 文 土 器 磁片?	
S-201	土 師 器 蓋	瓦 類 平瓦	石 製 品 玉珎、磁石	
S-203	土 師 器 灰a (イト)、壺、磁片	石 製 品 玉珎、磁石	S-206 暗褐色粘土	
S-205 淡赤色土	S-205 淡赤色土	須 恵 器 灰c、灰、蓋3、蓋、伊壁片、蓋c3、高坪、皿c1	須 恵 器 灰a、壺	
須 恵 器 灰c、灰、蓋3、蓋、伊壁片、蓋c3、高坪、皿c1	土 師 器 蓋a、高台磁片、皿b、磁片	土 師 器 蓋a、高台磁片、皿b、磁片	土 師 器 灰a、壺	
土 師 器 蓋a、高台磁片、皿b、磁片	縄 文 土 器 磁片?	縄 文 土 器 磁片?	石 製 品 and-f	
縄 文 土 器 磁片?	瓦 類 平瓦	石 製 品 玉珎、磁石	S-210	土 師 器 蓋 (内物百人)、磁片 (環?)
瓦 類 平瓦	石 製 品 玉珎、磁石	S-206 暗褐色粘土	赤 生 土 陶器 (板付式)	
石 製 品 玉珎、磁石	S-210	土 師 器 蓋 (内物百人)、磁片 (環?)	S-301	土 師 器 磁片
S-206 暗褐色粘土	赤 生 土 陶器 (板付式)	S-301	土 師 器 磁片	
須 恵 器 灰a、壺	S-301	土 師 器 磁片		
土 師 器 灰a、壺				
石 製 品 and-f				
S-210	土 師 器 蓋 (内物百人)、磁片 (環?)			
赤 生 土 陶器 (板付式)				
S-301	土 師 器 磁片			

大宰府発跡第157次調査 出土遺物一覧表 (9)

S-322	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト)、破片 白 磁施: VIII (1)	S-343	須恵 割罫 土 須 割罫a、片破片、罫a、罫? 肥前高系青磁施: II-b (1)
S-323	土 須 割罫、破片	S-344	土 須 割罫、罫??、破片
S-324	須恵 割罫片 土 須 割罫、破片 白 磁施: IV (1)	S-345	須恵 割罫c 土 須 割罫a (イト)、破片
S-326	須恵 割罫片 土 須 割罫a (イト)、破片	S-347	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト) その 焼物土塊
S-327	土 須 割罫a (イト)、破片 須恵貫土割罫 (東隣系?) その 焼物土塊	S-348	須恵 割罫片 土 須 割罫a (イト)、小皿a (イト) 白 磁施色: 緑 (1)
S-328	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト)、小皿a	S-349	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト)、小皿a (イト)、破片
S-329	土 須 割罫a (イト)、破片	S-351	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、提手 瓦 割罫c、焼破片 肥前高系青磁施: II (2)、II-a (1)、II-b (8) 他器種: 坪田 (1)、坪田-1 (2) 同安原系青磁施: I-1b (1)、I-XII (1) 土 須 貫土割罫 白 磁施: IV (1)、IV-VII (1)、IX (1) 面: II-XIII? (1)、IX (2)、IX-1a (IS-309と接合) (1) 瓦 割罫片 石 須 品 滑石製品、硝石、玉石 金 須 罫 品 コイル状鉄製品 中国 陶 器 鉢: I-1 (1) 他器種: 甗 (1)、甗-2? (2)、A'-a (1)、A'-b (1)、c-b (1) E (4) その 焼物土塊
S-331	土 須 割罫a (イト)、破片 中国 陶 器 他器種: E (1)	S-352	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト)、小皿a (イト)、破片 肥前高系青磁施: II-B (1)、破片 (1) 金 須 罫 品 銅鏡 (III-1) (1) 中国 陶 器 鉢: 破片 (1) 他器種: 甗 (3)、B'-b (1)
S-332	須恵 割罫、罫 土 須 割罫a (イト)、小皿a (イト) 肥前高系青磁施器種: 坪田-1 (1) 須恵貫土割罫? 白 磁施: IX (1) 他器種: 鉢 (1) 中国 陶 器 茶台: 坪田? (1) 他器種: A' (1) その 焼物土塊	S-353	上 須 割罫a (へウ)、坪 (イト?)
S-333	土 須 割罫a、破片	S-354	土 須 割罫a (イト)
S-334	須恵 割罫片 土 須 割罫a (イト)、小皿a、罫 白 磁施色: 黄×緑IX (1) その 焼物土塊	S-356	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト)、坪c、小皿a (イト)、小皿b 肥前高系青磁施: II (1)、II-b (1) 須恵貫土割罫 瓦 割罫土割罫 中国 陶 器 他器種: c-b (1)
S-335	肥前高系青磁施: II×III (1)	S-357	土 須 割罫a (イト) 瓦 割罫土割罫
S-336	須恵 割罫 土 須 割罫n、破片	S-358	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト)、小皿a (イト) 肥前高系青磁施: II-b (1) 瓦 割罫土割罫
S-337	土 須 割罫、破片	S-341	土 須 割罫小皿a (イト)、破片
S-338	土 須 割罫片	S-342	土 須 割罫a (イト)、小皿a (イト)、破片 肥前高系青磁施: II (1) 白 磁施: VIIIa (1) その 焼物土塊
S-339	須恵 割罫 土 須 割罫a (イト)、小皿a (イト) その 焼物土塊		

大宰府条坊跡第157次調査 出土遺物一覧表 (10)

S-359

銅 意 器	鏡片
土 部 器	環a (イト)、小皿a (イト)
紀泉宮系青磁	襷: I (1)、III-2 (1)
藤原宮系青磁	皿: I (1)
白 磁	皿: IX (1)
弥生土 器	
金属製 品	鉄釘?
甲冑 附 属	他器種: 鏡×II-b (1)、A'-a (2)、A'-b (1)

S-361

銅 意 器	
土 部 器	環a (イト)、小皿a (イト)、鏡片

S-362

銅 意 器	環c、鏡
土 部 器	環a (イト)、環c、小皿a (イト)、鏡
瓦	器種c
藤原宮系青磁	環: 大坪皿 (1)
白 磁	襷: V×III (1)、VIII (1)
	皿: IX (1)
瓦	類: 鏡片 (備目録)
甲冑 附 属	他器種: 帯b (1)、幅袖糸入札 (1)

S-363

銅 意 器	鏡
土 部 器	環a (イト)
紀泉宮系青磁	他器種: 坪皿 (1)
白 磁	鏡: 鏡片 (2)
その 他	鏡土塊

S-364

土 部 器	鏡、鏡片
-------	------

S-366

土 部 器	環a、小皿a (イト)
行 装 品	band-f

S-367

土 部 器	環a (イト)、鏡片
-------	------------

S-368

銅 意 器	鏡片
土 部 器	環c、小皿a (イト)、鏡 (角閃石入)
紀泉宮系青磁	鏡: 鏡片 (1)
甲冑 附 属	鏡蓋: 同環aIXc+ (1)

S-371

土 部 器	環a (イト)
その 他	鏡土塊

S-372

土 部 器	環c、鏡片
石 製 品	不明製品、石刀

S-373

土 部 器	環c、鏡
紀泉宮系青磁	襷: I×II (1)
瓦	類: 瓦鏡片
石 製 品	玉石
その 他	鏡土塊

S-374

銅 意 器	
土 部 器	環a (イト)、鏡片
瓦	類: 鏡片

S-376

土 部 器	環a、小皿a (イト)
紀泉宮系青磁	襷: I (1)、II-b (1)
白 磁	磁器類: 小皿? (1)
海 貝 磁	類? (1)
土 製 品	漆器

S-377

土 部 器	環a (イト)、小皿a (イト)、鏡片
弥生土 器	鏡片?
行 装 品	帯心鏡片
甲冑 附 属	他器種: c-b (1)
その 他	鏡土塊

土 部 器	環a (イト)、鏡片
国産陶器	類 (容物) (1)
その 他	鏡土塊

S-379

土 部 器	環a (イト)、鏡片
白 磁	皿: VIII-1e (1)

S-381

銅 意 器	蓋3
土 部 器	鏡片

S-382

銅 意 器	鏡片
土 部 器	環a (イト)、小皿a (イト)
紀泉宮系青磁	襷: II (1)
瓦	類: 鏡片 (備目録)

S-383

土 部 器	環a (イト)、鏡片
白 磁	磁器類: 襷×皿IX (1)
金属製 品	鉄釘

S-384

銅 意 器	環c、鏡片
土 部 器	環a、小皿a (イト)、鏡片
その 他	鏡土塊

S-386

土 部 器	環a (イト)、小皿a (イト)
紀泉宮系青磁	襷: II-b (1)

S-387

土 部 器	環a (イト)、鏡片
白 磁	襷: VIII (1)

表土

銅 意 器	鏡
土 部 器	環a (イト)、小皿a、把手、鏡
紀泉宮系青磁	襷: I (1)、I-1 (1)、I-4b (2)、II (1)、II-a (1)、II-b (5) II-b? (1)、II-c (1)、III-2 (1)、?鏡片 (1)

表土

国産陶器	蓋 (容物)、鏡片 (近世~) (1)
白 磁	襷: II-a (1)、鏡片 (1)
	皿: IX-1 (1)、IX-2 (1)
	磁器: 鏡片 (1)、鉢 (1)

黒 胎 陶 器 皿 (1) |国産鐵器 皿 (近世~) (1)、鏡片 (近世~) (1) |縄文土 器 鏡片? |瓦 類: 丸瓦 (*鉢)、鏡片 (いふし) |金属製 品 鉄釘、刀子? |甲冑 附 属 他器種: 襷×水注 (1)、A' (1)、B'-a (1)、B'-b (1) |その 他 鏡土塊 |

大宰府桑坊跡第157次調査 出土遺物一覧表 (11)

赤色土層

須 恵 器	环c、蓋3、卮、甕、破片
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、甕、高台、破片
瓦	破片c
鹿島窯系青磁	甕：I (2)、I-a (1)、I-4 (1)、II (3)、II-a (2)、II-b (5) IX-II (1)、III-2 (1)、III-2c (1)
阿波窯系青磁	甕：I-I (1)、I-1b (4)、I-1c (1)、破片 (1) 皿：I (1)、I-1b (2)
土師 瓦土 器	甕
須恵 瓦土 器	こね鉢 (東條系)
瓦 甕 土 器	こね鉢
植物 陶 器	破片 (1)
灰物 陶 器	甕×甕 (1)
阿波 陶 器	破片 (近世-) (2)、?甕×甕 (1)
白	甕：IV (2)、V-VII (1)、V-VIIII (1)、V-4×VIIII-1-3 (2) 破片 (7) 皿：II×III (1)、IX (3)、IX-2 (2) 茶籠：甕×水注 (2)、甕×甕区 (4)、破片 (1)
肥前系陶磁器	染付破片 (1)
土 製 品	壺型皿
瓦	須丸瓦 (玉砂)、野丸瓦 (包文)、いぶし瓦、破片 (陶目印)
石 製 品	石鏡 (磨石鏡)、水石、磨石破片、若石
金 属 製 品	磁押 (ガラス付酌)、磁押、鉄釘
豆皿 (未分類)	?破片 (1)
中 国 陶 器	壺：西山窯III×IV (1)、西耳壺VI×水注 (1)、破片 (1) 鉢：I (1)、I-F (2) 磁器鉢：皿 (1)、甕×b (1)、銅×II (2)、甕皿-a (1) A'-b (2)、c-b (2)
そ の 他	磁土塊

灰青色砂層

須 恵 器	环c、环c、蓋c1、甕、卮
土 師 器	环a (V~?、イト)、环c、小皿a (イト)、甕、大环c×甕
瓦	破片
鹿島窯系青磁	甕：II-b (1)
阿波窯系青磁	甕：I-I (3)
白	甕：I-I? (1)、IV (2)、V-VII (3)、破片 (4)、?破片 (1) 皿：VI×VII (1)、IX (1)、?破片 (1) 茶籠：破片 (3)
瓦	須丸瓦、破片 (磨目印)
石 製 品	石鏡 (磨石鏡)
金 属 製 品	U字形鉄鍬頭、鉄釘
中 国 陶 器	鉢：I-a×b (1)
そ の 他	磁土塊

赤灰色粘土層

須 恵 器	环c、外破片、蓋1、蓋3、甕
土 師 器	蓋a、蓋a (内四石人)、破片
弥 生 土 器	甕
縄 文 土 器	破片?
瓦	須破片
石 製 品	破石b
中 国 陶 器	磁器鉢：E (1)

赤灰色粘土層 (F1)地誌C

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
-------	------------------

乙

須 恵 器	甕
土 師 器	小皿a、破片
白	甕：II-1 (1)



Fig.158-21 大宰府桑坊跡第158次調査 第I遺構面略測図(1/200)

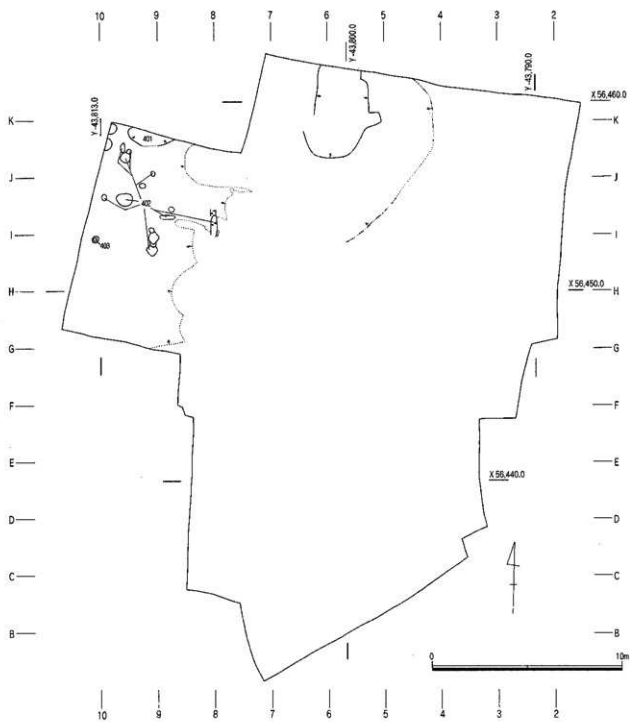


Fig.158-22 大窰府条坊跡第158次調査 第Ⅱ遺構面略測図 (1/200)

大府南条跡第158次調査 遺構番号台帳 (1)

第1頁

S-番号	遺構番号	種別	備考	層状状況 (古→新)	遺構間寸合 (古→新)	時期	地区番号
1	158SD001	溝状遺構	90と同一段溝。 土質層の中心位置あり。 散層にわたって埋積している。	暗灰色土→灰褐色土→黄褐色土 上→黒褐色土→暗赤色土	25・49・73・75・ 85・190・203・1 30→25・95→1 75 →1	XXI期～	CHライン
2		小穴群		黒色土			J9
3		小穴群		黒色土	5→3		J9
4		土坑					J9
5	158SK005	土坑		暗赤褐色土	5→155	平安後～	H9
6		小穴群	158SB155の一部を含む				H9
7		小穴群	158SB155の一部を含む	黒色土		12C中～	G9
8		小穴群			10→8		G10
9		小穴群			10→9		G10
10	158SK010	土坑		暗赤褐色粘土	34→10→8・9	平安中	H10
11		土坑			11→155	12C中～	H9
12		小穴及び溝状遺構			5→12		H9
13		小穴群	158SA175の一部を含む				H8
14		小穴群	158SB155の一部を含む				G8
15	158SX015	たまり状遺構	底をわずかに含む	暗褐色土	35→29→15	XVIII～XXI期	J8
16		小穴		黄色粘質土 (一部赤褐色土を含む)			G8
17		土坑		赤褐色土 (黄色粘質土層ブロックを含む)	17→16	XIX～XXI期	G8
18		小穴				13C前～	J9
19		小穴群		黒色土			J9
20	158SD020	溝	83に続くと思われる	灰褐色土	31→20→2・15・28・ 29・115	12C中～	J7→9
21		小穴群					J9
22		小穴群				11C後～	J8→9
23		小穴群		暗赤褐色土			J8
24		小穴		暗赤褐色土			J9
25	158SK025	土坑		灰色土→灰褐色土→赤褐色土	38・61→25→1		GH8→9
26		小穴群		暗赤褐色土			J8
27		小穴群					J8
28		たまり					J8
29		たまり状土坑			32→29→15	平安後～	J8
30	158SD030	溝状遺構	70と同一段溝	暗褐色土→黒灰色土→暗赤色土	85・209・251・ 278→30→95・ 179・181	XXI期～	Fライン
31		小穴群	20階層後使用		31→20		J9
32		たまり					J8
33		溝状遺構			48→33	13C前～	J8
34		土坑					C10
35	158SE035	井戸	井戸跡未検出。表層の井戸かも。 掘削は灰色粘砂層まで。	灰色砂→暗赤褐色土	35→29→15	12C～	J8
36		土坑群			119→36	XXI期	J7
37		小穴群					J9
38		小穴群			38→25		H9
39		小穴		灰色砂			J7
40		土坑		黒色土→灰褐色土	55→40	XXI期	K7
41	158SB100	小穴	158SB100の一部。黒土塊あり				J6
42	158SB100	小穴					J6
43	158SB100	小穴	158SB100の一部。黒土塊あり				J6
44		小穴群	158SB100の一部を含む				J6
45		土坑		白色土→灰褐色土→灰褐色粘 土→赤色土		13C前～	J3
46		土坑					K6
47	158SB155	小穴	158SB155の一部	(櫛目) 暗赤褐色土 (柱眼) 暗赤褐色土	49→47	13C中～	H8
48		たまり		暗褐色土	48→1・33	13C中～	H8
49		土坑		暗赤褐色土	49→1		H8
50	158SF050	井戸	井戸跡に楕を使用。	黒灰色土→暗褐色土→灰色砂 茶色土	101・248→50→75	13C中～後	U3→4
51		溝					J7
52		小穴群					J7
53	158SB140	小穴	158SB140の一部。何處まで出土			12C～	D6
54		小穴群	158SB140の一部を含む				F9
55	158SE055	井戸	井戸跡に楕を使用したと思われる。 井戸構造は、井戸跡のみあり。 掘削は花崗岩層をかなり掘り下げる	赤褐色粘土→暗赤褐色土→暗 赤褐色土→暗赤褐色土→暗赤 褐色土	55→40	13C中～	KJ6～7
56		土坑			261→56	13C～	E8
57		たまり					E7F
58		溝または土坑					D8
59		土坑群					D8
60	158SD001	溝状遺構	1と同一段溝	赤褐色土→暗赤褐色土→暗赤 褐色土		XIX～XXI期	GH2～
61		土坑				中世	G9
62		小穴		暗褐色土 (明褐色土を多く含む)		11C末～	J2
63		小穴				平安後	J2
64		小穴				中世	J2
65	158SD065	溝状遺構	溝化土走行	暗赤褐色土			G1

大宰府集約跡第156次調査 遺構番号台帳 (2)

S-番号	遺構番号	種別	備考	埋土状況 (A~D)	遺構埋没割合 (右~順)	時期	地区番号
66		小穴跡	158SA165の一部を含む				J2
67		小穴跡	158SA165の一部を含む				J2
68		小穴跡	158SA160の一部を含む				J2
69		小穴跡			118-69	13C後~	J7
70	158SD030	溝状遺構	30と49-遺構	黒灰色土→黒褐色土		XIX~XXI期	G2
71		小穴跡					I6
72		小穴跡	158SB100の一部を含む				I6
73		小穴			73-1		I7
74		溝状遺構					I8
75	158SR075 第1井戸	井戸	井戸跡に橋を使用。 断面は灰色泥砂層まで。	暗青色粘土→赤内→暗灰色粘土→暗茶色土→灰青色土→144	50・117・247・75-1	XIX期~	IH2-4
75	158SE075 第2井戸	井戸	井戸跡として方形に版板を組む。 断面は灰色泥砂層まで。	75暗青色粘土に埋土の一部が含まれている可能性もあるが、不明。		13C0-?	I13
76		小穴	74の下層小穴				I8
77		小穴			77-28		I7
78		小穴跡	49の下層小穴跡				I18
79		小穴跡					K3-4
80	158SX080	上土		黒色土→黒色土	121-80-104	平安後~	J6
81		上土					J6
82	158SD020	溝状遺構	20の底とみられる	褐色土		平安後~	I6
83	158SB100	小穴	158SB100の一部。			12C中~	I6
84		たまり?	82の上にとまる				I6
85		土坑		赤灰色砂→暗茶色土	85-181-1・30	平安後~	G8
86		小穴				XVIII期~	D6
87		小穴跡	158SB100の一部を含む			13C後~	I2
88		小穴跡	158SA165の一部を含む				I2
89		小穴					I2
90	158SB100	小穴	158SB100の一部。柱頭に黒土を含む		90-113-39		J7
91		小穴					I2
92		上土		褐色土		平安後~	I2
93	158SE093	井戸	井戸跡は検出されず。裏掘りか。 断面は灰色泥砂層まで。	暗灰色粘土→灰黄色土→黒灰色土→灰茶色土		XIV~XVII期	I2
94		小穴跡	158SA160の一部を含む			13C~	I2
95	158SK095	土坑		黄褐色砂	1・30-119-95	13C後~	GS-6
96		小穴跡	158SA165の一部を含む				H2
97		小穴	橋上隅のみ 65の下の小穴				G1
98		小穴跡					G2
99		小穴跡	158SB100の一部を含む				JK4
100		製瓦棟物	2×2段の群様の存在を持つ建物。北西隅に1箇分付あり。身舎内面に1/3段ほどの縁(または船)がつく。			平安後~	I4-6
101		小穴			101-50		J4
102		小穴跡					K3
103		小穴跡			45-103		J3
104		土坑?			80-104		K3
105		上土		黄褐色シルト土→黒褐色土	30-105	近世	P6
106		小穴跡	158SA165の一部を含む				G1-2
107		小穴					G2
108		たまり状遺構	土坑の可能性もあり				G2
109	158SB100	小穴	158SB100の一部。	(順方) 黒褐色土(柱脚) 黒褐色土(明褐色ブロックを含む) 灰斤を含む黒色土			J4
110		土坑					D3
111		土坑					JK4
112		土坑			124-112-111		JK4
113		上土		加茶色土		13C~	J6-7
114		たまり?		暗茶色土	123-162-114	XVI-XVIII期	K3
115		たまり状上土	浅い溝の可能性もあり	黒灰色粘土		13C前~	IH3-4
116		たまり?		黒褐色土			K3
117		たまり?			117-75		I2
118	158SK118	土坑		暗灰色土→暗茶色土		13C後~	I6-7
119	158SR119	井戸	地下水位を測る。 断面は灰色泥砂層まで。	灰褐色砂層?→暗内色粘土→灰茶色土→灰茶色土	119-36・51・52-118	平安後?	I7
120	158SE120	井戸	井戸跡は方形か。 断面は灰色泥砂層まで。	黄褐色シルト土→灰褐色砂→灰青色粘土→灰褐色粘土→灰砂→灰色粘土		12C後~	CD4-5
121		小穴跡	80の下層小穴	黒灰色土			J4
122		小穴跡		黒灰色土	122-80		J4
123		小穴跡	114の下層小穴				J3
124		たまり			136-174-124-99-111-1120-層		J3-4
125	158SE125	井戸	井戸跡は方形か。 断面は灰色泥砂層まで。	灰青色シルト土→灰褐色土→暗灰色粘土→暗茶色土		12C後~	EP5-6
126	158SE126	井戸	井戸跡は楕円とみられる。 断面は灰色泥砂層まで。	明灰色砂→灰黄色土→灰茶色土	126-118	平安後~	I6
127		小穴跡		褐色土			K5
128		小穴		褐色土			K5
129		小穴	溝十数あり	褐色土			K5

大宰府桑坊跡第158次調査 遺構番号台帳 (3)

S-番号	遺構番号	種別	備考	埋土状況 (穴→削)	遺構間紹介 (穴→削)	時期	地区番号
130	158SB130 第1井戸	井戸	水汲まじに食物使用。 掘削は灰砂層まで。	灰色礫砂・作内・暗灰色粘土 →灰茶色土→2B5		12C後~13C前	DES~6
130	158SE130 第2井戸	井戸	水汲まじに食物使用。 掘削は毛織が岩層まで。	暗灰色粘土→食物内			DES~6
131		小穴群	数十個あり	黒色土			K5
132		小穴群		黒色土	132→80		K5
133		土坑		暗茶色土		12C~	K5
134		小穴群	111の下層小穴群				K4
135		穴鼻					-
136		小穴群	124の下層小穴群				J3~4
137		穴鼻					-
138		たまり		薄灰茶色土			K4
139		たまり	地山のシロカ?				J2
140	158SB140	竪立柱建物	1×3間の竪柱南北棟。 53、54の一本、293の下層小穴、266の下 層小穴、259の一本、294の一部を含む			12~13C	DE7~8
141		小穴					K4
142		小穴	壁土塊が出土				K4
143		穴鼻					-
144	158SE076	井戸跡内城跡 周壁土	76の井戸跡	75→144		XIX期~	H3
145	158SB145	竪立柱建物	2×2間の竪柱建物。 276の一本、282、279の一本、236、256 の1層のみ、261を含む			13C~14C	DE3~4
146		小穴群	158SB100の一部を含む				J5
147		小穴群				12C後~	J5
148		土坑				13C~	J5
149		土坑				12C後~	K4
150	158SB150	竪立柱建物か	1×2間以上の竪柱南北棟。 298の一本、296の一本、208の一本を 含む				ABC7~8
151		小穴	149の下層				J4
152		小穴					J4
153		小穴群	158SB100の一部を含む		171→153	12C後~	J4
154		小穴					H4
155	158SB155	竪立柱建物か	2×2間の竪柱建物か。 60の一本、70の一本、47、140の一部を含む		5・11・40→155→25 か	13C中~	I9
156		小穴群					I4
157		小穴群	158SB100の一部を含む				I4
158		小穴					G3
159		小穴群					G3
160	158SA160	竪列	南北に走行。 98の一本、94の一本を含む				IK2
161		小穴	148の下層小穴				K5
162		小穴群	114の下層小穴				K3
163		小穴			82→163		I5
164		土坑			164→82→163		I5
165	158SA165	竪列か?	南北に走る。 96の一本、67の一本、89の一本、96の一本、 106の一本を含む。				29ライン
166		土坑		黒色土		13C前~	J5
167		小穴群	171の下層小穴群			12C~	J5
168		小穴群	158SB100の一部を含む				J5
169		小穴			169→171	~12C後	J5
170	158SA170	竪列か	東西に走行。269の一本、217を含む				Gライン
171		たまり		黒茶色土		XIV期前後	J5
172		穴鼻					-
173		小穴orたまり			173→84	12C中~	I5
174		小穴群			174→124		J3
175	158SA175	竪列	東西に走行。 13の一本、223、259の一本、289の一本、 178の一本、213の一本を含む。		175→125		Fライン
176		小穴群			176→45		J3
177		土坑?	掘削か? 黄色土ブロック等埋む			13C後~	G4B
178		小穴群	158SA170の一部を含む				P4
179		土坑			1・30→179→95	XIX~	O6
180	158SA180	竪列	南北に走行。 281の一本、276の一本、279の一本、 182、184の一部を含む				B→E5
181		たまり			85→30→181→1	13C~	G7
182	158SA180	小穴		(掘削) 暗灰色土。 (埋積) 黒色土			C5
183		小穴群			120→183		BC5
184		小穴群	158SA180の一部を含む				BC5
185	158SB185	竪立柱建物か	1×2間の竪柱南北棟。 250の一本、289の一本、281、287、276 の一本を含む				P6
186		小穴群					C5
187		小穴					C5

大宰府条功跡第156次調査 遺構番号台帳 (4)

S-番号	遺構番号	種別	備考	埋土状況(占一割)	遺構埋没合 (占一割)	時期	地区番号
188		小穴					B6
189		小穴群	158SA195の一部を含む				C6
190	158SB190	井戸か	S-1褐色色粘土、S-1褐色色シルトをS-190に覆死。 井戸枠は抜き取られたとみられる。	褐色色シルト→褐色色粘土	190→1	13C後→	H6
191		土坑	たまりの可能性もあり				B6
192		小穴群				13C後→	C6
193		土坑			232(195)→193		C6
194		小穴群			229→194		A7
195	158SA195	欄干か?	南壁に存在し、ただし柱間が欄干と比べて短形性が低い。 291、282の一部、189の一部、232を含む。		195→183	13C→14C	B6→P6
196		小穴					B6
197		小穴群				13C後→	B6付添
198		小穴	土師器小皿出土			XI階	I5
199		小穴				色灰→	I5
200		穴蓋					—
201		小穴				中室後→	H5
202		小穴群					I16
203		小穴			203→1		H6
204	158SB204	井戸か?	井戸枠は検出されず。高麗りか。 敷石は灰色粗砂層まで。			13C後→	B6→7
205		穴蓋					—
206		土坑					A7
207	158SK207	土坑	井戸の可能性もあり			13C中→	B6
208		小穴群	158SB1500の一部を含む				B7
209		小穴群	30 (F7) の下層小穴				FG2→3
210		穴蓋					—
211		小穴			211→30 (F7)	中世	F2
212		小穴					F2
213		小穴群	158SA175の一部を含む				F2
214		小穴		(掘方) 淡黄色シルト土 +褐色色土 (柱間) 灰色土			F3
215		穴蓋					—
216		小穴群				13C後→	C6→3
217	158SA170	小穴					G3
218		小穴		黒色土		13C後→	E3
219		穴蓋					—
220		穴蓋					—
221		土坑				黒灰色土	E3
222		小穴	221の下層小穴、粘土を多く含む				F3
223	158SA179	小穴	灰がつまる。				E7
224		小穴群	181の下層の小穴		224→181→1	13C前→	G7
225		穴蓋					—
226		小穴群	181の下層の小穴				G7
227		溝状遺構			227→1	13C後→	G6
228		土坑					A5
229	158SK229	I坑					B7
230		穴蓋					—
231		小穴群					B7
232	158SA195	小穴	158SA195の一部		232(195)→193		B6
233		穴蓋					—
234		土坑	1の下層土坑。1の一部の可能性もあり			13C後→	H5
235		穴蓋					—
236	158SB145	小穴	158SB145の一部。柱間に粘土(褐色色土)がつまる				D3
237	158SK237	小穴群			241→237		E3
238	158SB145	小穴	158SB145の一部。241との切合不明				E3
239		小穴群					DE3
240		穴蓋					—
241		土坑					E3
242		小穴群					C3→4
243	158SB145	小穴群	158SB145の一部。柱間に粘土を含む				D3
244		小穴					C4
245		穴蓋					—
246		小穴群					H2
247		小穴					I3
248		小穴群					I3
249		小穴					I2
250		穴蓋					—
251		小穴群	30の下層小穴			13C後→	F7
252		小穴			252→110		D3
253		小穴		(掘方) 淡黄色シルト (柱間) 灰多量を含む			G4
254		土坑					D4
255		穴蓋					—
256		小穴					D4
257		小穴群			120→257		CD5
258		穴蓋					—
259		小穴群	158SB140の一部、158SA175の一部、 158SB185の一部を含む				EP6→7

大宰府系功跡第150次調査 遺構番号台帳 (5)

S-番号	遺構番号	種別	備考	埋土状況 (古-新)	遺構調査 (古-新)	時期	地区番号
260		穴壘					-
261	158SB140	小穴群	158SB140の一部。		261→56	13C前～	E8
262		土坑					E9
263		土坑					E6
264		小穴群					F7
265		穴壘					-
266		土坑					E67
267		小穴			267→1		G5
268		小穴			268→1	13C後～	G5
269		小穴	158SA170の一部を含む				G5
270		穴壘					-
271		穴壘					-
272		土坑	266の下層土坑			12C中～	F7
273		たまり状小穴			273→267		G5
274		たまり状遺構		灰褐色土		12C中～	DE3→4
275		穴壘					-
276		小穴群	158SB145の一部、158SB185の一部を含む (158SA180の一部も含む)				E4→5
277		穴壘					-
278		小穴群	30の下層の小穴群			平安後～	F4
279		小穴群	158SB145の一部、158SA180の一部を含む				D5
280		穴壘					-
281		小穴群	158SA180の一部、158SB185の一部を含む				F5
282		小穴群	158SA195の一部を含む				D6
283		土坑				12C中～	D5
284		土坑				12C中～	D6
285		穴壘					-
286		たまり		赤褐色土			E5
287		小穴群	158SB185の一部を含む		130→287		E6
288	158SE130	井戸枠内縁積埋土	130の井戸枠			13C前～	R6
289		小穴群	158SA175、158SB185の一部を含む				EFS→6
290		穴壘					-
291	158SA195	小穴	158SA195の一部				E6
292		土坑			293→292		C8
293		土坑			293→292		C8
294		小穴群	158SB140の一部を含む				D7
295		穴壘					-
296		小穴群	158SB150の一部を含む				C7
297		土坑				13C後～	B8
298		小穴群	158SB150の一部を含む				B8
299		小穴群			299→293		D5
300		穴壘					-
301		小穴	48の下層小穴				H7
302		土坑					D6
303		小穴群	293の下層小穴				C8

第1層

401	土坑	灰褐色土層下で検出				9C	J8→9
402	小穴群	灰褐色土層下で検出					J8→9
403	小穴	灰褐色土層下で検出					H10

層位等

灰土	灰土						調査社全体調査区全体
赤色土層	赤色土層	御田原遺跡出土時、人工層位					8ライン以西
灰褐色土層	灰褐色土層	御田原を覆う築地帯。(→灰褐色土)				12C中～	8ライン以西
相模陶色土層	相模陶色土層	御田原を覆う築地帯				奈良～平安後期	8ライン以西

大宰府発跡第156次調査 出土遺物一覧表 (I)

S-1黒帯色土	
遺 器	坪c、壺1、壺
土 師 器	坪a (イト)、坪c、小皿a (イト)、小皿b、大坪×大壺c、壺a、壺、壺
瓦	板瓦、破片
瓦 質 土 器	板瓦、破片
龍泉窯系青磁	甌: I (2)9、I-2 (1)、I-2×3 (1)、I-4 (2)、I-6 (1)、I-6? (1)、I×II (5)、II (1)8、IIa (1)、II-a (4) II-b (3)3、II-c (1)、III (1)、II-1 (1)、III-2 (8) II-2B+C (1)、III-2c (3)、I-6×同安 壺1+b (1) ?破片 (1)、破片 (17)
同安窯系青磁	甌: I-1c (1) 他器種: 小瓶I (1)、坪皿I (3)、坪皿-3b (2)、坪皿-4 (1) 壺II (1)、壺?II (1)、皿破片 (2)、壺× (1)、破片 (1)0
同安窯系青磁	甌: I-1 (5)、I-1a (1)、I-1b (1)5、I-1c (1)、II×III (1)、破片 (同安×龍泉) () 甌: I (3)、I-1 (1)、I-1b (1)、I-2b (3) 他器種: 破片 (3)
須恵系土器	こむす (龍橋系)、鉢、壺
瓦 質 土 器	こむす、碎破片
同 産 陶 器	甌 (空否?) (1)、壺 (7)
白	磁 甌: IV (3)、V-VII (1)、V (1)、V-2? (1)、V-4-b (1) V-VII (2)、V-VIII (4)、V-4×VIII-1-3 (1)1 VI×VII (1)、VI-VIII (1)、VIII (1)、 VIII-1 (1)、IX (1)、X-a? (1)、X-b (1)、X-b? (1) X-2? (1)、破片 (27) 甌: II-2? (2)、II×III (1)、III-1 (2)、VII (2)、IX (1)0 IX-1 (1)、IX-1b (1)、IX-2 (3)、IX-2a (1)、破片 (1) 甌: 輪×皿区 (1)2、輪×皿区× (1)、輪×皿区×b? (1) ?耳壺 (1)、壺 (8)、壺? (3)、耳壺×水注 (1) 壺×水注 (1)、破片 (1)3
竹 材	磁 耳壺 (1)、蓋 (2)、合子蓋 (1)、合子 (1)、破片 (5)
土 師 器	不明製品
瓦	板瓦 (格子印)
石 製 品	石輪 (磨石製)、丸玉
金 属 製 品	鉄釘、不明鉄製品、銀鏡 (撫摩元寶 (百濟) [2]、聖元元寶 (行唐)、元聖通寶 (行唐)、寿化元寶 (行唐))
青磁 (未分組)	破片 (青磁×青磁) (2)、青磁?磁? (1)
中 国 陶 器	甌: 耳壺VI (1)、耳壺VIa (1)、耳壺VII (1)、小壺? (1) 鉢: I-1c (1) 甌: 破片 (1) 他器種: 壺×水注 (3)、甌 (2)、壺1-b (5)、壺1-2 (3)、A-2壺 (1)、龍橋 糸入A (1)、A' (5)、A'-b (5)、B'-b (3)、F (3)、?破片 (1)
そ の 他	磁土塊
S-1黒帯色土上層	
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
白	磁 壺: 壺 (2)
S-1黒帯色土	
遺 器	坪c、坪身、坪破片、破片
土 師 器	坪a (イト)、坪a (灯明)、小皿a (イト)、小皿b、破片
瓦	板瓦、破片
龍泉窯系青磁	甌: ?壺×水注× (1) 鉢: II?破片 (1)
龍泉窯系青磁	甌: I (2)1、I-2 (1)、I-2×3 (1)、I-6b (1)、I×II (2)、II (1)4、II-a (2)、II-b (5)2、II-c (2) II×III (2)、III (2)、III-1 (1)、III-1Ab (1)、III-1B (1) III-2 (5)、III-2c (1)、IV (1)、破片 (1)4 甌: I (1) 他器種: 小瓶 (2)、小瓶 III-1Ab (1)、小瓶 III-2c (1) 坪皿 (1)、坪皿I (2)、坪皿-1a (1)、坪皿-4 (1) 壺II×IV (1)、皿破片 (4)、?破片 (1)、破片 (7)
同安窯系青磁	甌: I-1 (1)1、I-1b (1)3、I-1c (1)、?破片 (4) 破片 (3)、破片 (同安×龍泉) (5) 甌: I (3)、I? (1)、I-1 (3)、I-2b (1) 他器種: 破片 (同安×白磁) (1)
土 師 器	大壺
須恵系土器	こむす (龍橋系)
瓦 質 土 器	磨付鉢、鉢、破片
銀 鏡 陶 器	壺× (1)
同 産 陶 器	瓦、陶器
白	磁 甌: II (1)、IV (5)、V (2)、V9 (1)、V-2 (1)、V-4×VII-1-3 (5)、V×VI (1)、V-VII (2)、V×VIII (3) VI? (1)、IX× (1)、IX-2a (1)、X-b (1)、破片 (3)2 甌: II×III (1)、III-1 (1)、VI (1)、VIII (1)、VIII-1b (1)、IX (1)2、IX? (1)、IX-1 (6)、IX-2 (3) X-b (2)、?破片 (1)、破片 (2)

白	磁 壺: 輪×皿区 (5)、輪×壺 (2)、鉢 (1)、壺 (1)0 壺× (合徳×青磁) (1)、?破片 (2)、破片 (1)1
竹 材	磁 皿 (1)、耳壺×水注 (1)、合子蓋 (2)、?破片 (1)、破片 (1)2
輸入陶磁器 (未分組)	朝鮮系無釉陶器片 (詳の付遺物あり)
土 師 器	輪頸口
瓦	板瓦、破片
石 製 品	手ヤマト、不明磨石 (磨石製)、平石 (磨石片?) 石輪 (磨石製)
金 属 製 品	鉄釘、不明鉄製品、ドリル状鉄製品、磨状鉄製品、銅鏡 (天聖元寶 (漢唐)、聖宗通寶 (漢唐)、元○○○)
青磁 (未分組)	壺×水注 (1)、未分組 破片 (幾か?) (1)
中 国 陶 器	甌: 耳壺II (1)、?破片 (1)、破片 (1) 鉢: I×a (1)、I-1 (2)、III×IV (1) 他器種: 甌 (1)、壺1-2 (2)、壺1-b (2)、小壺1-2 (2) 壺II (1)、壺×水注 (1)、A' (4)、A'-b (6)、B' (4) B'-b (1)、C-a (1)、C-b (2)、C-a? (2)、D (2)、E (5) ?破片 (3)、破片 (2)
そ の 他	磁土塊

S-1黒帯色土a	
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
龍泉窯系青磁	甌: I-2? (2)、II (1)、II-a (1)、II-b (1) 他器種: 壺× (1)
同安窯系青磁	甌: I-1b (1)
土 師 器	大壺
須恵系土器	こむす (龍橋系)
瓦 質 土 器	鉢 (磨付鉢)
白	磁: IX (1) 壺: 小壺× (1)
石 製 品	石輪 (磨石製)
金 属 製 品	鉄片
中 国 陶 器	他器種: F (1)

S-1黒帯色土b	
遺 器	壺、破片
土 師 器	坪a (イト)、坪a (灯明)、小皿a (イト)、小皿b、壺c、壺、壺
龍泉窯系青磁	甌: 甌 (形跡×文?)、壺
龍泉窯系青磁	甌: I (1)、I-2? (1)、II-a (2)、III-1A (1) 甌: I-1b×2b (1)
須恵系土器	こむす (龍橋系)
瓦 質 土 器	鉢 (輪花入×磨付鉢)
白	磁: 破片 (1) 甌: IX-1 (4) (S-1黒帯色土と被合)、IX-2 (1) 破片: 壺 (1)
瓦	板瓦 (格子印)
中 国 陶 器	他器種: 壺1-2 (1)、C-b (1)

S-1黒帯色土c	
遺 器	壺
土 師 器	坪a (イト)、坪a (灯明)、小皿a (イト)、小皿b
龍泉窯系青磁	甌: I (2)
龍泉窯系青磁	他器種: 浅形壺1-2 (1)、破片 (1)
須恵系土器	こむす (龍橋系)
瓦	磁: V (1)、破片 (1) 鉢: 破片 (1)
石 製 品	石輪 (磨石製)
金 属 製 品	鉄片
中 国 陶 器	他器種: E (1)

S-1黒帯色土d	
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
瓦	板瓦
龍泉窯系青磁	甌: I (1) 他器種: 坪皿-4a (1)
同安窯系青磁	甌: I (1)
土 師 器	表取鉢、破片
同 産 陶 器	壺 (袋漕系)
瓦 質 土 器	磨付鉢; 耳壺 (1)
瓦	板瓦
金 属 製 品	鉄釘
そ の 他	磁土塊

大宰府系坊跡第158次調査 出土遺物一覧表 (2)

S-1黒色土e

銅 器	環c、鏃、破片
土 師 器	環a (イト)、環a (灯明)、小皿a (イト)、小皿b、甌c
瓦	筒
奈良系青磁	甌: I (1)、I? (1)、II (1)、II-b (5)、III-2c (1) 他器種: 破片 (1)
阿安系青磁	甌: I-1b (1)
高 麗 青 磁	甌: 甌 (1)
瓦 質 土 器	鉢 (漆付?)
陶 器 陶 器	甌 (1)
白 磁	甌: V×VI (1)、破片 (2) 甌: III-1 (1)、VIIa+ (1)、IX (1)
青 白 磁	香子蓋 (1)
輸入陶磁器	朝鮮系陶器+ 破片 (1) (※分組)
石 製 品	石鏡 (磨石類)
金 銅 製 品	鉄釘
中 國 陶 器	甌: 耳環X (2) 鉢: IV-1 (1)
そ の 他	磁器類: A' (1)、A'-a (1)

S-1黒褐色土

銅 器	環c、鏃、破片
土 師 器	環a (イト)、環c、小皿a (イト)、小皿b、甌a、甌a+?、破片
瓦	筒c
奈良系青磁	甌: I (1)3、I-2 (1)、I-2×3 (1)、IXII (2)、II (5) II-b (2)4、III-2 (2)、III-2c (1)、?破片 (1)、破片 (5) 他器種: 小皿III-2 (1)、小皿III-3 (1)、小皿III×IV (1) 坏皿 (1)、破片 (5)
阿安系青磁	甌: I-1 (4)、I-1b (5)、III (1)、III? (1)、破片 (2) 甌: I? (1)、I (1)、破片 (阿安×白磁) (1)、破片 (阿安×甌) (1)
高 麗 青 磁	甌: 甌 (1)
土 師 器	甌? 火舎
奈良系土器	土師器 (深鉢系)
瓦 質 土 器	すり鉢
陶 器 陶 器	一形 蓋 (1)
白 磁	甌: IV (3)、IV? (1)、V-2 (1)、V-VII (3)、V×VIII (2) V-4×VIII-1-3 (1)、?破片 (2)、破片 (7) 甌: II-b (2)、VII? (1)、VII-2 (1)、IX (7)、IX-1 (3) IX-1c (1)、IX-2 (1)、IX-2? (1)、XI-1 (1) 甌: 甌×甌IX (3)、甌 (1)、甌+ (1)、甌×水注 (1) 破片 (3)
青 白 磁	甌 (1)、破片 (2)
石 製 品	石鏡 (磨石類)、柱状片刃斧、磨石破片、石斧
金 銅 製 品	刀?、鉄杖、棒状鉄製品、鉄釘、不明鉄製品 陶鏡 (元景鏡) (行徳)、京來越前 (青帯)
新羅 (※分組)	甌×坪 (1)、破片 (2)
中 國 陶 器	甌: 耳環X (1)、甌IV (1)、破片 (1) 甌: 破片 (4) 他器種: 甌×水注 (2)、?甌×甌 (1)、甌II (1)、A' (2) A'-b (3)、B'-b (1)、C-b (3)、C' (1)、E (1) ?破片 (2)
そ の 他	焼上境

S-1黒灰色土

銅 器	鏃、鏃c、破片
土 師 器	環a (イト)、環a (灯明)、小皿a (イト)、小皿b、小皿c 大形c×大皿c、甌b、甌破片、鉄、鉄釘
瓦	筒c (佛面ケズリ)、筒破片
奈良系青磁	甌: II (1)
阿安系青磁	甌: 甌 (1)、?大形甌 (1) 甌: I (1)7、I-2 (2)、I-2×3 (1)、I-3a (1)、I-4 (1) I×II (1)、II (1)0、II-a (1)、II-b (4)0、II-b+ (1) II-c (1)、II×III (1)、III-1 (2)、III-1B (1)、III-2 (8) 破片 (1)0 甌: I (1) 他器種: 小皿I-2 (1)、甌×小皿II (1)、坏皿 (1) 坏皿-1 (1)、坏皿-3b (1) (灰色土と被写)、田破片 (1) 破片 (5)
阿安系青磁	甌: I-1 (4)、I-1b (1)1、I-1c (1)、I×III (1)、II×III (2) II×III+ (1)、?破片 (1)、破片 (2) 甌: I (8)、I (内御厨文) (1)、I-1-a (1)、I-2b (3) 他器種: 破片 (2)、破片 (阿安×甌) (1)
高 麗 青 磁	坏鉢: 甌 (1)
土 師 器	火舎、鉢
瓦 質 土 器	土師器、すり鉢、片刃鉢、蓋?
陶 器 陶 器	甌 (2)、?すり鉢 (備前か?) (2)

白 磁	甌: IV (2)、IV-1 (1)、IV-1a (1)、V (4)、V? (2) V-2? (1)、V-VII (2)、V×VIII (3)、V-4×VIII-1-3 (3) VI (1)、VI×VII (1)、VII-1a+ (2)、VII-c×VII-4 (1) VIII (2)、VIII-1 (1)、IX (1)、IX+? (1)、XI? (1) ?破片 (2)、破片 (1)8
青 白 磁	甌: III-1 (2)、VI (2)、VIIa+ (1)、VII-1' (1)、VII-2 (1) IX (3)、IX-1 (2)、IX-1b (1)、IX-2 (1) 甌: 甌×IX (5)、甌×IXIX (1)、甌×IXIX-b (2) 甌 (5)、小皿 (1)、鉢? (1)、破片 (8)
輸入陶磁器	甌 (2)、香子鉢 (2)、?香子舟 (1)、?甌 (1) (3) 破片 (2) 朝鮮系銅陶器 破片 (2) (※分組)
石 製 品	水注×小皿 (1)
土 師 器	甌、甌、甌、甌
瓦	丸瓦 (格子印、工跡)、破片 (格子印)
石 製 品	棒石、破石、石鏡 (磨石類)、磨石不明鉄製品
金 銅 製 品	鉄釘、不明鉄製品、刀?
内証 (※分組)	甌 (青磁×白磁) (1)、破片 (青磁×白磁) (1)
中 國 陶 器	甌: 甌IV (1)、耳環VI×VII (1)、破片 (1) 鉢: I-2a (1) 甌: 甌×水注 (2)、甌II (2)、甌I (1)、甌I-b (6) A' (4)、A'+ (1)、A'-b (4)、B' (3)、B'-b (1) C-b (1)、D-b (1)、E (1)、?破片 (2)、破片 (1)
そ の 他	方ラテ (青色)、漆製品、砥石

S-1褐色土

銅 器	鏃、鏃
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、甌 (青代)
瓦	筒
奈良系青磁	甌: I (3)、II (4)、II-b (3)、III (1)、破片 (1) 甌: I (1) 他器種: 小皿I+ (1)、甌IV×IV (1)
阿安系青磁	甌: I-1b (3) 甌: I (1)、I+ (1)、I-b (1) 他器種: 破片 (1)
土 師 器	火舎
奈良系土器	片刃鉢
陶 器 陶 器	甌 (1)
白 磁	甌: V-4×VIII-1-3 (2)、破片 (3) 甌: III-1b+ (1)、III (1)、IX-1 (1) 甌: 甌 (1)、破片 (1)
青 白 磁	破片 (1)
輸入陶磁器	朝鮮系陶器+ 破片 (1) (S-180阿安系土器土と被写) (※分組)
金 銅 製 品	鉄釘
中 國 陶 器	甌: 甌b (1)、B' (1)、P (1)

S-1褐色土下層

銅 器	鏃
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
奈良系土器	破片
そ の 他	焼上境

S-2

銅 器	鏃
土 師 器	環a、小皿

S-3

土 師 器	環a、甌c
瓦 質 土 器	破片
鉢 陶 器	破片 (1)
白 磁	甌: 甌 (1)

S-4

銅 器	鏃
土 師 器	環a、環c、破片
瓦 質 土 器	破片?
阿安系青磁	甌: I-1b (1)
土 師 器	破片

大宰府糸紡第156次調査 出土遺物一覧表 (3)

S-5

須 恵 器	珉c, 磁, 破片
土 師 器	珉a (イト)
黒色土器	良丸
瓦	形c
阿波系青磁	柄: 1-1b (3), 1-1b*c (1), 1×II (1)
阿波系土器	こね鉢
緑釉陶器	破片 (1)
阿波陶器	甕 (深溝) (1)
白 磁	柄: IV (1), 破片 (1)
灰 土	皿: I (1)
中国陶器	他器種: A'b (1)

S-6

須 恵 器	磁
土 師 器	珉a (イト), 破破片
阿波系青磁	皿: 1-2b (1)

S-7

須 恵 器	珉c, 蓋
土 師 器	珉a, 小皿a (イト)
阿波系青磁	柄: 1-2 (1)
須 恵 質 土 器	こね鉢 (東播磨)
白 磁	文皿 (1), 破片 (1)

S-8

土 師 器	珉a (イト), 破片
-------	-------------

S-9

土 師 器	珉a, 柄c, 甕a
緑釉陶器	破片 (1)

S-10

須 恵 器	珉×蓋, 蓋
土 師 器	柄c2, 小皿×蓋, 甕a (内側石入り)
黒色土器	良丸
越前系青磁	柄: 1-2 (1)
瓦	形: 瓦瓦 (格子印), 土師, 平瓦 (横目印) (格子印)

S-11

須 恵 器	破片
土 師 器	珉a (へう, イト)
阿波系青磁	柄: 1 (1)

S-12

土 師 器	珉破片, 甕b, 甕破片
-------	--------------

S-13

土 師 器	珉a (イト)
阿波系青磁	皿: 1-2b (1)
中国陶器	甕, 耳蓋VI (1)

S-14

土 師 器	珉a (イト), 破破片
白 磁	柄: V×VI (1)
赤釉陶器	鉢

S-15

須 恵 器	珉c, 破片
土 師 器	珉a (イト), 小皿a (イト), 羽輪
阿波系青磁	柄: 1-4 (1), 破片 (1)
瓦	形: 瓦瓦
金 属 器 具	配座
中国陶器	甕: 破片 (1)
その他	磁化水

S-16

土 師 器	珉a, 珉c
-------	--------

S-17

須 恵 器	珉a (イト)
土 師 器	珉a (イト), 小皿a (イト)
阿波系青磁	柄: 1 (1)
阿波系青磁	柄: 1-1 (1)
白 磁	柄: 破片 (1)
石 製 品	滑石破片
金 属 器 具	鉢

S-18

須 恵 器	磁
阿波系青磁	柄: 珉e (1)

S-19

土 師 器	珉a (イト)
緑釉陶器	破片 (1)
中国陶器	他器種: 7破片 (1)

S-20

須 恵 器	蓋3, 甕, 破破片
土 師 器	珉a (イト), 珉c, 柄c2, 大坪×大甕c, 把手
阿波系青磁	柄: 1-1b (1)
瓦	皿: 1 (1)
白 磁	柄: IV~VI (1), V-3a (1), V-4×VIII-1-3 (1)
中国陶器	甕: 破片 (1)
瓦	形: 破片
石 製 品	滑石破片
中国陶器	甕: 破片 (2)

S-21

須 恵 器	甕?
土 師 器	珉a (イト), 珉c, 柄c2
黒色土器	良丸
中国陶器	他器種: A'b (1)

S-22

須 恵 器	珉c, 甕
土 師 器	小皿a (へう), 大牙c
越前系青磁	柄: 1-3 (1)
阿波系青磁	柄: 1-1 (2)
須 恵 質 土 器	こね鉢

S-23

須 恵 器	破破片
土 師 器	珉a (イト), 珉c, 甕a

S-24

須 恵 器	破
土 師 器	珉a, 破片
中国陶器	甕: 破片 (1)

S-25赤褐色土

須 恵 器	珉c, 珉, 蓋3, 甕
土 師 器	珉a (イト), 珉a (灯明), 小皿a (イト), 小皿a (灯明)
黒色土器	良丸, 甕, 甕, 破片, 小皿a (横溝)
瓦	形: 良丸
阿波系青磁	柄: 1 (2), 1 (内側以込みスタンプ文「命玉調等」) (1)
白 磁	皿: 2, 皿-b (1), 皿×II (1), 皿×III (1), 皿-2 (1)
他器種	鉢: 鉢-5a (1), 蓋皿 (1)
阿波系青磁	柄: 1-1b (6), 皿×III (1), 皿: 1 (2)
須 恵 質 土 器	こね鉢 (東播磨), すり鉢, 片口鉢 (東播磨)
中国陶器	甕 (深溝) (1)
白 磁	柄: IV (1), IV~VI (1), V×VII (1), V~VII (1), V-4×VIII-1-3 (1), 破片 (7)
瓦	皿: 皿×III (1), VIII (1), VIII-2b×c (1), IX (2)
その他	蓋 (1), 蓋皿×c (1)
灰 土	皿: (1), 合子及 (1), 7破片 (1)
中国陶器	甕: 西耳蓋皿 (1)
瓦	形: 破片 (1)
他器種	甕: 甕-2 (1), A'b (3), B' (1), C-b (1), C-b? (1), E (1)

S-25K黄褐色土

須 恵 器	珉, 破片
土 師 器	珉a (イト), 小皿a (イト)
阿波系青磁	柄: 1 (1), 皿 (1), 皿-b (1), 皿-b×III-2c (1)
他器種	小柄×皿 (1), 皿破片 (1)
土 師 質 土 器	片口鉢
須 恵 質 土 器	片口鉢 (東播磨)
白 磁	甕: 耳蓋 (1), 破片 (2)
丹 土	破片 (外側に文様) (1)
金 属 器 具	鉄釘, 鉄片, 棒状銅製品
中国陶器	甕: 東耳蓋皿×c (1)
他器種	柄: 甕 (1), B'-b (1), E (1)

大宰府糸紡跡第156次調査 出土遺物一覧表 (4)

S-25灰色土

須 恵 器	環c、環
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
瓦	環c
白 磁	環: V-4×VII-1-3 (1)、破片 (1)

S-26

須 恵 器	環c、蓋1、環
土 師 器	環a (イト)、丸底杯?
瓦	環丸瓦 (横目印)

S-27

須 恵 器	環
土 師 器	環a (イト)、環c、小皿a (イト)、甕
阿波窯系青磁	環: I-1b (1)
白 磁	磁器: 壺 (1)
金 属 器 品	不明調製品
中 國 陶 器	磁器類: ?破片 (1)

S-28

須 恵 器	環f、環
土 師 器	環a (イト)、小皿a
瓦	環c
金 属 器 品	鉄釘

S-29

須 恵 器	環f、環片
土 師 器	環c、小皿a (ヘタ)、環a
薩州窯系青磁	環: II? (1)
肥前窯系青磁	環: I (1)
阿波窯系青磁	環: 破片 (1)
白 磁	環: 破片 (1)

S-30地味色土

須 恵 器	環c、蓋c、供養具
土 師 器	環a (イト)、環a (灯明)、環c? (イト)、小皿a (イト)、小皿a (灯明)、小皿b、環c、鉢、器付、蓋
瓦	環c
越前窯系青磁	環: I (1)、?破片 (1)
薩州窯系青磁	環: I (1)②、I-2 (3)、I-2? (1)、IX (4)、II (15) II-a (2)、II-b (15)、III (2)、III-2 (7)、III-2c (1) 破片 (12) 蓋: I (3) 高脚杯: 小柄皿-2 (1)、小柄皿-3c (1)、坪皿-1? (1) 坪皿-2b (1)、坪皿-4 (1)、杯×盤 (1)、大坪皿 (1) 蓋: (1)、皿破片 (2)、?破片 (1)、破片 (2) 阿波窯系青磁 環: I-1 (1)、I-1b (2)、I×III (1)、III (1) 破片 (3)、破片 (阿波×肥前) (1) 蓋: I (1)、I-Ia (1)、I-2b (1) 磁 器 環c? ?蓋 (1) 須 恵 質 土 器 ?こ鉢 (東播磨)、すり鉢、片口鉢 (東播磨) 瓦 質 土 器 蓋: 壺×水注 (中河原) (1)、壺? (1)、破片 (東播磨) (1) 薩 州 陶 器 蓋 (東播磨) (3) 白 磁 環: II (1)、II-1 (1)、IV (3)、IV-1 (1)、V (1)、V-2 (1) V-VIII (1)、V-4×VII-1-3 (4)、VII? (1)、IX (1) X-b (1)、破片 (16) 蓋: III-1 (2)、VI-a (2)、VII-2a+ (1)、IX (6)、IX-1 (4) 破片 (2) 磁器: 壺×皿破片 (1)、蓋 (3)、破片 (4)、破片 (小形皿) (1) 器 付 磁 皿 (1)、壺×水注 (1)、壺×a (1)、合子身 (1)、破片 (5) 薩 州 陶 器 大日輪 (1) 輸入 陶 磁 器 朝鮮系陶器+ 破片 (1) (土 多 量) 磁 器 戸おろし皿 (1) 土 器 品 砂埴、玉、不明調品 瓦 環丸瓦、破片 (胎子印)、瓦平 石 製 品 碁石、石匙 (安山岩)、滑石破片、碇石 金 属 器 品 鉄釘、不明調製品、銅鏡 (内口元裏 (真鍮)、磨1高) 高脚杯 (中河原) 破片 (1) 中 國 陶 器 蓋: 西河原XII (1)、耳壺IVb+ (1)、耳壺VI (1)、破片 (2) 環: IV-1 (1)、III×VI (1) 蓋: 破片 (4) 高脚杯: 壺×鉢? (1)、蓋-b (2)、蓋-2 (1)、A' (3) A'-b (7)、B' (1)、B'-b (2)、C-b (2)、D-b (1)、E (2) そ の 他 磁 土 塊

S-30黒灰色土

須 恵 器	鉢、破片
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
薩州窯系青磁	環: I (2)、IX (1)、II-b (3)
阿波窯系青磁	環: I-1 (1)、I-1b (2)、破片 (1)
須 恵 質 土 器	?こ鉢 (東播磨)
白 磁	環: 破片 (1) 蓋: VII-1b (1)、IX-2 (1)
石 製 品	丸行
金 属 器 品	鉄釘
中 國 陶 器	他磁器: B-b (1)、E (1)

S-30黒灰色土a

須 恵 器	環、破片
土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、甕
薩州窯系青磁	環: I (1)、II (1)、II-a (1)、III-b (1)
阿波窯系青磁	環: 破片 (1)
白 磁	環: 破片 (1) 蓋: IX-1 (1)
土 師 器	羽口?
瓦	環c
石 製 品	碇石破片

S-30黒灰色土b

須 恵 器	蓋、破片
土 師 器	環a (イト)、環a (灯明)、小皿a (イト)、小皿b、甕
瓦	環c
薩州窯系青磁	環: I (3)、II-b (2)、III-1A (1)、III-2 (1) 破片 (1)
阿波窯系青磁	蓋: I-3a? (1) 他磁器: ?破片 (1)、破片 (1) 蓋: I (1)
須 恵 質 土 器	?こ鉢
瓦 質 土 器	?こ鉢
白 磁	環: IV (1)、VII (1)、破片 (2) 蓋: II×III (1)、IX-1 (1) 蓋: 壺 (1)、鉢 (1)、破片 (1)
石 製 品	碇石
金 属 器 品	鉄釘、鉄鉢 (口面口)
中 國 陶 器	他磁器: 壺×水注 (1) A'-b (1)、B' (1) 壺×水注 (1)、蓋 (2)、蓋-b (1)、A' (1) A'-b (1)、B' (1) そ の 他 磁 土 塊

S-30黒灰色土c

須 恵 器	環c (7c)、環c、蓋3 (7c)、壺?、蓋
土 師 器	環a (イト)、杯A (龍内系 幾島くさい?)、小皿a (イト)、小皿b、器付
瓦	環c
薩州窯系青磁	環: I (1)、II (2)、II-b (1)、破片 (1)
阿波窯系青磁	環: I-1b (1)
西 南 陶 器	蓋 (1)
白 磁	環: 破片 (1) 蓋: IX (1)、破片 (1) 蓋: 壺 (1)、破×皿 (1)、?破片 (1)、破片 (1)
輸入 陶 磁 器	朝鮮系陶器 壺×水注 (1) (土 多 量)
土 師 器	砂埴壺?
石 製 品	不明調品、碇石
金 属 器 品	不明調品
中 國 陶 器	他磁器: 壺 (1)、高脚 鉢か? (1)、A'×F (1) そ の 他 磁 土 塊

S-30黒灰色土d

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、環a
瓦	環c
薩州窯系青磁	環: I (1)、I×II (1)
肥前窯系青磁	他磁器: 壺 (1)、破片 (1)
阿波窯系青磁	蓋: I (1)
白 磁	環: IX-1 (2) 蓋: 壺? (1)、小皿X (1)、破片 (1)
青 白 磁	合子身 (1)、蓋か (1)
瓦	環c (横目印)
金 属 器 品	鉄釘
中 國 陶 器	他磁器: A'-b (1)、E (1) そ の 他 磁 土 塊

大宰府采坊跡第156次調査 出土遺物一覽表 (5)

S-30黄灰色土e

須 恵 器	須
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
瓦	破片
龍泉窯系青磁	襦: I (1)、I-1? (1)、II (1)、II-b (2)、破片 (1) 皿: I (1)
阿波窯系青磁	襦: 破片 (2) 皿: I-b (1)、I-b×e (1)、I-2b (1) 巻部襷: 破片 (阿波×白磁) (1)
白	襦: IV (1)、V (1)、V-2 (1)、V-4×VII-1-3 (1) IX-1 (1) 巻部: 蓋 (1)
青 白 磁	合子蓋 (2)、合子?蓋 (1)
黒 施 陶 器	天目陶 (1)
石 製 品	石鏝 (磨石類)

S-30黄灰色土

須 恵 器	須
土 師 器	环a (イト)、甕a
青 白 磁	合子蓋 (1)

S-31

土 師 器	环a (イト)
-------	---------

S-32

須 恵 器	破片
土 師 器	环a
龍泉窯系青磁	襦: I-a (1)

S-33

須 恵 器	須
土 師 器	环a (イト)、环c、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	襦: II-b (1)
須 恵 器 土 器	こむ鼻 (須恵系)
綠 施 陶 器	破片 (1)
白	磁: IV~VI (1)
青 白 磁	合子蓋 (1)

S-34

土 師 器	破片
-------	----

S-35黄褐色土上

須 恵 器	环、甕
土 師 器	环a (イト)
瓦	破片
龍泉窯系青磁	襦: I (1)
阿波窯系青磁	襦: 破片 (1)
白	磁: 破片 (2)
瓦	陶: 破片
石 製 品	and-uf
中国陶器 鉢	鉢: III×VI (1) (S-48と被写) (1)

S-35灰色砂

土 師 器	破片
瓦	破片

S-36

須 恵 器	須
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
瓦	破片
阿波窯系青磁	襦: I-b×c (1)
白	磁: V-4×VII-1-3 (3)、破片 (1)

S-37

須 恵 器	破片
土 師 器	环a (イト)、小皿a、碗c2
黒色土器人形	
白 磁	襦: VIII (1)
輸入陶磁器	有軸?破片 (1) (未分類)

S-38

須 恵 器	破片
土 師 器	小皿a (イト)

S-39

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
田 産 陶 器	破片

S-40黄灰色土

須 恵 器	須
土 師 器	环a、小皿a
瓦	破片? 破片 (1)
龍泉窯系青磁	襦: I (1)、I-4 (1)、IXII (1)、II-b (2)、III (1) 破片 (1)
阿波窯系青磁	襦: I (1)
阿波窯系青磁	襦: I-b (3)、III (1)
須 恵 器 土 器	こむ鼻 (須恵系)
白 磁	襦: V~VII (1)、V-4×VII-1-3 (1)、X-b (1) 破片 (1)
青 白 磁	皿: IX (1)
青 白 磁	小皿 (1)
石 製 品	石鏝 (磨石類)
中国陶器	甕: 破片 (1) 佛指輪: 襦I-b (1)、A'-b (1)

S-41

須 恵 器	破片
土 師 器	环a (イト)
龍泉窯系青磁	襦: I-4a (1)
阿波窯系青磁	襦: I-1 (1)、I-1b (1)
白 磁	襦: V×VII (1)
その他	佛指輪

S-42

須 恵 器	須
土 師 器	环a (イト)
龍泉窯系青磁	襦: I-2? (1)
阿波窯系青磁	襦: I (1)
阿波窯系青磁	襦: I-1b (1)
白	皿: I-2b (1)
石 製 品	石鏝 (磨石類)

S-43

須 恵 器	須
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、甕
龍泉窯系青磁	襦: I (1)

S-44

須 恵 器	破片
土 師 器	小皿a (イト)、大环a
須 恵 器 土 器	こむ鼻 (須恵系)
瓦	破片

S-45茶色土

土 師 器	小皿a (イト)、破片
龍泉窯系青磁	襦: 目か (1)
綠 施 陶 器	破片 (西産?) (1)

S-45黄灰色粘土

土 師 器	小皿a (イト)、破片
瓦	瓦
石 製 品	円盤
その他	佛指輪

S-45黄灰色土

須 恵 器	破片
土 師 器	环a (イト、へつ)、甕a
中国陶器	破片 (1)

S-45黄灰色土

土 師 器	环a (へつ)、碗c2、丸形环a
阿波窯系青磁	襦: ?破片 (1) 皿: I-2b (1)
龍 産 陶 器	甕 (常滑) (1)
白 磁	襦: V (1)、破片 (3)
瓦	瓦 (落子甲)
石 製 品	石鏝 (磨石類)
金 属 製 品	鉢釘?、鉄釘??
中国陶器	巻部襷: 襦I-2 (1)

S-46

須 恵 器	破片c
土 師 器	环a (イト)、甕
瓦	破片
龍泉窯系青磁	襦: I (1)
白 磁	襦: 破片 (1)

大宰府発跡第158次調査 出土遺物一覧表 (6)

S-47梓痕

土 師 器	小皿a (イト)
-------	----------

S-47釀方

土 師 器	小皿a、坏破片
陶器系青磁	磁片 (1)

S-48

須 恵 器	須
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)
阿波系青磁	磁片: I-b (1)
白 磁	磁片: IX-1 (1)
	遺物: 遺 (1)

S-49

須 恵 器	須
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)
瓦	筒
阿	安皿: I (1)
白	磁片: V (1)
そ の 他	土師土塊

S-50灰青色土

須 恵 器	坏c、甕
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)
瓦	筒
陶器系青磁	磁片: I (8)、I-1 (1)、I-2 (2)、I-3 (1)、I-2×3 (1) I-4 (1)、I-5a (1)、II-a (1)、II-b (3)、III-2 (1) 磁片 (2)
阿波系青磁	磁片: I? (1)、破片 (面取×面取) (1) 磁器種: 坏III-1 (1)
阿波系青磁	磁片: I-1 (8)、I-1b (9) 磁片: I (3)、I-1a (1) (S-50暗青色土と接合)、I-1c (1) 磁器種: 破片 (1)

須 恵 器	土器 (東濃系)
瓦	土師土
内	磁片: II-1 (1)、IV (1)、V (1) (S-50暗青色土と接合) V-2 (1)、V-4×VII-1-3 (1)、IX (1)、IX-2b (1) 破片 (5)
	磁片: II (1)、VII-2b (1)、IX (1)、IX-2 (1) 遺物: 鉢? (1)、鉢田 (1)、耳環 (1)、巻 (1)、破片 (2)
陶器系青磁	磁片 (1)
瓦	瓦丸 (樽子用)、平瓦、破片 (樽子用)
石 製 品	石曲 (磨石製)、破片 (磨石)
金 属 製 品	鉄片、不明鉄製品、鉄釘
甲 冑 陶 器	磁片 (1)
	磁器種: 小皿I-2 (1)、A' (1)、A'-b (2)、C-b (1)
そ の 他	他土塊

S-50暗青色土

須 恵 器	坏c、甕、甕
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)、筒c、筒形、破片
瓦	筒
陶器系青磁	磁片: I (13)、I-1? (1)、I-2×3 (1)、I-2 (2)、I-4 (1) I-6 (1)、II (1)、II-a (2)、II-b (2)、破片 (1)
阿波系青磁	磁器種: 甕 (1)、皿磁片 (3)、破片 (2) 磁片: I-1 (1)、I-1a? (1)、I-1b (9)、I-1b×c (1) 破片 (3)
	皿: I (2)、I? (1)、I-1 (1)、I-1b (1)、I-2b (1) 磁器種: ?破片 (1)
須 恵 器	土器 (東濃系)
瓦	土師土
内	磁片: V-4b×VII-b (1)、V-4×VII-1-3 (1)、破片 (8) 磁片: II×III (1)、II-1 (1)、IX-1 (1) 遺物: 小皿I? (1)、破片 (2)
輸入陶磁器 (土倉系)	須恵系陶器: 甕×甕 (1)、破片 (2)
瓦	筒
木 製 品	木片、空状製品
金 属 製 品	鉄釘、鉄片
甲 冑 陶 器	磁器種: A' (1)、A'-b (2)、A'-b? (1)、B'-b (1)、? 破片 (1)
そ の 他	他土塊

S-50灰青色土

土 師 器	坏a (イト)、破片
内	磁片: I (1)
内	磁片: V-4×VII-1-3 (1)
木 製 品	空状製品

S-51

土 師 器	坏破片 (へろ)、小皿a (イト)
石 製 品	磨石破片

S-52

土 師 器	坏a (イト)、破片
陶器系青磁	磁片: II-a (1)

S-53

須 恵 器	筒
土 師 器	坏a (イト)
瓦	筒
阿波系青磁	磁片: I-b (1)

S-54

須 恵 器	坏c
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)

S-55暗青色土

須 恵 器	坏c、甕、甕
土 師 器	坏a (イト)、坏c、小皿a (イト)、小皿c、筒c、甕、甕3
瓦	筒
陶器系青磁	陶磁器
陶器系青磁	磁片: I (11)、I-1? (1)、I-2 (2)、I-4 (2)、I-4b (1) III-2c (1)、破片 (1)
阿波系青磁	磁器種: 小皿 (1)、甕? III (1) 磁片: I-1 (1)、I-1a (1)、I-1b (8)、I-1c (1)、II×III (1) 皿: I (1)、I-2b (2)
土 師 土 塊	鉄
須 恵 器	土器 (東濃系)、片鉢
内 産 陶 器	甕 (常滑?) (1)、甕 (2)
内	磁片: IV (1)、V-4×VII-1-3 (3)、破片 (5) 皿: IX-1 (1)、破片 (1) 遺物: 甕 (2)、樽×皿 (1)、破片 (2)
内 産 陶 器	破片 (外面に文様) (1)
輸入陶磁器 (土倉系)	須恵系陶器
瓦	瓦丸、破片 (樽子用) (樽子用)
内 産 陶 器	甕: 破片 (2) 鉢: I-1a×b (1)、III (1)、IV-1 (1)、?破片 (1) 他磁器: A'-b (1)、C-b (1)、D-a (1)

S-55明青色土

須 恵 器	甕
-------	---

S-55暗青色土

須 恵 器	甕
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)、甕
陶器系青磁	磁片: I (6)、I-4b (1)、破片 (1)
	皿: I (1)
阿波系青磁	磁片: I-b (1)、皿 (1) 皿: I (1)、I-2b (1)
須 恵 器	土器 (東濃系)
白 磁	磁片: IV (1)、V-VII (1)、V-4×VII-1-3 (2) VII-0? (1)、破片 (4) 皿: III-1 (1) 遺物: 破片 (1)
青 白 磁	合片 (1)
瓦	瓦丸 (樽子用)
木 製 品	木片、破片
甲 冑 陶 器	鉢: I-1b (1) 磁器種: 鉢IV×水注V (1)、甕I-2 (1)、A'-b (1)

S-55暗青色土

須 恵 器	甕
土 師 器	坏a (イト)、小皿a (イト)、皿a
阿波系青磁	磁片: I-b (1)
須 恵 器	土器 (東濃系)
内 産 陶 器	磁片: I (3)
瓦	筒
金 属 製 品	鉄釘

S-56

土 師 器	坏a (イト)、坏c (イト)、甕
瓦	筒
陶器系青磁	磁片: I×II (1)
須 恵 器	土器 (東濃系)
内 産 陶 器	土器 (東濃系?) (1)
内	磁片: IX (1)

大宰府築坊跡第168次調査 出土遺物一覧表 (7)

S-57

須恵部	珧c
土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)
甕原系青磁	襷: I (1)、II (1)
阿波系青磁	襷: I-1 (1)
白磁	襷: V~VII (1) 皿: IX (1) 香壺; 破片 (1)
瓦	甍破片

S-58

須恵部	甍、破片
土師器	珧a、小皿a (イト)、破片
阿波系青磁	襷: I-1b (4)
青白磁	合子蓋 (1)
瓦	甍破片
金銀製品	不明銀製品

S-59

須恵部	甍
土師器	珧a (イト)、甍
金銀製品	鉄釘

S-60黒紫色土

土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、甍、破片
白磁	7破片 (1)
甕原系青磁	襷: I (2)、I-2 (1)、II-b (2) 皿: I? (1) 他器種: 坪山-3b (1)、7破片 (1)
阿波系青磁	襷: I-1b (2)、7破片 (2)
須恵部	こむ鉢 (東條系)
灰陶器	7破片 (1)
白磁	襷: V~VII (2)、X-b (1)、破片 (5) 皿: III-1 (1)、VI-1a (1)、IX (1)、IX-1 (1) 甍; 蓋 (1)
朝鮮系陶磁器	7破片 (1)
瓦	甍破片 (数量不明)
金銀製品	鉄釘
中国陶器	他器種: 甍I×II-b (1)、A'-a (1)
その他	他 焼土塊

S-60明棕色土

須恵部	破片
土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)、珧c
甕原系青磁	襷: I-6a (1)、II-b (1) 他器種: 蓋 (1)、坪山-1 (1)
土師器	土師?
石	丸石
金銀製品	佛衣鉢製品
中国陶器	他器種: A'-b (1)
その他	他 焼土塊

S-60灰白色土

須恵部	甍
土師器	珧a (へラ、イト)、甍

S-61

須恵部	甍a、c
土師器	珧a、小皿a (イト)
黒色土器	A珧c
甕原系青磁	襷: 破片 (1)
阿波系青磁	襷: I-1 (1)
須恵部	土器破片
白磁	甍 (家津か?)
瓦	甍; 破片 (1)
瓦	甍破片

S-62

瓦	甍; 珧破片 (イト)、丸尾珧a (へラ)、破片
---	--------------------------

S-63

土師器	小皿a (イト)、破片
-----	-------------

S-64

須恵部	珧c
土師器	小皿a
黒色土器	白破片
瓦	甍破片

S-65

土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)
須恵部	土器破片 (珧×珧、イト)

S-66

土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)、珧破片
土	甍破片

S-67

土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)
須恵部	土器破片
白磁	甍; 破片 (1)

S-68

須恵部	珧c、甍、破片
土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)
金銀製品	鉄釘
その他	他 焼土塊

S-69

須恵部	甍、破片
土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)
甕原系青磁	襷: II-b (1) 他器種: 甍II×IV (1)
阿波系青磁	襷: I-1b (1)
白磁	襷: IX-1c (1)
金銀製品	鉄片
中国陶器	他器種: 甍I-b (1)

S-70黒紫色土

須恵部	破片
土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、甍c、甍蓋
甕原系青磁	襷: I (1)、I-2 (1)、I×II (1)、II (2)、II-b (6) III-2c (1) 皿: I? (1) 他器種: 小皿II-b (1)、小皿II-2c (2)、坪山 (1) 坪山-4 (1)、甍?皿 (1)、皿破片 (2)
阿波系青磁	襷: I-1c (1)
瓦	甍; 甍; 甍 (1)
須恵部	土器 小皿a (東條系)
朝鮮陶器	破片 (1)
白磁	襷: IV (2)、V~VII (1)、IX-2 (1)、7破片 (1) 皿: VII? (1)、IX-1 (1) 甍他; 破片 (2)
瓦	甍破片
石	瓦石、石鏡 (磨石製)
中国陶器	甍; 破片 (2) 他器種: 甍 (1)、甍I-2 (1)、A'-b (3)、E (2)

S-70灰白色土

須恵部	破片
土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
甕原系青磁	襷: I (1)、II (1) 他器種: 甍?皿 (1)、甍皿 (1)、皿破片 (1)
白磁	襷: IX-1 (1)
輸入陶磁器	陶器 破片 (朝鮮×甍? (1) (未分母))
瓦	甍破片
中国陶器	他器種: E (2)
その他	他 焼土塊

S-71

須恵部	破片
土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)
瓦	甍c
甕原系青磁	襷: I (1)
阿波系青磁	襷: 破片 (1) 皿: I (1)
土	甍破片

S-72

須恵部	甍3、破片
土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)
阿波系青磁	襷: I-2b (1)
その他	他 焼土塊

S-73

土師器	珧a (イト)、小皿a (イト)
甕原系青磁	襷: II (1)

大宰府発功跡第158次調査 出土遺物一覽表 (B)

S-74

銅 器	銅 鏡3
土 器	埴 埴、埴×丸泥埴
瓦	磁 種；VIII (1)

S-75灰茶色土

銅 器	埴c、埴、供養具
土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、埴c
瓦	磁 種
龍泉窯系青磁	埴：I (S)、II (2)、II-b (1)、III (1)、III-1 (1) III-2a (1) 皿：I (1) 包帯種：埴皿-1 (1)、埴×小皿皿 (1)、磁片 (1)
同安窯系青磁	埴：I-1 (2)、I-1b (6)、II×IV (1)、磁片 (1) 皿：I (1)、I-1 (1) 包帯種：？磁片 (1)
高麗貫土器	こむ株 (東洋系)
石 製 品	埴：IV (1)、V-4×VIII-1・3 (4)、V (1)、V~VIII (1) VII-b6* (1)、磁片 (4) 磁：VIII-2b (1)、IX (1)、IX-1 (1) IX-2 (1) (S-75埴内と融合) 変物：？磁片 (白磁×同家) (1)
青 白 磁	合子蓋 (1)、磁片 (1)
瓦	黒 磁片 (埴子埴)
石 製 品	石 磨 (滑石製)、丸石
金 属 製 品	神杖鉄製品、鉄釘、銅鏡 (銅口元寶)
中 国 陶 器	埴：磁片 (1) 磁器種：餅打 (1)、鏡I-2 (1)、A'-b (2)、E (2)

S-75緑茶色土

銅 器	銅 鏡片
土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
龍泉窯系青磁	埴：I (1)、I-2b (1)、II-b (1) III-2a (1) (S-75灰茶色土と融合) 皿：I (2) 包帯種：小皿×皿 (1)
同安窯系青磁	埴：I-1 (1)、I-1? (2)、I-1b (2) 皿：I (2)、I-2b (1)
高麗貫土器	埴埴：？磁片 (1)
高麗貫土器	こむ株 (東洋系)
瓦	黒 磁片 (1)
白	磁 種：IX (1)、磁片 (3) 皿：IX (1)
金 属 製 品	銅鏡 (口元寶)、東洋、聖宋元寶 (行唐)
中 国 陶 器	埴：IX皿 (1) 磁器種：鏡I-b (1)、A'-b (1)

S-75緑灰色粘土

銅 器	銅 鏡片
土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、大埴c、埴磁片 (灯明)
瓦	磁 種
龍泉窯系青磁	埴：II-c (1)
同安窯系青磁	埴：I-1b (1) 皿：I-2b (1)
白	磁 種：磁片 (1)
中 国 陶 器	埴：？磁片 (1) 磁器種：A'-b (1)

S-75埴内

土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	埴：I-1b (1)
白	磁 種：V~VIII (1) 皿：IX (2)、IX-1 (1) 変物：磁片 (1)
石 製 品	石 臼 (1大)
木 製 品	円筒鉄製品、板片、管状鉄製品
中 国 陶 器	埴：？磁片 (1)

S-75埴内下層

瓦	貫 土 器片口埴
瓦	磁 種：V-4×VIII-1・3 (1)

S-75緑青色粘土

土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
瓦	磁 種
龍泉窯系青磁	埴：II-b (1)
同安窯系青磁	埴：I-1b (1)

S-76

土 器	埴a (イト)
-----	---------

S-77

銅 器	銅 鏡
土 器	埴a (イト)、埴磁片

S-78

土 器	埴a (イト)、磁片
そ の 他	埴土塊

S-79

銅 器	銅 鏡
土 器	埴c、埴磁片、小皿磁片
瓦	磁 種

S-80黒色土

銅 器	銅 埴a、磁片
土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、埴磁片
龍泉窯系青磁	埴：I (2)
同安窯系青磁	埴：Ib* (1)
石 製 品	木磨石製 (滑石製)
金 属 製 品	銅片
中 国 陶 器	磁器種：A'-b (1)
そ の 他	埴土塊 (埴口埴)

S-80緑黄色土

銅 器	銅 鏡片
土 器	埴a (イト)、小皿a
白	磁 種；VIII (1)

S-81

土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	埴：I-4 (1)
瓦	磁 種

S-82

土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、鏡a
黒色土器人様?	
龍泉窯系青磁	埴：I (1)
同安窯系青磁	埴：I-1b (1)
青 白 磁	？ (1)
瓦	丸瓦 (玉埴)、磁片 (埴口埴)
石 製 品	石 磨 (滑石製)、碇石

S-83

銅 器	銅 鏡
土 器	埴a (イト)、小皿 (イト)、小皿a (灯明)、丸泥埴?
龍泉窯系青磁	埴：I-1 (1)
同安窯系青磁	埴：I-1 (1)、I-1b (2)、？磁片 (1) 包帯種：？磁片 (1)
白	磁 種：V-4×VIII-1・3 (1)
瓦	磁 種 瓦玉
中 国 陶 器	磁 種；II (2)

S-84

銅 器	銅 埴磁片
土 器	埴a (イト)

S-85緑茶色土

銅 器	銅 埴c、埴
土 器	埴a (イト)、埴c、鏡a
瓦	磁 種、埴c
龍泉窯系青磁	埴：I (2)、I-2 (2)
同安窯系青磁	埴：I-1 (2)、I-1b (1)
白	磁 種：V-2? (1)、V-4×VIII-1・3 (1)、磁片 (4) 変物：埴a (1)
青 白 磁	合子埴 (1)
金 属 製 品	刀子
中 国 陶 器	埴：I-1b (1)

S-85黒灰色砂

銅 器	銅 鏡
土 器	埴a (イト)、鏡a

S-86

土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、埴
瓦	磁 種

S-87

土 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、小皿b
黒色土器人様?	
そ の 他	埴土塊

大宰府条坊跡第158次調査 出土遺物一覽表 (9)

S-88

須惠 器	坪a, 破片
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、甕a
福岡県系青磁	甕; I (1)
阿波国系青磁	甕; I-1b (2)
須惠 器	土器 (東播磨)
瓦	磁器; VXVI (1)

S-89

須惠 器	甕
土 師 器	破片

S-90杉板

土 師 器	破片
-------	----

S-90鉢方

土 師 器	鉢破片、小皿破片
-------	----------

S-91

土 師 器	小皿a (イト)、破片
中国陶器	磁器; P (1)

S-92

須惠 器	坪c、甕、蓋3、甕
土 師 器	坪a (イト)、破片
福岡県系青磁	甕; I (1)、I-2a (1)
白	磁器; V-VIII (1)
	磁器; 破片 (1)
瓦	瓦

S-93灰赤色土

土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、坪
阿波国系青磁	甕; I-1b (4)
須惠 器	土器 (北播磨)
白	磁器; IV (2)、V (1)、V-4a (1)、V-4×VIII-1・3 (1)
	破片 (2)

S-93灰赤色土

土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)
阿波国系青磁	甕; I-1b (1)
石 製 品	磨石破片

S-93灰色土

須惠 器	甕、破片
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、甕
瓦	瓦
阿波国系青磁	甕; I-1b (3)
白	磁器; 破片 (1)
金 属 器 具	銅釘

S-93暗灰色粘土

土 師 器	坪a (イト)、破片
瓦	瓦

S-94

須惠 器	甕
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、甕、破片
福岡県系青磁	甕; IIa (1)

S-95黄褐色砂

須惠 器	甕、破片
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)
福岡県系青磁	甕; I (3)、I-9b (1)、II-b (1)
	甕; I (1)
	物器種; 小皿 (1)
阿波国系青磁	甕; I-1 (1)、I-1b (2)
須惠 器	土器 (東播磨)
白	磁器; IV (1)、VI-1b (1)、VIII (1)、破片 (1)
	甕; VIII? (1)、IX-1 (1)
	磁器; 甕 (1)
金 属 器 具	銅釘
中国陶器	物器種; 甕×水注 (1)、甕 (1)、E (1)

S-96

須惠 器	破片
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)
阿波国系青磁	甕; I-1b (1)
白	磁器; VI? (1)
そ の 他	焼土塊

S-97

そ の 他	焼土塊
-------	-----

S-98

土 師 器	坪a (イト)、甕、破片
金 属 器 具	銅釘?
そ の 他	焼土塊

S-99

須惠 器	坪c、甕、破片
土 師 器	小皿a (イト)、甕
福岡県系青磁	甕; I (1)
阿波国系青磁	甕; I (1)
磁 器	陶器破片 (1)、破片 (阿波) (1)
白	磁器; V-4a (1)
石 製 品	磨石破片
金 属 器 具	刀子の柄、刀子

S-101

土 師 器	坪a、破片
阿波国系青磁	甕; I-1 (1)
石 製 品	ob-f

S-102

須惠 器	坪
土 師 器	坪a (イト)、小皿a、甕
福岡県系青磁	甕; I-3 (1)
阿波国系青磁	甕; I-1 (1)
白	磁器; V-2 (1)

S-103

須惠 器	破片
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、甕c
瓦	瓦
福岡県系青磁	甕; I-2a (1)
阿波国系青磁	甕; I-1b (1)
	甕; I-2b (1)
	物器種; 破片 (阿波×北播磨) (1)
白	磁器; IV (1)

S-104

土 師 器	坪a (イト)、小皿a
-------	-------------

S-105灰褐色土

須惠 器	甕
土 師 器	坪a (イト)、坪c、小皿a (イト)、甕
福岡県系青磁	甕; I (3)、I-b (2)、破片 (1)
	物器種; 小皿II-2 (1)、坪II (1)
阿波国系青磁	甕; I-1 (1)
須惠 器	土器 (東播磨)
瓦	瓦
中国陶器	陶×甕 (近世~) (1)、甕 (近世~) (1)
	鉢 (近世~) (1)
白	磁器; 陶×皿IX (1)、破片 (1)
伊 呂 波	破片 (外濠橋口) (1)
肥前系青磁	甕 (1)
瓦	瓦
中国陶器	甕; 破片 (1)
	磁器種; 甕×水注 (1)、甕II-1 (1)

S-105黄褐色シルト土

土 師 器	坪a (イト)
阿波国系青磁	甕; I (1)
白	磁器; 甕×水注 (1)
瓦	瓦

S-106

須惠 器	破片
土 師 器	坪a (イト)、小皿a (イト)、甕、破片
瓦	瓦
そ の 他	焼土塊

S-107

須惠 器	破片
中国陶器	甕; 耳埴 (1)

S-108

土 師 器	坪a (イト)、破片
-------	------------

大宰府発跡跡第158次調査 出土遺物一覧表 (10)

S-109磁器		S-118暗赤色土	
土 師 器 環f (イト)		須 恵 器 片、甕	
S-109磁方		土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕、書台	
土 師 器 坪、甕		瓦 器 片	
石 製 品 瓦石		龍泉窯系青磁 横: I (1)、II (2)、III (2)、II-b (2)、III-1 (1) 破片 (1)	
その他 他出土物		甕: III×IV (1)	
S-110近赤色土		龍泉窯系青磁 他器種: 坪皿-3b (1)、坪皿-3c (1)、破片 (2)	
土 師 器 坪a (イト)、小皿a (イト)		同安窯系青磁 横: I-1 (1)、I-1a (1)、I-1b (6)	
龍泉窯系青磁 横: I (3)、II (1)		土 師 器 土 師 器	
同安窯系青磁 横: I (1)		鉢 二形 盤 (1)	
S-111		土 師 器 横: IV (2)、IV×V (1)、IV×VI (1)、破片 (5)	
須 恵 器 坪、甕、供養鉢		瓦 甕: IX (1)	
土 師 器 坪a (イト)、小皿a (イト)、甕		輸入陶磁器 朝鮮系陶磁器 破片 (2)	
龍泉窯系青磁 横: I-4a (1)		(未分類)	
同安窯系青磁 横: I-1 (1)		瓦 器 瓦瓦 (母子、横切)、平瓦	
須 恵 器 土 師 器		金 属 製 品 鉄片	
白 磁 横: V~VII (1)、?破片 (1)		中 国 陶 器 他器種: 甕I-b (1)、A'-b (1)、E (1)	
瓦 器 破片 (1)		その他 他出土物	
土 師 器 他器種: E (1)		S-118暗灰色土	
その他 他出土物		土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕	
S-112		龍泉窯系青磁 他器種: 小皿I-a (1)	
土 師 器 環a (イト)、甕		同安窯系青磁 横: I-1b (1)	
龍泉窯系青磁 横: I (1)		金 属 製 品 鉄片、鉄釘	
須 恵 器 土 師 器 (龍泉系)		S-119灰赤色土	
S-113		須 恵 器 坪c、甕、破片	
須 恵 器 供養鉢		土 師 器 環a (イト)、坪c、小皿a (イト)、甕	
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕a		瓦 器 破片	
瓦 器 破片		同安窯系青磁 横: I-1b (1)	
龍泉窯系青磁 横: I (1)、II (2)		S-119赤褐色土	
他器種: 小皿I'-a (1)		須 恵 器 甕?	
同安窯系青磁 横: I-1b (2)		土 師 器 坪?、小皿a、甕	
鉢 輪 陶 器 二形 盤 (1)		同 産 陶 器 甕 (甕類 S-119灰褐色砂礫土と併存) (1)	
白 磁 横: 破片 (1)		瓦 器 横: IV×V (1)	
その他: 破片 (2)		S-119暗青色粘土	
中 国 陶 器 他器種: B'-b (1)		須 恵 器 甕	
S-114		土 師 器 坪、甕	
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)		S-119灰褐色砂礫土	
灰色土器 A 破片		土 師 器 環f (イト)	
同安窯系青磁 横: I-1b (1)		瓦 器 平瓦 (横目切)	
須 恵 器 土 師 器 (龍泉系)		石 製 品 石磨 (磨石磨)	
瓦 器 破片		青磁 (未分類) ?破片 (隅側器I-b?) (1)	
中 国 陶 器 他器種: A'-b (1)		S-120灰色粘土	
S-115赤褐色粘土		須 恵 器 甕、破片	
須 恵 器 甕、破片		土 師 器 環a、坪c、小皿a (イト)、甕	
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)		越州窯系青磁 横: I (1)	
龍泉窯系青磁 横: I-2 (1)、II (1)		同安窯系青磁 横: III (1)	
同安窯系青磁 横: I-1b×c (1)		白 磁 横: IV-1 (1)、V-4a (1)、V-4×VIIII-1-3 (1)	
同 産 陶 器 甕 (常切) (1)		瓦 器 横: 破片 (1)	
白 磁 横: V-4×VIII-1-3 (1)、V×VIIII (1)		石 製 品 石磨 (附石磨)	
瓦 器 横: 平瓦 (横目切)		金 属 製 品 鉄釘	
S-116		S-120磁器	
土 師 器 環f (イト)、小皿a (イト)		上 師 器 環f (イト)、小皿a (イト)	
龍泉窯系青磁 横: II (1)		七 寶 品 弁慶?	
同安窯系青磁 横: I-1b (1)		S-120灰褐色粘土	
須 恵 器 土 師 器 (龍泉系)		須 恵 器 坪、甕	
S-117		土 師 器 環a (イト)、小皿a	
土 師 器 坪、破片、破片		越州窯系青磁 鉢類: 水注 (1)	
S-118暗赤色土		同安窯系青磁 横: I-1 (1)	
須 恵 器 坪、甕		白 磁 横: IV (1)、V-4a (1)、V-4×VIIII-1-3 (2)	
土 師 器 環a (イト)、小皿a		瓦 器 破片	
越州窯系青磁 鉢類: 水注 (1)		S-120灰青色粘土	
同安窯系青磁 横: I-1 (1)		須 恵 器 坪c、甕	
白 磁 横: IV (1)、V-4a (1)、V-4×VIIII-1-3 (2)		土 師 器 環f (イト)、坪c、小皿	
瓦 器 破片		越州窯系青磁 甕: I×III (1)	
S-120灰褐色砂		同安窯系青磁 横: I-1b (1)	
土 師 器 環a		S-120灰褐色砂	
S-120灰褐色砂		土 師 器 環a	

大宰府条坊跡第168次調査 出土遺物一覧表 (11)

S-120 灰黄色シルト土

土 師 器 破片

S-121

銅 器 環c、供養具
土 師 器 環c、小皿a (イト)、甕a、破片
阿波宮系青磁 焼: I-1b (1)
中 國 陶 器 惣形種: A'-b (1)
そ の 他 出土物

S-122

銅 器 銅 盤
土 師 器 環c、破片
青 白 磁 焼 (1)
瓦 類 瓦水

S-123

銅 器 銅 破片
土 師 器 環

S-124

銅 器 銅 環
土 師 器 環a (イト)、環c、丸底環、甕a
黒色土 師 器 破片
瓦 類 焼
阿波宮系青磁 焼: I-1b (1)
白 磁 焼: 破片 (1)
産地: 阿波×阿波VIII (1)
瓦 類 破片

S-125 暗茶色土

銅 器 銅 環c、甕
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、焼c、甕
黒色土 師 器 焼
阿波宮系青磁 焼: I-2 (1)、破片 (1)
産地: I (1)
阿波宮系青磁 焼: I-1 (1)、I-1b (3)、III (1)
産地: I (2)、I-2b (1)
銅 器 土 師 器 土 師 器 (東播磨)
白 磁 器 物: 破片 (1)
青 白 磁 器 物: 伊予 (1)
瓦 類 破片
石 製 品 石 函 (南石製)
金 属 器 物 破片
中 國 陶 器 鉢: II? (1)
産地種: A'-b (1)、E (1)
そ の 他 出土物

S-126 暗青色土

銅 器 銅 供養具
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕a、甕
瓦 類 焼
阿波宮系青磁 焼: I (1)
阿波宮系青磁 焼: I-1 (1)、I-1b (2)
産地: I (1)
銅 器 土 師 器 土 師 器 (東播磨)
白 磁 焼: V-4×VIII-1-3 (1)
中 國 陶 器 盃: 西貢VII (1)
鉢: I (外環に準ず)、I-1b (1)
そ の 他 出土物

S-125 銅線土

土 師 器 環a
阿波宮系青磁 焼: I-1 (1)
瓦 類 破片
中 國 陶 器 惣形種: A'-b (1)

S-125 灰黄色シルト土

銅 器 銅 環c (7c系)
土 師 器 甕?
石 製 品 and-1

S-126 灰青色土

銅 器 銅 蓋
土 師 器 環a (イト)、環×皿、大坪c×大皿c (イト)
越前系青磁 焼: II (1)
白 磁 焼: IV (1)
瓦 類 丸瓦破片
中 國 陶 器 惣形種: A'-b (1)
そ の 他 出土物

S-126R 色土

そ の 他 出土物

S-126 暗灰色砂

土 師 器 環a (イト)

S-127

土 師 器 環c、小皿a (イト)、甕b

S-128

土 師 器 丸底環c

S-129

土 師 器 環c、環、小皿a (イト)、甕

S-130 灰青色土

銅 器 銅 環、甕
土 師 器 環a (イト)、甕a
瓦 類 焼
阿波宮系青磁 焼: I (2)、II-a (1)
阿波宮系青磁 焼: I-1 (1)、I-1b (1)、I-1c (6)、I-1b×c (1)、III (1)
産地: I-2b (2) (一つはS-120暗灰色粘土と接合)
銅 器 土 師 器 土 師 器
瓦 類 土 師 器
白 磁 焼: IV (1)、IV-b (1)、V (1)、V-4×VIII-1-3 (2)
破片 (6)
石 製 品 石 鉢
金 属 器 物 銅 釘
中 國 陶 器 鉢: I-1b (1)
惣形種: 釧 (1)、E (1)
そ の 他 出土物

S-130 暗灰色粘土

銅 器 銅 環a、環c、甕
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕、甕
阿波宮系青磁 焼: I (1)
阿波宮系青磁 焼: I-1b (1)、破片 (1)
銅 器 土 師 器 土 師 器 (東播磨)
瓦 類 土 師 器
白 磁 焼: V-1b (1)
瓦 類 破片 (南石製)
石 製 品 石 鉢 (南石製)

S-130 灰色磁土

土 師 器 環a (イト)
瓦 類 土 師 器

S-130 暗2井戸内

阿波宮系青磁 焼: I-1b (1)

S-131

銅 器 銅 環
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)
そ の 他 出土物

S-132

銅 器 銅 環、破片
土 師 器 小皿a (イト)
瓦 類 焼
阿波宮系青磁 焼: I-2 (1)
阿波宮系青磁 焼: I-1b (1)
そ の 他 出土物

S-133

銅 器 銅 環a
土 師 器 銅 甕
阿波宮系青磁 焼: I-3a (1)
阿波宮系青磁 焼: I-1 (2)、I-1b (2)
石 製 品 石 函 (南石製)
金 属 器 物 銅 釘
中 國 陶 器 惣形種: D (1)

S-134

土 師 器 環a (イト)、環c、小皿a (イト)、甕a
瓦 類 破片
白 磁 焼: IV (1)
産地: VIII-1b (1)
青 白 磁 破片 (1)

大宰府発跡第158次調査 出土遺物一覽表 (12)

S-136

土 器	環状片、小皿a
そ の 他	焼土塊

S-139

土 器	環状片 (イト)、 甕a、 破片
-----	------------------

S-141

土 器	環状片 (イト)、 片、 小皿a (イト)、 破片
そ の 他	焼土塊

S-142

土 器	小皿a (イト)
-----	----------

S-144

土 器	環状片 (イト)、 小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	甕: II (1)
	惣形磁: 小皿皿 (1)、 坪皿-I (1)、 飯皿×IV (1)
阿 古 陶 器 (常形)	(1)
白 磁	甕: V-4×VII-1・3 (1)
	皿: VIII-2 (1)
	蓋: 蓋 (1)、 鉢? (1)
瓦	割
金 属 製 品	鉄釘
中 國 陶 器	惣形磁: A'-b (1)
そ の 他	焼土塊

S-146

須 恵 器	破片
土 器	小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	甕: I-4 (1)
	皿: I (1)
そ の 他	焼土塊

S-147

土 器	環状片 (イト)、 小皿a (イト)、 甕
白 磁	甕: V-4a (1) (S-171と接合)、 V-4×VII-1・3 (1)
石 製 品	碁石
金 属 製 品	鉄釘

S-148

須 恵 器	甕、 供盤具
土 器	環状片、 小皿a (イト)、 甕a
中 國 陶 器	惣形磁: A'-b (1)

S-149

須 恵 器	甕
土 器	環状片、 甕a
龍泉窯系青磁	甕: 7破片 (1)
白 磁	甕: V-4×VII-1・3 (2)
瓦	割平瓦 (破片)
金 属 製 品	鉄釘

S-151

土 器	環状片 (イト)、 破片 (イト)
阿安窯系青磁	甕: I-1b (1) (S-149と接合)

S-152

須 恵 器	環状片、 甕b、 鉢
土 器	環状片、 丸形環?、 高杯

S-153

須 恵 器	甕、 大甕
土 器	環状片 (イト)、 環a (北の方)
中 國 陶 器	惣形磁: 苜蓿VI (1)

S-154

土 器	割破片
中 國 陶 器	蓋: 甕×水注 (1)

S-156

土 器	環状片 (イト)、 小皿a (イト)、 破片
土 師 質 土 器	鉢
金 属 製 品	鉄釘

S-157

須 恵 器	甕
土 器	環状片 (イト)、 片破片、 丸形環 (へう)、 甕a
そ の 他	焼土塊

S-158

須 恵 器	皿、 破片
土 器	環状片 (イト)、 小皿a
そ の 他	焼土塊

S-159

土 器	環状片 (イト)、 小皿a (イト)
龍泉窯系青磁	甕: I (1)
そ の 他	焼土塊

S-161

土 器	環状片c、 破片
-----	----------

S-162

土 器	割破片
龍泉窯系青磁	甕: I-3a (1)

S-163

須 恵 器	甕
土 器	環状片 (イト)、 小皿a (イト)、 破片
金 属 製 品	鉄釘

S-164

須 恵 器	環状片
土 器	環状片 (イト)、 小皿a (イト)
阿安窯系青磁	甕: III? (1)
白 磁	甕: V-4a (1)
	皿: VIII? (1)
そ の 他	焼土塊

S-166

須 恵 器	環状片、 甕
土 器	環状片 (イト)、 小皿a (イト)、 甕
龍泉窯系青磁	甕: II (1)、 II-b (2)
阿安窯系青磁	甕: I-1 (1)、 I-1b (2)
	皿: I-2b (1)
須 恵 質 土 器	こね鉢 (陶器系)
白 磁	甕: VIII-1 (1)、 7破片 (1)、 破片 (1)
金 属 製 品	銅鏡 (元祐遺物 (行跡))

S-167

土 器	環状片a
阿 古 陶 器	破片 (1)
白 磁	甕: V-4×VII-1・3 (1)

S-168

須 恵 器	甕、 供盤具、 破片
土 器	環状片、 小皿a (イト)、 甕a
龍泉窯系青磁	皿: I-1 (1)
阿安窯系青磁	甕: II×III (1)
白 磁	甕: V-VIII (1)、 破片 (1)
中 國 陶 器	惣形磁: C-b (1)
そ の 他	焼土塊

S-169

土 器	小皿a (イト)
-----	----------

S-171

須 恵 器	環状片c、 甕、 供盤具
土 器	環状片 (イト)、 小皿a (イト)、 甕c、 甕a
瓦	割
龍泉窯系青磁	甕: I (1)
阿安窯系青磁	甕: I-1b (1)
	皿: I-2b (1)
白 磁	甕: V-4×VII-1・3 (1)
土 器	土器
配	碁石、 破片
石 製 品	石皿 (碁石)
中 國 陶 器	鉢: III×VI (1)
そ の 他	焼土塊

S-173

須 恵 器	環状片、 甕
土 器	環状片、 小皿a (へう)、 甕c、 甕
阿安窯系青磁	皿: I-2b (1)
そ の 他	焼土塊

S-174

土 器	小皿a (イト)
-----	----------

大宰府集材跡第158次調査 出土遺物一覧表 (13)

S-176

土 師 器	杯(イト)、碗片
黒色土器片	碗片
磁 器	茶碗(茶漬) (2)

S-177

土 師 器	杯a(ヘラ、イト)、小皿b、碗c、盃
瓦	碗蓋:Ⅱ-1 (1)
	研鉢:碗片 (2)

S-178

土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)、碗a、碗片
金 属 器 具	鉄釘

S-179

土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)、小皿b
龍泉窯系青磁	碗:Ⅰ(2)、碗片(1)
阿安窯系青磁	碗:Ⅰ-1b(1)、?碗片(1)
瓦	碗蓋:Ⅴ-3 (1)

S-181

須 恵 器	俵、供養具
土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)、小皿b
龍泉窯系青磁	碗:Ⅰ-2x(1)
龍泉窯系青磁	碗:Ⅰ(4)、Ⅰ-2(1)、Ⅱ×Ⅲ(1)、碗片(1)
阿安窯系青磁	碗蓋:碗×小皿(1)、杯Ⅲ-1(1)
同安窯系青磁	碗:Ⅰ-1(1)、Ⅱ×Ⅲ(1)、碗片(阿安×龍泉)(1)
土 師 器	土器
瓦	碗蓋:碗片(1)
	蓋:Ⅴ(1)
	その他:碗片(7)
渡 戸 磁	碗(1)、合子蓋(1)
金 属 器 具	鉄片、鉄釘
竹 組(木9割)	碗片(2)
中 国 陶 器	鉢:Ⅱ-1a大型鉢(1)
そ の 他	焼土塊

S-182柱板

土 師 器	碗片
-------	----

S-182碗片

土 師 器	杯a(イト)、盃?
-------	-----------

S-183

須 恵 器	杯
土 師 器	小皿a(イト)、碗片
瓦	碗片

S-184

須 恵 器	碗片
土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)、碗片
阿安窯系青磁	碗:Ⅰ-1b(1)
	蓋:Ⅰ(1)
中 国 陶 器	磁器類:A'a(1)

S-186

須 恵 器	盃
土 師 器	杯a、碗片

S-187

土 師 器	杯a、碗片
-------	-------

S-188

土 師 器	小皿a(イト)、盃?、碗片
龍泉窯系青磁	碗:Ⅱ-a(1)

S-189

須 恵 器	碗片
土 師 器	俵、供養具

S-190緑青色シルト(S-1緑青色シルトから変形)

須 恵 器	盃
土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)、盃
龍泉窯系青磁	碗:碗片(1)
阿安窯系青磁	碗:Ⅰ(1)
瓦	碗蓋:Ⅴ-4×ⅤⅢ-1-3(1)、碗片(1)
	その他:碗片(1)
木 炭 品	茶碗蓋品、板片
金 属 器 具	鉄釘

S-190緑青色シルト(S-1明青色シルトから変形)

土 師 器	杯a(ヘラ、イト)、小皿a(イト)、碗c
土 師 器	土器

S-191

土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)
-------	----------------

S-192

土 師 器	杯
瓦	碗蓋:Ⅱ-2a(1)、ⅩⅢ? (1)

S-193

土 師 器	杯a(イト)
龍泉窯系青磁	碗蓋:Ⅰ-4 (1)

S-194

土 師 器	杯a、小皿a、碗片
瓦	碗蓋他、碗片(1)

S-196

須 恵 器	盃
土 師 器	杯×碗
瓦	碗蓋

S-197

須 恵 器	碗片
土 師 器	杯a(ヘラか、イト)、小皿、盃
瓦	碗蓋:Ⅱ(1)

S-198

土 師 器	杯a碗片、小皿a(ヘラ)、碗片
-------	-----------------

S-199

須 恵 器	盃c3
土 師 器	盃

S-201

土 師 器	杯×丸形杯
-------	-------

S-202

土 師 器	杯a(イト)、碗片
-------	-----------

S-203

土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)
-------	----------------

S-204

須 恵 器	盃、碗片
土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)、盃、炊足(内刷毛)
瓦	碗片
龍泉窯系青磁	碗:Ⅰ(2)、Ⅱ-a(1)、碗片(1)
	蓋:Ⅰ-1c(1)
	胎磁器:杯Ⅲ-1(1)
阿安窯系青磁	碗:Ⅰ-1(2)、Ⅰ-1b(1)、?碗片(2)
	蓋:Ⅰ-1b(1)、Ⅰ-2b(1)
須 恵 器	土器(東博系)
磁 器	陶器(密閉)(1)
瓦	碗蓋:Ⅳ-1a(1)、碗片(1)
	碗他:盃? (1)
瓦	碗片(胎子吻)
中 国 陶 器	鉢:Ⅱ-a(1)
	碗:碗片(1)
そ の 他	焼土塊

S-206

土 師 器	杯a(イト)
石 器	品/石皿(磨石類)

大宰府発掘跡第158次調査 出土遺物一覧表(14)

S-207	須恵 器 壺 土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)、鏡a 瓦 器 熊鷹系青磁 鏡: I (2)、I? (1)、I-2b (1)、II (1)、III-1 (1) 破片 (1) 阿波系青磁 鏡: II×III (1) 須恵系土器 土師器 (栗橋系) 須恵系土器 破片 (陶器) (1) 白 磁 鏡: V-4×VII-1・3 (1) 加: IX-1 (1) その他: 破片 (1) 瓦 器 破片 (椅子脚) 奈良系土器 磁片 中 國 陶 器 他器類: A'-b (1)	S-228	土 師 器 杯a (イト) 須恵系土器 土師器 (栗橋系)
S-208	土 師 器 杯a、小皿a (イト)、鏡a、破片	S-229	土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)
S-209	土 師 器 杯a (イト) 阿波系青磁 鏡: I-1 (1)	S-231	土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)
S-211	土 師 器 破片 その 他出土物	S-232	土 師 器 破片
S-212	土 師 器 杯a、小皿a、破片 その 他出土物	S-234	土 師 器 杯a (ヘラ、イト)、小皿a
S-213	須恵 器 杯 土 師 器 杯a (イト) 阿波系青磁 鏡: I-1b (1) 白 磁 鏡: V-4×VII-1・3 (1) その 他出土物	S-236杜撰	土 師 器 杯a
S-214杜撰	須恵 器 破片	S-236編方	土 師 器 破片 (イト)
S-214断方	土 師 器 杯	S-237	須恵 器 高杯 土 師 器 杯a (イト)、鏡 須恵系土器 新付脚 白 磁 鏡: 破片 (1) 中 國 陶 器 器: 破片? (1)
S-216	土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト?) 白 磁 鏡: IX-1 (1) その 他出土物	S-238	土 師 器 小皿a (イト)
S-218	土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)、小皿b 瓦 器 破片	S-239	土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)、破片 中 國 陶 器 他器類: A'-b (1)
S-222	土 師 器 小皿a (イト)、破片 その 他出土物	S-241	土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)、鏡
S-224	須恵 器 破片 土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト) 熊鷹系青磁 鏡: II-b (1) 白 磁 鏡: II×III (1)	S-242	須恵 器 破片 土 師 器 杯a (イト) 須恵系土器 新付脚
S-226	須恵 器 破片 土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、破片 阿波系青磁 鏡: I-1b (1)	S-243	土 師 器 杯a (ヘラ、イト)
S-227	須恵 器 鏡 土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)、小皿b 瓦 器 熊鷹系青磁 鏡: I-2 (1) 阿波系青磁 鏡: II×III (1) 須恵系土器 土師器 (栗橋系) 白 磁 鏡: IX (1) その他: 破片 (1) その 他出土物	S-244	土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)、破片 奈良系土器 鏡類
S-228	須恵 器 破片 土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)、小皿b、破片 阿波系青磁 鏡: I-1b (1)	S-246	土 師 器 杯a (イト) その 他出土物
S-229	須恵 器 破片 土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)	S-247	土 師 器 杯a (イト)、小皿a
S-231	須恵 器 破片 土 師 器 杯a (イト)、小皿a (イト)	S-248	土 師 器 杯a (イト)、破片 白 磁 鏡×皿 (鏡花あり) (1)
S-232	土 師 器 破片	S-249	須恵 器 鏡、破片 土 師 器 杯a、破片 瓦 器 瓦片
S-234	土 師 器 杯a (イト)	S-251	土 師 器 杯a (イト) 白 磁 鏡: VII-b (1) 皿: IX-2 (1) その他: 破片 (1) 瓦 器 破片 (椅子脚)、破片
S-234下席	土 師 器 杯a (ヘラ、イト)、小皿a	S-252	土 師 器 小皿a、破片

大宰府発跡第158次調査 出土遺物一覧表 (15)

S-253片点

土 師 器 環a (イト)、破片
龍泉宮系青磁 物置椀? 破片 (1)

S-253編片

土 師 器 破片

S-254

土 師 器 環a (イト)、环c
出色土器人輪c?
須惠貫土器 こね鉢

S-256

須 惠 器 蓋3
土 師 器 環a (イト)、破片
金属製 品 釘

S-257

須 惠 器 蓋
土 師 器 環a (イト)、环c、蓋?
龍泉宮系青磁 碗: (1)

S-259

須 惠 器 环、蓋
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕a
瓦 器 破片
龍泉宮系青磁 碗: (1)
龍泉宮系青磁 碗: I-1 (1)
同安宮系青磁 碗: I-1-2b (1)
その 他 雑土塊

S-261

土 師 器 環a (イト)、破片
龍泉宮系青磁 碗: I-3 (1)、II-b (1)
白 磁 碗: 破片 (1)
その 他 雑土塊

S-262

土 師 器 環a (イト)、破片

S-263

須 惠 器 蓋
土 師 器 環a (イト)、甕a
白 磁 碗: VIII-2? (1)
金属製 品 刀子?

S-264

須 惠 器 蓋、須惠鉢
土 師 器 環a、破片
瓦 器 破片
その 他 雑土塊

S-266

須 惠 器 蓋
土 師 器 環a (イト)、环c、把手、破片

S-267

土 師 器 環a (イト)、破片
中国陶器 物置椀: Ⅱ-b (1)
その 他 雑土塊

S-268

須 惠 器 破片
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)
龍泉宮系青磁 碗: II-b (1)

S-269

土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕a
その 他 雑土塊

S-271

須 惠 器 蓋
土 師 器 環a (イト)
その 他 雑土塊

S-272

須 惠 器 环c
土 師 器 环c、破片
同安宮系青磁 皿: I-b (1)
西 南 陶 器 蓋 (形仿)
白 磁 碗: V×VIII (1)
瓦 器 破片 (横目塚) (格子印)

S-273

土 師 器 環a (イト)、破片

S-274

須 惠 器 蓋、須惠鉢、破片
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕
瓦 器 破片
龍泉宮系青磁 碗: 今破片 (1)
同安宮系青磁 碗: IV (1)
白 磁 碗: V-4×VIII-1-3 (1)、VIII (1)

S-276

須 惠 器 環a
土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、破片

S-278

土 師 器 環a (イト)、破片
その 他 雑土塊

S-279

土 師 器 破片

S-281

土 師 器 破片

S-282

須 惠 器 蓋3
土 師 器 蓋 甕 (内刷毛)、破片
土 師 器 土 甕 破片
須 惠 貫 土 甕 鉢

S-283

土 師 器 環a (イト)、小皿a (イト)、甕c
同安宮系青磁 碗: II (1)
白 磁 碗: V-4×VIII-1-3 (1)
皿: III? (1)
漆盒: 益 (1)
瓦 器 破片 (格子印)
金属製 品 鉄釘

S-284

須 惠 器 鉢
土 師 器 環a (イト)、甕
龍泉宮系青磁 碗: I-2a (1)
同安宮系青磁 碗: 破片 (同安×龍泉) (1)
皿: I (1)
須 惠 貫 土 甕 こね鉢 (東屋系)
西 南 陶 器 蓋 (1)

S-286

土 師 器 小皿a
瓦 器 破片

S-287

須 惠 器 環
土 師 器 鉢a

S-288

土 師 器 環a (イト)、环c、小皿a (イト)、甕
同安宮系青磁 碗: I (1)
須 惠 貫 土 甕 こね鉢 (東屋系)
白 磁 碗: IV (1)、V×VIII (1)、破片 (1)

S-289

須 惠 器 須惠鉢
土 師 器 環a (イト)、甕
白 磁 碗: V-4×VIII-1-3 (1)
中国陶器 物置椀: Ⅱ-b (1)
その 他 雑土塊

大塚町東坊跡第158次調査 出土遺物一覧表 (16)

S-291	銅 志 部 破片	
土 師 部	珙a (イト)	
S-292	土 師 部	珙a (イト)、小皿a (イト)
中 西 陶 部	他器類: A-a (1)	
S-293	銅 志 部 破片	
土 師 部	珙a (イト)、珙c、小皿a (イト)、甕	
同安家系青磁	皿: I-1 (1)	
灰 土 質 土 器		
瓦	筒子瓦 (筒子印)	
そ の 他	焼土塊	
S-294	土 師 部 破片	
そ の 他	焼土塊	
S-296	土 師 部	珙a、皿a
同安家系青磁	皿: I-1c (1)	
同安家系青磁	皿: I-1 (1)	
S-297	土 師 部	珙a (イト)、小皿a (イト)
同安家系青磁	他器類: 横皿 (1)	
同安家系青磁	皿: I-1b (1)	
灰 土 質 土 器	破片	
S-298	土 師 部	珙a (イト)、焼c
同安家系青磁	皿: I-1b (1)	
同安家系青磁	皿: I-1b (1)	
そ の 他	焼土塊	
S-299	土 師 部	珙a (イト)、小皿a (へう)
S-302	土 師 部	珙a、珙c、小皿a (イト)、甕、鍋
口	破片: 破片 (1)	
S-303	土 師 部	珙a (イト)
口	磁器: 蓋 (1)	
S-304	土 師 部	珙a (イト)、小皿a (イト)、皿a
磁 器	土 器 破片?	
S-401	銅 志 部 他器類	
土 師 部	珙a (イト)、坏破片	
灰 土 質 土 器	破片 (1)	
瓦	筒瓦破片	
S-402	銅 志 部	銅片、高杯、甕
土 師 部	珙a (イト)、小皿a、焼c	
黒 色 土 器 A	破片?	
瓦	筒瓦	
S-403柱礎	土 師 部	珙a、小皿a (へう)
S-403瓶方	銅 志 部 蓋?	
口	破片: 釜皿 (1)	
S-404	銅 志 部	蓋c、皿1、皿、破片
土 師 部	珙a (平安中期、へう)、小皿a (へう)、皿a	
黒 色 土 器 A	破片	

表土	珙c、甕、甕eか、破片
土 師 部	珙a (イト)、珙c、小皿a (イト)、小皿b
瓦	破片?
同安家系青磁	皿: I (3)、I-2 (2)、I-3 (1)、I-4 (1)、IX II (1) IX II-c (1)、II-b (2)、IV (内陶文類) (1) 他器類: 珙皿-3b (1)、?破片 (1)
同安家系青磁	皿: I-1b (1)、I-1bxc (1)、?破片 (1) 破片 (同安×他器) (1)
同 西 陶 部	
口	破 皿: IV (1)、V (1)、VxVI (1)、V~VII (1)、破片 (3) 皿: IX (1)、IX-1 (2) 甕: 未注×蓋皿 (1)、破片 (1)
青 白 磁	皿 (1)
肥前系陶磁器	?破片 (2)
瓦	おかし瓦 (1)
反 陶	破片 (笠管へ)、破片?
石 製 品	石鏡 (磨石製)
中 西 陶 部	甕: ?破片 (1) 他器類: E (1)
そ の 他	焼土塊

破片	
土 師 部	珙a (イト)、小皿a (イト)
同安家系青磁	皿: II-b (1)
同安家系青磁	皿: I-1b (1)
石 製 品	石鏡 (磨石製)
そ の 他	焼土塊

茶色土層	
銅 志 部	珙c、珙c、蓋1、蓋 (5c4)、甕、甕、蓋 (藤原系) 大皿、破片
土 師 部	珙a (イト)、坏 (塗黒あり)、珙c (イト)、珙c (平安中) 丸皿珙a、皿c、小皿a (へう、イト)、小皿b、皿a おかし坏皿c、小皿、蓋台?、銅、破片
黒 色 土 器 A	焼c、焼c
瓦	筒瓦、筒瓦 (横型)、筒瓦 (蓋ケズリ)
灰 土 質 土 器	破片?
同安家系青磁	皿: I-2b (1)
同安家系青磁	皿: I (3b)、I? (3)、I-1 (1)、I-2 (10)、I-2? (2) I-3? (1)、I-4 (5)、I-4? (1)、I-9a (1) I-6×同安焼-Ib (1)、IX II (5) I×II (内陶見込みスタンプ「山片玉」か?) (1)、II (15) II-a (5)、II-b (7)、II-c×d (1)、II×III (3)、III-1 (1) III-1a (2)、III-2 (14)、破片 (3) 皿: I (2)、I-1a (1)、I-2bxc (1)、?破片 (2) 破片 (同安×同安) (1) 他器類: 小皿-Ia (1)、小皿×II (1)、小皿c (1) 小皿II (1)、小皿IIb (1)、小皿IV? (2) 珙口-6b (1)、珙II (1)、珙III-1 (3)、珙III-3b (2) 珙II-4 (2)、珙II-5b (1)、珙IV (1)、破皿 (2) 横皿×IV (2)、小皿 (1)、蓋 (1)、?破片 (1)、破片 (5)
同安家系青磁	皿: I (14)、I-I? (1)、I-Ia (1)、I-1b (42)、I-1bxc (5) I-1c (4)、I-1cIII (2)、IX II (1)、皿 (2)、皿? (2) III-1 (1)、III-1b (1)、?破片 (3)、破片 (同安×他器) (1) 破片 (10) 皿: I (11)、I? (1)、I-1 (1)、I-1a (1)、I-1b (3) I-2b (5)、I-2b? (1) 他器類: ?破片 (2)、破片 (2)
灰 土 質 土 器	赤磁: 皿 (1)、?破片 (1)、破片 (1)
土 師 質 土 器	甕、火盆、脚付鉢
灰 土 質 土 器	鉢、こね鉢 (藤原系)、こね鉢、破片 (イト)
瓦	筒瓦
緑 釉 陶 器	皿 (1)、皿 (滑石製) (1)、破片 (2)、
同 西 陶 部	甕 (滑石) (4)、甕 (滑石?) (1)、蓋 (4)、?破片 (1)
口	破 皿: IV (5)、IV-1 (2)、IV-1a (4)、IV-2 (2)、IV~VI (1) V (8)、V? (1)、V-2c (1)、V-2c? (1)、V-4d? (1) VxVI (5)、V~VII (5)、VxVII (2) V-4×VII-1、3 (20)、V~VIII (1)、VI-b (1)、VII-b (2) VII-b? (1)、VII (2)、VII-1 (1)、IX (1)、IX-2a (1) ?破片 (2)、破片 (内陶見込みに見込み?) (1)、破片 (笠管) 皿: IX II (5)、皿 (1)、皿-1 (7)、VIII (2)、VII? (1) VIII-1b (1)、VIII-1? (2)、VIII-2 (2)、IX (7)、IX-1 (7) IX-2 (2)、破片 (2) 甕: 輪×皿IX (5)、輪×皿IX-b (1)、皿 (7)、甕? (1) 皿II-1 (1)、耳碗 (2)、小皿? (2)、小皿? (1)、小皿II (1)、 ?破片 (2)、破片 (32)
青 白 磁	鉢 (2)、碗? (1)、合子蓋 (4)、合子蓋? (1)、合子 (1) 皿 (1)、皿? (1)、小皿? (1)、破片 (7)
黒 釉 陶 器	天目鉢 (1)

大宰府系坑跡第158次調査 出土遺物一覧表 (17)

茶色土層

輸入陶磁器	朝鮮系類胎陶器 破片 (2)、朝鮮系陶器か 破片 (2)
(未分類)	不明品 (新しい可能性あり) (1)
肥前系陶磁器	黒×黒 (1)、黒? (1)、黒か? (1)、?破片 (2) 破片 (2)
河原系磁器	黄 (近世?) (1)、黄? (近世?) (1) ?破片 (近世?) (1)、破片 (近世?) (6)
縄文土器	残片
土器類	土管 (現代)、不明製品
瓦	平瓦 (觸目印) (触目印)、丸瓦 (工組)、丸瓦破片、軒丸瓦 瓦工、破片
石製品	ob-f、nnd-f、基台、石盤 (磨石類)、魚行、破片
金属製品	銅片、鉄釘、鉄釘、不明鉄製品、刀子、刀子?、匙片 鉄製網鏝
中国陶器	青: IV? (1)、可変 (2)、耳壺IV×VI (1)、耳壺XI? (1) 破片 (1) 鉢: I-1b (1)、I-2a (1)、皿 (1)、IV (1)、IV-1 (1) 甕: I (1)、?破片 (1)、破片 (2) 磁器類: 赤×水注 (4)、耳壺×水注 (1)、水注 (1) 水注X (1)、皿 (1)、甕I-b (4)、甕I-2 (3)、甕I-2b (1) 壺I-1a (1)、A' (10)、A'-b (9)、B' (4)、B'-a (1) B'-b (1)、C (1)、C-b (2)、E (5)、破片 (2)
その他	珪化木、黄土層

灰褐色土層

瓦	器 坏c、坏、甕、蓋
土器類	坏a (へ?)、坏a、坏c、坏破片、小皿 (イト)、柄c、甕b
瓦	觸目c
肥前系青磁	青: I (1)
白	破: II-3×4 (1)、IV? (1)、V-4×VII-1-3 (1) VII-1 (1) (褐色土と混合)、破片 (3)
瓦	器 破片 (觸目印)

暗灰褐色土層

瓦	器 坏a、坏c、甕、蓋I、甕?
土器類	坏a (染良)、坏a×小皿、高坏×割台、皿a、甕a、蓋3
肥前系青磁	青: I (1)
河原系青磁	青: I-1b (1)
磁器類	破片
白	破: 破片 (1)
瓦	平瓦 (觸目印)
石器類	ob-f、磨石破片
中国陶器	磁器類: ?破片 (1)

Z1

土器類	坏 坏破片、小皿a
その他	珪化土塊

Z2

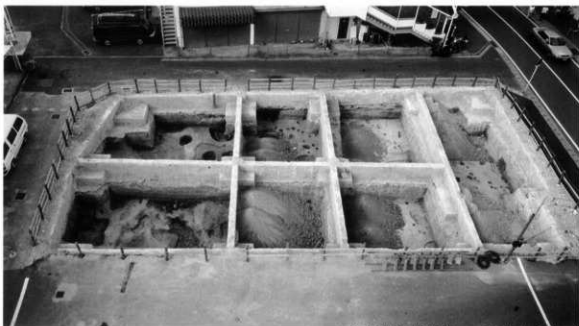
土器類	小皿a (イト)、破片
肥前系青磁	青: I (1)
河原系青磁	青: I-1b (1)

写真図版

※写真中の番号は、図版番号を示す。

例 158-15-1

Fig.番号 挿図番号



大宰府条坊跡第156次調査全景（南から撮影）



gグリッド北壁土層（南から撮影）



gグリッド南壁土層（北から撮影）



g グリッド西壁土層 (東から撮影)



156SE001 (南から撮影)



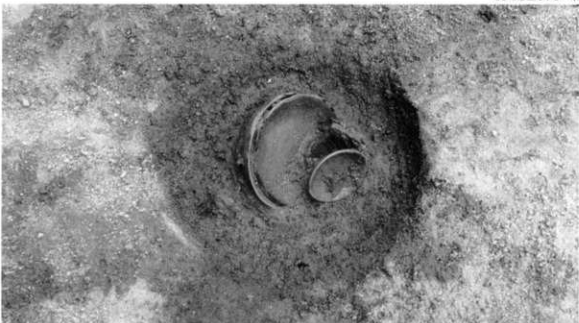
156SE015 (南から撮影)



156SE035 (西から撮影)



156SE070 (東から撮影)



156SX005土師器坏・小皿出土状況



越州窯系青磁水注×亞田期
(S-67黑色土出土)



Fig.156-7-6



Fig.156-7-5

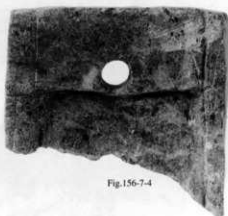
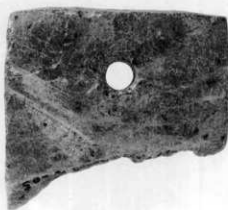


Fig.156-7-4

大宰府条坊跡第156次調査出土遺物 (表)



同上 (裏)



大宰府条坊跡第157次調査西区第I面全景（西から撮影）



大宰府条坊跡第157次調査西区第II面全景（西から撮影）



大宰府条坊跡第157次調査西区第III面全景（西から撮影）



大宰府条坊跡第157次調査西区第Ⅲ面全景（下が北）



大宰府条坊跡第157次調査中央区全景（下が北）



大宰府条坊跡第157次調査東区全景（下が北）



第157次調査西区南壁土層観察（157SD205含む。北から撮影）



第157次調査西区西壁南側土層観察（157SK001付近。東から撮影）



第157次調査西区西壁中央付近土層観察（157SK002付近。東から撮影）



第157次調査第Ⅲ面土層観察 (157SD205含む。南から撮影)



第157次調査第Ⅲ面土層観察 (157SD205含む。西から撮影)



157SD210付近 (西から撮影)



157SD140土層観察（西から撮影）



157SE020（南から撮影）



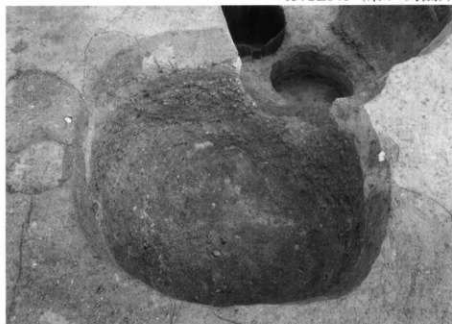
157SE030（北から撮影）



157SE035 (南から撮影)



157SE040 (東から撮影)



157SK070 (南から撮影)



Fig.157-10-11



Fig.157-11-13

黑書土師器
(Fig.157-11-14)
SK070暗灰砂



Fig.157-10-16

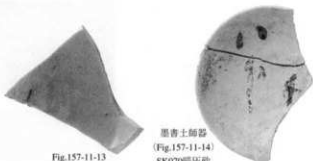


Fig.157-11-5

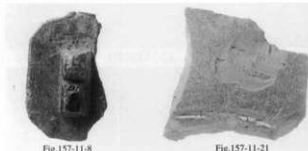


Fig.157-11-8



Fig.157-11-21

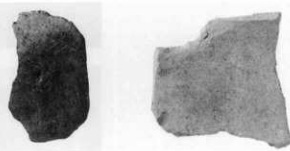


Fig.157-13-8



Fig.157-13-10



Fig.157-13-14



Fig.157-13-17



大宰府条坊跡第158次調査全景（上が北）



158SB100（南から撮影）



158SB140（東から撮影）



157SB155と157SK025（北東から撮影）



158SD001・030検出状況（西側部分。南から撮影）



158SD001西部土層観察（西から撮影）



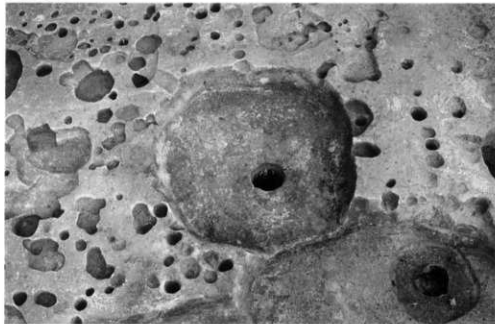
158SD001中央付近土層観察（西から撮影）



158SD001土器検出状況（東から撮影）



158SD030土層観察（西から撮影）



158SE050 (南から撮影)



158SE055 (南から撮影)



158SE075 (南から撮影)



158SE075第2井戸 (南から撮影)



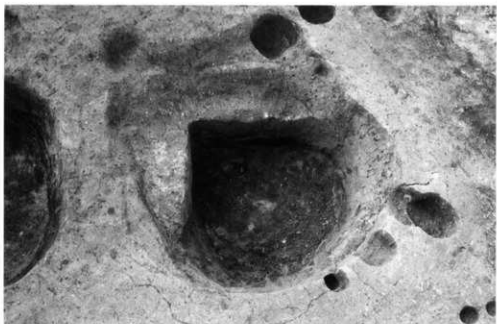
158SE093 (西から撮影)



158SE119 (北西から撮影)



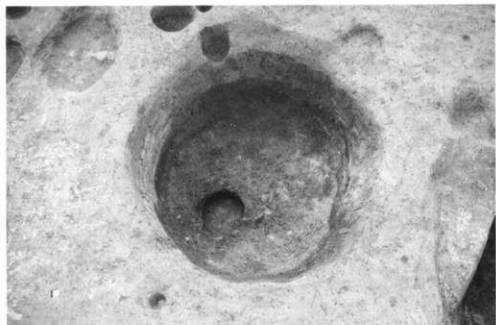
158SE120 (南から撮影)



158SE125 (東から撮影)



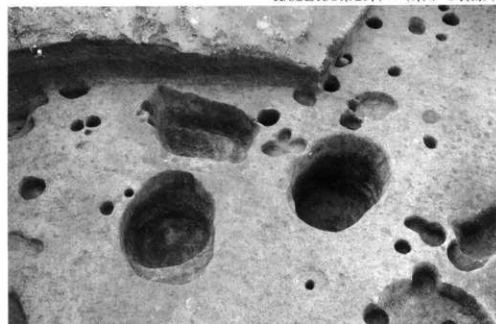
158SE126 (北から撮影)



158SE130第1井戸 (東から撮影)



158SE130第2井戸 (東から撮影)



158SE204 (右) ・ 158SK207 (左手前) ・ 158SK229 (左奥) (東から撮影)



158SD001出土土師器

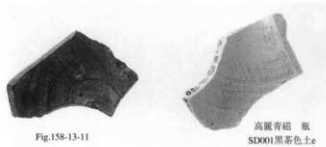


Fig.158-13-11

高麗青磁 甌
SD001黑褐色土e

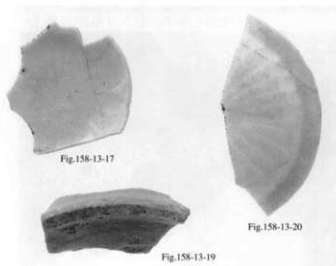
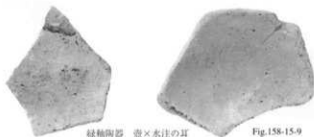


Fig.158-13-17

Fig.158-13-20

Fig.158-13-19



緑釉陶器 黄×水注の耳
SD030黒茶色土

Fig.158-15-9

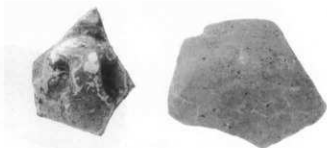


Fig.158-15-13



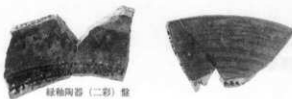
Fig.158-16-4



Fig.158-16-3

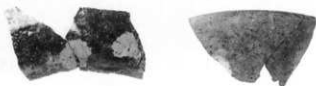


Fig.158-15-23



緑釉陶器(二形) 盤
SK118暗茶色土

Fig.158-17-1





大宰府条坊跡第156次調査156SX045出土鉄製手斧 (Fig.156-8-3)



同上 表面



同上 裏面



Fig.158-18-4



Fig.158-18-9



Fig.158-18-11



Fig.158-18-16・18

大宰府条坊跡第158次調査出土鉄製品

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうほうあと										
書名	大宰府条坊跡 21										
調査名	第156・157・158次調査										
シリーズ名	大宰府市の文化財										
シリーズ番号	01集										
調査者	井上恒正 ノビロサーヴェイ (株)										
調査機関	大宰府市教育委員会										
所在地	福岡県大宰府市観世音寺1丁目1番1号										
発行年月日	2002 (平成14) 年3月31日										
ふりがな	条坊 【鎮山指定案】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査理由	
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了			
だざいふじょうほうあと 大宰府条坊跡 第156次	左第6条10坊	大宰府市 五条2丁目	402214	210044-156	58467.000	-43780.000	19940729	19940826	300	駅前広場整備	
だざいふじょうほうあと 大宰府条坊跡 第157次	左第7条10坊	大宰府市 五条2丁目	402214	210044-157	58405.000	-43830.000	19940901	19941130	350	駅前広場整備	
だざいふじょうほうあと 大宰府条坊跡 第158次	左第6条10坊	大宰府市 五条2丁目	402214	210044-158	58450.000	-43500.000	19941201	19950331	550	駅前広場整備	
所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構		主要遺物		特記事項				
大宰府条坊跡 第156次	大宰府条坊	平安 鎌倉	井戸4 溝5 土坑5		土師器 陶磁器 須恵瓦土器 瓦質土器						
大宰府条坊跡 第157次	大宰府条坊	奈良 平安 鎌倉	竪溝3 埴物1 井戸4 溝12 埴物1 土坑42		須恵瓦土器 陶磁器 須恵瓦土器 瓦質土器		政庁1 御坂の道路遺構 埴輪埴片 出物陶器				
大宰府条坊跡 第158次	大宰府条坊	平安 鎌倉	竪溝2 埴物6 横列6 井戸13 溝12 土坑51		土師器 陶磁器 須恵瓦土器 瓦質土器		鎌倉後期の大量土器廃棄物 ガラス片 暗文土器 卑劣軒瓦片				

太宰府市の文化財 第61集

大宰府条坊跡 21

第156・157・158次調査

平成14年(2002)年3月

編集 太宰府市教育委員会
発行 〒818-0198
福岡県太宰府市観世音寺1丁目1-1
印刷 (資)四ヶ所印刷
〒838-0058
福岡県甘木市大字馬田336

印刷仕様：
画像スクリーン線数 250線
アルミPS版使用